新潟県埋蔵文化財調査報告書　第277集

一般国道49号

阿賀野バイパス関係発掘調査報告書XIII

蕪　木　遺　跡

２０１８

新　潟　県　教　育　委　員　会

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道49号

阿賀野バイパス関係発掘調査報告書XIII

蕪（かぶら）木（ぎ）遺　跡

２０１８

新　潟　県　教　育　委　員　会

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

一般国道 49 号は新潟市と福島県いわき市を結ぶ主要幹線道路で、沿線市町村と新潟市を結び、日常生活や地域経済を支える重要な基盤道路としての役割を果たしています。しかし、阿賀野市街地での幅員減少等の問題を抱え、近年の著しい交通量の増加に十分な対応ができておらず、結果、生活環境に悪影響を与える交通上の様々な問題が生じています。

これらの諸問題の解消と都市機能活性化のため、阿賀野市六野瀬から同市下黒瀬を結ぶ延長 13.7km の阿賀野バイパスの建設が計画されました。

本書は阿賀野バイパス建設に先立ち、2014 年度と 2015 年度に実施した蕪木遺跡の発掘調査報告書です。調査の結果、古墳時代から現在に至る永い期間、人々が活動した痕跡を見つけだすことができました。このうち中心となる時期は古代（9 世紀代）です。複数棟の掘立柱建物からなる集落で、建物の中には、廂を含めた面積が 140m^2 を超える大型のものがありました。これほど大きな建物は一般集落ではみられないことから、郡（沼垂郡）に関連する施設、または当地で勢力を持つ有力者の居宅であった可能性があります。

今回の調査成果が、地域の古代史を解明するための研究資料として広く活用されるとともに、県民の方々の埋蔵文化財に対する理解を深める契機となれば幸いです。

この調査に関して多大な御支援と御協力をいただいた阿賀野市教育委員会並びに地元住民の方々、そして発掘調査から報告書刊行に至るまで格別の御高配をいただいた国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所に対して厚くお礼申し上げます。

2018 年 3 月

新潟県教育委員会

教育長　池　田　幸　博

例　　言

1　本報告書は、新潟県阿賀野市大字堀越字蕪木 1,974 ほかに所在する蕪木（かぶらぎ）遺跡の発掘調査報告書である。遺跡の読みは当初「かぶらぎ」として登録された。その後、地元住民の呼称から「かぶぎ」に変更したが、本書作成段階で、新潟県教育委員会（以下、県教委）と関係機関との調整を経て、阿賀野市での小字の読み「かぶらぎ」とすることで決着した。

2　この調査は、一般国道 49 号阿賀野バイパス建設事業に伴い、国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所（以下、国交省）から県教委が受託したものである。

3　発掘調査は県教委の依頼を受けた公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）が 2014 年度と 2015 年度に実施した。2014 年度の発掘調査、整理作業及び関連諸工事等の一部業務は株式会社帆苅組が、2015 年度の発掘調査、整理作業及び関連諸工事等は株式会社ノガミに委託した。発掘調査面積は 6,963m^2（2014 年度：5,915m^2、2015 年度 1,048m^2）である。

4　出土品及び調査に係る資料は、すべて県教委が新潟県埋蔵文化財センターにおいて保管している。

5　遺物の注記は、調査年度（2014 年度、2015 年度）の下二桁「14」「15」と蕪木遺跡の略称「カフキ」を組み合わせて「14 カフキ」「15 カフキ」を頭に付し、出土地点（グリッド）・遺構名・層位を併記した。

6　本文の図中で示す方位は、すべて真北である。

7　遺構番号は、種別に関わりなく通し番号とし、調査年度間での重複を避けるため 2014 年度調査の番号は一桁から三桁番号までとし、2015 年度調査は四桁番号（1,000 番以降）を使った。なお、整理作業の過程で欠番としたものもある。

8　引用文献は、著者及び発行年（西暦）を文中に［　　］で示し、第Ⅵ章を除き巻末に一括して掲載した。

9　作成した図版のうち、既存の地図を使用した場合は、それぞれにその出典を記した。

10　調査成果の一部は、現地説明会（2014 年 10 月 18 日開催）、発掘調査報告会（2016 年 10 月 23 日開催）、新潟県埋蔵文化財センター冬季企画展「発掘！新潟の遺跡 2016 －特集･縄文～室町時代の阿賀野－」、埋文事業団年報（2014･2015 年度）、広報紙『埋文にいがた』No.94 で公表しているが、本書をもって正式な報告とする。

11　古地磁気分析については酒井英男氏（富山大学理学部）に依頼し、分析結果を第Ⅵ章に掲載させていただいた。

12　自然科学分析は、放射性炭素年代測定・骨同定・樹種同定を株式会社パレオ・ラボに、黒褐色固形物の赤外分光分析をパリノ・サーヴェイ株式会社にそれぞれ委託し、その結果を第Ⅵ章に掲載した。

13　第Ⅵ章以外の執筆は鈴木俊成・荒川隆史（以上、埋文事業団）、石橋夏樹・村上章久・髙橋　均（以上、株式会社帆苅組）が以下の分担で行った。なお、編集は鈴木俊成・石橋夏樹が行った。

鈴木　第Ⅰ章 1・2B ②・2C ②③、第Ⅴ章 1・2・3、第Ⅶ章 3

石橋　第Ⅰ章 2C ①・2D、第Ⅱ章 1・2、第Ⅳ章 2A・3、第Ⅶ章 1・2

村上　第Ⅰ章 2A・2B ①、第Ⅲ章 1・2・3・4、第Ⅳ章 1・2C・E・F

荒川　第Ⅳ章 2B

髙橋　第Ⅳ章 2D

14　遺構図のトレース及び挿図・図版の作成は有限会社不二出版に委託した。

15　発掘調査から本書の作成に至るまで、相羽重徳氏・阿賀野川土地改良区・卜部厚志氏から多くの御教示・御協力をいただいた。ここに記して厚く感謝申し上げる。

16　図書館等（著作権法第 31 条第 1 項に規定する図書館等をいう）の利用者は、その調査研究の用に供するために、本報告書の全体について、複製することができる。

目　　次

第Ⅰ章　序　　説 …… 1

1　調査に至る経緯 …… 1

2　調 査 経 過 …… 3

A　試 掘 調 査 …… 3

B　本発掘調査 …… 4

1）2014（平成 26）年度調査 …… 4　2）2015（平成 27）年度調査 …… 6

C　整 理 作 業 …… 6

D　調査・整理体制 …… 7

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 9

1　地理的環境 …… 9

A　阿賀野市の地勢 …… 9

B　阿賀野川の変遷 …… 9

2　歴史的環境 …… 14

第Ⅲ章　調査の概要 …… 18

1　グリッドと調査区の設定 …… 18

2　層　　序 …… 18

3　旧地形と遺跡の立地 …… 19

4　本書の記述方針 …… 21

A　遺　　構 …… 21

B　遺　　物 …… 21

第Ⅳ章　2014（平成 26）年度調査 …… 22

1　遺構・遺物の検出状況 …… 22

2　遺　　構 …… 22

A　分　　類 …… 22

B　掘立柱建物 …… 24

C　土　　坑 …… 25

D　井　　戸 …… 29

E　　溝 …… 29

F　性格不明遺構 …… 33

G　噴　　砂 …… 35

3　遺　　物 …… 36

A　分　　類 …… 36

B　遺構出土遺物 …… 38

C　遺構外出土遺物 …… 43

第Ⅴ章　2015（平成 27）年度調査 …… 44
1　遺構・遺物の検出状況 …… 44
2　遺　　構 …… 44
A　分　　類 …… 44
B　土　　坑 …… 44
C　　溝 …… 46
D　　柵 …… 49
E　道路状遺構 …… 49
F　ピ　ッ　ト …… 50
3　遺　　物 …… 50
A　分　　類 …… 50
B　遺構出土遺物 …… 50
C　遺構外出土遺物 …… 52
第Ⅵ章　自然科学分析 …… 53
1　放射性炭素年代測定 …… 53
A　試料と方法 …… 53
B　結　　果 …… 54
C　考　　察 …… 56
2　SK206 から出土した焼骨 …… 57
A　試料と方法 …… 57
B　結果と考察 …… 57
3　木製品の樹種同定 …… 58
A　試料と方法 …… 58
B　結　　果 …… 58
C　考　　察 …… 59
4　黒褐色固形物 …… 59
A　試　　料 …… 59
B　分 析 方 法 …… 59
1）赤外線分光分析の原理 …… 59　2）赤外線吸収スペクトルの測定 …… 60
C　結果および考察 …… 60
5　阿賀野市蕪木遺跡で認められた噴砂の磁化研究 …… 62
A　残留磁化と年代推定 …… 62
B　蕪木遺跡で認められた噴砂と研究試料 …… 63
C　磁 化 研 究 …… 64
D　磁化方向と地磁気年代の検討 …… 65
E　ま　と　め …… 66
第Ⅶ章　ま　と　め …… 67
1　中世以降の遺跡 …… 67
2　古代遺構の時期と変遷 …… 73
3　遺跡の評価 …… 76

《引用・参考文献》…… 78
《観察表》…… 82

挿図目次

第 1 図　蕪木遺跡の位置 …… 2
第 2 図　阿賀野バイパスと遺跡の位置 …… 2
第 3 図　試掘トレンチ位置図 …… 3
第 4 図　各年度の調査区位置図 …… 4
第 5 図　遺構調査風景 …… 4
第 6 図　下層トレンチ位置図 …… 5
第 7 図　26-9T　下層調査風景 …… 5
第 8 図　26-8T　下層の層序調査 …… 5
第 9 図　調査区埋め戻し作業 …… 6
第 10 図　遺構図作成作業 …… 7
第 11 図　土器実測作業 …… 7
第 12 図　近隣遺跡と旧河道 …… 10
第 13 図　旧河道の変遷 …… 10
第 14 図　周辺の自然地形と古代の遺跡分布図 …… 11
第 15 図　遺跡周辺の航空写真 …… 17
第 16 図　グリッド設定と調査区 …… 20
第 17 図　基本土層柱状図 …… 20
第 18 図　遺構の平面・断面形態の分類 …… 22
第 19 図　遺構埋土の堆積形状の分類 …… 22
第 20 図　掘立柱建物の分類 …… 23
第 21 図　掘立柱建物の計測位置 …… 23
第 22 図　火葬土坑の施設各部名称 …… 27
第 23 図　噴砂 …… 36
第 24 図　古代の土器分類図 …… 37
第 25 図　暦年較正結果（1）…… 55
第 26 図　暦年較正結果（2）…… 56
第 27 図　SK206 出土の焼けた人骨 …… 57
第 28 図　蕪木遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真 …… 58
第 29 図　FT-IR スペクトル …… 61
第 30 図　黒褐色固形物（150）…… 61
第 31 図　蕪木遺跡の位置と磁化調査の様子 …… 62
第 32 図　（a）磁化・地磁気の偏角・伏角と強度
（b）地磁気の過去 2000 年間での変化
（c）拡大シュミットネット上での
北陸地域の地磁気変化 …… 63
第 33 図　噴砂試料の採取箇所 …… 63
第 34 図　site1-6 の噴砂試料の NRM の方向 …… 64
第 35 図　代表的なザイダーベルト図 …… 64
第 36 図　site1, 2（噴砂 5）、site3 ～ 5（噴砂 4）、
site6（噴砂 3）の磁化方向と北陸の
地磁気変化 …… 65
第 37 図　site6,7 の試料採取状況 …… 65
第 38 図　古代の遺構分布図 …… 68
第 39 図　中～近世の遺構分布図 …… 69
第 40 図　近・現代の遺構分布図 …… 70
第 41 図　蕪木遺跡周辺の旧地割 …… 72
第 42 図　検出遺構と旧地割 …… 72
第 43 図　身舎面積の比較 …… 74

表目次

第 1 表　周辺の古代遺跡一覧表 …… 12
第 2 表　測定試料および処理 …… 53
第 3 表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果
…… 54
第 4 表　樹種同定結果 …… 58
第 5 表　噴砂の磁化の測定結果 …… 65
第 6 表　噴砂 3（site7）の磁化 …… 65
第 7 表　阿賀野川以北の主な古代掘立柱建物一覧表
…… 75

図版目次

【図面図版】

図版 1　調査範囲図
図版 2　Ⅱ－A・B 区、Ⅰ－C・D 区　平面図
図版 3　遺構分割図（1）
図版 4　遺構分割図（2）
図版 5　遺構分割図（3）
図版 6　遺構分割図（4）
図版 7　遺構分割図（5）
図版 8　遺構分割図（6）
図版 9　遺構分割図（7）
図版 10　遺構分割図（8）
図版 11　遺構分割図（9）
図版 12　遺構分割図（10）
図版 13　遺構分割図（11）
図版 14　2014 年度調査　基本土層（26-8T・9T・11T、SD9）
図版 15　2014 年度調査　遺構（1）SB1
図版 16　2014 年度調査　遺構（2）SB1（SD32）
図版 17　2014 年度調査　遺構（3）SB1（P60・61・63B・65・66・67・68A・69・70・71・73・74・75・80・230・232・390）、P62・68B・114
図版 18　2014 年度調査　遺構（4）SB1（P48B・49A・51・52・53・54・55・56・57・59・64・200・422、SD21・110）、SB3（P201）、P48A・49B・172・176・426
図版 19　2014 年度調査　遺構（5）SB2（P81・82・83A・84・85・86・89・93、SD111）
図版 20　2014 年度調査　遺構（6）SB2（P87・88・90・91A・92・125・187・189）、SB3（P190・196・199・201・202・205）、SB1（P200）、P91B・160・416
図版 21　2014 年度調査　遺構（7）SB4（P371・377・378・380）、SB5（P369・374・376・379）
図版 22　2014 年度調査　遺構（8）SK19・26・27・30・40・100・183・221・222、P358、SX11
図版 23　2014 年度調査　遺構（9）SK206・210・220・223・310、SD209・219
図版 24　2014 年度調査　遺構（10）SK243・246・251・267・385・394・395・398
図版 25　2014 年度調査　遺構（11）SE225、SK359・428、SD2・4・5・10・35
図版 26　2014 年度調査　遺構（12）SD9・13・15・20・22・23・25・33・34・35・37・147・148・188、SX8・42、P380
図版 27　2014 年度調査　遺構（13）SD2・3・4・7・12・24・219・224・396・400、SX11・16・18・31
図版 28　2014 年度調査　遺構（14）SX39・42・44・149・150・216・217、SD9、410
図版 29　2014 年度調査　遺構（15）噴砂 3 ～ 6
図版 30　2015 年度調査　遺構（1）SK1304・1321・1322・1336・1355（P1・P2）・1575
図版 31　2015 年度調査　遺構（2）SK1576・1577・1578・1579・1580、SD1301・1302・1303・1308、P1519
図版 32　2015 年度調査　遺構（3）SD1307・1309・1310・1323・1325・1358・1378・1379
図版 33　2015 年度調査　遺構（4）SD1149、P1460・1520・1534・1535・1536・1557・1568、SA1581
図版 34　2015 年度調査　遺構（5）SF1356（SK1・2・3・4・5、SD1）
図版 35　2015 年度調査　遺構（6）P1311・1312・1313・1314・1316・1317・1319・1320・1324・1362・1375
図版 36　2014 年度調査　遺物（1）SB1（SD21・32・110
図版 37　2014 年度調査　遺物（2）SB1（P49A・57・68A・422）、SB2（P85・87・89、SD111）、SB3（P187）、SB4（P378）、SK27・40・183・220
図版 38　2014 年度調査　遺物（3）SK221・222・310・385、SD20・23・24・25、SX8
図版 39　2014 年度調査　遺物（4）SX11・16・31・39・44、P76・121・136・170・361・362・373・410・416・423
図版 40　2014 年度調査　遺物（5）遺構外、木製品ほか
図版 41　2014 年度調査　遺物（6）木製品、石製品、鉄製品ほか
図版 42　2015 年度調査　遺物（1）SK1321・1322・1336・1355、SD1301・1303・1307・1308・1309

図版 43　2015 年度調査　遺物（2）SD1149・1309・1310・1358、SF1356、P1316・1324・1573、遺構外、土製品、金属製品
【写真図版】
図版 44　2014 年度調査　調査区遠景、調査区全景
図版 45　2014 年度調査　SB1・2・3・4・5、噴砂 3
図版 46　2014 年度調査　SK206、SE225
図版 47　2014 年度調査　古代土器集合写真、P114 出土アスファルト塊（150）
図版 48　2014 年度調査　遺構（1）SB1（P66・70・71・80）
図版 49　2014 年度調査　遺構（2）SB1（P61・63A・67・68A・390）、P62・63B・68B・114・425・430
図版 50　2014 年度調査　遺構（3）SB1（P52・53・54・57・230・232・422）、P172・423
図版 51　2014 年度調査　遺構（4）SB1（P49A・55・59・64・69・73・74・75）、P49B
図版 52　2014 年度調査　遺構（5）SB1（P48B・51・56・60・65・200・358・390）、P47・48A・62・201、噴砂 4
図版 53　2014 年度調査　遺構（6）SB1（SD21・32・110）
図版 54　2014 年度調査　遺構（7）SB2（P81・82・87・93）
図版 55　2014 年度調査　遺構（8）SB2（P83A・84・85・86・91A・92）、P83B・91B・416
図版 56　2014 年度調査　遺構（9）SB2（P88・89・90・125、SD111）、SB3（P187・201）
図版 57　2014 年度調査　遺構（10）SB3（P189・190・199・205）
図版 58　2014 年度調査　遺構（11）SB3（P196・202）、SB4（P377・380）
図版 59　2014 年度調査　遺構（12）SB4（P371・378）、SB5（P369・374・376・379）、SK19
図版 60　2014 年度調査　遺構（13）SK26・27・30・40・100・210、SD209
図版 61　2014 年度調査　遺構（14）SK183・206・220・221・222・310、P358
図版 62　2014 年度調査　遺構（15）SK223・246・251・267・359
図版 63　2014 年度調査　遺構（16）SK385・394・395・398、SD2
図版 64　2014 年度調査　遺構（17）SE225、SD3・5・35、SK428
図版 65　2014 年度調査　遺構（18）SD2・3・4・7・9・10・13・15・20、SX11
図版 66　2014 年度調査　遺構（19）SD22・23・24・25・33・34・35・37、SX16
図版 67　2014 年度調査　遺構（20）SD12・38・147・148・188・219・396・400、SX11
図版 68　2014 年度調査　遺構（21）SX8・18・42、SD10・37
図版 69　2014 年度調査　遺構（22）SX31・39・44・149・216・217
図版 70　2014 年度調査　遺構（23）SX150、P114・410、噴砂 3
図版 71　2014 年度調査　遺構（24）噴砂 4・5・6
図版 72　2014 年度調査　遺構（25）噴砂 3・4・5（site1 ～ 7）
図版 73　2015 年度調査　調査区遠景、調査区全景
図版 74　2015 年度調査　遺構（1）SK1304・1322・1336
図版 75　2015 年度調査　遺構（2）SK1336・1355・1575、P1334・1335
図版 76　2015 年度調査　遺構（3）SK1576・1577・1578・1579、P1500・1519
図版 77　2015 年度調査　遺構（4）SK1580、SD1149・1301・1302・1303
図版 78　2015 年度調査　遺構（5）SD1301・1302・1303
図版 79　2015 年度調査　遺構（6）SD1303・1307
図版 80　2015 年度調査　遺構（7）SD1307・1308・1309・1376
図版 81　2015 年度調査　遺構（8）SD1308・1309・1310
図版 82　2015 年度調査　遺構（9）SD1323・1325・1358・1379
図版 83　2015 年度調査　遺構（10）SD1379・1149、SA1581
図版 84　2015 年度調査　遺構（11）SA1581、SK1577、P1535
図版 85　2015 年度調査　遺構（12）SF1356
図版 86　2015 年度調査　遺構（13）SF1356、P1311
図版 87　2015 年度調査　遺構（14）P1312・1313・1314
図版 88　2015 年度調査　遺構（15）P1314・1316・1317・1319
図版 89　2015 年度調査　遺構（16）P1319・1320・1362

図版 90　2015 年度調査　遺構（17）P1375・1324、噴砂 1・2
図版 91　2014 年度調査　遺物（1）SB1（SD32）
図版 92　2014 年度調査　遺物（2）SB1（P49A・57･68A･422､SD21･32･110)､SB2（P85･89、SD111)、SB3（P187)、SB4（P378）
図版 93　2014 年度調査　遺物（3）SB2（P87)、SK27・40・183・220・221・222・310・385、SD20・23・24・25
図版 94　2014 年度調査　遺物（4）SD25、SX8・11・16・31・39・44、P76・121・136・170・361・362・373・410・416・423
図版 95　2014 年度調査　遺物（5）遺構外、木製品
図版 96　2014 年度調査　遺物（6）石製品、鉄製品ほか
2015 年度調査　遺物（1）SK1321・1322・1336・1355
図版 97　2015 年度調査　遺物（2）SD1149・1301・1303・1307・1308・1309・1310・1358、SF1356、P1316・1324・1573、遺構外、土製品、金属製品

第Ⅰ章　序　　説

1　調査に至る経緯

一般国道 49 号は、太平洋側の福島県いわき市から日本海側の新潟市を結ぶ物流・文化交流の大動脈で、新潟県内においては、新潟市と沿線市町村の相互交流を支える幹線道路であるとともに、生活道路としても重要である。2011 年 3 月発生の東日本大震災では避難路として、また救援物資の輸送路として大きな役割を果たした。

阿賀野市街地を通過する国道は幅員が狭く、その交通量（阿賀野市保田から同市中央町間 19,800 台 / 日、うち大型車 13.1%［国交省新潟国道事務所　阿賀野バイパス事業資料 2014］）に対応できず、交通渋滞や騒音、交通事故などの都市機能や生活環境に与える影響が問題となっている。これらの諸問題を解決するため「一般国道 49 号安田バイパス」（阿賀野市六野瀬～同市寺社間 5.6km）と「一般国道 49 号水原バイパス」（阿賀野市寺社～同市下黒瀬間 8.1km）が計画された（第 2 図）。

2004 年 4 月に東蒲原郡安田町・京ヶ瀬村・水原町・笹神村の 4 町村が合併し阿賀野市（人口約 48,000 人）が誕生した。この合併で前記の二つのバイパスを合わせて「阿賀野バイパス」と呼称することとなった［国交省新潟国道事務所パンフレット 2006］。このうち、安田バイパスについては 2006 年までに暫定 2 車線が供用されている。水原バイパスは 1999（平成 11）年 3 月に都市計画決定、2000 年 4 月に事業化、2003 年度には用地買収に着手した。

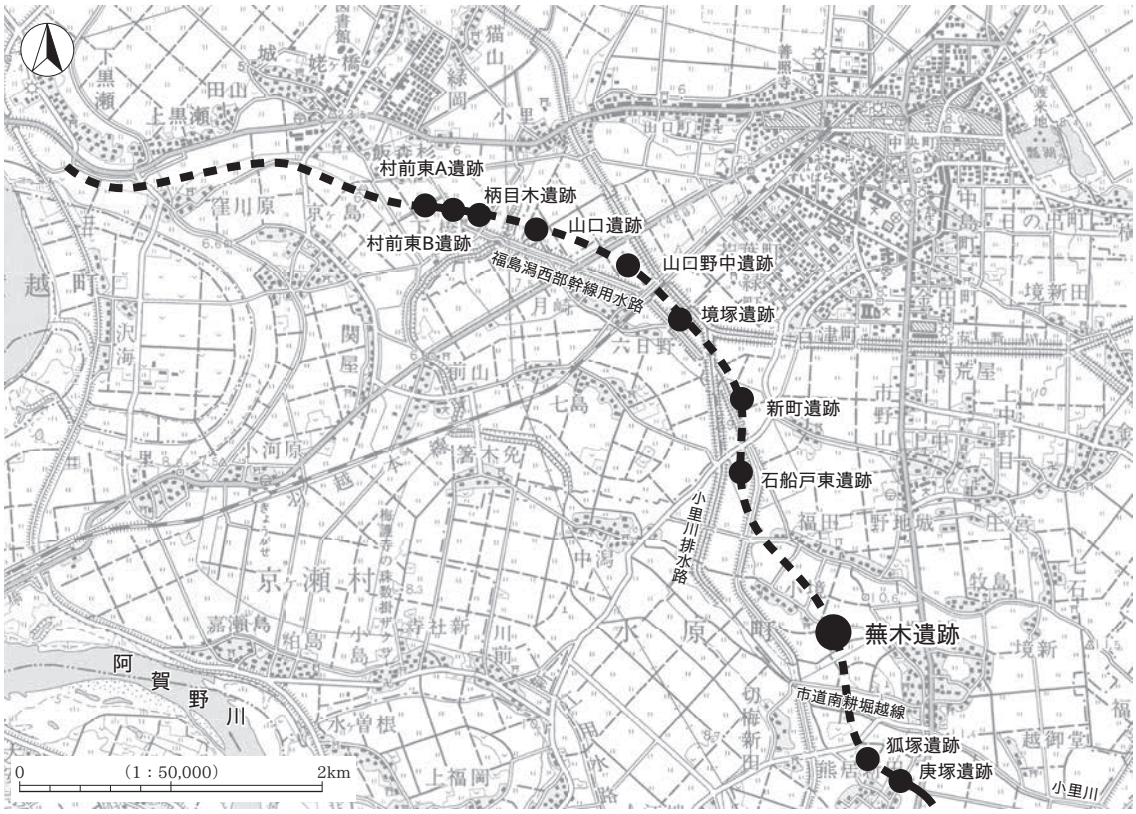
事業進展に伴い国交省は県教委に事業地内の遺跡の有無を照会した（2003（平成 15）年 3 月）。これを受けて県教委は平成 15 年 3 月 27 日付け教文第 1319 号で、埋文事業団に遺跡分布調査を依頼した。分布調査は水原町寺社から京ヶ瀬村下黒瀬間 8.1km を 2003 年 12 月に実施し、23 か所で古代を中心とした土器を採集した。この分布調査結果から埋文事業団は、水原バイパス事業地内には周知遺跡は存在しないものの約 470,000m^2 において試掘調査が必要であると県教委に報告した。

遺跡の有無を知るための試掘調査は、県教委の依頼を受けた埋文事業団が 2005（平成 17）年～ 2012（平成 24）年にかけて断続的に実施した。蕪木遺跡に係る試掘調査は 2009（平成 21）年度・2010（平成 22）年度に実施し、13,325m^2 の本発掘調査が必要であることを報告した。

本発掘調査は 2014（平成 26）年度・2015（平成 27）年度の 2 か年にわたり実施した。平成 26 年度調査は、平成 26 年 3 月 31 日付け教文第 1582 号の 2 で調査依頼のあった境塚遺跡の調査期間短縮に伴うものであった。境塚遺跡の調査は当初、上層（中世）と下層（縄文）の 2 面調査を想定していたが、下層の遺構・遺物が検出できなかったことから調査期間が大幅に短縮されたため、国交省と県教委の協議で、蕪木遺跡の新潟市寄り（北側）を急遽調査することとなった。国交省は平成 26 年 7 月 2 日付け国北整新調第 26 号で県教委に調査依頼し、県教委はこれを受けて実際の調査を平成 26 年 7 月 9 日付け教文第 496 号の 2 で埋文事業団に依頼した。埋文事業団は平成 26 年 7 月 28 日～ 11 月 30 日に 5,915m^2 の本発掘調査を実施した。平成 27 年度調査は残りの遺跡南側部分で、平成 26 年度中に国交省と県教委との間で協議が整い、平成 27 年度当初から境塚遺跡の調査体制内での調査計画が立てられた。国交省は平成 27 年 3 月 2 日付け国北整新調第 38 号で県教委に調査依頼し、県教委はこれを受けて実際の調査を平成 27 年

第１図　蕪木遺跡の位置

（国土地理院発行　平成 17 年「新潟」1：200,000 原図に加筆）



第２図　阿賀野バイパスと遺跡の位置

（国土地理院発行 平成 17 年「新潟」、平成 9 年「新津」1：50,000 原図に加筆）

3 月 12 日付け教文第 1476 号の 2 で埋文事業団に依頼した。埋文事業団は平成 27 年 9 月 7 日～ 11 月 17 日に蕪木遺跡の残り 1,048m² の本発掘調査を実施した。

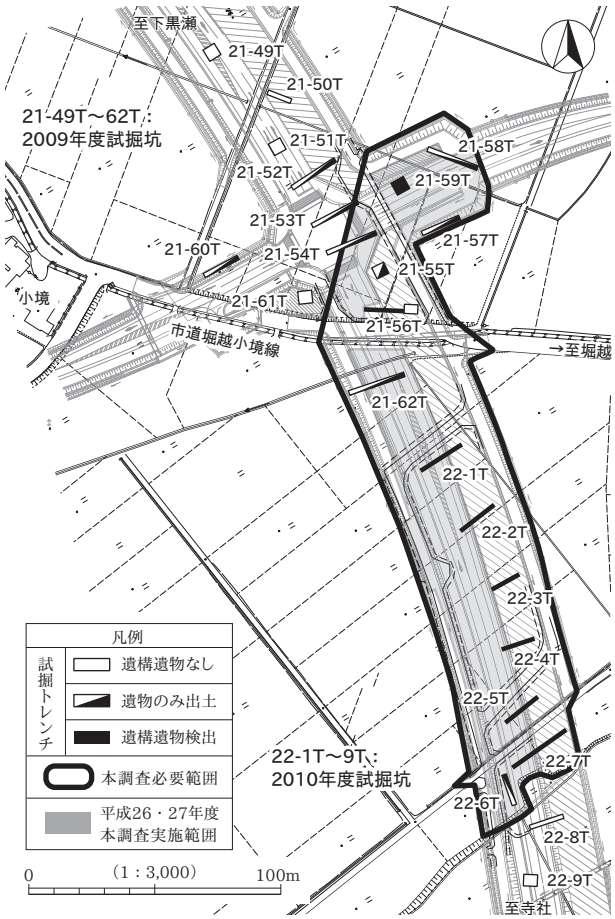
2　調　査　経　過

A　試　掘　調　査

蕪木遺跡に関わる試掘調査は、埋文事業団が 2009（平成 21）年度・2010（平成 22）年度の 2 か年にわたり行った。調査期間は、2009 年 5 月 18 日～ 6 月 17 日の 23 日間、2010 年 6 月 3 日～ 6 月 17 日の 11 日間である。調査地点は、一般国道 49 号阿賀野バイパス用地である福田集落近くの福島潟西部幹線用水路から小里川間である（第 2 図）。試掘調査は、調査対象地に調査坑（試掘トレンチ：略号 T）を任意に設定し、重機（バックホー）及び人力による掘削・精査を行い遺構・遺物の有無を確認した。その後、土層堆積状況、トレンチ位置、遺構・遺物の検出状況等を図面・写真等に記録した。2009 年度は 50,715m² を調査対象面積とし、63 か所に試掘トレンチを設定した（21-1T ～ 62T、20-124T 再試掘）。実質調査面積は 2,065.4m² で、試掘率は 4.1% である。2010 年度は 29,163m² を調査対象面積とし、26 か所に試掘トレンチを設定した（22-1T ～ 26T）。実質調査面積は 907.7m² で、試掘率は 3.1% である。

調査の結果、福田集落北西側、小境集落東側、市道南耕堀越線の北側の大きく 3 つの範囲で遺構・遺物を検出した。このうち福田集落北西側は、2008 年度の試掘調査で新発見した石船戸東遺跡の範囲拡大である。また、市道南耕堀越線（第 2 図）の北側は向野遺跡として登録したが、2014（平成 26）年度の再試掘調査の内容から本発掘調査は不要とされた［佐藤 2015］。蕪木遺跡は、市道堀越小境線を挟んだ 21-55 ～ 59T・62T、22-1 ～ 7T の区域で（第 3 図）、22-1 ～ 7T では表土直下から土坑・溝・ピットなどを検出し、遺構の分布密度が比較的高い。遺物は古代の土師器・須恵器を主体とし、このほかは中世の青磁・珠洲焼などが少量出土した。

以上から、蕪木遺跡は 21-55～59・62T、22-1 ～ 7T の範囲とし、本発掘調査必要面積は 13,325m² とした。



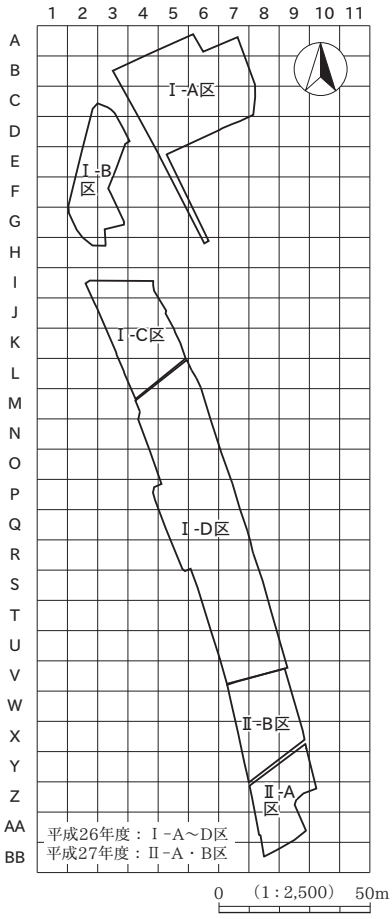
第 3 図　試掘トレンチ位置図

B 本発掘調査

1）2014（平成26）年度調査

本発掘調査は、2014（平成26）年7月28日～11月30日と2015（平成27）年9月7日～11月17日の2か年にわたって行った。

2014年度の調査区は市道堀越小境線と工事用道路により4つに分断されるため、これらを境に北からⅠ-A区・Ⅰ-B区・Ⅰ-C区・Ⅰ-D区と便宜的に分けた（第4図）。7月28日～8月25日にバックホーによる表土掘削を行った。8月19日から作業員による調査を開始した。人力による調査はⅠ-D区から開始した。8月22日から本格的に遺構検出を行い、土坑・溝・ピットなどを検出した。遺構埋土は灰色シルト、暗褐色シルトを主体とするもののほか、地山層である基本土層Ⅳ層に類似した灰黄褐色シルトを主体とするものを確認した。埋土は基本土層及び遺構の重複関係・出土遺物から、灰色シルトを主体とするものは近世以降、暗褐色シルトを主体とするものは中世、灰黄褐色シルトを主体とするものは古代に属するものと考えた。8月29日には、北西－南東方向に長軸を持つ掘立柱建物SB1、SB1の雨落溝と考えられるSD32を検出した。いずれも埋土は古代に属する。また、SB1の北西側は西側工事用道路下へ延びることを確認した。9月1日に中世遺構の掘削を開始し、中世の遺構調査は9月9日にほぼ終了した。9月10日から古代遺構の検出を中心に調査を行った。古代の遺構については、埋土が地山に類似することから、検出が難しかった。このため、遺構の見落としがないかを確認するため、Ⅰ-D区全面を再精査した。この結果、古代の遺構はⅠ-D区中央のP～Rグリッドラインにかけて集中し、これ以外では分布が極端に希薄となる状況を確認した。また、9月24日～10月2日にⅠ-C・D区の境を走る工事用道路、SB1にかかる西側工事用道路の撤去及び表土掘削を開始した。古代遺構の調査は9月29日から本格的に行った。掘立柱建物はSB1･SB2の2棟を検出した。新旧関係は、SB2→SB1であることを確認し、特にSB1は桁行長15mを超える大型建物であることが明らかとなった。建物の柱穴は、最初に5～10cm平面的に掘り下げ、柱痕跡を確認し、図面・写真等の記録後、柱痕の完掘を行った。柱の埋土は調査区の全体写真撮影が終了した後､柱穴を断ち割り、図面・写真に記録し完掘した。また、SB1



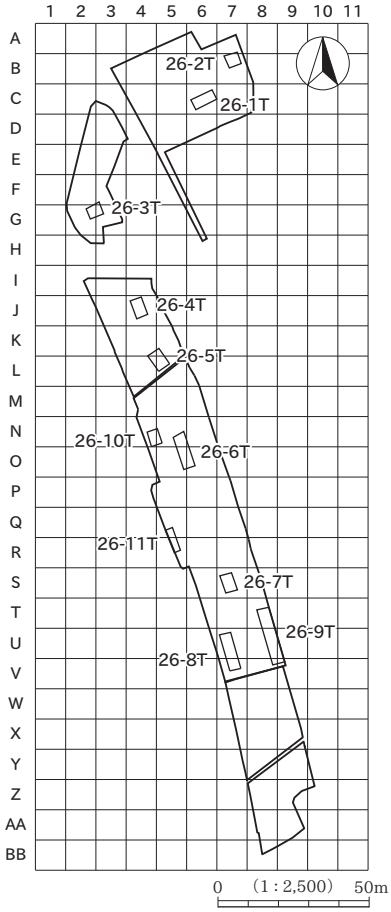
第4図　各年度の調査区位置図

第5図　遺構調査風景

に付随するSD32・110からは、土師器・須恵器が多量に出土した。出土遺物の年代観から、古代遺構は9世紀第3四半期が主体であると考えた。このほか、調査区では地震液状化の痕跡である噴砂を検出し、砂脈はいずれも東西方向に延びることを確認した。噴砂はSB1-P66を貫き、中世に属するSD22に切られることから、地震は古代以降、中世以前の間に起こったものと推定された。地震痕跡については、新潟大学災害・復興科学研究所の卜部厚志准教授に現地で適時御指導を頂いた。Ⅰ-A・B・C区の調査はⅠ-D区の調査と並行して、Ⅰ-A・B区は9月18日～9月24日、Ⅰ-C区は10月15日～10月23日を中心に行った。Ⅰ-A～C区は地形が落ち込む地点にあたり、Ⅰ-C区で溝・ピットなどを少数検出したが、遺構の分布は極端に希薄であった。

現地説明会は10月18日に開催し、95名の見学者が訪れた。10月29日、11月7日に航空写真撮影及び高所作業車による調査区の全体撮影を行った。11月12日、県教委が終了確認をした。その後、下層における遺構・遺物の有無の把握を目的に、調査区全域を対象に11か所のトレンチを設定して調査を行った(第6～8図)。

調査期間は11月10日～11月30日である。この結果、いずれのトレンチからも遺構・遺物の出土は認められなかった。Ⅳ層以下にはⅤ～Ⅹ層の堆積が認められ、黄橙色・灰白色・青灰色の砂・シルトの互層となる（第17図)。Ⅹ層は暗赤褐色～青灰色の砂層で、径1～10cm程度の円礫を多量に含む。Ⅴ～Ⅹ層は堆積状況から河川堆積層と考えられ、層厚1.2～1.3mを測る。また、複数のトレンチで地震液状化の痕跡である噴砂を検出した。特に26-9Tでは、幅約50cmの噴砂を検出し、これを境に北側では大規模な土層の陥没を確認した（図版14)。また、地震の年代を特定するため、各トレンチから土壌サンプルを採取し、検出した炭化物について放射性炭素年代測定を行った。11月30日、富山大学理学部の酒井英男教授が訪れ、地磁気法による年代測定のサンプルを採取した。すべての調査は11月30日に終了した。



第6図　下層トレンチ位置図

第7図　26-9T　下層調査風景

第8図　26-8T　下層の層序調査

2）2015（平成 27）年度調査

2015 年度の調査は 2014 年度調査区の南側隣接地でＶ～ BB グリッドラインの範囲である。調査区には 7Z から 9X にかけて農道が存在し、農道から南側をⅡ－Ａ区、北側をⅡ－Ｂ区と便宜的に呼称した（第 4 図）。9 月 7 日以降、現場事務所造成や資器材の搬入を行い、9 月 9 日にはバックホーによる調査区の表土掘削に着手した。9 月 14 日にはⅡ－Ｂ区の表土掘削が終了した地区から遺構検出作業を行い、層序確認用のトレンチ調査も必要な地点で随時実施（9 月 14 日～ 10 月 17 日）していった。Ⅱ－Ｂ区の遺構検出が 1/3 ほど終了したところで、南西隅から掘立柱建物を構成すると思われる埋土が灰褐色の柱穴や上端幅 2m ほどの東西方向の溝(SD1309)、2014 年度調査で検出した上端幅 1m ほどの南北方向の溝(SD1149)などが検出され、溝埋土上部からは古代の土器も出土した。Ⅱ－Ａ区の 9Z、8・9AA・BB の河川跡と思われた斜面地は、表土除去作業の過程で地山を大きく掘削していることが判明し、掘削範囲が現代の水田区画と一致した。9 月 18 日にはⅡ－Ｂ区の遺構検出作業が終了し、柱穴らしきプランを多数検出したが、この中には攪乱や柱穴にならないものも多く含まれていた。遺構掘削が本格化したのは 9 月 19 日以降である。Ⅱ－Ａ区南側の河川跡と考えた範囲の埋土からは、古代の遺物と近世以降の遺物が層位的上下関係を持たずに出土した。また、最下層では耕運機の刃が出土するなど、河川跡の斜面を利用した近・現代の水田造営が明らかとなった。そして、その造成に伴う掘削が思いのほか大きかったことで、古代河川の落ち口を明らかにできなかった。10 月 5 日からはⅡ－Ａ区とⅡ－Ｂ区境の農道の撤去作業を開始し、東西方向の溝や波板状底部を持つ道路状遺構等を検出した。農道下は調査区で唯一、近・現代の削平が少ないところで、遺構の掘り込み位置や切り合い関係を知る上で重要なため慎重に調査した。また、Ⅱ－Ａ区の溝（SD1301）埋土上層から馬の左歯列が出土したが、個体が大きいことから近世以降と考えられた。11 月 6 日には県教委の終了確認を得て、11 月 12 日に遺構完掘状態の航空写真を撮影し、11 月 17 日に現地での調査は終了した。その後、11 月末までに調査区の埋め戻しや農道の復旧を行った（第 9 図）。

第 9 図　調査区埋め戻し作業

C 整 理 作 業

2014 年度は本発掘調査と並行して遺物の洗浄・注記を現場事務所で行った。本発掘調査終了後は、図面・写真の記録類、遺物を株式会社帆苅組整理室に搬入し、遺構図面整理と遺物の接合・実測・撮影を行い、併せて本文の執筆を進めた。

2015 年度は本発掘調査と並行して遺物の洗浄・注記を現場事務所で行った。12 月～ 3 月末は図面・写真の記録類、遺物を株式会社ノガミ整理室に搬入し、図面修正、写真整理、遺構台帳、遺物観察表などの基礎整理を行った。

2017 年度は報告書刊行に向けての整理作業で、2 か年にわたる本発掘調査の遺構の図面・写真図版のほか、遺物の図面・写真図版の作成や原稿の執筆を行った（第 10・11 図）。各種図面図版及び挿図を含む

第 10 図　遺構図作成作業

第 11 図　土器実測作業

本文の編集作業は、有限会社不二出版に遺構測量データ・遺構原図・遺物実測図・本文テキストデータ・挿図原図とそれらのレイアウト図を支給して委託し、印刷用データで納品を受けた。印刷は株式会社ウィザップに印刷用データを支給して印刷製本し、報告書を刊行した。

D　調査・整理体制

試掘調査

調査期間　2009 年 5 月 18 日～ 6 月 17 日　2010 年 6 月 3 日～ 6 月 17 日
調査主体　新潟県教育委員会（教育長　武藤克己）
調　　査　財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括　木村正昭（事務局長）
管　　理　斎藤　栄（総務課長）
庶　　務　長谷川靖（総務課班長）2009 年度
　　松原健二（総務課班長）2010 年度
調査総括　藤巻正信（調査課長）
調査担当　田海義正（試掘・確認担当課長代理）
調 査 員　畠野義昭（調査課主任調査員）2009 年度

2014（平成 26）年度　本発掘調査

調査期間　2014 年 7 月 28 日～ 11 月 30 日
整理期間　2014 年 12 月 1 日～ 2015 年 3 月 31 日
調査主体　新潟県教育委員会（教育長　高井盛雄）
調　　査　公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括　木村正昭（事務局長）
管　　理　熊倉宏二（総務課長）
庶　　務　仲川国博（総務課班長）
調査総括　高橋　保（調査課長）
調査担当　荒川隆史（専門調査員）

支援組織　株式会社帆苅組
現場代理人　伊藤　聡（株式会社 帆苅組 埋蔵文化財調査室）
調 査 員　村上章久（　同　）
髙橋　均（　同　）
石橋夏樹（　同　）
補 助 員　佐藤直美　大瀧明美　佐藤由紀　伊藤麻美　渡部由江　坂口理恵　田中加代子

2015（平成 27）年度　本発掘調査

調査期間　2015 年 9 月 7 日～ 11 月 17 日
調査主体　新潟県教育委員会（教育長　高井盛雄）
調　　査　公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括　土肥　茂（事務局長）
管　　理　松田　祐（総務課長）
庶　　務　仲川国博（総務課班長）
調査総括　鈴木俊成（調査課長）
監　　理　沢田　敦（担当課長代理）
調査組織　株式会社ノガミ
現場代理人　伊藤正紀（株式会社 ノガミ 埋蔵文化財調査部）
調査担当　秋山泰利（　同　）
調 査 員　大越直樹（　同　）

整　理　作　業

調査期間　2017 年 4 月 3 日～ 2018 年 3 月 31 日
調査主体　新潟県教育委員会（教育長　池田幸博）
調　　査　公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括　清野一善（事務局長）
管　　理　松田　祐（総務課長）
庶　　務　星野美奈（総務課班長）
調査総括　沢田　敦（調査課長）
調査担当　鈴木俊成（調査課班長）
支援組織　株式会社帆苅組
調 査 員　石橋夏樹（株式会社 帆苅組 埋蔵文化財調査室）
補 助 員　伊藤麻美

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　地 理 的 環 境

A　阿賀野市の地勢

蕪木遺跡は阿賀野市堀越字蕪木 1,974 ほかに所在する。遺跡は越後平野東部に位置し、周辺の現況は水田である。阿賀野市は、2004（平成 16）年 4 月 1 日に京ヶ瀬村・笹神村・水原町・安田町の 4 町村が合併して誕生した。市域面積は 19,274m^2 で、四方を新潟市・新発田市・阿賀町・五泉市と接する。

阿賀野市の地勢は、五頭連峰・笹神丘陵・新潟平野・阿賀野川によって構成される。蕪木遺跡の東に位置する五頭連峰は、北から金鉢山（888.4m）・松平山（953.9m）・五頭山（912.5m）・菱ヶ岳（973.5m）・宝珠山（559m）と、南北約 20km に連なる山塊である。中でも五頭山は 809 年に弘法大師によって開山したと伝わり、中世には修験の地として信仰の対象とされてきた［中野 1968］。五頭連峰の西麓には笹神丘陵が南北約 18km に延び、五頭連峰と丘陵の間には低地帯（村杉低地）が存在するため両者は隔てられている。笹神丘陵は五頭連峰から流れ出た河川によって分断されている。平野部に進出した荒川川・折居川・大荒川・安野川・都辺田川は合流・分岐しながら福島潟と阿賀野川へ注ぎ込む。これらの河川は近世以降の改修工事によって、以前の河道と変わっているが、各河川の氾濫原では水量に比例した河道脇の自然堤防が残されている。また福島潟は 1754（宝暦四）年以降に干拓が開始され、最終的に 1966（昭和 41）年から始まった国営干拓工事によって現在の姿となった。現在も残る東西 5km の環状微高地は、干拓前の浜堤と考えられる（第 14 図）。

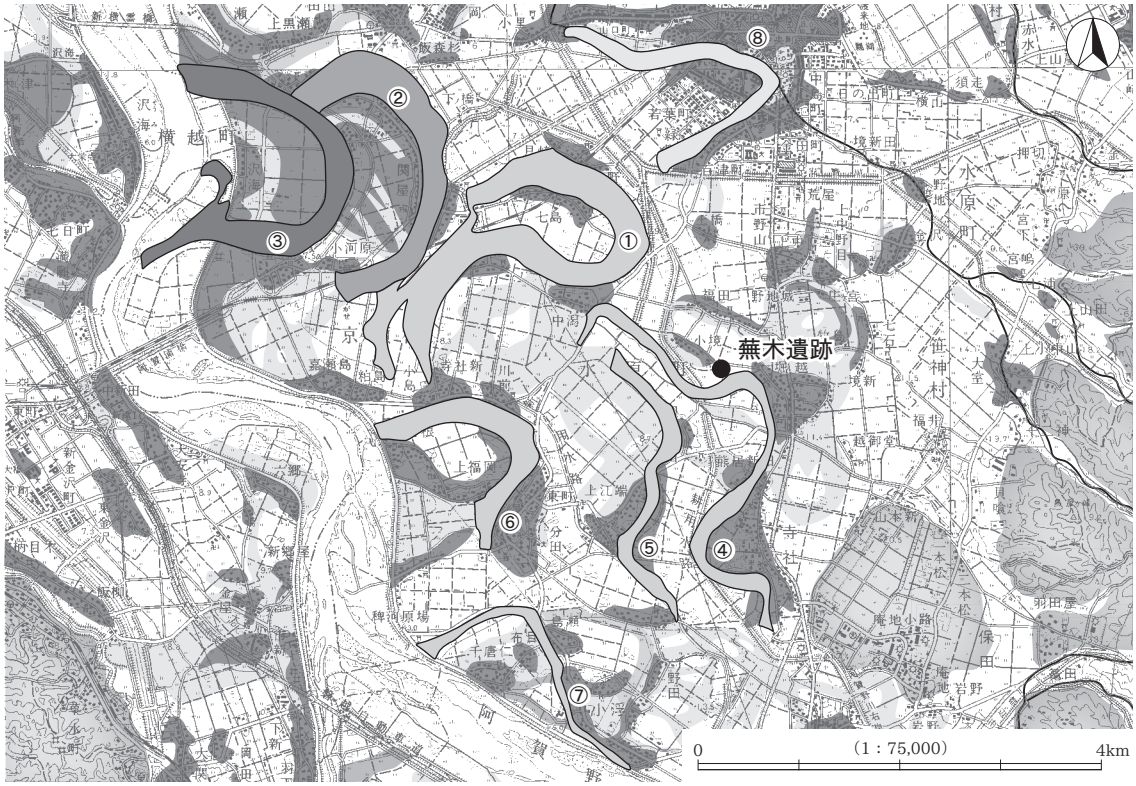
阿賀野川は日本最大級の水量を誇る一級河川である。栃木県と福島県の境にある荒海山に源を発し、山間部を北上、五泉市馬下付近から越後平野に出て、当地域を通過して日本海へと至る。河口では砂丘列の影響により流出口が狭くなっているため、洪水時には氾濫を起こしやすい。これによって河道は移動し、旧河道は痕跡として現在に至っている。特に山間部から平野部へと進出した直後の阿賀野川右岸及び阿賀野川－早出川間では、蛇行した旧河道の痕跡を数多く確認できる。また、自然堤防が複雑に発達していることもそれを裏付けている。洪水災害を招きやすかった阿賀野川は近世以降に治水工事が行われ、現河道は 1915（大正 4）年から開始された改修工事によって直線化されたものである［建設省北陸地方建設局・阿賀野川工事事務所 1988］。

B　阿賀野川の変遷

阿賀野川の旧河道は現地表面に多く残されており、遺跡の立地・景観を復元する上で旧河道の年代を明らかにすることは重要である。現地表面で確認できる旧河道は、明瞭であるものほど新しいと考えられる。言い方を替えれば、古い河道であるほど痕跡は薄く、埋没して現地表面で確認できないものも数多く存在するはずである。また当然ながら人工的な改変による埋没や削平、あるいは消滅といったことも想定される。なお、明瞭な旧河道同士で切り合い関係がみられるものがあり、その場合は新旧が把握できる。これらの観点から阿賀野川の河道変遷を検討した文献は数多く存在し、いくつかの旧河道についてはおおよその年代が判明している。ここでは代表的な文献を概観するとともに、各河道の年代についてまとめてみた

第 12 図　近隣遺跡と旧河道

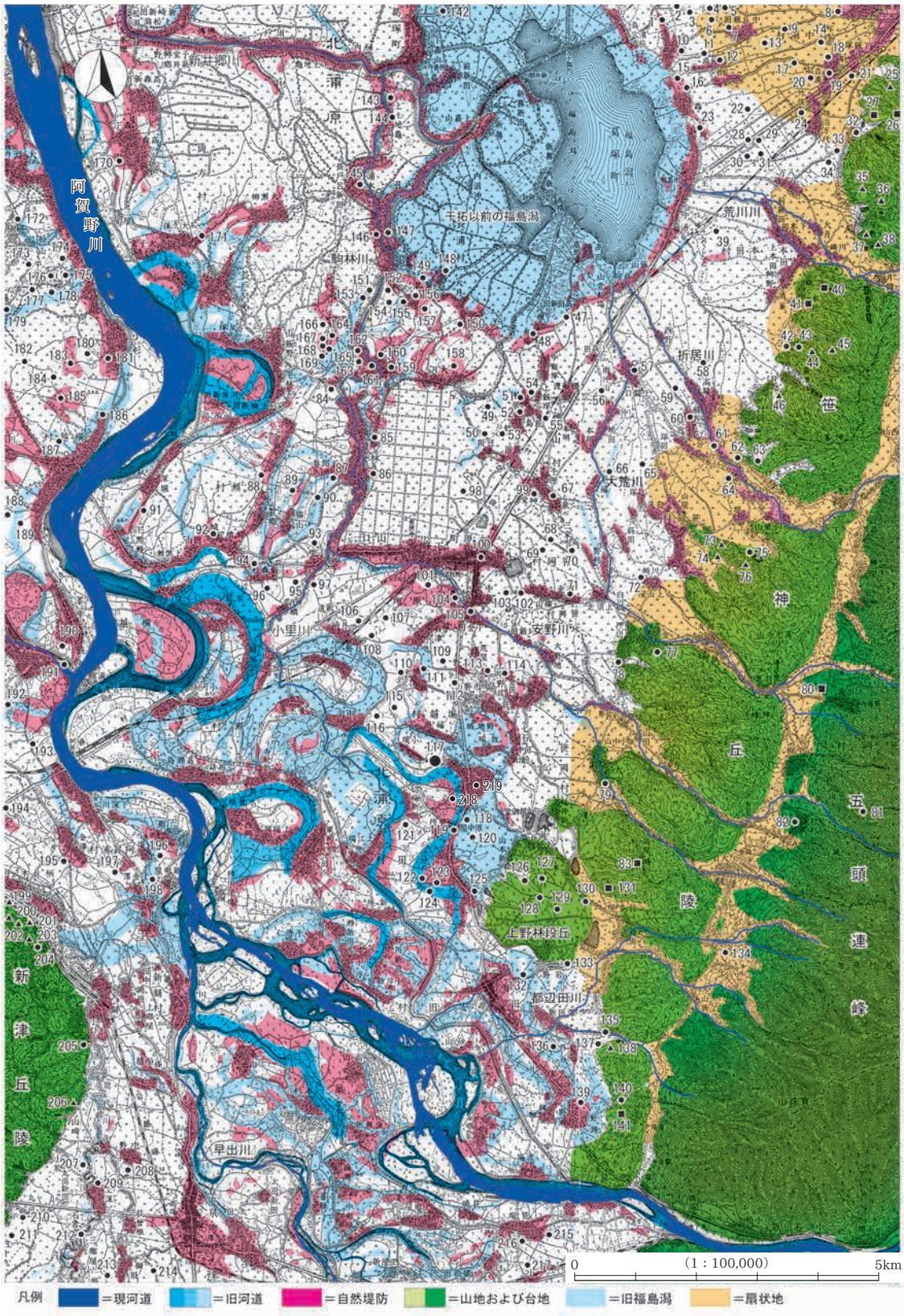
（国土地理院発行「新津」1：25,000 原図に加筆）



① 近世以前　② 正保年間以前　③ 1647 年以前～1911 年　④ 平安期～　⑤ 平安～近世以前　⑥ 1645 年以前～1737 年　⑦ 1645 年以前～1761 年　⑧ 不明

第 13 図　旧河道の変遷

（新潟県教育委員会　公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団 2015『山口野中遺跡Ⅱ』を改変、凡例は第 14 図参照）



第 14 図　周辺の自然地形と古代の遺跡分布図

（大日本帝國陸地測量部発行 大正 3 年「津川」大正 8 年「新発田」「新潟」「新津」1：50,000 原図に国土交通省北陸地方整備局国土交通省国土地理院 2004『古地理に関する調査　古地理で探る越後の変遷　荒川・阿賀野川・信濃川・関川・姫川』と大矢雅彦・加藤泰彦 1984『阿賀野川水害地形分類図　説明書』より地形分類を合成・改変、河川については大日本帝國陸地測量部発行　大正 3 年「出湯」「松ヶ濱」大正 15 年「水原」「新津」1：25,000、地理調査所発行　昭和 23 年「天王」1：25,000、国土地理院発行　平成 11 年「新潟」「新津」「新発田」「津川」1：50,000 を参考にした。）

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	吹切	33	フケ	64	砂子	96	村前東 A	128	上野林 L	160	里飯野	192	無頭
2	中谷内	34	杉林	65	発久	97	山口	129	上野林 M	161	上掘田	193	中新田久保
3	六反谷内 C	35	高山寺窯跡	66	下福岡	98	永室	130	上野林 C	162	池田 B	194	大野中
4	六反谷内 B	36	岡屋敷窯跡	67	唐着	99	堂前	131	手代山製鉄跡	163	池田 A	195	西江浦
5	六反谷内 E	37	寺山腰	68	六反田	100	水原館跡	132	宮ノ腰	164	山飯野神田 A	196	下久保
6	広面	38	諏訪の平堤窯跡	69	堤下	101	庚町	133	岩野 A	165	桜曽根 A	197	細池寺道上
7	柳田 B	39	熊の嶋	70	諏訪田	102	四ツ橋長者屋敷	134	ツベタ B	166	大夫曽根	198	道上
8	松ノ木	40	一本松	71	卯ノ明	103	中島	135	蔵敷林	167	山飯野神田 B	199	秋葉 2 丁目窯跡
9	昼塚	41	宮前	72	上山屋	104	薬師島	136	八百刈	168	並柳	200	七本松窯跡群
10	上曽根	42	堤下 B	73	清見寺窯跡 A・B	105	下金田	137	山下 B	169	桜曽根 B	201	草水町 1 丁目窯跡
11	福島	43	堤上	74	中ノ沢窯跡	106	山口野中	138	五輪敷沢窯跡	170	高森	202	滝谷窯跡
12	大坪	44	堤上窯跡	75	女堂金屋原	107	三辺稲荷	139	北郷	171	縄内	203	草水町 2 丁目窯跡
13	びわくび	45	砥石沢窯跡	76	狼沢窯跡群	108	境塚	140	新割	172	直り山 A	204	愛宕澤
14	則持	46	道婦窯跡	77	金屋中道	109	大坪南	141	不動院	173	松山向山	205	小実山
15	八幡野	47	未明	78	田向	110	新町	142	法花鳥屋 A	174	中山	206	山崎窯跡
16	椡崎	48	小曽根	79	山王田	111	土橋	143	上土地亀 B	175	城山	207	筧下
17	板橋	49	台田	80	多須田製鉄関連	112	市野山大坪	144	上土地亀 A	176	神明社裏	208	中野
18	細田	50	中谷内	81	葎沢	113	久祢添	145	浦木	177	平山	209	村付
19	吉浦家ノ裏	51	塚田	82	苗畑	114	細田遺跡	146	村下	178	笹山前	210	丸田
20	吉浦宮ノ腰	52	沖ノ館	83	湯沢砂子	115	石船戸東	147	内沼浦	179	上の山	211	道金
21	大面	52	沖ノ館	84	山鳥屋敷	116	石船戸	148	真耶板倉	180	居附 A	212	榎表
22	馬屋尻	53	滑橋	85	千刈	**117**	**蕪木**	149	一本柳	181	松韻寺	213	江中
23	曽根	54	塚田 B	86	土居内西	118	鴨深北	150	狐川渡	182	江尻	214	福島
24	苗代	55	元屋敷	87	轟	119	庚塚	151	中道 A	183	山のハサバ	215	六十寺道南
25	志村山窯跡	56	高畑	88	村下	120	鴨深甲	152	川東	184	小杉上田	216	宮ノ浦
26	金堀	57	腰廻	89	善四郎谷内	121	熊居上の山	153	中道 B	185	宮尻郷	217	小栗山北
27	中江川上	58	真木野	90	善四郎谷内 C	122	花田	154	城の潟	186	下郷	218	砂田
28	十町田	59	上高関	91	曽根	123	家浦 A	155	鷲津	187	曽我墓所	219	堀越館跡
29	加治万代弁天郷	60	前田	92	城館跡	124	六九	156	五本柳 B	188	上郷 A		
30	切替	61	壱本杉	93	大曲川端	125	大坪	157	五本柳 A	189	上郷 B		
31	加治万代弁天下	62	宮前	94	町道上	126	横峯 B	158	上大月	190	居屋敷		
32	木倉下	63	下一部	95	柄目木	127	上野林 J	159	岡新田	191	寺島		

第 1 表　周辺の古代遺跡一覧表

い。文章中で使用する河道の番号①～⑧は第 13 図のとおりである[1)]。

まず、基本文献について触れたい。阿賀野川の洪水による被害（川欠け）を記した古文書は多く残されており、中でも近世以降の記録は古絵図と集落名の対比が可能であるため、河道変遷を検討する上で重要である。既知の古文書は各市町村史等でまとめられている［巣本（すもと）村 1973、満日（まんにち）村 1977、安田町 1997 等］。

旧河道について、具体的な変遷を示したものは、建設省が発行した『阿賀野川水害地形分類図 説明書』［大矢・加藤 1984］がある。河道変遷を明らかにするために（1）表層地質（2）空中写真による地形判読（3）古地図、古文書を利用したと述べられている[2)]。旧河道の中で最も明瞭な痕跡を残す焼山（やけやま）（京ヶ島（きょうがしま）・七島（ななしま））付近の 3 本について、現河道から遠い東から ①正徳 3（1713）年頃の河道、②宝暦 12（1762）年頃の河道、③明治 44（1911）年頃の河道と推定し、東から西へと短期間に変遷したと分析している。なお、③については、阿賀野川第 1 期改修工事（大正年間）によって放棄されたものと解説している。この説明書を軸とし、各市町村史の記述なども含んで総合的に阿賀野川の歴史を著したものが、『阿賀野川史』［建設省北陸地方建設局・阿賀野川工事事務所 1988］である。

一方、周辺の遺跡発掘調査報告書の中でも変遷案が示されている。浦部頼之は『阿賀野川水害地形分類図 説明書』で論じられた焼山（京ヶ島・七島）付近の 3 本の旧河道について考察し、別の見解を示している［浦部 2001］。③については明治 44（1911）年としているが、「②については正保の国絵図（17 世紀半ば）に①が百津（ももづ）潟として阿賀野川本流から切り離されていることから、少なくとも江戸時代には流路となってい

1） 文章中で扱っている旧河道は紹介した各文献と共通するものもあるが、各著者が説明に用いた番号はそれぞれ異なる。本文では便宜上これらを統一し、①～⑧の番号を付けている。

2） 使用した資料については、（1）表層地質：建設省計画局・新潟県 1967『新潟地区の地盤』都市地盤調査報告書大 16 巻、（2）空中写真による地形判読：米軍撮影空撮写真など、（3）古地図、古文献：明治 44（1911）年 陸地測量部の図、正徳 3（1713）年の図（市川家文書＜安田村誌＞）、万治 2（1659）年の図（市川家文書＜安田村誌＞）などが挙げられている。

たと推定できる。①の部分が河道になった時代は明確な資料がなく断定はできないものの、②よりも古い流路であるため、江戸時代より古い時代の流路と考えられる」と報告された。

荒川隆史は浦部頼之が用いた「正保越後国絵図」に加え、「新発田領絵図」と「越後輿地全図」を併せて用い、さらに検討を加えている［荒川ほか 2012］。それによれば「1647（正保 4）年「新発田領絵図」では阿賀野川が旧河道③を流れていたことを確認できたため、旧河道①・②が阿賀野川の本流であった時期は正保年間以前であったものと推測される。また、1645（正保 2）年「正保越後国絵図」には六日野（むいかの）近くに「百津潟」が描かれ、1816（文化 13）年「越後輿地全図」にも旧河道①に該当する部分に「古川蹟」と書かれた三日月状の範囲が記されており、旧河道①が阿賀野川の本流からそれて三日月湖になったものが百津潟と考えられる」と報告している。

潮田憲幸はこれまで論じられてきた焼山（京ヶ島・七島）付近の旧河道とは別の南側にある旧河道 3 本について、焼山付近同様に東から西へ変遷するものとしている［潮田 2014］。現在は対岸にある深川（ふかがわ）と水ヶ曽根（みずがそね）という地名に注目し、「正保絵図では深川（上深川）・上福岡（かみふくおか）・水ヶ曽根が陸続きであり、本図が作成された 17 世紀半ばの時点では旧河道⑥が本流であったことがわかる。一方 19 世紀半ばに作成された「天保絵図」では深川（上深川）と上福岡（福岡村）・水ヶ曽根が対岸となっており、この間に河道の変化があった」とした。旧河道④・⑤については、⑥よりも古く、④→⑤→⑥の順に変遷するとした。

以上が管見で得られた代表的な文献である。各旧河道の時期幅で見解が異なる部分はみられるが、研究手法として表層地質、空中写真による地形判読、古地図・古文書を利用した点では共通している。今後新しい知見を加えていくには、発掘調査やボーリング調査によって得られた情報を積極的に活用していくことが重要になると思われる。なお、旧河道⑥については、『安田町史』［安田町 1997］や『満日郷土史』［満日郷土史編纂委員会 1977］にも記述があり、1737（元文二）年 6 月の洪水で福岡、西岡（にしおか）・水ケ曽根が川の変動で左岸から右岸になったという。したがって、旧河道⑥の時期幅は 1645 年以前～ 1737 年といえる。また、同じく『安田町史』に 1761（宝暦 11）年 3 月の洪水により千唐仁（せんとうじ）、布目（ぬのめ）、烏嶋（からすじま）が左岸から右岸に移ったとあり、「正保越後国絵図」で左岸にあることが確認できることから、旧河道⑦を比定できる。時期幅は 1645 年以前～ 1761 年である。

ここでは旧河道④の時期について、これまでの変遷案に阿賀野市庚塚（かのえづか）遺跡での発掘調査成果を付け加えておく。庚塚遺跡は蕪木遺跡から南へ約 350m の近距離に位置する古代～中世の遺跡で、西側には明瞭な旧河道④が確認できる（第 12 図）。2007 年に発掘調査が行われ、阿賀野川の旧河道が検出された［佐藤ほか 2009］。調査区 C 区を南北に横断する旧河道の東端を検出したものであり、底面から 9 世紀後半～ 10 世紀初頭の土器が出土している。深さは 0.82 ～ 1.1m と浅いものの、古代の阿賀野川（又は支流）として報告されている。報告書では詳細は語られていないが、位置的にみて旧河道④に該当する可能性が高いと考えられる。上層で削平を受けていたとされ、対岸にあたる狐塚（きつねづか）遺跡では検出されていない。現地表面で確認できる旧河道④は幅 50 ～ 70m ほどであり、阿賀野川の本流としては小規模である。本流ではなく支流であった可能性や、網状流路と形容されるような複数の河道が同時に流れていた可能性もある[1)]。蕪木遺跡が営まれていた平安時代には、旧河道④が流れていたと考えられる。

最後に、より古い河川について指摘した文献を紹介する。荒木繁雄は、阿賀野市水原館跡（すいばらやかた）・水原代官所（すいばらだいかんしょ）

1）「河道は一般的に扇状地域では網状に、自然堤防地域では蛇行、デルタでは直線状になる」［（財）河川環境管理財団 1998］とされ、阿賀野川においても旧河道にみられるように、上流側（山間部、馬下付近）ほど網状になっていたと考えられる。

址の発掘調査報告書［荒木 1977］の中で、水原市街地を通る旧河道⑧の存在を指摘している。根拠としては水原館跡・水原代官所址の中世面以下の土層から沼沢火山を起源とする火山灰が検出されたこと[1)]、旧水原高校（現阿賀野高校）体育館建築の際に行われたボーリング調査で河床が見つかったこと[2)]の２点を挙げている。旧河道⑧は現地表面で確認することはできないが、水原市街地が立地する大規模な自然堤防は、安野川が造りだしたとは考えにくく、旧河道⑧を想定することにより理解できる（第８図）。旧河道⑧が流れていた時期は不明であるが、前述の沼沢火山との関連が立証されれば、縄文時代の旧河道となる可能性を持っている。

2 歴 史 的 環 境

律令制により定められた地方行政組織は、国－郡－里という単位で組織され、740（天平 12）年には里が廃止され､郷と呼ばれるようになった。当地域は越後国沼垂郡に含まれる。10 世紀前半に編纂された｢和名類聚抄」によれば、沼垂郡は足羽郷・賀地郷・沼垂郷からなり、郷数から小郡に分類される。沼垂郡は現在の阿賀北地域とする説が一般的だが、その郷配置は足羽郷が北蒲原郡中条町周辺（胎内市）、賀地郷は北蒲原郡の内陸部と加治川流域、沼垂郷は北蒲原郡の海岸部とする説［小林 1999］や、中世白河荘、すなわち現阿賀野市域（旧笹神村･旧安田町･旧水原町･旧京ヶ瀬村）を足羽郷に比定する説［吉田 1902］があり、郷の比定については、いまだに決着がついていない。なお、郡境についても、北限を荒川とする説［田中 2005］や旧中条町とする説［平川 2005］などがある。

第１節で述べたように、当地域の地形は近世以降の治水・利水工事により、大きく改変されている。改変前の状況を知るため、以下の資料を基に第 14 図を合成した。ベースの地図と小河川については、大日本帝國陸地測量部 1911（明治 44）年測図、地形区分については［大矢・加藤 1984］や［国土交通省北陸地方整備局・国土地理院 2004］、阿賀野川・早出川など大河川については、国土地理院 1999（平成 11）年発行図を用いた。資料の詳細については、第 14 図脚注を参照して頂きたい。

遺跡は丘陵と平野部のそれぞれに分布するが、平野部では阿賀野川に近い西側には分布しない。これは古代の河道が現河道より東側にあった傍証となる。遺跡の分布する範囲が当時の河道を考える手がかりとなるであろう。また､平野部の遺跡は阿賀野川とそれ以外の中小河川の自然堤防が発達する場所に集中し、旧地形と合わせて考えることにより、いくつかの集中域を捉えることが可能である。各集中域単位で古代沼垂郡に属する阿賀野川右岸の地域について、発掘調査が実施された遺跡を中心に概観する。

笹 神 丘 陵

笹神丘陵に点在する遺跡は、ほとんどが窯業や製鉄関連の生産遺跡である。特に須恵器生産において、県内最大級の規模を誇る。丘陵は北から真木山・陣ヶ峰（通称本田山）・真光寺山・陣ヶ峰・鳥屋ヶ峰・福永山・久保山・赤坂山と呼ばれるが、窯は北側の真木山・本田山・真光寺山に集中し、空白地帯を挟み久保山に１基存在する（以下、笹神窯）。発掘調査が行われているのは志村山窯跡（25）［川上 1999b］・高山寺窯跡（35）［笹神村 2003］・岡屋敷窯跡（36）・清見寺窯跡Ａ（73）［中川・倉田 1962］・狼沢２号

1） 沼沢火山は約 5,000 年前に噴火し、多量の軽石が阿賀野川によって当地域まで運ばれたと考えられている［稲葉 1978］。なお、噴火した年代については、最新の年代測定の結果、紀元前約 3,400 年とされる［山元 2003］。

2） ボーリング調査結果を示した図（荒木 1977 第３図）には、水原高校の地点で標高約-25m に礫層がみつかり、東西に 1km 以上離れた水原高校農場と下金田遺跡をそれぞれ対岸としている。

窯跡(76)[中川ほか1973]など、すべて北側に位置する窯である。製鉄遺跡は窯の分布に類似するが、鳥屋ヶ峰にも若干分布する点が異なる。

窯の時期は志村山窯跡が8世紀前半、高山寺窯跡が8世紀後半～9世紀初頭、岡屋敷窯跡が8世紀後半、清見寺窯跡Aが8世紀末、狼沢2号窯跡が9世紀前半とされる［小林2004、笹沢2004］。また、久保山の五輪敷沢窯跡（138）は8世紀後葉～9世紀初頭とされる［春日2004c・2006］。笹神丘陵の須恵器生産は8世紀前半に操業が開始され、8世紀後半に最盛期を迎え、9世紀に入ると佐渡の小泊窯跡群（以下、小泊窯）の台頭により、次第に生産は縮小していくと理解されている。製鉄関連遺跡は窯跡の分布に類似するが、鳥屋ヶ峰にも若干分布する。製鉄遺跡は一般的に土器の出土に乏しく、古代と中世どちらに所属するのか判断が困難である場合が多い。赤坂山の不動院遺跡（141）では安田中学校による発掘調査が行われ、詳細な時期は不明だが須恵器杯蓋・杯などが出土したとされる［古澤2012］。

上野林段丘

笹神丘陵の西側にある独立丘は、上野林段丘と呼ばれている。古代の遺跡が複数存在しており、横峯B遺跡（126）［石川ほか1981］において発掘調査が行われている。

横峯B遺跡では、時期の異なる竪穴住居2軒が検出されている。1号住居は9世紀後半、2号住居は9世紀末～10世紀末とされる［春日2004b］。1号住居からは転用硯が出土している。また、上野林J遺跡（127）では少量の土師器が出土している［渡辺ほか2004］。

荒川川以北域（旧福島潟東側）

旧福島潟の東側、荒川川以北の一帯は最も遺跡が集中する場所である。また、分布図（第14図）外となる北側にも多く分布する。曽根遺跡（23）［家田ほか1981・1982、川上1997］で発掘調査が行われている。

曽根遺跡では、掘立柱建物25棟と井戸9基が検出され、多様な木製品（木簡･斎串･人形･檜扇･舟形･木沓）や円面硯、「郡」「上殿」などの文字を含む墨書土器約240点等が出土した。時期は8世紀前半～9世紀後半である。郡庁や正倉を推定できる建物こそ検出されなかったが、官衙関連遺跡であると考えられる。また、中小河川を集める福島潟の汀線に立地し、背後には生産遺跡が多数存在する笹神丘陵があり、出土遺物には焼き歪みなどがある須恵器が多数含まれていたことなどから、不良品の選別などを行う流通拠点だったと評価されている［坂井1996］。

折居川・大荒川流域（旧福島潟南側）

旧福島潟の南側は折居川と大荒川の氾濫原であり、小規模な自然堤防が複雑に発達している。この一帯には遺跡が多数存在し、発掘調査された遺跡も多い。発久遺跡（65）・下福岡遺跡（66）・前田遺跡（60）・壱本杉遺跡（61）・腰廻遺跡（57）・小曽根遺跡（48）で発掘調査が行われている。

発久遺跡は、須恵器の四足横瓶が出土したことで早くから知られていた遺跡である。調査では柱穴列が検出され、掘立柱建物の存在を示唆する。出土遺物には多量の墨書土器、健児木簡や暦様木簡など、官衙を想起させる資料が多数出土している［川上ほか1991］。下福岡遺跡は発久遺跡の西約200mに位置し、数棟の掘立柱建物が検出されている。時期は9世紀前葉～中葉である。また、隣接する発久遺跡との関連性も指摘されている［古澤ほか2014、笹神村2003］。前田遺跡・壱本杉遺跡はともに1996年度にほ場整備に伴う発掘調査が行われた。前田遺跡では古代の遺物は少量出土したのみだが、壱本杉遺跡では柱根が残る総柱建物が1棟検出され、官衙的性格が強いものと指摘されている。遺跡の時期は9世紀後半である［川上1999a］。腰廻遺跡は古墳～中世にかけての複合遺跡であり、古代と思われる掘立柱建物が

2棟検出され、木簡なども出土している。「腰廻西遺跡」として報告された地点の時期は8世紀後半～9世紀後半とされ、この地点では古代に属する建物の検出はないが、少量ながら墨書土器が出土している［川上2002・渡辺ほか2002］。小曽根遺跡は、旧福島潟の南側汀線である自然堤防上に立地する。建物は検出されなかったが、出土遺物から8世紀後葉～9世紀初頭とされる［川上1989・春日2004］。

駒林川流域（旧福島潟南西側）

旧福島潟の西側、安野川と小里川が合流して北上する駒林川流域に集中域が見られる。集中域の中心からは少し外れるが、北側の上土地亀遺跡（143･144）と南側の土居内西遺跡（86）で発掘調査が行われている。

上土地亀遺跡では建物は検出されていないが、溝状遺構と炉状遺構が検出されている。時期は8世紀後葉～9世紀中葉である［関ほか1993、相田2004］。土居内西遺跡では建物は検出されなかったが、時期は9世紀前葉～中葉である［古澤2005］。

阿賀野川右岸流域西部（小里川以西）

阿賀野川右岸流域と安野川流域では、自然堤防上に多くの遺跡が分布している。一般国道49号阿賀野バイパスはこの沿岸に建設されるため、多くの遺跡で発掘調査が行われている。蕪木遺跡もその一つである。また、県営湛水防除事業関連での発掘調査も複数回行われている。

ここでは小里川を境に東西に分けて記述する。小里川以西では村下遺跡（88）・村前東A遺跡（96）・柄目木遺跡（95）で発掘調査が行われている。

村下遺跡では方形の区画溝の中に掘立柱建物が15棟検出され、蒲原津との位置関係から何らかの川港的な施設が存在した可能性が指摘されている［古澤ほか2004］。時期は8世紀第2四半期～9世紀第1四半期と報告されている。村前東A遺跡では、竪穴状遺構1基が検出され、時期は8世紀中頃～9世紀前半と報告されている［加藤ほか2010］。柄目木遺跡では複数回の調査が行われているが、各報告書を総合すると、掘立柱建物3棟、竪穴建物8軒が検出されている。時期は8世紀後半～9世紀前半である［佐藤ほか2010、加藤ほか2013、古澤2014］。また、町道上遺跡（94）・堀越館跡（219）では古代の遺物のみが出土している［古澤2002、小田ほか2001］。

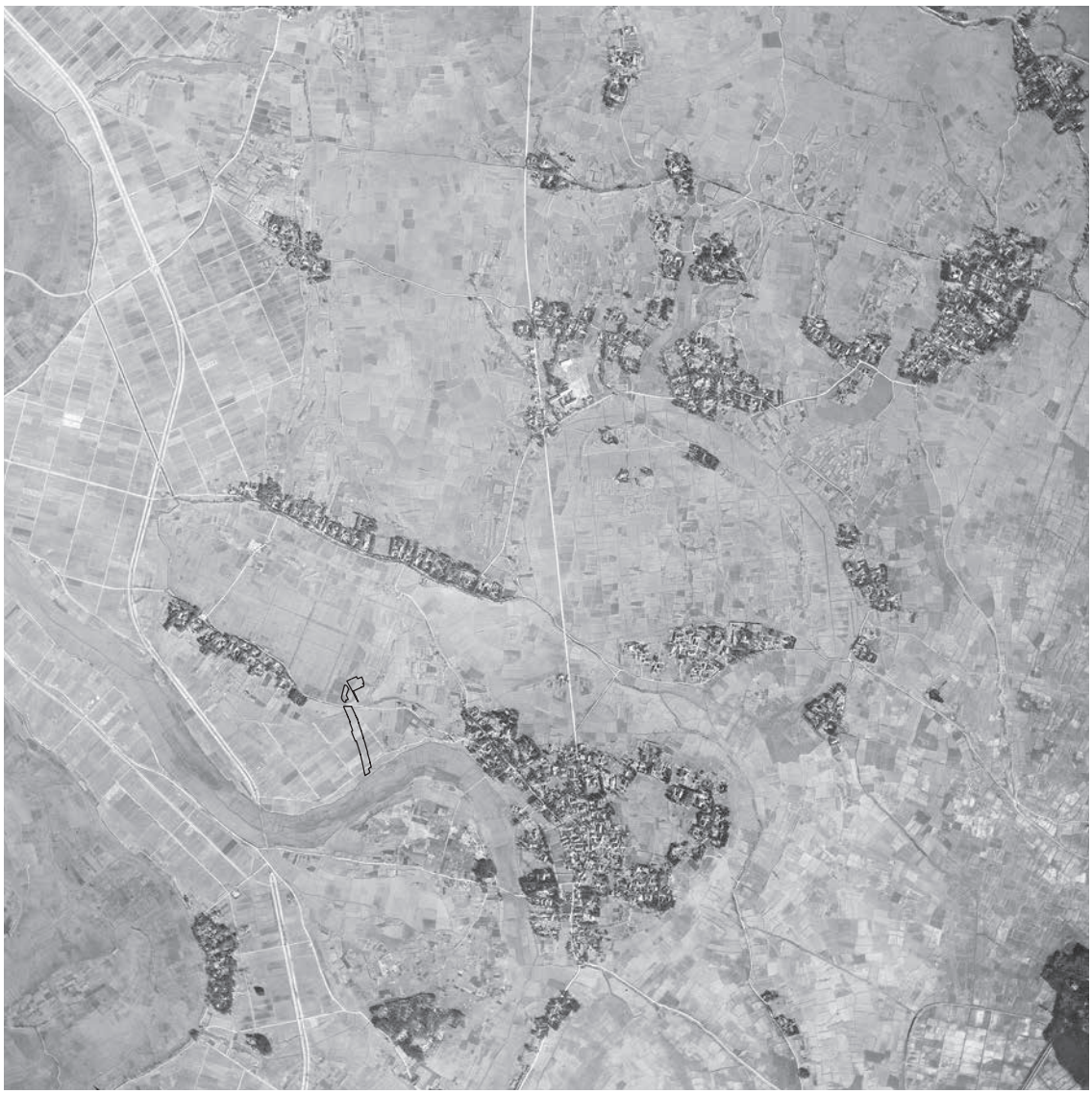
阿賀野川右岸流域及び安野川流域（小里川以東）

小里川以東では山口遺跡（97）・山口野中遺跡（106）・境塚遺跡（108）・三辺稲荷遺跡（107）・庚塚遺跡（119）・鴨深甲遺跡（120）・大坪遺跡（125）等で発掘調査が行われている。

山口遺跡は弥生～中世までの時期幅を持ち、現在までに刊行された報告書によれば、古代は8世紀中頃～9世紀中葉の時期とされる。確実に古代といえる建物は検出されていない［高橋ほか2010］。また、2011年度の発掘調査で、全国的にも希少な唐三彩（弦楽器玩具）が出土している［荒川2011］。なお、前述した柄目木遺跡と山口遺跡は旧小里川の対岸に位置しており、発掘調査では旧小里川と同じ方向の河道が検出されている。この河道の下層土には弥生～古代の包含層が流れ込んでいることから、古代にも存在した河道といえる。山口野中遺跡では建物の検出はないが、時期は9世紀前葉～中葉とされる［村上ほか2013］。境塚遺跡は中世を主体とする遺跡であり、古代に属する建物は掘立柱建物1棟のみである。出土土器は少量だが須恵器の年代は9世紀前半である［荒川ほか2012］。前述した庚塚遺跡では阿賀野川の旧河道が検出されている。9世紀後半～10世紀初頭の土器が河底から出土したため、平安時代に存在した河道と報告されている［佐藤ほか2009］。鴨深甲遺跡では古代の建物跡は検出されていないが、遺物の時期は9世紀～10世紀初頭である［高橋ほか2006］。大坪遺跡では9世紀末～10世紀前葉の土師器焼成遺構が検出されている［荒川ほか2006］。三辺稲荷遺跡では、竪穴住居・掘立柱建物・区画溝・井戸・

小鍛冶跡・炭窯が検出され、時期は9世紀後半～10世紀初頭とされる。50点以上の墨書土器が出土していることが注目される［古澤ほか2014］。また、水原館跡（100）・下金田（しもかねだ）遺跡（105）では発掘調査が実施されており、古代の遺物も少量出土している［川上ほか1977、本間ほか1973］。

以上、当地域における古代の遺跡を概観した。前述のように坂井秀弥は、福島潟が沼垂郡の中央に位置し、中小河川を集めて阿賀野川とも繋がり、さらに外海へと出られることを重要視した。福島潟の湖岸に立地する曽根遺跡が官衙的な内容を持ち、背後の笹神丘陵に存在する生産遺跡と河川で結ばれることを踏まえ、これらが有機的に関連したものと評価した。この研究成果が当地域の古代史を研究する上での基礎となっており、その後に積み重ねられた発掘調査の成果とも矛盾は生じていない。今回提示した各集中域には官衙関連遺跡が点在し、いずれも笹神丘陵から福島潟へ繋がる河川の流域に立地する。蕪木遺跡は曽根遺跡のような具体性には乏しいが、何らかの形で古代手工業生産の流通・管理に関与した可能性も想定できる。



第15図　遺跡周辺の航空写真

（1948年3月31日　米軍撮影　所蔵：日本地図センター）
□線は蕪木遺跡調査範囲。位置的関係については12・13図参照

第Ⅲ章　調 査 の 概 要

1　グリッドと調査区の設定

蕪木遺跡の阿賀野バイパス建設予定地内における総面積は13,325m^{2}である。このうち2014年度は5,915m^2、2015年度は1,048m^{2}の調査を行った。2014年度の調査区は市道堀越小境線と工事用道路により４つに分断されるため、これらを境に北からⅠ－Ａ区・Ⅰ－Ｂ区・Ⅰ－Ｃ区・Ⅰ－Ｄ区、2015年度の調査区は用排水路を境に南をⅡ－Ａ区、北をⅡ－Ｂ区と便宜的に分けた（第16図）

グリッドの設定は、2011年発生の東日本大震災後の国家座標のＸ座標=201160.000（北緯37度48分38.23413秒）、Ｙ座標=63480.000（東経139度13分15.44538秒）を基点（1A杭）とし、南北・東西それぞれ10mの方眼を組み、大グリッドとした。大グリッドの呼称は、遺跡を覆う方眼を西から東へ向けて算用数字（1・2・3…）、北から南へ向けてアルファベット（A・B・C…）を付し、これを組み合わせた。両者の組み合わせにより「6K」「7P」のように表示した。小グリッドは大グリッドの中を2m四方に25分割した。小グリッドには１～25の番号を付し、北西隅を1、南東隅を25となるように配列した。グリッドは、大グリッドと小グリッドを組み合わせ、「6K2」「7P 25」のように表記した。ちなみに4K1北西隅はＸ座標=201060.000、Ｙ座標=63510.000、8U1北西隅はＸ座標=200960.000、Ｙ座標=63550.000である。

2　層　　序

遺跡は阿賀野川右岸の沖積地に立地する。現況は水田で、田面の標高は9.6～10.4mを測る。調査区は昭和初期の耕地整理・開田により、遺物包含層の大部分が削平されている。このため、基本的には表土直下が遺構検出面となる範囲が大半を占める。基本層序は、下層確認調査により表土から約2m下までの土層を確認し、Ⅰ～Ⅹ層に大別して、さらに土層堆積状況に応じて細分した（第17図、図版14）。

Ⅰａ層　表土（Ⅰａ層）及び耕作土（Ⅰa'層）。層厚約20cmを測る。

Ⅰｂ層　灰黄褐色シルト（10YR4/2）～暗灰色シルト（N3/）　水田床土。鉄分を多量に含み、層厚は約10cmを測る。

Ⅱ　層　褐灰色シルト（10YR4/1）　近世以降の遺物包含層と考えられる。層厚は約10～20cmを測り、Ⅰ－Ｄ区では部分的にⅡａ・Ⅱｂ・Ⅱｃ層に細分される。黄褐色シルト粒の混入度合いから、黄褐色シルト粒がほとんど含まれないものをⅡａ層、黄褐色シルト粒を少量含むものをⅡｂ層、黄褐色シルト粒を多量に含むものをⅡｃ層とした。

Ⅲ　層　明黄褐色シルト（10YR6/8）　層厚は５～10cmを測り、灰黄褐色シルトを多量に含む。漸移層。

Ⅳ　層　黄褐色シルト（10YR5/6）　古代･中世の遺構検出面で、層厚は約20～50cmを測る。Ⅰ－Ａ～Ｃ区では還元作用により、青灰色（10BG6/1）となる。部分的に粘質シルトと砂質シルトが互層となることから、上位の粘質シルトをⅣａ層、砂質シルトをⅣｂ層、下位の粘質シルトをⅣｃ層とした。また、Ⅰ－Ｄ区では部分的に地震液状化の痕跡である噴砂の影響を受け、粘性

の弱い砂質土層となる。この噴砂の影響を受けた層をⅣ'層とした。Ⅳ'層は暗緑灰色砂質シルト層で、上位は暗褐色シルトを多量に含み、下位では暗褐色シルトを少量含むことから、上位をⅣ'層、下位Ⅳ"層とした。

Ⅴ　層　黄橙色（10YR8/8）～灰白色シルト（10YR8/1）で、Ⅰ－A・B 区及びⅠ－C 区北側では色調が青灰色（10BG6/1）となる。Ⅰ－A ～ C 区では鉄分を多量に含む。層厚は 8 ～ 30cm を測る。部分的にⅤ層下位が砂質となることから、上位の粘質シルトをⅤa 層、下位の黄橙色砂質シルトをⅤb 層、灰白色砂質シルトをⅤc 層とした。

Ⅵ　層　灰白色シルト（7.5Y7/1）で、Ⅰ－A・B 区では青灰色シルト（10BG5/1）となる。層厚は約 10 ～ 60cm を測る。粘性が特に強い上位をⅥa 層、下位のシルト層をⅥb 層とした。また、Ⅰ－D 区南側では灰白色～橙色の砂層となる。

Ⅶ　層　灰白色（5Y7/1）～緑灰色シルト（10GY6/1）で、8T では橙色～褐灰色の砂層となり、Ⅰ－A・B 区では青灰色シルト（10BG5/1）となる。層厚は 5 ～ 60cm を測る。基本的に灰白色の粘質シルト層であるが、粘性の強さ、鉄分の含有量、粒径の相違からⅦa ～Ⅶd 層に細分した。

Ⅷ　層　砂層で、Ⅰ－D 区に堆積が認められる。基本的に青灰色砂（5BG6/1）であるが、地点により明黄褐色（2.5Y6/8）、橙色（7.5YR6/6）、緑灰色砂（7.5GY6/1）などの色調となる。層厚は 10 ～ 80cm を測る。また、色調、粒径、礫の含有量などからⅧa ～Ⅷe 層に細分した。

Ⅸ　層　緑灰色（5G6/1）～浅黄色シルト（5Y7/3）で、Ⅰ－A･B 区では暗青灰色シルト（10BG4/1）となる。層厚は 5 ～ 70cm を測る。8T では灰白色～青灰色・緑灰色・浅黄色の砂層となり、色調、粒径、礫の含有量などからⅨa ～Ⅸm 層に細分した。

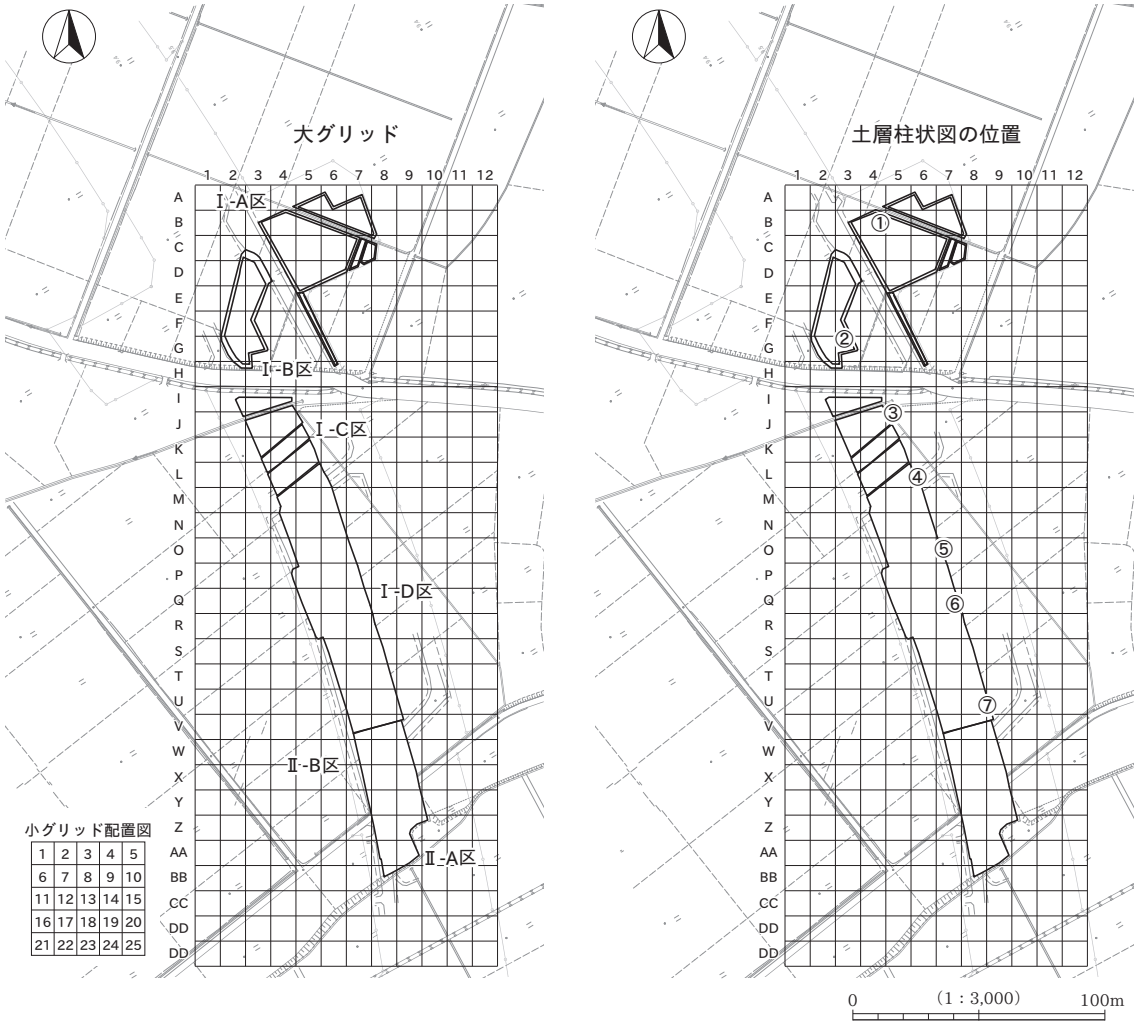
Ⅹ　層　暗赤褐色砂（5YR3/6）～青灰色砂（10BG6/1）で、径 1 ～ 10cm の円礫を多量に含む。調査時にはⅩ層から湧水が認められた。

3　旧地形と遺跡の立地

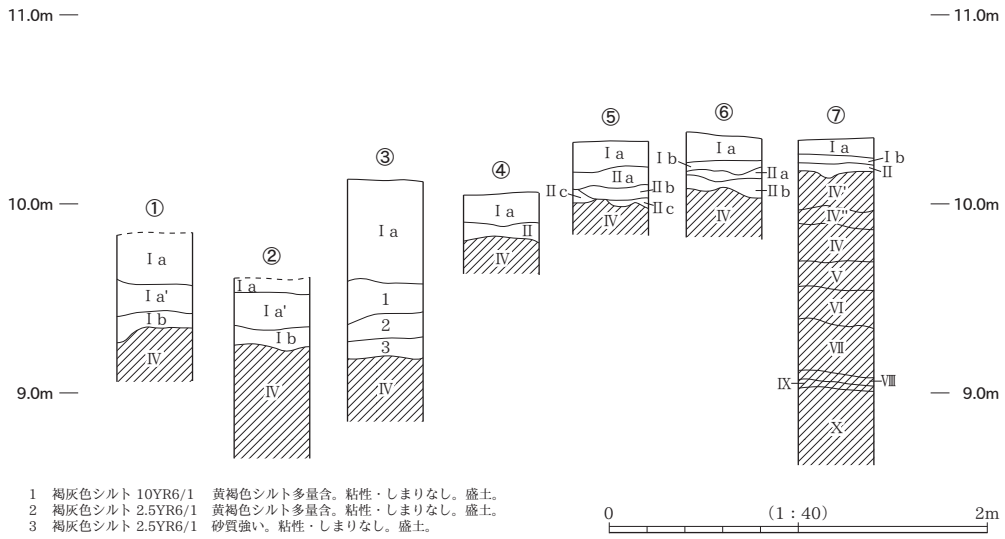
調査区では、下層の確認調査に伴い土層堆積状況を把握することができた。以下では、旧地形と遺跡の立地について述べる。

遺跡周辺の地形は、調査区外の南側に旧河道④の痕跡が認められ（第 12・13 図）、この旧河道は、庚塚遺跡の調査成果から、古代に機能していたものと推測されている（第Ⅱ章 1）。また、福田・小境集落の縁辺にも旧河道の痕跡が認められる。現在の水田面もこうした地形の痕跡を残しており、遺跡周辺を見ると、調査区北側・調査区外南側の田面は周囲より一段低くなっている状況が窺える。

古代・中世の遺構検出面であるⅣ層は、Ⅱ－A 区で標高 10 ～ 10.9m、Ⅰ－D 区南側の 8U 付近では標高約 10.2m、Ⅰ－D 区中央の 6P 付近で標高約 9.8m を測り、高位面を形成する。これより北側のⅠ－C 区 4K ～ 5M 付近にかけては標高 9.5 ～ 9.7m と徐々に低くなり、北側へ向かう斜面地形となる。さらに北側のⅠ－A・B 区では、標高 9.1m ～ 9.2m を測り、高位面との比高は 1m 以上を測る。Ⅰ－A・B 区のⅣ層は、水の影響を受けたと考えられ、還元作用により色調が青灰色となる。また、Ⅳ～Ⅸ層中には、植物の根痕が多量に認められる。こうした状況から、Ⅰ－A･B 区は古代･中世期には湿地が広がる環境であったことが推測される。遺跡は、北側の低湿地帯と南側の旧河川自然堤防上の微高地に形成されており、旧河川に沿って北西－南東方向に延びるものと推定される。



第 16 図　グリッド設定と調査区



1　褐灰色シルト 10YR6/1　黄褐色シルト多量含。粘性・しまりなし。盛土。
2　褐灰色シルト 2.5YR6/1　黄褐色シルト多量含。粘性・しまりなし。盛土。
3　褐灰色シルト 2.5YR6/1　砂質強い。粘性・しまりなし。盛土。

第 17 図　基本土層柱状図

4　本書の記述方針

本書では 2014 年度調査と 2015 年度調査を第Ⅳ章と第Ⅴ章に分けて記述するが、調査方法や記述の方針、遺構・遺物の分類については共通する。遺構・遺物の説明は本文・観察表・図版・写真図版を用いて行う。遺構は種別ごとに記述し、特徴的な点や他の遺構との関係を中心に述べ、詳細は観察表に記した。遺物も同様に種別ごとに記述しているが、代表的な遺物のみを掲載した。

A　遺　　構

遺　構　番　号

遺構個々の名称は、遺構の種類記号と番号で表す。遺構の種類記号は SB：掘立柱建物、SE：井戸、SK：土坑、SD：溝、SF：道路状遺構、SA：柵、SX：性格不明遺構、P：ピットとした。また、遺構番号は通し番号で付し、2014 年度調査が 1 ～ 435、2015 年度調査は 4 桁数字を用いた。また、遺構検出時に番号を付けたが、その後の調査で遺構ではないと判断したものについては欠番とした。

図　　版

遺構の図版は、調査範囲図・分割図・個別図で構成している。調査範囲図は 1/1,500、遺構全体図は 1/250 で表した。分割図は遺構全体図の縮尺を大きくし、分割して表示したもので、遺構をほとんど検出できなかった I－A・B 地区を除いた範囲を 1/100 で 10 分割して表した。個別図は平面図・断面図・エレベーション図で構成している。掘立柱建物は平面図・エレベーション図を 1/100、断面図を 1/30 で表した。井戸・土坑は平面図・断面図を 1/40、出土状況図は 1/30 で表した。ピットの断面図は 1/30、溝は 1/40 の断面図のみを個別図版に表し、断面ポイントは分割図に示した。断面図の土層の色調は『新版標準土色帖』［小山・竹原 1998］に基づいた。写真図版は個別図にある遺構について掲載するよう努めたが、すべてを網羅してはいない。

観　察　表

遺構の観察表は種別・検出層位・検出位置・規模・出土遺物・切り合い関係などの項目を設定した。遺物の観察表は器種・出土位置・法量・胎土・色調・調整痕など種別に応じた内容を記した。切り合い関係の表記には記号を用い ,「<」・「>」・「=」・「≠」で表示した。これは例えば「<P100」は P100 が切っていることを示し、「=P100」は同時期、「≠ P100」は重複するものの、新旧が不明なことを示している。

B　遺　　物

掲載遺物の説明は観察表と本文に記述した。図面図版の縮尺は土器 1/3・1/6 で表記し、土製品・石製品・木製品・金属製品は 2/3・1/2・1/3・1/8 で表した。写真図版は基本的に図面図版と同じ縮尺としたが、調整痕や使用痕などは、その部分を拡大したものがある。

第Ⅳ章　2014（平成 26）年度調査

1　遺構・遺物の検出状況

2014 年度の調査では掘立柱建物 5 棟、土坑 30 基、井戸 1 基、溝 37 条、性格不明遺構 12 基、ピット 121 基を検出した。出土遺物は古代を中心に主に遺構内から出土している。出土量は土器が平箱 56 箱（内寸：長さ 54cm・34cm・10cm）で、そのほかは木製品 20 点、石製品 7 点、鉄製品 20 点、アスファルト塊 1 点である。出土土器の時期は古代・中世・近世以降のものに大きく分けられるため、検出遺構も各時期に属すると考えられる。遺構の分布はⅠ－D 区 5・6P・Q に集中し、遺構の重複が多くみられる。また、遺物は遺構間で接合するものが多くみられるが、遺構の新旧関係から同時期の遺構同士で接合したものは少ない。このほか、地震痕跡である砂脈を検出している。以下に遺構種別ごとに記述する。

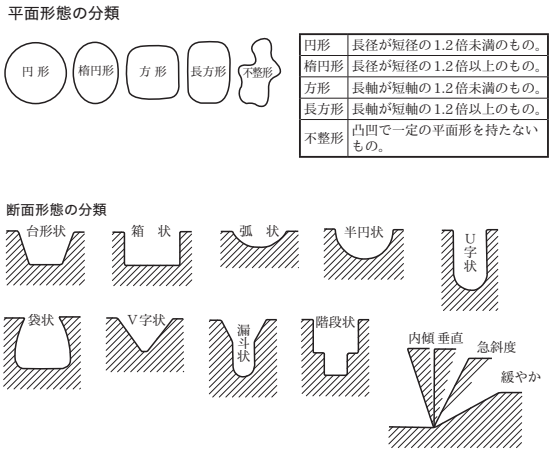
2　遺　　構

A　分　　類

遺構の機能を検討するために平面形態を基本に分類し、遺構番号の前に遺構種別の記号を付すことで区別した。掘立柱建物：SB、土坑：SK、溝：SD、井戸：SE、性格不明遺構：SX と分類している。井戸や火葬土坑のように平面形態以外の情報から遺構種別を認定した場合もある。遺構の平面形態・断面形態は和泉 A 遺跡の分類［荒川・加藤 1999］、遺構埋土の堆積形状は青田遺跡の分類［荒川・石丸・猪狩ほか 2004］に倣った（第 18・19 図）。

掘立柱建物（SB）

柱穴が一定の間隔で並び、これらが辺となって方形を形成するものを掘立柱建物［荒川 2012］とし、可能性のあるものを含め 5 棟認定した。大型の SB1・2 と SB1 に隣接する SB3、片方の側柱のみが検出された SB4・5 である。建物型

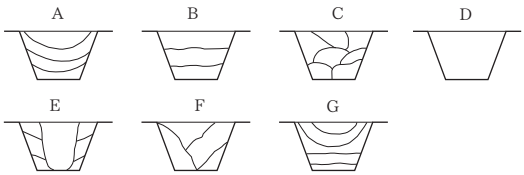


円形	長径が短径の 1.2 倍未満のもの。
楕円形	長径が短径の 1.2 倍以上のもの。
方形	長軸が短軸の 1.2 倍未満のもの。
長方形	長軸が短軸の 1.2 倍以上のもの。
不整形	凸凹で一定の平面形を持たないもの。

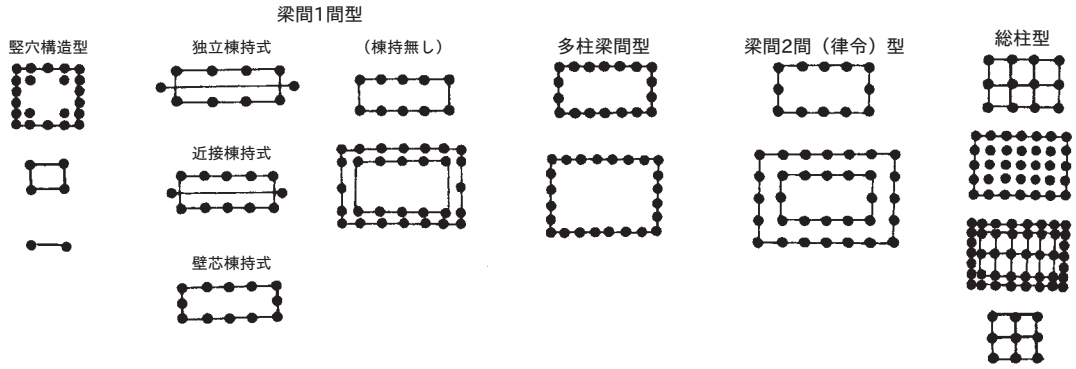
台形状	底部に平坦面を持ち、緩やか～急斜度に立ち上がるもの。
箱状	底部に平坦面を持ち、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
弧状	底部に平坦面を持たない弧状で、緩やかに立ち上がるもの。
半円状	底部に平坦面を持たない椀状で、急斜度に立ち上がるもの。
U字状	検出面の長径よりも深さの値が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
袋状	検出面の径よりも底部の径が大きく、内傾した後に垂直ないし外傾して立ち上がるもの。
V字状	点的な底部を持ち、急斜度に立ち上がるもの。
漏斗状	下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの。
階段状	階段状の立ち上がりを持つもの。

第 18 図　遺構の平面・断面形態の分類［荒川・加藤 1999］

A　レンズ状	複数層がレンズ状に堆積する。
B　水平	複数層が水平に堆積する。
C　ブロック状	ブロック状に堆積する。
D　単層	覆土が単一層のもの。
E　柱痕	柱痕と思われる土層が堆積するもの。
F　斜位	斜めに堆積するもの。
G　水平-レンズ	覆土下位は水平に、上位はレンズ状に堆積するもの。

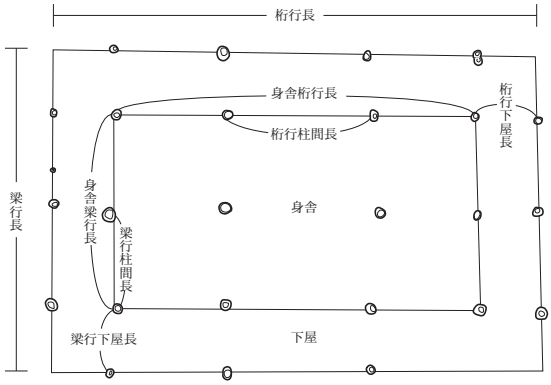


第 19 図　遺構埋土の堆積形状の分類［荒川・石丸・猪狩ほか 2004］



第 20 図　掘立柱建物の分類［春日 2009］

式は宮本長二郎の分類に従い、梁間一間型建物（第 20 図）と総柱建物に分類した。内訳は梁間一間型建物 4 棟、総柱建物 1 棟で、所属時期はいずれも古代である。各部位の計測は観察表に記し、計測位置については大坪遺跡に倣った［荒川ほか 2006］（第 21 図）。なお掘立柱建物の組み合わせに使用していないピットは 127 基に及ぶため、検出できなかった建物が存在する可能性がある。



第 21 図　掘立柱建物の計測位置［荒川ほか 2006 を改変］

土　坑（SK）

検出面での遺構上端の直径が 51cm 以上のものを土坑とした。ただし、全体の形状や埋土の堆積状況から直径 51cm に満たないものを土坑とした場合もある。また、火葬土坑と考えられる SK206 もここへ含めた。

井　戸（SE）

水溜に曲物が設置されていた SE225 を井戸とした。阿賀野市内の中世遺跡では、木製の井戸側や水溜が設置された井戸が数多く検出されており、地域的特徴といえる。

溝（SD）

細長く掘り込まれた遺構を溝とした。建物の周囲に位置し、かつ軸が同一のものは建物に付属する雨落溝とし、ここには含めていない。

ピット（P）

土坑よりも小型で平面形が円形ないしは方形、径 50cm 以下のものをピットとした。複数を組み合わせて建物と判断できたものはここへ含めていない。

性格不明遺構（SX）

上記以外の遺構を性格不明遺構とした。遺構の規模・平面形態などに共通性はみられない。

B 掘立柱建物

SB1（図版 9・15・45・48）

6P、5 ～ 7Q、6・7R に位置する。構成ピットは P200・48B・49A・51・52・53・54・55・56・57・422・59・60・61・390・63B・64・65・66・67・68A・69・358・80・70・71・232・230・73・74・75 である。

建物型式は、梁間 4 間・桁行 6 間の総柱建物である。ただし、身舎の両方の平側と北西側の妻側の柱の出は中央の柱間より狭いことから、2 間× 4 間の身舎の 3 辺に廂が付くものと考えられる。また、南東側の妻は両角に柱を持たず、出も狭いことから、2 間× 1 間の廂が凸字状に付属する構造と考えられる。このような平面凸字形の総柱建物は上越市新保遺跡［石川ほか 2001］に類例がある。なお、P53 は近接棟持柱と考えられ、この北東隣りの柱を欠いていることから、総柱型に梁間 1 間型が組み込まれた型式とも考えられる。柱穴の多くは方形の掘方を持ち、柱痕はすべて丸形である。

付属施設として、雨落溝と考えられる SD32・110・21 がある。いずれも廂から 1m 前後離れた位置に平行する。SD32・110 は本来一連のものであった可能性が高く、内部から多数の遺物が出土した。

このほか注目されることとしては、液状化による噴砂脈（噴砂 4）が当建物の P358・66・390・53 と重複する点である。噴砂脈は遺構検出面で大きな地割れとなって確認できる。しかし、これら 3 基との重複か所では、噴砂脈が柱痕部の埋土を貫いておらず、掘方埋土を通るもの（P66）や、柱痕部より下部を通過して地上に噴き上がっていないもの（P358・390）が確認された。以上から、地震の発生時期は建物が構築されていた時期ないし廃絶後間もない頃の可能性が高いと考えられる。

SB2 の P86 より SD32 が新しいことから、SB1 の方が SB2 より新しい。また、SB3 の P201 より SB1 の P200 が新しいことから、SB3 より SB1 が新しい。

遺物は雨落溝から多く出土しており、特に SD32 でまとまっている。出土分布は南東側に偏り、検出面近くの 1 層から出土が多く、底部に向かって次第に数量を減じる。黒色土器（25 ～ 34）や、椀（3 ～ 22）を中心に土師器片約 180 点、杯（1・2）を含む須恵器片 16 点、砥石 1 点（155）が出土している。SD21 では北東側に分布が偏り、ほとんどが検出面近くの 1 層出土である。黒色土器（37）を含む土師器片約 50 点、須恵器片 4 点が出土している。SD110 は検出面近くの 1 層出土が多く、黒色土器や、椀（38・39）を含む土師器片約 10 点と須恵器片 7 点が出土している。また、遺物が出土している柱穴も多い。ただし小破片のため図化したものは少ない。身舎の柱穴では、P57 の掘方埋土（43）や P53・63B・390 の柱痕、そして P54・66・68A（40・41）・71・422（42）の柱痕及び掘方埋土から土師器片、須恵器片、鉄滓（P54）が出土している。そのほか P52 の検出面近くから土師器・須恵器片が出土している。廂の柱穴では、P60・64 の掘方埋土や P48B・51・55・59・73・74・230・358 の柱痕、そして P56 の柱痕及び掘方埋土から土師器片、須恵器片、鉄滓（P230）が少量出土している。そのほか、柱痕・掘方埋土の区別はできないが P49A（44）・65・200 から土師器片が出土している。

接合関係では、雨落溝 SD32 出土の黒色土器椀（25）が P361 出土のものと接合した。また、廂の柱穴 P64 出土の須恵器甕が P361 出土品と接合した。

これらの遺物の年代から、建物の時期は 9 世紀第 3 四半期と考えられる。

SB2（図版 10・19・45・54）

5・6P、6・7Q に位置する。構成ピットは P92・91A・90・89・125・88・87・86・85・84・83A・

82・81・93 である。P86 と SD32 との重複関係から、SB2 が SB1 より古い。

梁間 1 間、桁行 6 間の梁間一間型建物である。P121・45・124 はおおむね南東平側に平行しており、廂の可能性もある。また、SD111 は北西平側に平行しており、雨落溝の可能性がある。柱穴は方形の掘方を持つものが多く、柱痕は丸形である。

遺物は雨落溝の SD111 の埋土上位から須恵器無台杯（45）、土師器片 4 点が出土している。柱穴では、P86・92 の掘方埋土、P82・89（46）・125 の柱痕、P85・87（57）・90 の柱痕及び掘方埋土から須恵器・土師器片が出土している。特に P85 はまとまって出土しており、黒色土器を含む土師器片約 45 点、杯（48～55）・杯蓋（47）・壺・瓶（56）を含む須恵器片約 20 点が出土している。出土数は掘方埋土からのものが多い。

接合関係では、P82 出土土師器鍋が P152 と、P89 出土須恵器杯（46）が重複する SD24 や SK221・SX16 と、P85 出土須恵器杯（48）が P361 と、P85 出土須恵器杯蓋が SD24 と、P87 出土須恵器甕 1 点（57）が P45 や SK221・SX44 のそれぞれの出土品と接合した。

これらの遺物の年代は 9 世紀中葉と考えられ、SB2 が SB1 を切っていることと時期的に合致している。

SB3（図版 8・20・45・57）

7R に位置する。構成ピットは P199・205・202・201・189・187・190 である。P196 は小規模なものだが、位置関係から伴う可能性がある。

梁間 2 間、桁行 2 間の梁間一間型建物である。ただし、北東平側中央の柱を欠く。SB1 に接し、これと柱通りがおおむね一致する。しかし、P201 が SB1-P200 より古いことや、SB1 の雨落溝 SD21 が SB2 と重複することから、両者は異なる時期のものと考えられる。遺物は P187（58・59）の掘方埋土、P189・202・205 の柱痕、P201・190 の柱痕及び掘方埋土から須恵器・土師器片が少数出土している。

SB4（図版 8・21・45・58）

5・6R に位置する。構成ピットは P371・378・377・380 である。調査区内に組み合う他の柱穴を確認できないため、梁間 1 間、桁行 3 間の梁間一間型建物の可能性が高い。遺物は P378（60）・380 の柱痕から須恵器・土師器片が少数出土している。そのほか、P371 から土師器片が出土している。

SB5（図版 8・21・45・58）

5・6R、6S に位置する。構成ピットは P369・374・376・379 である。調査区内に組み合う他の柱穴を確認できないため、梁間 1 間、桁行 3 間の梁間一間型建物の可能性が高い。遺物は P369・374・376 の掘方埋土から須恵器・土師器片が数点出土した。

C　土　　坑

SK19（図版 12・22・59）

5N に位置する。平面形は円形である。埋土はレンズ状堆積で 2 層に分層した。2 層は炭化物を多量に含み、焼土粒は微量に含む。底面・側壁に被熱の痕跡が認められないため、焼土粒・炭化物は埋土に混入していたものと判断される。底面は平坦、側壁は緩やかに立上がる。遺物は出土しなかった。

SK26（図版 10・22・60）

5P に位置し、SK27 の西側に隣接する。平面形は楕円形である。埋土はレンズ状堆積で 2 層に分層した。灰黄褐色シルトが主体である。1・2 層はいずれも炭化物を含む。底面はやや凹凸、側壁は緩やかに立上がる。遺物は出土しなかった。

SK27（図版 10・22・60）

5P に位置する。SX11 と重複し、これより古い。平面形は楕円形である。埋土はレンズ状堆積で 2 層に分層した。隣接する SK26 の埋土に類似する。底面はやや凹凸があり、側壁は緩やかに立上がる。遺物は 1 層からの出土が多く、須恵器片 2 点と小甕（61）を含む土師器片約 20 点が出土した。

SK30（図版 10・22・60）

6P に位置する。SD3・SX11 と重複し、これらより古い。平面形は楕円形である。埋土は 2 層に分層し、灰黄褐色シルトが主体である。底面はやや凹凸があり、側壁は緩やかに立上がる。遺物は須恵器甕片 2 点、土師器片 7 点が 2 層を中心に出土した。確実ではないが須恵器甕は SB2（P87）・SK221・SX44 出土の須恵器甕（57）と同一個体の可能性がある。

SK40（図版 9・22・60）

7Q に位置する。SD24・25 と重複し、これらより古い。底面は凹凸があり、側壁は緩やかに立上がる。埋土は 3 層に分層し、褐灰色シルトが主体である。また、1・2 層は炭化物を含み、特に 1 層に多い。遺物は 1 層から杯（62）・甕を含む須恵器片 5 点、黒色土器を含む土師器片約 50 点と近・現代の磁器片 1 点が出土した。接合関係では須恵器甕が重複する SD24 出土のものと接合した。なお、近・現代の磁器は混入の可能性がある。

SK100（図版 9・22・60）

6Q に位置する。SB1-P66 と重複し、SK100 が古い。平面形は楕円形である。埋土は 2 層に分層し、にぶい黄褐色シルトが主体である。1 層は微細な炭化物を少量含む。底面は平坦で、側壁は急斜度に立上がる。遺物は 1 層から土師器片 3 点が出土した。

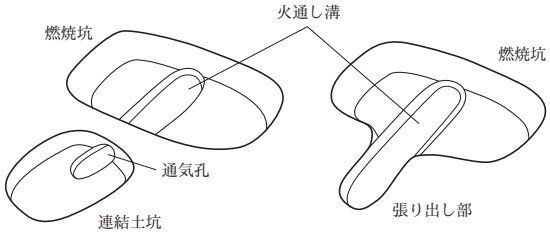
SK183（図版 8・22・61）

6R に位置する。平面形は楕円形で西端は調査の排水溝で壊されている。埋土はレンズ状堆積で 2 層に分層し、1 層は褐色シルトで焼土粒・炭化物を含み比較的厚く、2 層はにぶい黄褐色シルトで比較的薄く堆積する。遺物は 1 層から長胴甕（65）と小甕（64）を含む土師器片が出土している。

SK206（図版 7・23・61）

8S に位置する。重複する SX42 の底面で検出していることから、削平を受けていると考えられる。SX42 の深さは検出面から 10 ～ 20cm である。SK206 の平面形は隅丸長方形の土坑と溝が組み合わさったＴ字形を成している。溝は土坑の底面に掘り込まれ、西端から東へ直線的に延び、土坑外へ張り出している。張り出し部の上端は扇状に広がり調査区外へ続く。規模は土坑部分が南北 119 ×東西 80cm、底面の溝は幅 30 ×長さ 130cm、張り出し部の上端は幅 30 ～ 70cm である。土坑の長軸方向は N-10°-W とほぼ北を指す。断面形は箱状で壁面は急斜度に立上がり、深度 25cm を測る。溝は土坑底面より約 5cm の深さで掘りこまれている。土坑東側の壁面と溝の接点は、地山が被熱し赤く硬化している。埋土はブロック状に堆積し、7 層に分層した。1 ～ 5 層は土坑の埋土で、1 層は黄褐色シルト、2 層は灰黄褐色シルト、3・4 層は焼土・炭化物を含むにぶい黄褐色シルト、5 層は焼土塊である。6・7 層は焼成時及びその直後のもので、6 層は炭化粒子層、7 層は焼土、炭化粒子を含むにぶい黄褐色シルトである。5 層とした焼土塊は土坑の北東から南にかけての壁沿いで出土していることから、土坑のすべての壁面は東壁同様に被熱し、崩落した結果、5 層を形成したと推測した。3・4 層からは多量の炭化材、焼土とともに少量の骨片が出土した。骨片は土坑中央よりやや南側に集中し、骨格部位が把握できるものも含まれ、最大で長さ約 6cm のものもあった。分析によりヒトと同定され、まだ乾燥せず軟組織が付着した状態で高

温の火により焼かれていること、そして、部位は「橈骨あるいは尺骨」（腕）と「腓骨」（脚）の可能性が指摘されている。なお、骨片と炭化材以外の遺物は出土しなかった。出土炭化材は放射性炭素年代測定の結果、13 ～ 14 世紀頃の年代が得られており、鎌倉時代後期～室町時代の遺構と考えられる（第Ⅵ章参照）。



第 22 図　火葬土坑の施設各部名称［簗瀬 2009 より］

遺構の検出状況から、遺体を荼毘に付した火葬土坑と考えられる［吉澤 2013］。火葬土坑は墓そのものではなく、一回の火葬を行うための小型土坑であり、骨は収骨され別の場所に埋葬するため、大半は残っていない。阿賀野市内では同様の調査事例として山口遺跡［高橋ほか 2010］と柄目木遺跡［加藤ほか 2013］が知られており、県内の事例は石垣義則によりまとめられている［石垣 2012］。SK206 は本体である隅丸長方形土坑に溝が付属するもので、溝は遺体を焼くときに空気を取り入れ燃焼効率を上げるための通気溝（火通し溝）であると考えられる。前述したように、東壁と溝の直交部は被熱し赤く硬化していたが、これは空気取り入れ口の部分が高温になるためで、他の壁面より焼け方が激しく硬化面が厚く残ったと考えられる。張り出し部が扇状に広がっているのは、空気の取り入れ用の土坑と火葬土坑を通気溝で繋いだ、連結タイプであった可能性も想定できよう（第 22 図）。また、旧安田町における火葬の民俗事例では遺体が焼き上がると骨を拾いやすいように火床の真ん中を鍬で広げ、骨をヤリ穴（通気溝）に集めたとある［山口 1997］。SK206 では中央の通気溝部分に炭化物が集中し、少量の骨片がみられたことから、民俗例の記述と合致し興味深い。なお、火葬土坑の調査事例では横臥屈膝で北頭西顔に向けて焼かれる場合が多いとされる。これは仏教の思想に基づき、「頭北面西右脇臥」という入滅した釈迦の姿に倣っていると思われる［原田 1994・鈴木 2005］。SK206 の大きさは南北約 120cm と小さく、骨片の出土位置は南側に集中する。出土した骨片が原位置を保っているという前提で、頭北面西右脇臥で火葬が行われたと想定すれば、下肢骨の位置にあたる。分析で同定された骨片は断定されてはいないものの、橈骨･尺骨･腓骨の可能性が指摘されていることから、腕で膝を抱えた横臥屈膝状態を想定しても矛盾はない。

SK210（図版 10・23・60）

5P に位置する。SD209 と重複し、SK210 が新しい。平面形は楕円形である。埋土は褐灰色土を基調とし、含まれる黄褐色シルトの量で 2 層に分けた。底面は平坦で側壁は緩やかに立上がる。遺物は出土しなかった。

SK220（図版 10・23・61）

5P に位置する。SD219、SK310 と重複し、これらより古い。平面形は方形である。埋土は単層で、にぶい黄橙色シルトが堆積する。底面は平坦で、側壁は緩やかに立上がる。遺物は有台杯（63）・甕を含む須恵器片 4 点と土師器片 3 点が出土した。確実ではないが須恵器甕は P87（SB2）、SK221、SX44 出土の須恵器甕（57）と同一個体の可能性がある。

SK221（図版 9・22・61）

5・6Q に位置する。SB1-P358、SK222・385、SD224 と重複し、SB1-P358 より古く、これ以外の遺構より新しい。平面形は長方形である。埋土は 5 層に分層した。1・4 層は炭化物を多量に含む。底面は平坦で、側壁は緩やかに立上がる。遺物は 1 ～ 4 層に出土したが 1・2 層のものが多い。杯・有台杯(66)、甕・壺を含む須恵器片約 10 点と黒色土器（67・69）、長胴甕（68）を含む土師器片約 60 点が出土したほ

か、1 層から近世以降の陶磁器片 1 点が出土した。接合関係では、P87（SB2）出土品（57）や SX11 出土品と接合する須恵器甕、SK385、SX16、P89（SB2）、SD24 出土品と接合する須恵器杯がある。

SK222（図版 9・22・61）

5Q に位置する。SK221・385 と重複し、SK221 より古く、SK385 より新しい。埋土は 3 層に分層した。灰黄褐色・にぶい黄褐色シルトなどの暗色系シルトが主体で、SK221 のものと色調が類似する。また、いずれの層にも炭化物が含まれる。底面はやや凹凸があり、側壁は緩やかに立上がる。遺物は 1・2 層から須恵器片 1 点と椀（70）・黒色土器を含む土師器椀片 7 点が出土した。重複している SK221 とは遺物の接合はみられなかった。

SK223（図版 9・23・62）

5Q に位置する。西端は調査区外へ延びる。埋土は 4 層に分層し、灰黄褐色・にぶい黄褐色シルトなどの暗色系シルトが主体である。底面は平坦で、側壁は緩やかに立上がる。遺物は出土しなかった。

SK243（図版 10・24）

4・5P に位置する。調査区壁によって分断されているが、平面形から SD435 と同一遺構の可能性が高い。同一であった場合は土坑ではなく、溝の一部である。埋土は 4 層に分層し、灰色系シルトが主体である。遺物は 1 層から甕を含む須恵器片 4 点と土師器片 1 点、近・現代の陶磁器片 7 点が出土した。近・現代の遺構と考えられる。

SK246（図版 6・24・62）

8V に位置する。SD9 と重複し、これより古い。遺構は噴砂の影響を受けたⅣ' 層を掘り込んで構築されている。埋土は 3 層に分層し、炭化物・焼土粒を含む。1・2 層はにぶい黄褐色シルト・褐色シルト・黄褐色シルトがブロック状に堆積することから、埋め戻された可能性がある。底面は平坦で、側壁は急斜度に立上がる。遺物は 1 層から土師器片 1 点が出土した。

SK251（図版 6・24・62）

8U に位置し、噴砂の影響を受けたⅣ' 層を掘り込んで構築されている。平面形は楕円形である。埋土は 3 層に分層したが、1 層の黒褐色シルトが主体である。底面は平坦で、側壁は急斜度に立上がる。遺物は 1 層から須恵器杯片 1 点、土師器片 2 点が出土した。

SK267（図版 6・24・62）

7U に位置する。SX150 と重複し、これより古い。平面形は円形である。埋土は 2 層に分層した。1 層は暗褐色シルトとにぶい黄褐色シルトがブロック状に堆積する。埋土堆積状況から、埋め戻された可能性がある。底面は平坦で、側壁は急斜度に立上がる。遺物は 1 層から土師器片 1 点が出土した。

SK310（図版 10・23・61）

5P に位置する。SD219・SK220 と重複し、SD19 より古く、SK220 より新しい。平面形は方形である。埋土は 2 層に分層し、炭化物を少量含む。底面は平坦で、側壁は緩やかに立上がる。遺物は 1・2 層から出土し 1 層からのものが大半である。杯（71）・甕を含む須恵器 9 点と黒色土器、椀（72）・小甕（73）を含む土師器片約 20 点が出土した。

SK359（図版 7・25・62）

7T に位置する。平面形は円形である。断面形は台形状を呈し、深さ 60cm を測る。埋土は 4 層に分層した。1 層は暗褐色シルト。2 層はオリーブ褐色シルト。3 層は暗褐色シルトとオリーブ褐色シルトの混合土。4 層は砂質の暗褐色シルトとなる。遺物は 4 層から黒色土器片 1 点、1 層から土師器片 1 点が出土している。

また、3 層から礫が出土した。

SK385（図版 9・24・63）

5Q に位置する。SK221・222 と重複し、これらより古い。底面はやや凹凸があり、側壁は緩やかに立上がる。埋土は 3 層に分層した。黄褐色シルトが主体で、1・2 層には炭化物が少量含まれる。遺物は 1・2 層で出土している。重複する SK221 と接合した有台杯（66）・甕を含む須恵器片 6 点と黒色土器（75）、椀を含む土師器片約 30 点がある。

SK394（図版 12・24・63）

4M に位置する。SK395 と重複し、これより新しい。平面形は楕円形である。埋土は 4 層に分層した。1 層は黒褐色シルトで、炭化物を少量含む。2 ～ 4 層は灰黄褐色シルトが主体となり、いずれも 1 層と同様の黒褐色シルト含む。底面はやや凹凸があり、側壁は緩やかに立上がる。遺物は出土しなかった。

SK395（図版 12・24・63）

4M に位置する。SK394 と重複し、これより古い。平面形は楕円形と推定される。埋土は 2 層に分層した。いずれも炭化物を含む。底面はやや凹凸があり、側壁は緩やかに立上がる。遺物は出土しなかった。

SK398（図版 11・24・63）

4N に位置し、東西方向に延びる砂脈（噴砂 5）を切って構築されている。東側は SD435 に壊されている。平面形は楕円形である。埋土は 3 層に分層し、1 層は炭化物を多量に含む。また、2･3 層は灰黄褐色シルト・黄褐色シルトがブロック状に堆積する。底面は平坦で、側壁は急斜度に立上がる。遺物は出土しなかった。

SK428（図版 7・25・64）

6T に位置する。SE225 と重複し、これより古い。埋土は 3 層に分層し、3 層は炭化物を多量に含む炭層である。また、黄褐色シルト粒をブロック状に含むことから、埋め戻された可能性がある。底面はやや凹凸があり、側壁は急斜度に立上がる。遺物は出土しなかった。

D　井　　戸

SE225（図版 7・25・64）

6T に位置する素掘りの井戸で、底面部には曲物の水溜（147）が砂層を掘り下げて設置されていた。平面形は約 190cm の円形である。断面形は上部がくびれ、中部でオーバーハングしている。下部はU字状で、深度 150cm を測る。埋土は 10 層に分層した。1 ～ 3 層は黄褐色シルトブロックを包含するため、人為的に埋めたものと思われる。4 ～ 5 層も 1 ～ 3 層に比べて少ないが黄褐色シルトを含み、水溜として曲物を設置の際にその外側を埋めた土壌である。

遺物は水溜上部の 7 層からは 2 個の大型礫と漆器椀（146）、板状木製品（147 ～ 149）が、1 層を中心に土師器片 6 点、瓷器系陶器片 1 点、砥石（154）が出土した。漆器椀の材質はケヤキで、放射性炭素年代測定の結果 13 ～ 14 世紀頃の年代が出ているため、鎌倉後期～室町時代の遺構と考えられる（第Ⅵ章参照）。

E　溝

SD2（図版 11・12・25・27・63・65）

6M・N・O を南北方向に走る溝と 5 ～ 7O を東西方向に走る溝が直交して連結する。底面は南北方向では北へ、東西方向では東へそれぞれ傾斜している。調査時は前者を SD2、後者を SD17 として調査を

行なったが、切り合い関係は認められず同一遺構であると判断した。また、SD17の上部には15cm程度の薄い堆積が認められ、調査時はこれをSD6としたが、後に攪乱と判明した。SD3・4・5・393・435と重複し、SD3・393より新しく、SD4・5・435より古い。遺物は6層から須恵器甕片1点、3層から須恵器片1点、土師器片3点、2層から須恵器片2点と黒色土器を含む土師器片22点、釘1点、1層を中心に須恵器片3点、土師器片約15点、それに近世以降の擂鉢片1点が出土している。接合関係では須恵器甕がSD20・24・SX44の出土品と接合した。

SD3（図版10～12・27・64）

6M～Qを南北方向に走る。底面は起伏があるものの南方向へ傾斜している。SB1-P81、SB1-SD110、SB2-P82、SK30、SD2・4・7・10・12・13・24、SX11、P124・151・158と重複し、SD2・24、SX11より古く、それ以外より新しい。埋土は3層に分層し、灰褐色シルト～明黄褐色シルトを主体とする。底面は平坦で側壁は緩やかに立上がる。遺物は1～3層で須恵器片8点、黒色土器を含む土師器片約55点が出土した。

SD4（図版12・27・65）

4・5・6Nを基本的に東西方向に延びるが、6N6で屈曲している。西端は調査区外へ延び、東端はSD2と重複する地点で先を追えなくなる。底面は東方向に若干傾斜している。SD2・3・10・435、SX18と重複し、SD435、SX18より古く、SD2・3・10より新しい。埋土は3層に分層し、にぶい黄褐色シルトを主体とする。遺物は1層から土師器片2点と釘（160）が出土した。

SD5（図版11・25・64）

6・7Oを北東－南西に走る。SD2と重複し、SD5が新しい。北東端は調査区外へ延び、南西端はSD2と重複する地点から先が追えなくなる。埋土は単層で、灰白色シルトである。土師器片1点が出土した。

SD7（図版10・11・27・65）

5O、5～7Pを東西方向に走る。底面は西方向に傾斜している。SD3・435、SX11と重複し、SD3、SX11より新しく、SD435より古い。埋土は1～5層に分層し、褐灰色シルトを主体とする。遺物は5層から土師器片2点と近世以降の陶磁器片1点、瓦片2点、1層から土師器片1点が出土した。遺構の年代は近世以降と考えられる。

SD9（図版6・7・14・26・65）

8T～8・9Vを北北西－南南東方向に延び、噴砂の影響を受けたⅣ'層を掘り込んで構築されている。底面は起伏があるものの、北北西方向へ傾斜している。2015年度調査で検出したSD1149と同一遺構である。また、約4.5m西側にはSD148が存在し、これと平行する。SK246、SD147、SX8・42と重複し、SK246、SD147、SX42より新しく、SX8より古い。埋土は5層に分層し、暗褐色～褐色シルトが主体である。5層から採取した炭化材を用いて放射性炭素年代測定を実施し、11世紀中頃～12世紀後半の年代が出ている（第Ⅵ章参照）。底面はやや凹凸があり、側壁は急斜度に立上がる。遺物は1層から須恵器片1点、黒色土器を含む土師器片13点、石製品（157）、2層から土師器片2点が出土している。出土土器は古代に属するが、出土炭化材の放射性年代測定は中世である。

SD10（図版12・25・65・68）

5・6Nを東西方向に走る。SD3・4・435、SX18と重複し、これらより古い。埋土は2層に分層し、にぶい黄褐色シルトを主体とする。遺物は1層から須恵器片2点と2層から土師器片1点が出土している。

SD12（図版 10・27・67）

5・6P を東西方向に走る。P160・421、SD3 と重複し、P160・421 より新しく、SD3 より古い。埋土は単層で、灰黄褐色シルトである。遺物は土師器片 2 点が出土している。

SD13（図版 11・26・65）

5・6O を東西方向に走る。西端は不明瞭となり、東端は SD3 に切られている。埋土は単層で、にぶい黄橙色シルトである。遺物は土師器片 2 点が出土している。

SD14（図版 10）

5・6Q を東北東－西南西方向に走る。西南西端は調査区外へ延びる。SB1-P74、SB2-P89、P388、SD24 と重複し、SD24 より古く、SB1-P74、SB2-P89、P388 より新しい。埋土は 2 層に分層し、灰黄褐色シルトを主体とする。断面形態は弧状で、埋土はレンズ状堆積である。遺物は 2 層から土師器片 1 点、1 層から須恵器片 3 点、土師器片 7 点が出土した。

SD15（図版 10・26・65）

7P を東西方向に走り、東端は調査区外へ延びる。埋土は単層で、灰黄褐色シルトである。遺物は出土しなかった。

SD20（図版 8・26・65）

6 ～ 8R を東北東－西南西方向に走る。北側には SD22・23・43 が存在し、これらとおおむね平行する。SB1-SD21、SB3-P201・202・205、SB4-P371、SB5-P374、P46・180・203・204 と重複し、SD20 はこれらより新しい。埋土は 3 層に分層し、暗褐色～褐色シルトが主体である。底面は平坦だが、6R17・18 付近ではやや凹凸がみられる。側壁は緩やかに立上がる。遺物は比較的多く、1 ～ 3 層で出土した。3 層からは須恵器片 1 点、鍋（77）を含む土師器片約 40 点、釘（158）、2 層からは杯・甕を含む須恵器片 8 点、灰釉陶器皿（76）、土師器片約 140 点、鉄滓（162）、1 層からは鉄滓 2 点が出土した。接合関係では須恵器甕が SD2・24、SX44 の出土品と接合した。

SD22（図版 8・9・26・66）

5 ～ 8R を東北東－西南西方向に走る。7R では、東西方向に延びる砂脈（噴砂 4）を切って構築されている。6R3・8 付近で Y 字状に分岐する。SB1-P49・60、SB4-P380、P238・383、SK1、SD188 と重複し、SK1 より古く、それ以外のものより新しい。埋土は 2 層に分層し、暗褐色シルトが主体である。側壁は急斜度に立上がる。遺物は 1 層から杯・甕を含む須恵器片 4 点、黒色土器を含む土師器片約 50 点が出土した。

SD23（図版 9・26・66）

5 ～ 7Q を東北東－西南西方向に走る。6Q13 付近では南側へ向かって緩やかに湾曲する。SB1-P64・80・232、SB1-SD32、SB2-P91、SB2-SD111、P361、SD25・33 と重複し、SB1・2、P361 より新しく、SD25・33 より古い。埋土は単層で、灰黄褐色シルトが堆積する。また、炭化物を少量含む。側壁は急斜度に立上がる。遺物は杯・甕を含む須恵器片 8 点、耳皿（78）を含む黒色土器や、椀（79）・鍋（80・81）を含む土師器片約 110 点が出土した。

SD24（図版 10・27・66）

5P、5 ～ 7Q を東西方向に走り、両端とも調査区外へ延びる。底面は西方向へ傾斜している。SB1-P74、SB1-SD110、SB2-P85・89、SK40、SD3・14・209、P118・140、SX16・31・44 と重複し、SD24 はこれらより新しい。埋土は 3 層に分層し、灰黄褐色シルトを主体とする。遺物は各層で比較的多く出

土している。4 層からは須恵器片 4 点、椀（82）・黒色土器を含む土師器片約 45 点、3 層からは須恵器片 7 点、土師器片約 60 点、珠洲焼甕（83）、鉄滓 1 点、2 層からは須恵器片 10 点、土師器片約 100 点、1 層からは須恵器片 17 点、土師器片約 100 点、近・現代の陶磁器片 1 点が出土した。接合関係では、SD25 と接合した須恵器無台杯（88）、SX16 の出土品と接合した須恵器杯蓋（99）、須恵器無台杯（100）、土師器小甕（102）、SD2・20、SX44 の出土品と接合した須恵器甕がある。

SD25（図版 9・26・66）

7Q を北西－南東方向に走る。SK40、SD23 と重複し、SD25 はこれらより新しい。埋土は 2 層に分層し、灰黄褐色シルトを主体とする。遺物は 1 層から出土している。杯（84 ～ 89）を含む須恵器片 27 点、黒色土器椀（90・91）・長胴甕（92）を含む土師器片約 60 点、近世以降の陶磁器片 2 点が出土した。

SD33（図版 9・26・66）

7Q を南北方向に走る。北端は調査区外へと延び、南端は不明瞭となる。SD23 と重複し、SD33 が新しい。埋土は単層で、にぶい黄褐色シルトである。遺物は出土していない。

SD34（図版 7・26・66）

6･7S･T を東西方向に走る。西端は調査区外へ延びる。底面は西方向へ傾斜している。SD35 と重複し、SD34 が新しい。埋土は 3 層に分層し、黄褐色～黒褐色シルトを主体とする。遺物は 1･2 層から出土し、2 層出土のものは少ない。2 層からは土師器片 3 点と釘 1 点、1 層からは横瓶を含む須恵器片 4 点、土師器片 14 点、近世以降の陶磁器片 16 点、近・現代の瓦 1 点、砥石 1 点が出土した。遺構の所属時期は近・現代と考えられる。

SD35（図版 7・26・66）

7・8S、6・7T を北東－南西方向に走る。底面は南西方向へ傾斜している。埋土は 3 層に分層し、暗褐色シルトが主体である。側壁は急斜度に立上がる。遺物は 2・3 層から出土している。3 層からは土師器片 3 点、2 層からは灰釉陶器皿（SD20 の出土品と接合、76）と須恵器片 5 点、黒色土器を含む土師器片約 30 点が出土した。

SD37（図版 7・26・66・68）

7・8T、7U を東北東－西南西方向に走る。SK341、SX8 と重複し、SD37 は SK341 より新しく、SX8 より古い。埋土は 2 層に分層し、褐色シルトが主体である。側壁は急斜度に立上がる。遺物は出土しなかった。

SD38（図版 9・67）

7Q を東北東－西南西方向に走り、西南西端は調査区外へと延びる。埋土は単層で、にぶい黄橙色シルトである。遺物は出土しなかった。

SD147（図版 6・26・67）

8V3 ～ 5 にかけて東北東－西南西方向に走り、8V2 で約 90 度屈曲して北北西－南南東方向に延びる。2014 年度の調査区では南端が調査区外へ延びていたが、2015 年度調査で検出した SD1379 に繋がる。また、溝の東側は噴砂の影響を受けたⅣ' 層を掘り込んで構築されている。SD9・148、P241 と重複し、SD148 より新しく、SD9、P241 より古い。埋土は 2 層に分層し、上層は暗褐色シルト、下層は黄褐色シルトである。側壁は急斜度に立上がる。遺物は出土しなかった。

SD148（図版 6・7・26・67）

8U・V を北北西－南南東方向に走る。底面は南南東方向へ若干傾斜している。SD147 と重複し、

SD148 が古い。埋土は単層で、オリーブ灰色シルトが堆積する。側壁は緩やかに立上がる。遺物は土師器片 1 点が出土した。

SD188（図版 9・26・67）

7Q・R を北西－南東方向に走る。SD22 と重複し、SD188 が古い。埋土は単層で、にぶい黄橙色シルトである。遺物は須恵器壺片 1 点、土師器片 2 点が出土した。確実ではないが、須恵器壺は SB2 の出土品（57）と同一個体の可能性がある。

SD209（図版 10・23・60）

4・5P・5Q を北西－南東方向に走る。底面は南東方向へ若干傾斜している。SK210・SD24 と重複し、これらより SD209 が古い。埋土は 3 層に分層し、褐灰色シルトを主体とする。遺物は 1 層から土師器片 1 点が出土した。

SD219（図版 10・23・27・67）

5P17･18 を北北東－南南西方向に約 3m 走り、5P13 で約 90 度屈曲して西北西－東南東方向に延びる。深度が検出面から約 4cm と浅く、西端は不明瞭となる。埋土は単層で、褐灰色シルトが堆積する。断面図の底面は平坦で、側壁は緩やかに立上がる。遺物は 1 層から須恵器片 1 点が出土した。

SD224（図版 9・27）

6Q・R を北西－南東方向に走る。SK221 と重複し、SD224 が古い。埋土は 2 層に分層した。どちらもブロック状の黄橙色シルトを含むため、人為的に埋められた可能性がある。断面形は半円状で、埋土はレンズ状堆積である。遺物は土師器片 1 点が 1 層から出土した。

SD393（図版 12）

5・6M を東西方向に走る。底面は西方向へ傾斜している。P402、SD2・435 と重複し、両端を SD2・435 に壊され、底面から P402 を検出した。埋土は 2 層に分層し、黄褐色シルトを主体とする。断面形は弧状である。遺物は土師器片 1 点が 1 層から出土した。

SD396（図版 12・27・67）

4M・N を北東－南西方向に走る。南西端は調査区外へと延びる。埋土は単層で、黄褐色シルトである。遺物は出土しなかった。

SD400（図版 12・13・27・67）

4K・L・M を北北東－南南西方向に走る。底面は南南西方向へ傾斜している。P407・408 と重複し、これらより SD400 が新しい。埋土は単層で、にぶい黄褐色シルトである。遺物は須恵器甕片 2 点、土師器片 3 点が出土した。確実ではないが、須恵器甕片のうち 1 点は SB2 出土品（57）と同一個体の可能性がある。

SD435（図版 11 ～ 13）

2I・J、3I ～ L、4I ～ L・N・O、5J ～ O に位置する。SK398、P411、SX18、SD2・4・7・10・393 と重複し、これらより新しい。断面形状は箱状を呈する。平面形や検出位置から SK243 と同一遺構の可能性がある。

F　性格不明遺構

SX8（図版 7・26・68）

8T に位置する。SD9・37・SX42 と重複し、SX8 がこれらより新しい。平面形は長楕円形で、長径 3.84m

を測る。短径は北東側が調査区外へと延びるため不明である。埋土は２層に分層した。１層は暗褐色シルト、２層はにぶい黄褐色シルトである。遺物は２層から横瓶(97)を含む須恵器片３点、白磁皿(94)、青磁椀(95)、砥石（152）、１層から杯（93）を含む須恵器片５点、土師器片 30 点、珠洲焼片口鉢（96）、釘（159）が出土した。遺物の年代から中世の遺構と考えられる。

SX11（図版 10・11・27・67）

5・6O・P に位置する。SK27・30、SD3・7、P81・93・124・161・162・163・165・412・420 と重複し、SK27・30、SD3、P81・93・124・161・162・163・165・412・420 より新しく、SD7 より古い。平面形は不整形で、重複関係にある遺構も多いため規模が把握し難いが、残存部の長径 15.70m、短径 6.40m を測る。深さは３～ 19cm と浅い。埋土は単層で、褐灰色シルトである。遺物は有台杯（98）を含む須恵器片 15 点、黒色土器を含む土師器片 60 点、近世と考えられる肥前磁器片１点が出土した。

SX16（図版 10・27・66）

6Q、7P・Q に位置する。SD24、SB2-P84、P121・140 と重複し、SD24 より古く、SB2-P84、P121・140 より新しい。平面形は不整形で、長径 6.10m を測る。埋土は単層で、灰黄褐色シルトとⅣ層土がブロック状に堆積する。また、炭化物を少量含む。底面は凹凸があり、中央付近が約 4cm 落ち込む。側壁は緩やかに立上がる。遺物は須恵器の杯蓋（99）・杯片 11 点（100）・甕片９点（101）、土師器の小甕（102）のほか、黒色土器や土師器片約 170 点が出土した。接合関係では重複する SD24 と接合したものが多くみられた（100・102）。また、須恵器無台杯（46）が P89（SB2）、SD24、SK221 の出土品と接合した。

SX18（図版 12・27・68）

5N に位置する。SD4・10・435 と重複し、SD435 より古く、SD4・10 より新しい。平面形は片側を SD435 に壊されているが、残存する形状から円形であったと推測できる。断面形は台形状で、埋土は単層である。遺物は須恵器片１点が１層から出土した。

SX31（図版 10・27・69）

6P・Q に位置する。SB2-P125、SD24、SX44、P153・431 と重複し、SD24 より古く、これ以外より新しい。平面形は残存形状から方形と推定される。埋土は３層に分層した。１・２層は焼土塊・焼土粒を含む。遺物は各層で出土しているが、特に焼土粒が集中する付近でまとまっていた。底面はやや凹凸があり、側壁は急斜度に立上がる。遺物は椀２点（103・104）を含む土師器片 63 点、須恵器片２点が出土した。

SX39（図版 8・28・69）

7R・7・8S に位置する。平面形は溝状を呈するが、幅は 0.75 ～ 2.75m と一定せず不整形である。東端は調査区外へ延びるが、調査区内での長径は 8.60m を測る。埋土は単層で、黄褐色シルトである。遺物は杯（105・106）を含む須恵器片５点、土師器片 42 点が出土した。

SX42（図版 7・28・68）

8S・T に位置する。SD9・35、SX8、SK206 と重複し、SD9、SX8 より古く、SD35、SK206 より新しい。遺構の東側が調査区外へ続くため平面形は不明であるが、長方形あるいは方形と推定される。調査区内の長径は 12.25m を測る。埋土は２層に分層した。２層は褐色シルトと黄褐色シルトがブロック状に堆積する。底面は平坦で、側壁は急斜度に立上がる。遺物は２層から土師器片１点、１層から杯を含む須恵器片６点、土師器片 32 点が出土した。

SX44（図版 10・28・69）

5・6P・Q に位置する。SD24、SX31 と重複し、これらより古い。底面は平坦で、側壁は緩やかに立上がる。埋土は 2 層に分層し、にぶい黄橙色シルトが主体である。また、いずれも炭化物を微量に含む。遺物は遺構北西側に集中して出土しており、特に 1 層に多い。2 層からは椀（109）や黒色土器を含む土師器片約 100 点、1 層からは杯（107）・瓶（108）を含む須恵器片約 10 点、黒色土器皿（111）、椀（109・110）・長胴甕（112）を含む土師器片約 45 点が出土した。接合関係では須恵器甕が SD2・20・24 の出土品と接合した。

SX149・SX150（図版 6・28・69・70）

7U・V に位置する。いずれも北西－南東方向へ溝状に延びるが、底面の凹凸が著しいため溝とは区別した。埋土は単層で、いずれも暗褐色シルトが堆積する。規模・形態、埋土堆積状況から同一の遺構と考えられる。SX150 は SK267 と重複し、SX150 が新しい。SX150 から土師器片 6 点、釘（161）が出土した。

SX216（図版 9・28・69）

5Q に位置する。SX217 と重複し、これより新しい。規模・形態は土坑に類似するが、底面の凹凸が著しいことから、土坑とは区別した。平面形は長方形である。埋土は 3 層に分層し、1 層は炭化物を微量に含む。また、1 層は灰黄褐色シルトとⅣ層土由来の黄褐色シルトがブロック状に堆積することから、埋め戻された可能性がある。遺物は出土しなかった。

SX217（図版 9・28・69）

5Q に位置する。SX216、P387 と重複し、SX216 より古く、P387 より新しい。SX216 と同様に規模・形態は土坑に類似するが、底面の凹凸が著しいことから、土坑とは区別した。平面形は不整な方形である。埋土は 2 層に分層した。土層堆積形状は SX216 と類似する。1 層は灰黄褐色シルトとⅣ層土由来の黄褐色シルトがブロック状に堆積することから、埋め戻された可能性がある。遺物は 1 層から土師器片 2 点、黒色土器片 1 点が出土した。

P114（図版 9・17・70）

6・7Q に位置する。SB1 の構成ピットである P63B と重複し、P114 が古い。埋土は 2 層に分層した。1 層は灰黄褐色シルト、2 層はにぶい黄橙色シルトである。1 層を柱痕、2 層を掘方埋土と認識できることから、建物の組み合わせは不明だが柱穴であると考えられる。検出面でアスファルト塊（150、第Ⅵ章参照）と 1 層から土師器片 1 点が出土した。

G　噴　　砂（第 23 図）

遺構ではないが、遺構検出面（Ⅳ層上面）において地震痕跡を検出した。ここでは 2014・2015 年度調査を合わせて報告する。平面で確認できた地震痕跡は液状化によって地下より噴出したと考えられる砂脈である。これらを噴砂 1 ～ 6 とした。噴砂 1・2 は 2015 年度調査で検出し、噴砂 3 ～ 6 は 2014 年度調査で検出した。噴砂 1 ～ 6 はおおむね東西方向に走る共通性がみられる。また、土層断面の観察では陥没や断層もみられた。

噴砂 1（図版 4・90）

8Y・Z に位置する。南西－北東方向に走る砂脈である。検出範囲は約 1.5m と短いことからⅣ' 層上面に突き出たわずかな部分を検出したと考えられる。方向から噴砂 2 と関連する砂脈と考えられる。

噴砂 2（図版 4・90）

9Y に位置する。検出範囲は約 0.7m と短いことからⅣ' 層上面に突き出たわずかな部分を検出したと考えられる。方向から噴砂 1 と関連する砂脈と考えられる。

噴砂 3（図版 6・7・14・29・70）

7・8U・V に位置する。東西方向を蛇行しながら走る砂脈である。断面観察では下層確認調査における最下層のX層より下の供給層からⅣ層上面にまで影響を及ぼしている様子がみられた。噴砂内においても土質の違いにより、分層を行った結果、5 層に認識できた。1 ～ 3 層はシルト質が強く、4・5 層は砂質が強くなっていた。1 ～ 4 層からそれぞれ炭化物のサンプルを採取し、1 層と 4 層採取のサンプルで年代測定を行った。1 層は 8 世紀後半～ 9 世紀後半、4 層は縄文時代前期末～中期前半の年代が出ている（第Ⅵ章参照）。

噴砂 4（図版 9・14・29・71）

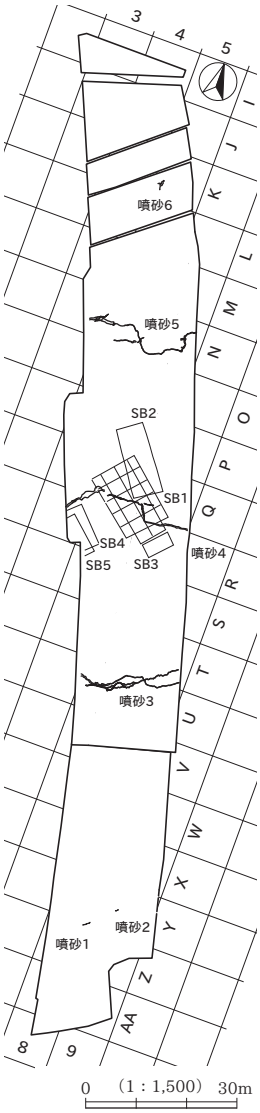
5・6・7R・5・7S に位置する。東西方向を蛇行しながら走る砂脈である。下層確認調査における断面観察ではⅧ層より下の層が供給層となっていることを確認した。Ⅳ' 層まで達した位置から採取した炭化物のサンプルから年代測定を行ったが、近世以降の年代が出ている（第Ⅵ章参照）。供給層がその時代とは考えられないことから、上層からの混入と思われる。

噴砂 5（図版 11・29・71）

4・5・6O に位置する。東西方向を蛇行しながら走る砂脈である。

噴砂 6（図版 13・29・71）

5L に位置する。南北方向に走る砂脈で、検出した長さは約 2m である。他の噴砂に比べると検出範囲が短く方向も異なるが、Ⅳ層上面に突き抜けたごく一部を検出したと考えられる。



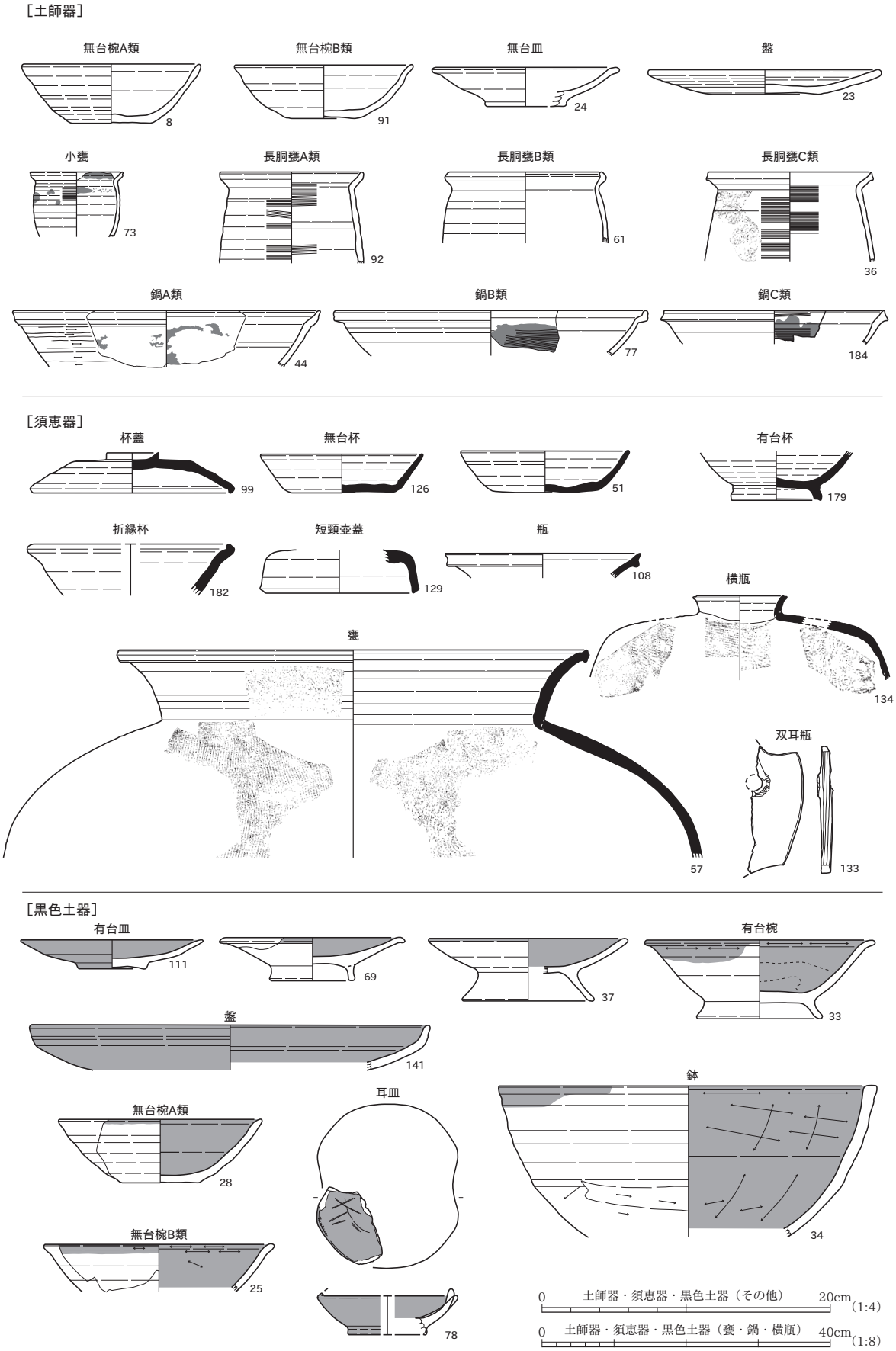
第 23 図　噴砂

3　遺　　物

A　分　　類

ここでは 2014・2015 年度調査を併せて、土器の分類について記述する。出土遺物の年代は古墳時代～近・現代と長期間にわたるが、主体的となるのは古代であり、器種内の分類も古代に限った。なお、出土遺物の器種分類や年代観については、古代の土器は［春日編 2004］、珠洲焼は［吉岡 1994］、貿易陶磁の分類は［山本 2000］を参考にした。

土師器（黒色土器は後述する）の器種には食膳具の無台椀・無台皿・盤、煮炊具の長胴甕・小甕・鍋がある。無台椀はロクロ成形で、底部の切り離しは回転糸切のみが確認できる。口縁の形状が直縁のものをA類、端反のものをB類とした。なお、体部が直線状に開いて立上がるもの（4・121 など）はA類に、内湾して立上がるもの（19・91・136 など）はB類に多くみられる。法量的には口径 11.7 ～ 13.4cm と 15.7 ～ 17.2cm にまとまりがあるが、両類ともに小型・大型品がある。皿と盤は出土点数が少ないため分類していない。長胴甕と小甕は全体を復元できたものがなく、器形全体での区別が難しいので、口径 22.4 ～



第 24 図　古代の土器分類図

30.0cm を長胴甕、口径 12.9 ～ 16.8cm を小甕とし、口縁形状により端部を上方へつまみ上げるものを A 類、端部を内側へ折り返すものを B 類、端部の外側に面を作りだすものを C 類とした。鍋は長胴甕の分類に倣い口縁形状により A・B・C としたが C 類（184 など）は少ない。法量的には口径 29.6 ～ 40.0cm と 42.0 ～ 51.1cm にまとまりがある。A 類は身が深く（113･166･202 など）、B 類は身の浅い（77･191 など）傾向がある。

須恵器には食膳具の有台杯・無台杯・折縁杯・杯蓋、貯蔵具の甕・短頸壺蓋・双耳瓶・横瓶が存在する。いずれも器種内での細分は行っていない。無台杯は出土数が多く器形復元が可能なものも多いが、法量・器形・調整方法に明確な差がみられないことから分類しなかった。ただし、底部と体部の境が強く屈曲し、直線状に立上がるもの（100・126 など）と内湾状に立上がるもの（1・86 など）がある。底部の切り離し痕はすべて回転ヘラ切りである。また、須恵器の胎土は二種類に識別でき、先行研究に従い、石英・長石を多く含むものを笹神窯産、精良で白色粒子を含むものを小泊窯産と想定した［坂井ほか 1989］。

黒色土器の器種には無台椀・有台椀・有台皿・盤・鉢・耳皿が存在する。基本的には内面のみに黒色処理を施すいわゆる内黒であり、これらが主体を占めるが、有台皿・盤・耳皿には両面に黒色処理を施しているものがみられた。椀において口縁部のみが残存するものは底部が無台か有台か判断できないが、底部のみが残存するものはほとんどが無台であるため、口縁部のみのものもこれに準ずると思われる。この想定を基に無台椀は口縁部の形態により分類し、直縁するものを A 類、端反のものを B 類とした。法量は口径 14.0 ～ 17.3cm であり、多少ばらつきがある。灰釉陶器は皿のみが出土している。

古代の遺物の時期については、須恵器の大半が小泊窯産であり笹神窯産はわずかに混じる程度であることから、越後において在地窯産から小泊窯産へと交代する 9 世紀中葉から後半であると考えられる。

古墳時代の土器は SD1308 から出土した土師器壺（174）のみである。中世の土器は珠洲焼・瓷器系陶器・青磁・白磁・青白磁が出土した。珠洲焼の器種は片口鉢・甕があり瓷器系陶器は甕のみ、青磁は椀のみ、白磁は皿のみ、青白磁は合子のみである。時期幅は 13 ～ 14 世紀代であると考える。このほか、近世以降の遺物があるが、基本的に報告しない。図化した遺物は近代の磁器 1 点（208）のみである。以下に各遺構出土遺物について記す。なお、器種内の分類については遺物観察表に記した。

B　遺構出土遺物

SB1（図版 36・37・91・92）

SD32（雨落溝）　1・2 は須恵器の無台杯である。どちらも胎土は精良で白色粒子を含むことから小泊窯産と考えられる。3 ～ 22 は土師器椀である。また、19 ～ 21 は確実ではないが、同一個体の可能性がある。23 は土師器盤である。外面上半はロクロナデ、外面下半と底部はロクロケズリされた後にナデが施される。内面は滑らかに仕上げられている。24 は土師器無台皿である。体部と底部の境で明確に段が付き、底部は厚い。口縁部は端反である。底部は大部分が失われているが、切り離しは回転糸切りの可能性が高い。25 ～ 32 は黒色土器無台椀である。いずれも内面全面と外面口縁部が黒色処理される。33 はほぼ完形の黒色土器有台椀である。口縁は端反である。内面全面と外面口縁部はミガキの後、黒色処理される。内面には放射状の擦痕が顕著である。また、内面に液体が滞留したような痕跡がみられる。34 は黒色土器鉢である。外面上半はロクロナデ、下半は手持ちケズリが施される。内面全面と外面口縁部はミガキの後、黒色処理される。内面にはさらに放射状の擦痕がみられる。35 は土師器小甕の口縁部片である。36 は土師器長胴甕の口縁部片である。体部の内外面にカキメ、外面ではタタキメもみられるが、タタキ調整

を行った後にカキメを施したと考えられる。155 は礫である。明瞭な使用痕・研磨・擦痕などはみられない。表面に筋状の凹凸があるが、この窪みにも使用痕は確認できない。石材は凝灰岩で、被熱により変色しており（正面は赤化、裏面はスス付着）、亀裂も生じている。なお、側面の線状痕は取り上げ時のガジリである。

SD21（雨落溝）　37 は黒色土器の有台皿である。内面はミガキの後、黒色処理が施される。底部中央は内側から力が加えられて円形に欠損しており、意図的に穿孔した可能性がある。

SD110　38 は土師器無台椀である。全体的に風化が著しい。39 は土師器椀の口縁部片である。内面は滑らかに仕上げられている。

P68（柱穴）　40・41 は黒色土器椀の口縁部片で、内面の全面と外面の口縁部はミガキの後、黒色処理される。

P422（柱穴）　42 は土師器長胴甕の口縁部片である。内外面にカキメがみられる。分類は A 類である。

P57（柱穴）　43 は土師器皿の口縁部片である。口縁形状は端反である。底部は欠損する。

P49（柱穴）　44 は土師器鍋の口縁部片である。体部の内面にハケメ、外面に横方向のケズリがみられる。また、内外面に炭化物の付着がみられる。

P54（柱穴）　163 は鉄滓である。

SB2（図版 37・92）

SD111（雨落溝）　45 は須恵器無台杯である。底部と体部の境は明瞭で、立上がりは直線的である。底部は器壁が厚く、口縁端部は細くなる。胎土は精良で白色粒子を含むことから小泊窯産と考えられる。

P89（柱穴）　46 は須恵器無台杯である。薄手で器面の凹凸が著しい。胎土は精良で白色粒子を含むことから小泊窯産と考えられる。SK221、SD24、SX16 の出土品と接合した。

P85（柱穴）　47 は須恵器杯蓋で、口縁端部は内側に短く屈曲する。胎土に石英・長石が多く含まれることから笹神窯産の可能性が高い。48 ～ 55 は須恵器杯である。いずれも胎土は精良で白色粒子を含むことから小泊窯産と考えられる。また、51 は SD24 から出土したものと接合した。56 は須恵器壺・瓶類の底部片である。器面はロクロナデ、高台は貼り付け高台である。高台接地面の内側端部は短くつまみ出される。また高台付近の内外面に黒色付着物がみられる。胎土に石英・長石が多く含まれることから笹神窯産の可能性が高い。

P87（柱穴）　57 は須恵器甕である。法量は口径 65.6cm、体部残存径 96.9cm、器高残存 28.9cm を測る。体部から頸部は強く屈曲し、口縁部へは外反して立上がる。頸部断面に接合痕がみられる。頸部外面はタタキメとナデで調整された後、櫛状工具による波状文が施されている。口縁端部は上方と下方へ丸くつまみ出される。頸部から下位の外面は平行タタキ、内面は同心円の当て具痕がみられる。肩部には杯類を重ね焼きした痕跡が残る。胎土は石英粒が顕著であることから笹神窯産である可能性が高い。

SB3（図版 37・92）　58・59 は土師器椀で、柱穴 P187 から出土した。59 は口縁部片で、確実ではないが 58 と同一個体の可能性がある。

SB4（図版 37・92）　60 は土師器無台椀の底部片で、柱穴の P378 から出土した。

SK27（図版 37・93）　61 は土師器長胴甕の口縁部片である。口縁端部を内側に大きく屈曲させている。

SK40（図版 37・93）　62 は須恵器杯の口縁部片である。胎土は精良で白色粒子を含むことから小泊窯産と考えられる。

SK183（図版 37・93）　64 は土師器小甕である。口縁から体部まで残存し、内外面の体部にカキメがみ

られる。65 は土師器長胴甕の口縁部片である。風化が著しい。

SK220（図版 37・93）　63 は須恵器有台杯の底部片である。貼り付け高台で、高台内に焼成前についたと考えられる線状痕が数条みられる。胎土には長石・石英粒を多く含むため笹神窯産と考えられる。

SK221（図版 38・93）　66 は 3 層出土の須恵器有台杯である。内外面はロクロナデだが、底部外面のみケズリで平坦にしており、わずかながら接合痕もみられるため有台杯と判断した。重複する SK385 の 2 層から出土した土器と接合している。67 は黒色土器の無台椀で、口縁直下から底部までは細かい幅でロクロケズリを行い、その後、部分的にナデている。内面全面と外面の口縁部はミガキの後、黒色処理される。さらに内面には放射状の擦痕が確認できる。68 は土師器長胴甕の口縁部片である。69 は黒色土器の有台皿である。内面の全面と外面の口縁部にミガキと黒色処理が施されている。また、46 の須恵器無台杯は SB2 の柱穴 P89、SD24、SX16 の出土品と接合した。

SK222（図版 38・93）　70 は土師器無台椀の底部片である。内面はロクロナデだが、外面は手持ちケズリにより調整され、底部外面には回転糸切り痕が残る。

SK310（図版 38・93）　71 は須恵器杯の口縁部片である。胎土は精良で白色粒子を含むことから小泊窯産と考えられる。72 は土師器無台椀の底部片である。73 は土師器小甕である。口縁部から体部が残存する。体部外面にはカキメがみられる。内面にコゲ、外面にススが付着する。

SK385（図版 38・93）　74 は須恵器有台杯の底部片である。内外面に自然釉がかかる。高台部分は接合痕がみられるため、貼り付け高台と判断できる。75 は黒色土器椀である。内面の全面と外面の口縁部はミガキの後、黒色処理される。また、内面には放射状の擦痕が確認できる。

SE225（図版 40・41・95・96）　146 ～ 149 は水溜（151）内から出土した木製品である。146 は漆器椀の体部～底部片で口縁部と高台は欠損する。内面は朱漆、外面は黒漆地に朱漆で文様が描かれる。文様は州浜に竹と桐を描くことから、吉祥文であろう。底径 8.0cm、残存体部で推定径 15.6cm、残存高 5.6cm を測る。材質はケヤキで、放射性炭素年代測定の結果 13 ～ 14 世紀とされる（第Ⅵ章参照）。147・148 は板状木製品である。どちらも先端に加工がみられる。149 は板状の木製品で、長軸に直交したケビキがみられることから曲物の側板片と考えられる。確実ではないが、151 と同一個体の可能性がある。151 は底板を外した曲物で、素掘りの井戸最下層（砂層）に水溜として設置されていた。径 86.5cm × 71cm の楕円形で高さ（36.8）cm を測る。箍部分は内側で幅 13cm、外側で幅 9cm、板厚は側板で 0.6 ～ 0.8cm、箍で 0.4 ～ 0.6cm を測る。側板、箍ともに板目材で作られている。側板は内側、外側と 2 重になっていて、外側に内外 2 重の箍で留められている。内側の側板は、内面に縦方向、外面に斜め方向にケビキで切り込みを入れて曲げ、板が重なった部分を樹皮で綴じあわせている。側板は内側と外側で綴じあわせ部分を 180° 位置を変えて同じ部分に力が集中しないようにしている。綴じあわせ部分は端部を薄くして板厚の調整を図っている。側板は外側と内側の隙間に厚さ約 0.4cm の板材を多量に差し込んで緩みの補強を行っている。外側の側板は上下にズレて上端部が破損している。材質はスギである。154 は角柱状を呈する砥石である。上下両端を欠損するが、上端は割れた後も使用された痕跡がある。石材は砂岩である。全体にススが付着している。

SD4（図版 41・96）　160 は断面方形の釘で、頭は折り曲げるが明瞭でない。

SD9（図版 41・96）　157 は用途不明の石製品である。図上の上部は欠損する。側面は球状に成形され、底面は平坦に作られている。球面はいくつかの平坦面を形成することで球状に仕上げられたと思われ、細かな凹凸が残されている。側面・底面ともに研磨痕が確認できる。石材は凝灰岩である。

SD20（図版 38・41・93・96）　76 は灰釉陶器皿の口縁部片である。SD35 出土資料と接合した。内面は全面施釉されているが、外面は内面に比べて釉薬が薄く、下部の一部は露胎であることから上部だけが施釉されていたものと思われる。口縁の形態から K-14 窯式期段階のものと考えられ、9 世紀前半に比定できる。77 は土師器鍋である。分類は B 類である。内面の体部にハケメがみられる。また内面にコゲの付着がみられる。158 は断面方形の大型釘で、頭は折り曲げている。162 は鉄滓である。

SD23（図版 38・93）　78 は黒色土器の耳皿である。小片であるが、口縁を内側に折り曲げている。この部分の口唇部には、連続する刺突がみられる。器面全体に黒色処理が施され、器壁はやや厚い。79 は土師器無台椀である。分類は A 類である。80・81 は土師器鍋の口縁部片である。分類は 80・81 ともに B 類である。どちらもカキメにより調整されているが、80 は外面体部下半にケズリもみられ、上半にはススが付着する。

SD24（図版 38・93）　82 は土師器無台椀である。風化が著しいが、内外面はロクロナデ、底部の切り離しは回転糸切りと思われる。83 は珠洲焼甕の口縁部片である。Ⅱ～Ⅲ期（13 世紀第 1 四半期～第 4 四半期）の所産と考える。88 は須恵器無台杯で、SD25 の出土品と接合したほか、SB2-P89 の 46（SK221・SX16 とも接合）、SX16 の 99・100・102 と接合する資料も出土している。

SD25（図版 38・93・94）　84 ～ 89 は須恵器無台杯である。84 ～ 88 の胎土は精良で白色粒子を含むことから、小泊窯産と考えられる。89 は 84 ～ 88 に比べ底部が厚く、胎土に石英を含むことから笹神窯産と考えられる。90・91 は土師器無台椀である。92 は土師器長胴甕である。頸部下位の内外面にカキメがみられる。接合関係では 88 が SD24 の出土品と接合した。

SX8（図版 38・39・41・94・96）　93 は須恵器無台杯である。体部と底部の境は明瞭で口縁部は直線的に立上がる。胎土は精良であることから小泊窯産と考えられる。94 は白磁皿の口縁部片である。口縁は外反し、外面の釉薬は口唇部寄りが若干厚くなる。95 は青磁鎬蓮弁文椀の体部片である。椀Ⅱ-b 類に比定でき、13 世紀前後～ 13 世紀前半の所産と考えられる。96 は珠洲焼片口鉢の口縁部片である。片口が残存し、浅く短めに作りだされている。内面には卸目がみられ、欠損するが 8 目以上を一単位とする。焼成はやや不良で軟らかく、灰色～灰白色を呈する。Ⅲ期に比定でき、13 世紀第 3 四半期～第 4 四半期の所産と考える。97 は須恵器横瓶の体部片である。内面は割れ口に沿って指おさえの痕が残ることから、側面を閉塞していた粘土円盤との接合部に沿って割れたと思われる。外面に格子のタタキメ、内面に同心円状の当て具痕がみられる。152 は砥石で円礫を素材とし、全面が砥面として使用されている。また、正面中央と上面端部には顕著な敲打痕があり、正面上部には弱い敲打痕が残る。砥石の敲打成形と考えておきたい。正面中央は窪んだ砥面となっており、やや上方に深い線状痕が残る。石材は凝灰岩である。159 は不明鉄製品としたが、釘の可能性が高い。断面は三角形である。

SX11（図版 39・94）　98 は須恵器有台杯である。貼り付け高台で、高台内はナデで仕上げられるため、底部切り離しは読み取れない。

SX16（図版 39・94）　99 は須恵器杯蓋で、重複関係にある SD24 出土品との接合資料である。内面と断面に墨が少量付着するが、磨痕を伴わないため、硯として用いた可能性は低い。端部は短く屈曲する。100 は須恵器無台杯で、内外面はロクロナデ、底部の切り離しは回転ヘラ切りである。重複する SD24 及び平成 22 年度試掘調査 2T のⅡ層の出土品と接合した。101 は須恵器甕の口縁部片である。わずかに残る肩部の外面にタタキメ、内面に同心円状の当て具痕がみられる。102 は土師器小甕の底部片で、内外面をロクロナデ、底部の切り離しは回転糸切りである。重複する SD24 の出土品と接合した。また、

SB2-P89 の 64 や重複する SD24、SK221 からの出土品と接合する資料も出土している。

SX31（図版 39・94）　103・104 は土師器椀の口縁部片である。103 の口縁端部は外方へ反らせている。

SX39（図版 39・94）　105 は須恵器無台杯である。胎土に石英・長石を多く含むため笹神窯産と考えられる。106 は須恵器杯の口縁部片で、胎土は精良で白色粒子を含むことから小泊窯産と考えられる。

SX44（図版 39・94）　107 は須恵器無台杯である。胎土は精良で白色粒子を含むことから小泊窯産と考えられる。108 は須恵器瓶の口縁部片である。口縁端部を上方と横方向につまみ出している。胎土の特徴から小泊窯産と考えられる。109 は土師器無台椀である。内外面はロクロナデ、底部の切り離しは風化のため不明である。110 は土師器椀の口縁部片である。111 は黒色土器の有台皿である。内外面ともにミガキの後、黒色処理される。外面の上半部はロクロナデ、下半はケズリ調整である。高台とするには極めて低く作られているが、高台内部までケズリで調整されていることから、意識して作られたと判断し有台とした。112 は土師器長胴甕の口縁部である。内外面にカキメがみられる。

SX150（図版 41・96）　161 は断面方形の釘で、頭は折り曲げているか不明瞭。

P45（図版 39・94）　114 は須恵器無台杯の底部片である。P121 の出土品と接合した。

P76（図版 39・94）　113 は土師器鍋の口縁部片である。分類は A 類である。内外面はロクロナデ、外面下半にはケズリがみられる。また、口縁端部に粘土紐の接合痕がある。

P114（図版 40・47）　150 はアスファルト塊である。検出面の柱痕部で出土した。自然科学分析により、サンプルの天然アスファルトに似た数値が得られている（第Ⅵ章）。ただし、側面形は椀形を呈し、鍛冶の遺物として知られる椀形滓に近似していることから、器内で人工的に溶解された可能性がある。長さ 9.20cm、幅 12.20cm、厚さ 4.45cm、重量 121.4g を測る。

P121（図版 39・94）　114 は須恵器無台杯の底部片である。内面にはわずかに墨痕がみられるが、磨痕を伴わないため、硯として用いた可能性は低い。胎土に石英を含むことから笹神窯産と考えられる。P45 の出土品と接合した。

P136（図版 39・94）　115 は土師器椀の底部片である。内面はナデにより平滑に仕上げられるが、外面は体部下半から底部までケズリによって調整される。

P170（図版 39・94）　116 は須恵器無台杯である。胎土の特徴から小泊窯産と考えられる。117 は土師器椀の口縁部片である。外面にはロクロナデの凹凸が残るが、内面は平滑に仕上げられている。

P361（図版 39・94）　118 は土師器無台椀で、内外面はロクロナデ、底部の切り離しは回転糸切りである。重複する SB1-SD32 の 25 や SB2-P85 の 48 と接合する資料が出土している。

P362（図版 39・94）　119 は須恵器杯の口縁部片である。焼成は不良だが胎土の特徴から小泊窯産と考えられる。

P373（図版 39・94）　120 は須恵器無台杯である。全体的に厚手で、底部は丸みを帯びる。胎土に石英を多く含むことから笹神窯産と考えられる。

P410（図版 39・94）　121・122 は土師器無台椀である。123 は土師器小甕の口縁部片である。口縁部は受け口状に屈曲し、その内側に炭化物が付着する。

P416（図版 39・94）　125 は土師器鍋の口縁部片である。口縁端部は外側に面を持つ。

P423（図版 39・94）　124 は土師器椀の口縁部片である。全体的に風化が著しい。

C　遺構外出土遺物

古代の土器　126・127 は須恵器無台杯である。どちらも胎土は精良で白色粒子を含むことから小泊窯産と考えられる。128 は須恵器有台杯の底部片である。高台は接合痕がみられるため、貼り付け高台である。また、高台内部を中心に墨痕がみられるが、磨痕を伴わないことから硯として使用された可能性は低い。胎土に石英を多く含むことから笹神窯産と考えられる。129 は須恵器短頸壺蓋である。口径 11cm と小さく、器壁がやや厚い。口縁端部は外面に面を持つ。内面は自然釉がかかり、窯詰の際に逆向きに設置されていたことを示す。130 は須恵器甕の口縁部片である。口縁部は直線的に延び、端部のみを外側に短くつまみ出す。胎土は粗く、石英を多く含むことから笹神窯産と考えられる。131 は須恵器横瓶である。口縁端部は上方と横方向につまみ出され、その間は溝状に窪む。132 は須恵器甕の口縁部片である。口縁端部が上方と下方につまみ出される。また、外面頸部には櫛描きで波状文が施されるが、その後ナデているため明瞭ではない。133 は双耳瓶の耳部片である。上半部の一箇所に穿孔が確認できる。134 は須恵器横瓶である。口縁部と胴部がそれぞれ出土し、接合はしないものの胎土が共通することから同一個体と判断した。このほかにも SD9 から同一個体と考えられる破片が出土している。口縁の形状は 131 と似ている。体部は肩部から体部側面にかけて残存し、体部側面の閉塞部分で欠損している。外面は平行タタキ、内面は同心円文がみられる。また、体部は 2015 年度調査で検出した SD1308 の出土品と接合した。

135 ～ 137 は土師器椀で、135・136 は口縁部片、137 は底部片である。138 ～ 140 は黒色土器無台椀で、いずれも内面全面と外面の口縁部にミガキの後、黒色処理され、内面に放射状の擦痕がみられる。141 は黒色土器盤である。内外面ともに黒色処理されるが、風化のためかミガキの調整痕はみられない。142・143 は土師器長胴甕の口縁部片である。どちらも風化が著しい。144 は土師器小甕の底部片である。内外面にロクロナデの凹凸が顕著に残る。底部の切り離しは回転糸切りである。

中世の陶磁器　145 は青白磁合子の身で、蓋受部から底部まで残存する。内面は全面施釉されるが、蓋受部は露胎である。外面は体部に鎬蓮弁文が施され、上半部のみ施釉される。底部には高台が付く。

石製品　153 は砥石で上下両端と側面・裏面を欠損する。砥面には自然面の凹凸が残り、使用頻度が高くなかったことを窺わせる。凝灰岩製である。156 は硯で、硯縁のみ残存する。小型であることから携帯用である可能性もあり、おそらく近世以降の所産であろう。石材は粘板岩である。

第Ⅴ章　2015（平成 27）年度調査

1　遺構・遺物の検出状況

調査区中央を中心に遺構を検出している。検出遺構は土坑 11 基、溝 14 条、柵 1 列、道路状遺構 1、ピット約 200 基である。そのほか調査区南端では、旧河道へ向かう傾斜地に近代の階段状に造成した水田跡を検出した。溝は東西方向や南北方向のものが交差している。その交差点では厚い最終堆積土に切り合いがみられないものが多く、機能していた最終段階では、これらの多くが連結していた可能性がある。農業関連の用排水路としての性格が想定できる。柵は SD1309 北辺で検出し、一部のピットは溝の最終堆積土を切っているが位置的関係から SD1309 との関連を無視することはできないであろう。ピットは調査区中央から北側に分布し、平面形が円形から楕円形の浅くて柱痕のないものが多い。しかし、分布域南端の P1311・1313・1314・1316・1317・1319・1320・1362 は平面形が方形で比較的深く、柱痕も確認できることから建物の存在が想定される。

遺物は古代を中心に、主に遺構内から出土している。出土量は土器が平箱 5 箱（内寸：長さ 54cm・34cm・10cm）で、そのほかは土製品（土錘 6）、金属製品（銭貨 4、刀子 1、鉄片 1）である。古代以外では中世・近世のものがごくわずかである。掲載遺構のうち、中世の遺物が出土したのは SD1309 のわずか 1 基のみで、そのほかの遺構出土遺物はすべて古代（主に 9 世紀後半）のものであるが、前記のように溝は同時に機能している可能性があることから時期は中世以降と想定する。

2　遺　　構

A　分　　類

「第Ⅳ章 2A 分類」に同じであるが、2015 年度調査で新たに検出した道路状遺構と柵を追加した。

道路状遺構（SF）

円形や楕円形の窪みが一定の間隔で並ぶ、いわゆる波板状凹凸面を道路状遺構とした。

柵（SA）

一定の間隔で、ほぼ直線上に並ぶピット群に対し柵を想定した。

B　土　　坑

SK1304（図版 3・30・74）

9Z に位置する。SD1301 と重複し、これより新しい。SD1301 の埋土 1 層から近・現代（臼歯の大きさから）の馬歯が出土した。溝が埋まりきる直前の窪みに投棄、または置かれたと考えられ、これを切る SK1304 は近・現代の構築と考えられる。断面形は半円状だが底部は凹凸が著しく、埋土は褐灰色と浅黄色シルトがブロック状に堆積する短期的埋土である。遺物は出土していない。

SK1321（図版 4・30）

8Y・Z に位置する大型の土坑である。東西方向が長軸であるが、その両端とも後世の削平により消失

している。短軸方向の断面は浅い弧状、埋土はレンズ状堆積で 5 層に分層した。4 層を除き 5 ～ 10mm の炭化物を少量含んでいる。遺物は土坑北東部に多く出土した。出土層位は 2・3・5 層を中心とし、須恵器の杯片と横瓶片 1 点（SK1336 出土品 170 と同一個体か）、土師器鍋（166）、刀子（216）のほか、土師器片約 80 点が出土した。

SK1322（図版 4・30・74）

8Y に位置する。SD1323 と重複するが、これより新しい。平面形は円形ないし楕円形と推測されるが、南側の多くを現代の農業用排水路で破壊されている。断面形は浅い台形状で、底部に起伏がある。埋土は黒味の強い土壌であるが、下層は地山に近い灰色を基調とし、よくしまっている。水平ないしはレンズ状堆積である。同一個体の須恵器杯片 2 点（167）が 3 層から、土師器細片 3 点が 2 層から出土した。須恵器杯は 9 世紀後半の所産と考えられる。

SK1336（図版 4・30・74・75）

9Y に位置する。P1334・1335 と重複するが、これらより古い。平面形は歪な楕円形と推測されるが、北側は現代の農業用排水路で破壊されている。断面形は浅い台形状である。埋土は地山色に近いシルトブロックの単層である。出土遺物は横瓶の大型破片（170）と 2 個体の須恵器杯（168・169）で、169 はヘラ切り底に墨書「廣」が確認できる。土師器は甕片 7 点が出土している。須恵器杯は 9 世紀中葉から後半の所産と考えられる。

SK1355（図版 4・30・75）

9Y に位置する。P1341・1354・SD1308 と重複するが、P1341・1354 より古く SD1308 より新しい。平面形は不整形で上部には 1・2 層が堆積するが、北西側の底部には、平面が楕円形で断面が台形から弧状の落込み（SK1355-P1）と南東隅に平面が円形で断面が弧状の落込み（SK1355-P2）がある。二つの落込みの埋土は地山に近似した土壌である。遺物のほとんどが 2 層からの出土である。SK1355-P1 の 1 層出土須恵器無台杯と土坑 2 層出土品が接合（171）したほか、別個体の杯片 3 点が土坑 2 層から出土している。土師器は細片で 25 点、ほかに土錘（209）が SK1355-P2 の 2 層から出土した。

SK1575（図版 6・30・75）

8V に位置する。平面形は楕円形で断面形は弧状である。埋土はレンズ状堆積で黒褐色土に灰褐色ないし褐色シルトブロックの多少で分層した。2 層は褐色シルトブロックでほぼ満たされた状態である。遺物は出土していない。

SK1576（図版 5・31・76）

8X に位置する。平面形は円形で断面形は半円状である。埋土は 3 層からなるレンズ状堆積で、黒褐色土に浅黄橙色シルトブロックが混入する。遺物は出土していない。

SK1577（図版 4・31・76）

8X に位置する。SD1309・P1500・P1519 と重複し、SD1309 と P1519 を切り、P1500 に切られている。平面形は円形で断面形は弧状である。埋土は 2 層からなるレンズ状堆積で、1 層には浅黄橙色シルトブロックが目立つ。遺物は出土していない。

SK1578（図版 5・31・76）

9W・X に位置する。東側は調査区外で一部未検出であるが平面形はおおむね楕円形と推測する。埋土 1 層の一部は溝状の攪乱で切られている。断面形は弧状である。埋土は 3 層からなるレンズ状堆積で、黒色ないし黒褐色土に灰褐色シルトを混合するが、その量は 2 層で最も多い。遺物は出土していない。

SK1579（図版 6・31・76）

7V に位置する。平面形は楕円形で断面形は台形であるが底部には起伏がある。埋土は 2 層のレンズ状堆積で、1 層は黒色土と地山に近い浅黄橙色土の細かなブロックが混合している。2 層は浅黄橙色シルトブロックの量が極めて多い。南壁近くで P1537 を検出したが新旧関係は不明である。遺物は出土していない。

SK1580（図版 5・31・77）

9W に位置する。東側半分を SD1149 に切られている。平面形は楕円形で断面形は弧状である。埋土は 2 層からなるレンズ状堆積で、ともに黒褐色の砂礫であるが、1 層には浅黄橙色土の混入が多い。遺物は出土していない。

C　溝

SD1301（図版 3・31・77・78）

8AA、9Z・AA に位置する。SK1304・SD1302 と重複し、SK1304 に切られ、SD1302 を切っている。南西－北東方向に延び、北東部は幅が狭くなり、底面はほぼ平坦であるが若干北東方向に傾いている。断面形は両岸に開く弧状ないしは半円状で、埋土はレンズに堆積する。埋土は 8 層に分けたが所によっては確認できない層もある。埋土は総じて若干黒味のある均質な灰褐色から褐灰色シルトで、ブロック土の混入は目立たない。8AA13 の 1 層から近・現代の馬の歯が出土している。また、8AA5 の 7 層から土師器椀を含む土師器片 3 点。8AA9 の 6 層から須恵器甕口縁部片 1 点（173）。8AA10 の 4 層から古墳時代前期と思われる土師器壺底部片 1 点（174）が出土している。

SD1302（図版 3・31・77・78）

8AA、8・9Z に位置する。東側は SD1303 と併走し、その後、弧を描いて SD1301 を横断し消滅する。SD1303 を切り、SD1301 に切られる。断面形は弧状ないし半円状で、埋土は 2 層に分けたが均質な黒褐色シルトを主体とし、底部付近のみ地山（浅黄橙色砂）の混合が著しい。遺物は出土していない。

SD1303（図版 3・31・77 ～ 79）

8・9Z、8AA に位置する。SD1302 と重複し、切られる。ほぼ東西方向に走る溝で、約 22.5m 北に位置する SD1309 と平行関係にある。断面形は両岸が開く浅い弧状で、埋土は 2 層に分けたが、色調はそれぞれ地山に近似した砂質シルトである。遺物は 8Z25 の 1 層と 10Z1 攪乱出土品が接合した 9 世紀後半の小泊窯産須恵器無台杯（175）、8Z23・24 の 2 層から鍋（176）を含む土師器片 2 点が出土している。

SD1307（図版 4・32・79・80）

9X・Y・Z に位置する。ほぼ南北方向に走る溝で、南は 9Y、9Z 境で立上がり、北側の SD1308・1309 に連結して SF1356 と重複する。SF1356 は本溝より古い。幅は SD1308 の南側で 1.6m 前後であるが北側で極端に狭くなり SD1309 手前で再び広くなる。SD1308 の南側での断面形は C-C'・D-D' で弧状、底部に幅 15cm 前後、深さ 20cm 前後の落込み（C-C' 11 層、D-D' 8 層）が存在し、この落込みは溝南端（B-B' の 8 層か）まで連続する。堆積状況はレンズ状である。なお、8 層には砂礫が多く、11・15 層には細砂が少量含まれる。B-B' の埋土 9 ～ 15 層は溝構築以前の土坑埋土とも考えられる。想定される土坑の規模（9Y24 付近）は南北 2.8m、東西 2m ほどの平面楕円、断面弧状である。残存する埋土はレンズ状堆積で、壁際（11 層を除く）の各層には地山の黄橙色シルトブロックが混入している。遺物は 2 層から土師器 1 点、3 層から甕を含む土師器片 6 点、7 層から杯を含む須恵器片 3 点と土師器片 9 点、

10 層から須恵器片 1 点と土師器片 8 点、15 層から土師器片約 20 点が出土した。

そのほか溝の埋土からは土師器片 100 点以上、須恵器片 20 点以上が出土している。出土量は 9Y が多く、SF1375 以北の 9X が少ない。また、出土層位は 1 ～ 7 層で、このうち 4 ～ 6 層からの出土は比較的少ない。接合関係は 180 が 8X23 の SD1358-1 層出土品と、179 が同溝 9Y14-2 層と 8X15-2 層そして 9Y1 の SD1308-1 層と 8X15 の SD1309-1 層出土品と、181 が同溝の 9Y3-5 層・9Y8-2 層・9Y9-7 層・9Y4-5 層出土品とみられた。器種には須恵器の杯（177・178）・有台杯（179）・横瓶・甕、黒色土器、土師器の椀・小甕（180）・甕（181）・鍋のほか土錘（210）がある。

SD1308（図版 4・31・80・81）

7 ～ 9Y に位置し東西に延びている。重複関係は、8Y3 で SD1376 と合流しているが、明確な切り合い関係はなく同時期に廃絶したものと考えられる。また 8Y6・7 で検出した P1525 ～ 1529 は本溝を切っている。幅は 80cm 前後で断面形は半円形から台形状。埋土は 10 層からなるレンズ状堆積であるが、8Y3 で分岐し以東は二筋となる。二筋のうち北側のものは 9Y1・2 で底面に凹凸が増え、この辺で平面を追えなくなるが、南側のものは SD1307 に直交し 9Y5・10 の東側調査区外へ延びる。7Y10 の溝北側のテラスは、再び分岐し始めた部分の可能性もあるが明瞭な切り合いは確認できなかった。分岐部分の C-C' においても切り合いは確認できていない。また、A-A' の南側 2・9 層は溝脇の土手状高まりと考えられ、7 層には細砂が少量含まれることから、溝を用排水路、土手状高まりを水田畦畔と考えることもできる。しかし、この高まりは平面的に確認できていない。

出土遺物は土師器片が 80 点以上、須恵器片が約 10 点である。出土量は 9Y3・7 で 10 点以上と比較的多い。9Y7 は溝の南側に SK1355 や SK1336 などが存在し、そこから流れ込んだ可能性もあるが、遺構間での接合はない。また、出土層位は 1 層が約 50 点と最も多く、次いで 2・7 層と続く。接合関係は 184 で同溝 9Y4-10 層と 9Y7-5 層が、9Y4-10 層出土の須恵器杯が 9Y7-5 層出土品とそれぞれみられた。器種には須恵器の折縁杯（182）・横瓶（183）、土師器の椀・長胴甕（186）・鍋（184・185）がある。

SD1309（図版 4・5・32・80・81）

7 ～ 9X に位置し東西方向に延び、8X22 で SD1376 が南に、9X6・7 で SD1149 が北に向って分岐している。これらは明瞭な切り合い関係をもたず、同時期の廃絶と考えられる。また、P1459 を切り、SK1577、P1500 ～ 1504・1518・1533 ～ 1536・1538・1541・1542・1554 に切られ、新旧不明は P1544・1568 である。断面形はおおむね台形状で一部にテラスを持つ。埋土は 4 層からなるレンズ状堆積である。SD1149 や SD1307 と交わる手前（西側）の 8X14・19 ～ 9X11 には、溝のほぼ中央に馬の背状の高まりがあり、造り替えが想定されるが、断面観察で切り合いは確認できていない。なお 8X17 ～ 19 の馬の背南側の底面に狭い間隔で波板状に連続する落込みがあった。この落込みは、後述する SF1356（道路状遺構）と約 4m の間隔を持ち並走するが、本溝のものは個々の落込みが細長く不定形で、埋土に小礫を含まずしまりもない。

出土遺物は土師器片が約 170 点、須恵器片が 26 点、珠洲焼片が 1 点、そのほか剝片と礫がそれぞれ 1 点である。出土量は SD1149 と SD1307 交点付近の 9X7・8・11 ～ 13・17 に比較的多く、溝西側には少ない。また、出土層位は 1 ～ 4 層で 1 層に約 120 点と最も多く、下層に行くに従い数を減じ、最下層の 4 層はわずか 4 点（含む 190）である。接合関係は細片で図化してないが須恵器壺 9X17-1 層出土品が 9Y11 の SD1310-3 層出土品と、前記と同一個体の 9X7-1 層出土品が 9Y11-3 層出土品とそれぞれみられた。器種には須恵器の杯（188・189）・杯蓋（187）・壺・甕（190）、黒色土器、土師器の椀・甕・

小甕・鍋（191）、珠洲焼の片口鉢（192）がある。

SD1310（図版４・32・81）

8・9Y に位置し南北方向に延び、8Y10 で SD1308 と連結する。連結部の断面で切り合いがみられないことから、両者は同時期の廃絶と考えられる。また、P1331 を切っている。幅は最大 86cm と比較的狭く、断面形は弧状で埋土は４層からなるレンズ状堆積である。底面は北から南へ傾斜し、主軸方向及び規模は西 5m にある SD1376 と近い。8Y10 の２層から土師器長胴甕片（194）１点。３層から土師器片３点。４層から甕底部を含む土師器片 26 点。9Y11 の２層から椀・甕を含む土師器片５点、３層から須恵器杯片を中心に甕・瓶片が５点、土師器の椀・甕片がそれぞれ１点、9Y6 の２層から甕を含む土師器片２点、４層から土師器甕片１点が出土した。接合関係は６層出土の土師器甕片が 9X23 の SF1356 出土品と、9Y11-3 層出土の須恵器片が 9X18 の SF1356-1 層とみられた。

SD1323（図版４・32・82）

南北方向に走る長さ 2.1m の溝を 8Y で検出した。SD1358、SK1322 と重複し前者を切り、後者に切られている。幅は最大 58cm と狭く、断面形は弧状で、埋土は灰白から浅橙色シルトの単層である。底部は北から南へ傾斜する。遺物は 8Y17 の１層から鍋を含む土師器片２点、8Y23 の１層から土師器片２点と須恵器杯底部１点が出土した。

SD1325（図版４・32・82）

8Y に位置し、北西から南東方向に延びる。平面は南東端手前で長軸に直交する方向に膨れあがる。断面形は弧状で、埋土は総じて地山色に近い土壌である。２層にはシルトブロックが充填し、細砂も微量含まれている。底面は北から南へ傾斜している。遺物は 8Y13 の２層から土師器片１点、8Y14 の２層から土師器片２点が出土した。

SD1358（図版４・32・82）

SD1323 と重複する北西－南東方向の溝を 8Y で検出した。断面は弧状で、埋土は総じて地山色に近い土壌である。２層には細砂が多量に含まれている。１層から９世紀後葉の小泊窯産の須恵器無台杯２点（195・196）が出土した。

SD1376（（図版４・80）

8X・Y に位置し、南北方向に走る。南端は SD1308 と北端は SD1309 と連結する。３者は連結部断面で切り合いがみられず同時期の廃絶と考えられる。断面形はＵ字形をなしている。底部には SD1309 に似る間隔の狭い波板状の落込みがある。底面はほぼ平坦であるが北から南に向かい若干傾斜している。遺物は 8Y2 と 8X22 の１層からそれぞれ土師器片６点、8X23 の２層から同一個体と思われる甕４点を含む土師器片７点が出土した。

SD1378（図版６・32）

2014 年度調査区境の 7V で検出したが 2014 年度調査ではみつかっていない。北西－南東方向に延び、南東端には小さな落込みがある。断面形は浅い弧状で、埋土は暗褐色シルトの単層である。底部には傾斜がない。遺物は出土していない。

SD1379（図版６・32・82・83）

8V に位置し、SD1149 に併走して東西に延びている。2014 年度調査の SD147 と一連の溝である。断面形は弧状で、埋土は黒色系土壌の２層からなるレンズ状堆積である。遺物は 8V18 の２層から土師器片１点、１層から同一個体と思われる土師器椀片２点が出土した。

SD1149（図版 5・6・33・83）

8・9V、9W・X に位置する。2014 年度調査の SD9 の延長で、南北方向に延びている。南端は 9X6・7 で東西方向に走る SD1309 に合流する。SD1309 との新旧関係は断面でみられず、同時期に廃絶を迎えたものと考えられる。また SK1580・P1549 を切っている。幅は 1 ～ 1.45m で、断面はテラスを持つところも一部にはあるが（9W1・6）、おおむね台形ないしは半円状である。埋土はレンズ状堆積で 3 層に分層したが、それぞれ黒味の強い粘質土を主体とし、下層にいくに従い浅黄色土ブロックの量が増す。底部の傾斜は起伏があるものの南から北に 10cm 前後傾斜する。SD1309 合流部の底面は比高 25cm 前後と SD1149 が高い。

最下層 3 層からは 9X1 で土師器片 3 点、2 層からは 9W11 で土師器片 3 点、9W16 で土師器片 5 点、9X1・2 で椀を中心に土師器片 18 点、そのほか須恵器杯片 1 点、椀を中心とした土師器片 10 点以上、1 層からは 9W16 で須恵器甕片 1 点（199）、9X1 で黒色土器椀 1 点（198）、9W21 の 2 層から土師器鍋（197）を含む土師器片約 100 点と須恵器片 4 点が出土している。出土量は SD1309 連結部近くの 9X1・2、9W11、9W21 にそれぞれ 20 点以上の出土があり、ほかと比較して多い。

D　柵（図版 4・33・83・84）

SA1581（P1534・P1536・P1519・P1520・P1568・P1557・P1460）

SD1309 の北岸に位置するが、柵を構成する P1534・1536 は溝内の最終堆積土を切っていることから、これよりも新しいか溝が埋まりきるまで柱材が残っていたとも考えられる。位置的関係を考慮すると、ある期間 SD1309 と併存していた可能性が高いと考えておきたい。規模は西端の P1534 から東端の P1460 まで約 12m だが、西側調査区外に延びる可能性もある。柱間隔は P1534 → 204cm ← P1536 → 206cm ← P1519 → 196cm ← P1520 → 193cm ← P1568 → 195cm ← P1557 → 224cm ← P1460 で P1557-P1460 間を除き 200cm 前後である。各ピットの平面形は長径 26 ～ 40cm の楕円形で、底面標高は 9.78 ～ 10.07m と幅がある。埋土は黒味のある土壌が一般的だが、P1568 は灰～褐色の土壌である。堆積状況はレンズ状のもの P1534・1536・1520、柱穴（痕）状のもの P1519?・1568・1557・1460 がある。遺物は P1568 の 1 層（柱痕）から土師器椀片 2 点が出土したのみである。

E　道 路 状 遺 構（図版 4・34・85・86）

SF1356（-SK1・-SK2・-SK3・SK4・-SK5・-SD1）

8･9X･Y に位置する。近･現代の削平が著しく記録が充分とはいえないが、可能な限り遺構復元を試みる。検出面はⅥ層上面である。路床と考えられる波板状遺構検出面は幅約 2m の範囲で浅く窪んでいる。路床と考えた窪み底面には、楕円形で埋土に細砂と小礫を含む複数の落込み（波板状遺構）があり、落込み周囲には帯状に酸化鉄の沈着が巡る。窪みには、しめ固められた層厚 5cm 前後の砂粒と小礫を含む暗褐色土が 2 枚（4・5 層）、さらにその上にしまりのある暗褐色から黒褐色の土壌（1 ～ 3 層）が 20cm ほど存在することを、用排水路脇の削平が少ないわずかな範囲（7Y25-9X15）で確認している。このうち 1 ～ 3 層は窪みを越え、かなり広範囲に分布する可能性があるので、道路構築土とは直接関係しないと推測できる。したがって、最終段階の路面は 4 層上面と考えておきたい。また、隣接する SD1308 との切り合いは、4・5 層は不明だが、溝が 3 層を切り 2 層に覆われている。そして、直交する SD1307 は SF1356 を切っていることから、本遺構よりも新しいと推測される。

SF1356 として取り上げた遺物は、すべて 1 層からである。前記の所見から 1 ～ 3 層を道路構築土と考えられない以上、以下に示す遺物は道路状遺構に伴わない可能性が高い。須恵器片 8 点、土師器片約 80 点が出土している。このうち楕円形落込み及び浅い窪みが位置する 9X22 ～ 25 の 1 層からは、須恵器片 3 点、土師器片約 40 点が出土している。接合関係は 9Y2 出土の土師器長胴甕（172）と 9Y7 の SK1355-2 層出土品との間でみられた。

F　ピ　ッ　ト（図版 3 ～ 5・35・86 ～ 90）

約 200 基検出している。ここでは平面形が方形で比較的深く、柱痕も確認できる 8Y・Z、9Y 検出の P1311・1313・1314・1316・1317・1319・1320・1362 と 8X25・8Y5 検出の P1375 を報告する。前者の一群は建物を建てられなかったが、長軸がおよそ N-45°-E 方向の建物の存在が推測される範囲である。底面標高は 9.51 ～ 10.02m とばらつくが、平面形は隅丸方形で長径 43 ～ 35cm、柱痕径 16 ～ 20cm と形状や大きさが似通っている。柱痕は黄灰色・灰黄色・浅黄色・褐灰色などのシルトである。

遺物は 9Y16 の P1316-2 層から土師器椀片 3 点、6 層から須恵器杯口縁部（201）1 点が、8Y18 の P1324 から土師器鍋（202）・小甕（203）のほか土師器片 10 点と剝片 1 点が 1 層から、8X25・8Y5 の P1375 の 3 層から土師器片 1 点、9W21 の P1573 から土師器鍋（204）が出土した。

3　遺　　物（図版 42・43・96・97）

A　分　　類

「第Ⅳ章 3A 分類」に同じ。

B　遺構出土遺物

SK1321（図版 42・43・96・97）

164・165 は黒色土器椀である。164 の外面は不明瞭であるが丁寧なヘラ調整により平滑に仕上げている。166 は土師器鍋で、頸部の屈曲は弱く口唇部は上方につまみ上げる。外面体部下半はカキメ調整の後の平行タタキがみられ、ススないし炭化物の付着が顕著である。216 は 2 層から出土した刀子で、刃は残るが茎と刃部先端を欠損する。

SK1322（図版 42・96）

167 は身の比較的浅い須恵器杯で、胎土に白色小粒子が目立つ。小泊窯産。

SK1336（図版 42・96）

168・169 は回転ヘラ切りの須恵器無台杯で、169 の外面には「廣」の墨書がみられる。168 の胎土は精緻で小泊窯産、169 は 2mm ほどの長石粒を少量含む。170 は横瓶胴部片で外面は平行タタキの後、カキメ。内面は同心円の当て具痕、端部閉塞に円盤状粘土を接合した痕跡が明瞭である。器面上半にはにぶい緑色の自然釉がかかる。

SK1355（図版 42・43・96・97）

171 は回転ヘラ切り底の須恵器無台杯で、器壁が薄く体部は大きく外方へ開く。胎土は精緻で内面に黒色物の吹き出しが多い小泊窯産である。172 は土師器長胴甕で口縁端部を上方へ大きくつまみ上げている。SF1356（9Y2）出土品と接合した。209 は土錘で SK1355-P2 の 1 層から出土した。

SD1301（図版 42・97）

173 は須恵器甕で口縁部は短く若干外反しながら立上がる。体部外面に平行タタキがみられる。174 は古墳時代前期と思われる壺底部である。小さな底部から体部は大きく開いて立上がる。内面及び底部外面はハケ調整、体部外面は底部近くで手持ちのヘラケズリがみられる。胎土には石英・長石の小さな角礫を含む。

SD1303（図版 42・97）

175 は回転ヘラ切り底の須恵器無台杯。小泊窯産。176 は土師器鍋の口縁部片で、端部を丸く仕上げ、外面の端部直下には沈線が巡る。

SD1307（図版 42・43・97）

177・178 は須恵器杯で器壁は薄く、体部は開き気味に立上がる。177 は 2mm ほどの石英・長石粒を含む。178 は小泊窯産。179 は須恵器有台杯で畳付きは高台外縁である。胎土には白色小粒子と少ないが黒色物の吹き出しがみられる小泊窯産である。180 は土師器小甕の底部で回転糸切り底。181 は土師器長胴甕で口縁端部を上方につまみ上げる。そのほか SD1308 の 184 と同一個体と思われる土師器鍋片が 6 層から出土している。また、210 は土錘で 1 層からの出土である。

SD1308（図版 42・97）

182 は須恵器折縁杯で胎土に 2mm 以下の長石粒が目立ち器面はざらつく。183 は頸部の急激な屈曲から横瓶とした。体部外面は格子タタキである。胎土には白色小粒子を含む。小泊窯産か。184・185 は土師器鍋で両者とも口縁端部を上方に大きくつまみ上げ、外面側の端部を隆線上に強調する。186 は土師器長胴甕で口縁端部を上方へ大きくつまみ上げ丸くおさめる。

SD1309（図版 42・43・97）

187 は須恵器杯蓋で器面は若干酸化し赤味を帯びる。胎土は精緻だが 4mm ほどの大型長石粒を少量含んでいる。188・189 は須恵器杯で、188 の口縁部下の内面には沈線状に窪みが巡る。胎土は精緻で小泊窯産と考えられる。189 の器壁は薄く器面に黒色物の吹き出しがみられる小泊窯産である。190 は須恵器甕であるが全体が酸化し赤味を帯びる。長石や石英の粒子（小礫）が多く含まれている。191 は土師器鍋で口縁部は上方に大きく屈曲し、端部を丸くおさめる。192 は珠洲焼の片口鉢で内面には間隔を空けた卸目が付き、底部には板目痕がみられる。体部外面に部分的な磨面があり、砥石などに二次利用された可能性が高い。

SD1310（図版 43・97）

193 は須恵器杯蓋のつまみ部である。頂部は大きく窪んでいる。194 は土師器長胴甕の底部片で回転糸切り底である。

SD1358（図版 43・97）

195・196 は回転ヘラ切り底の須恵器無台杯で、195 の体部は若干膨らんで立上がるが、196 は開いて直線状である。両者とも胎土は精緻で小泊窯産と思われるが、195 の器面は著しく風化している。

SD1149（図版 43・97）

198 は黒色土器椀である。器面は風化しており、不明瞭だが外面の底部及び体部下半は丁寧に調整されている。197 は口縁部が大きく屈曲し、端部を上方につまみ上げる土師器鍋である。199 の器面は酸化し赤化した須恵器甕体部片で、砥石として二次利用している。砥面は外面と図右側縁の一部である。

SF1356（図版 43・97）

200 は土師器長胴甕で、口縁は方頭である。211 は土錘で 9X18 の路床上に盛られた 1 層からの出土である。

ピット（図版 43・97）

201 は 9Y16 の P1316-6 層から出土した須恵器杯で、体部が開いて立上がる。胎土には小泊窯産よりも粒の大きな長石粒を多く含む。203 は土師器小甕で 8Y18 の P1324-1 層から出土した。内外面の口縁から外面体部にかけてススないしは炭化物が付着している。202・204 は土師器鍋で前者は 8Y18 の P1324-1 層、後者は 9W21 の P1573-1 層から出土した。202 は身が深く口縁外面の細い沈線が明瞭である。204 は身の浅いタイプで口縁部は内側に屈曲する。

C　遺構外出土遺物（図版 43・97）

遺物包含層と考えた黒褐色シルトからは黒色土器、土師器の椀・小甕・甕・鍋を含む土師器片約 100 点、杯を含む須恵器片 16 点が出土している。黒褐色シルト層が確認できたのは農業用排水路脇の 8Y10・13 ～ 15・17 ～ 19・23、9Y1・2・7・11、9X18 で、他の地区は削平されている。そのほか、調査区南側の攪乱（水田造成土）や表土等から土師器片 200 点以上、須恵器片約 30 点、珠洲焼片 4 点、近世～近・現代陶磁器片約 20 点、その他、砥石 1 点、土錘 3 点が出土した。

205 は 10Y21 表土出土、206 は 9Z9 攪乱（水田造成土）出土の回転ヘラ切り底の須恵器無台杯で、体部は開いて立上がる。黒色物の吹き出しがみられ、ともに小泊窯産と思われる。207 は瓷器系の甕で内外面はナデられ赤褐色の鉄釉が器面を覆う。胎土に 1mm 以下の石英・長石粒を含む。口縁形態から赤坂山窯産か。208 は受け口状の口縁を持つ肥前系磁器の染め付け鉢で、口唇部は釉をかき取っている。明治期の可能性がある。212 ～ 214 は土錘で、ともに 9AA からの出土している。出土は旧河道の近くで漁労を色濃く示す資料といえよう。215 は 9Y23 の攪乱から出土した銭貨である。4 枚重なっているが腐食が著しく、無理に分離を試みると銭を破壊する恐れがあるので図の状態にしてある。銭名は不明。

第Ⅵ章　自然科学分析

1　放射性炭素年代測定

株式会社パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
伊藤　茂・安　昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・黒沼保子

は　じ　め　に

2014 年度調査の蕪木遺跡から出土した試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

A　試 料 と 方 法

試料は、炭化材 9 点と木製品 1 点の、合計 10 点である。炭化材は、5R の SD22 の 1 層から 1 点（No.1：PLD-28303）、5Q のⅣ' 層から 1 点（No.2：PLD-28304）、5R の噴砂 4 の 1 点（No.3：PLD-28305）、5R のⅣ' 層から 1 点（No.4：PLD-28306）、8U の噴砂 3 の 1 層から 1 点（No.5：PLD-28307）、8U の噴砂 3 の 4 層から 2 点（No.6：PLD-28308、No.7：PLD-28309）、8V の SD9 の 5 層から 1 点（No.8：PLD-28310）、8S の SK206 から 1 点（No.10：PLD-28312）である。木製品は、6T の SE225 の曲物内から出土した漆器椀（146）（No.9：PLD-28311）である。なお、炭化材も木製品も、すべて部位不明で最終形成年輪は残存していなかった。

測定試料の情報、調製データは第 2 表のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ･ラボ、

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-28303	遺跡名：蕪木遺跡　グリッド：5R 遺構：SD22　層位：1 層 試料 No.1	種類：炭化材（広葉樹） 試料の性状：最終形成年輪以外、部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1.0N，塩酸：1.2N）
PLD-28304	遺跡名：蕪木遺跡　グリッド：5Q 層位：Ⅳ' 層 試料 No.2	種類：炭化材（広葉樹） 試料の性状：最終形成年輪以外、部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：0.5N，塩酸：1.2N）
PLD-28305	遺跡名：蕪木遺跡　グリッド：5R 層位：噴砂 4 試料 No.3	種類：炭化材（広葉樹：生焼け） 試料の性状：最終形成年輪以外、部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：0.5N，塩酸：1.2N）
PLD-28306	遺跡名：蕪木遺跡　グリッド：5R 層位：Ⅳ' 層 試料 No.4	種類：炭化材（広葉樹） 試料の性状：最終形成年輪以外、部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1.0N，塩酸：1.2N）
PLD-28307	遺跡名：蕪木遺跡　グリッド：8U 層位：噴砂 3-1 層 試料 No.5	種類：炭化材（広葉樹） 試料の性状：最終形成年輪以外、部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：0.5N，塩酸：1.2N）
PLD-28308	遺跡名：蕪木遺跡　グリッド：8U 層位：噴砂 3-4 層 試料 No.6	種類：炭化材（クリ） 試料の性状：最終形成年輪以外、部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1.0N，塩酸：1.2N）
PLD-28309	遺跡名：蕪木遺跡　グリッド：8U 層位：噴砂 3-4 層 試料 No.7	種類：炭化材（広葉樹） 試料の性状：最終形成年輪以外、部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：0.5N，塩酸：1.2N）
PLD-28310	遺跡名：蕪木遺跡　グリッド：8V 遺構：SD9　層位：5 層 試料 No.8	種類：炭化材（広葉樹） 試料の性状：最終形成年輪以外、部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1.0N，塩酸：1.2N）
PLD-28311	遺跡名：蕪木遺跡　グリッド：6T 遺構：SE225　位置：曲物内 試料 No.9	種類：生材（ケヤキ） 試料の性状：最終形成年輪以外、部位不明 器種：漆器椀 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1.0N，塩酸：1.2N）
PLD-28312	遺跡名：蕪木遺跡　グリッド：8S 遺構：SK206 試料 No.10	種類：炭化材（広葉樹） 試料の性状：最終形成年輪以外、部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1.0N，塩酸：1.2N）

第 2 表　測定試料および処理

コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C 年代、暦年代を算出した。

B　結　　果

第 3 表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ ^{13}C)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代を、第 25・26 図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C 年代（yrBP）の算出には、^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差（± 1 σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示す。

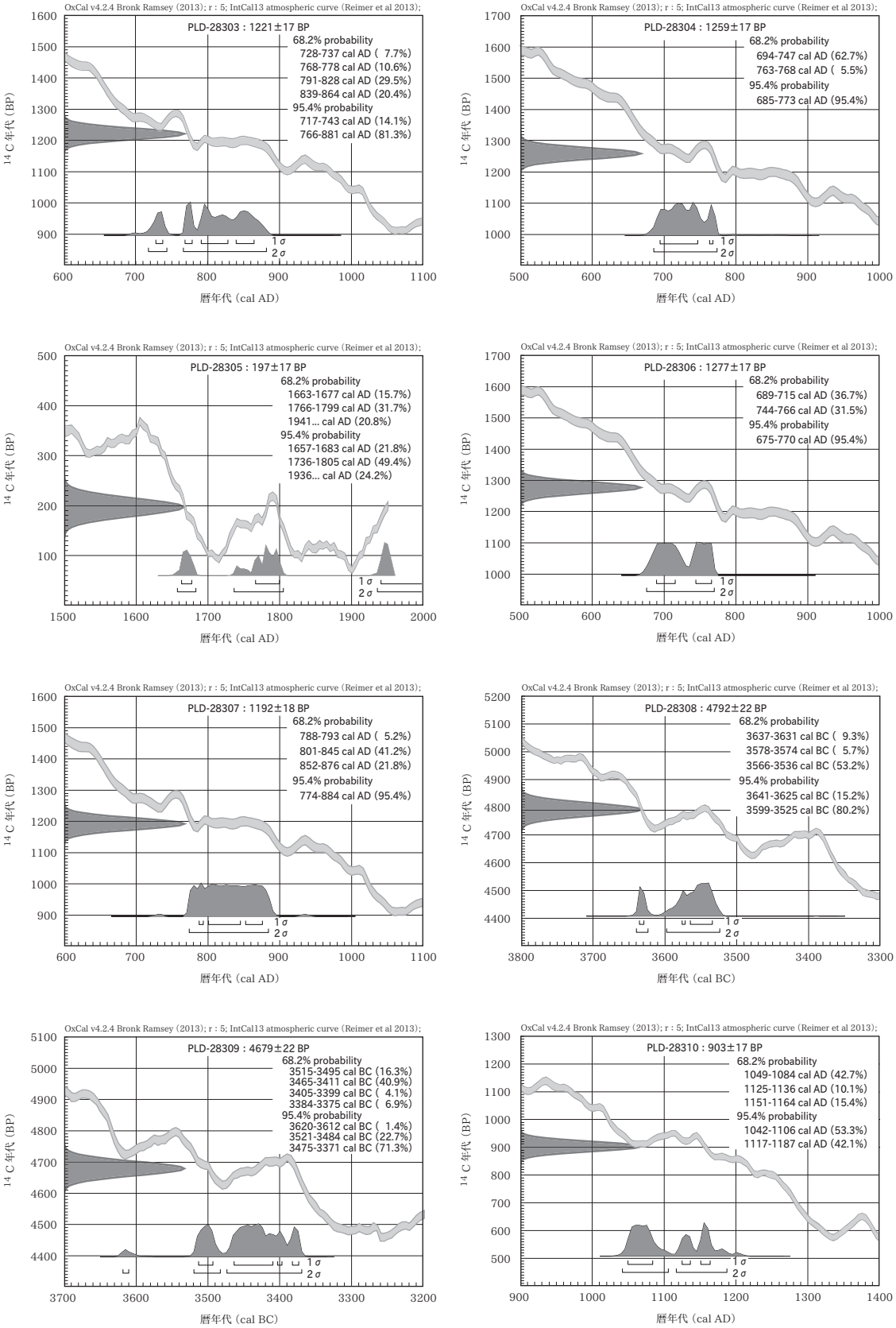
なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

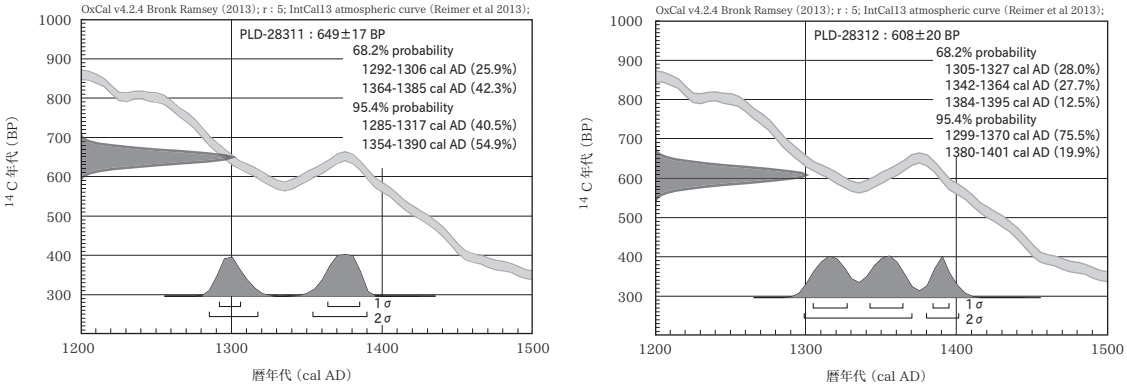
^{14}C 年代の暦年較正には OxCal 4.2（較正曲線データ：IntCal 13）を使用した。なお、1 σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2 σ 暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

測定番号		δ ^{13}C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP ± 1 σ)	^{14}C 年代 (yrBP ± 1 σ)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
					1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-28303	試料 No.1	−23.95 ± 0.18	1221 ± 17	1220 ± 15	728 − 737 cal AD (7.7%) 768 − 778 cal AD (10.6%) 791 − 828 cal AD (29.5%) 839 − 864 cal AD (20.4%)	717 − 743 cal AD (14.1%) 766 − 881 cal AD (81.3%)
PLD-28304	試料 No.2	−23.97 ± 0.19	1259 ± 17	1260 ± 15	694 − 747 cal AD (62.7%) 763 − 768 cal AD (5.5%)	685 − 773 cal AD (95.4%)
PLD-28305	試料 No.3	−22.94 ± 0.16	197 ± 17	195 ± 15	1663 − 1677 cal AD (15.7%) 1766 − 1799 cal AD (31.7%) 1941... cal AD (20.8%)	1657 − 1683 cal AD (21.8%) 1736 − 1805 cal AD (49.4%) 1936... cal AD (24.2%)
PLD-28306	試料 No.4	−23.72 ± 0.22	1277 ± 17	1275 ± 15	689 − 715 cal AD (36.7%) 744 − 766 cal AD (31.5%)	675 − 770 cal AD (95.4%)
PLD-28307	試料 No.5	−26.65 ± 0.20	1192 ± 18	1190 ± 20	788 − 793 cal AD (5.2%) 801 − 845 cal AD (41.2%) 852 − 876 cal AD (21.8%)	774 − 884 cal AD (95.4%)
PLD-28308	試料 No.6	−25.78 ± 0.30	4792 ± 22	4790 ± 20	3637 − 3631 cal BC (9.3%) 3578 − 3574 cal BC (5.7%) 3566 − 3536 cal BC (53.2%)	3641 − 3625 cal BC (15.2%) 3599 − 3525 cal BC (80.2%)
PLD-28309	試料 No.7	−24.20 ± 0.20	4679 ± 22	4680 ± 20	3515 − 3495 cal BC (16.3%) 3465 − 3411 cal BC (40.9%) 3405 − 3399 cal BC (4.1%) 3384 − 3375 cal BC (6.9%)	3620 − 3612 cal BC (1.4%) 3521 − 3484 cal BC (22.7%) 3475 − 3371 cal BC (71.3%)
PLD-28310	試料 No.8	−26.35 ± 0.14	903 ± 17	905 ± 15	1049 − 1084 cal AD (42.7%) 1125 − 1136 cal AD (10.1%) 1151 − 1164 cal AD (15.4%)	1042 − 1106 cal AD (53.3%) 1117 − 1187 cal AD (42.1%)
PLD-28311	試料 No.9	−28.41 ± 0.18	649 ± 17	650 ± 15	1292 − 1306 cal AD (25.9%) 1364 − 1385 cal AD (42.3%)	1285 − 1317 cal AD (40.5%) 1354 − 1390 cal AD (54.9%)
PLD-28312	試料 No.10	−25.02 ± 0.45	608 ± 20	610 ± 20	1305 − 1327 cal AD (28.0%) 1342 − 1364 cal AD (27.7%) 1384 − 1395 cal AD (12.5%)	1299 − 1370 cal AD (75.5%) 1380 − 1401 cal AD (19.9%)

第 3 表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果



第 25 図　暦年較正結果（1）



第 26 図　暦年較正結果（2）

C　考　　察

以下、各試料の暦年較正結果のうち 2σ 暦年代範囲（確率 95.4%）に着目して、結果を整理する。なお、縄文時代の土器編年と暦年代の対応関係については小林［2008］を参照した。

蕪木遺跡で 5R の SD22 の 1 層から出土した炭化材（No.1:PLD-28303）は、717 - 743 cal AD（14.1%）および 766 - 881 cal AD（81.3%）であった。これは 8 世紀前半～ 9 世紀後半で、奈良時代から平安時代前期に相当する。

5Q のⅣ' 層から出土した炭化材（No.2 : PLD-28304）は 685 - 773 cal AD（95.4%）、5R のⅣ' 層から出土した炭化材（No.4 : PLD-28306）は 675 - 770 cal AD（95.4%）であった。この 2 点の暦年代は 7 世紀後半～ 8 世紀後半で、飛鳥時代～奈良時代に相当する。一方、5R の噴砂 4 の炭化材（No.3 : PLD-28305）は、1657 - 1683 cal AD（21.8%）、1736 - 1805 cal AD（49.4%）、1936 cal AD 以降（24.2%）であった。これは、17 世紀後半の江戸時代前期もしくは 18 世紀前半～ 19 世紀初頭の江戸時代中期～後期、20 世紀前半の昭和時代以降に相当する。

8U の噴砂 3 の 1 層から出土した炭化材（No.5 : PLD-28307）は、774 - 884 cal AD（95.4%）であった。これは 8 世紀後半～ 9 世紀後半で、奈良時代から平安時代前期に相当する。8U の噴砂 3 の 4 層から出土した炭化材（No.6 : PLD-28308）は 3641 - 3625 cal BC（15.2%）および 3599 - 3525 cal BC（80.2%）であった。これは縄文時代前期末に相当する。同じく 8U の噴砂 3 の 4 層から出土した炭化材（No.7 : PLD-28309）は、3620 - 3612 cal BC（1.4%）、3521 - 3484 cal BC（22.7%）、3475 - 3371 cal BC（71.3%）であった。これは縄文時代前期末～中期前半に相当する。

8V の SD9 の 5 層から出土した炭化材（No.8 : PLD-28310）は、1042 - 1106 cal AD（53.3%）および 1117 - 1187 cal AD(42.1%)であった。これは 11 世紀中頃～ 12 世紀後半で、平安時代中期～後期に相当する。

8S の SK206 から出土した炭化材（No.10 : PLD-28312）は、1299 - 1370 cal AD（75.5%）および 1380 - 1401 cal AD（19.9%）であった。これは 13 世紀末～ 15 世紀初頭で、鎌倉時代～室町時代に相当する。

6T の SE225 の曲物内から出土した漆器椀（No.9 : PLD-28311）は、1285 - 1317 cal AD（40.5%）および 1354 - 1390 cal AD（54.9%）であった。これは 13 世紀後半～ 14 世紀末で、鎌倉時代～室町時代に相当する。

試料はすべて最終形成年輪が残存していない炭化材もしくは木製品である。木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死・伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。試料はいずれも最終形成年輪が残存しておらず、残存している最外年輪のさらに外側

にも年輪が存在していたはずであり、木材が実際に枯死もしくは伐採されたのは、測定結果の年代よりもやや新しい時期であったと考えられる。

引用・参考文献

Bronk Ramsey, C.（2009）Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51（1），337-360.

小林謙一（2008）縄文時代の暦年代．小杉　康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編「縄文時代の考古学 2 歴史のものさし－縄文時代研究の編年体系－」：257-269，同成社．

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」：3-20，日本第四紀学会．

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.（2013）IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

2　SK206 から出土した焼骨

株式会社パレオ・ラボ　中村賢太郎

は　じ　め　に

新潟県阿賀野市に位置する蕪木遺跡で検出された SK206 から焼骨が出土した。ここでは骨の同定結果を報告する。

A　試 料 と 方 法

試料は、SK206 から土ごと取りあげられた焼骨 4 ブロックである。なお、SK206 から採取された炭化材の放射性炭素年代測定の結果、13 ～ 15 世紀の年代が得られている。

土ブロックから骨片を選別し、肉眼と実体顕微鏡で観察し、同定した。

B　結 果 と 考 察

選別した骨片は 29 点であった。緻密質の組織が粗い特徴からヒトと同定した。部位は、29 点とも四肢骨の破片で、これらのうち橈骨あるいは尺骨（左右不明）と思われる骨片が 1 点と、腓骨（左右不明）と思われる骨片が 1 点見られた。いずれも白くなるまで良く焼けており、収縮による亀裂や変形の見られる骨片が多い。

1. 橈骨／尺骨（左右不明）　2. 腓骨（左右不明）　3. その他の四肢骨

第 27 図　SK206 出土の焼けた人骨

少なくとも、ヒトの上肢と下肢が存在

したと考えられる。骨片の焼け方から考えて、まだ乾燥せず軟組織が付着しているような状態で、高温の火により焼かれたと考えられる。こうした点から、ヒトの遺体が火葬されたと考えられる。

3　木製品の樹種同定

株式会社パレオ・ラボ　黒沼保子

は　じ　め　に

阿賀野市に所在する蕪木遺跡から出土した木製品２点の樹種同定を行った。

A　試 料 と 方 法

試料は、中世と考えられる井戸（SE225）から出土した曲物（151）と、漆器（146）である。これらの試料から、剃刀を用いて３断面（横断面・接線断面・放射断面）の切片を採取し、ガムクロラールで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察・同定し、写真撮影を行った。

B　結　　果

樹種同定の結果、曲物（151）はスギ、漆器（146）はケヤキであった。結果を第４表に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、光学顕微鏡写真を図版に示す。

（1）スギ　*Cryptomeria japonica*（L.f.）D.Don　スギ科　第 28 図　1a-1c（No.1）

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急である。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔は大型のスギ型で、１分野に通常２個並ぶ。

スギは暖帯から温帯下部に生育する常緑高木である。材は比較的軽軟で、切削加工は容易であり、割裂性は大きい。

試料 No.	調査区	遺構	種別	樹種	木取り
1	6T14・15・19・20	SE225	曲物	スギ	板目
2	6T14・15・19・20	SE225	漆器	ケヤキ	横木取り

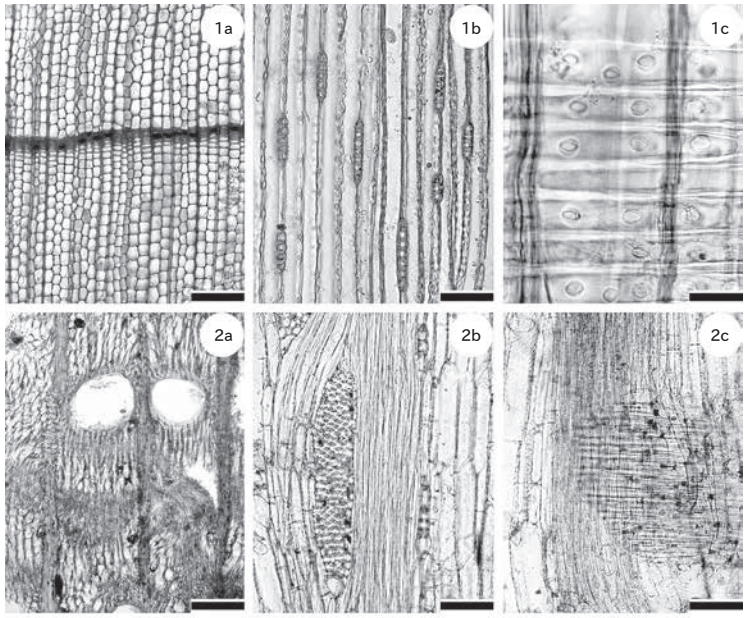
第４表　樹種同定結果

（2）ケヤキ　*Zelkova serrata*（Thunb.）Makino　ニレ科

第 28 図　2a-2c（No.2）

大型の道管が年輪のはじめに１列に並び、晩材部では小道管が集団をなして接線状から斜線状に配列する環孔材である。道管の穿孔は単一で、小道管にはらせん肥厚がみられる。放射組織は３～５列幅程度の異性で、上下端の細胞に大きな結晶をもつ。

ケヤキは暖帯下部に分布する落葉高木で、肥沃地や渓畔によく生育する。材は重硬だが、加工はそれほど困難ではなく、保存性が高い。



1a-1c. スギ（No.1）、2a-2c. ケヤキ（No.2）　a：横断面（スケール =250μm）、b：接線断面（スケール =100μm）、c：放射断面（スケール =1：25μm、2：100μm）

第 28 図　蕪木遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真

C　考　　察

曲物（151）はスギであり、木取りは板目であった。曲物には一般的にスギやヒノキなどの針葉樹が多く利用され、新潟県でも容器としての曲物や、井戸側としての曲物でもスギが多用される傾向がある［伊東・山田編 2012］。漆器（146）はケヤキであり、木取りは横木取りであった。漆器の木地には、ケヤキやブナ属、トチノキがよく利用され、新潟県内でも同様の傾向を示している［伊東・山田編 2012］。したがって、今回の分析結果は周辺遺跡にみられる木材利用傾向とも一致する。

引用・参考文献

平井信二（1996）木の大百科．394p，朝倉書店．
伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学－出土木製品用材データベース－．449p，海青社．

4　黒褐色固形物

パリノ・サーヴェイ株式会社　斉藤紀行

は　じ　め　に

蕪木遺跡（新潟県阿賀野市大字堀越字蕪木地内）は、現在の阿賀野川右岸、旧阿賀野川などの河川によって形成された自然堤防上に立地する。本遺跡では、これまでの発掘調査の結果、平安時代（9 世紀後半主体）および鎌倉～江戸時代の遺構や遺物が確認されている。

本報告では、蕪木遺跡の発掘調査で出土した黒褐色を呈する固形物（150）の性状の検討を目的として、赤外分光分析を実施した。

A　試　　料

試料は、古代の大型建物が検出された範囲にあたる、6Q15 グリッド P114 の検出面から出土した塊状物質（遺物名；黒褐色固形物）である。黒褐色固形物は、歪んだ楕円形を呈し、長径約 12cm、短径約 9cm、高さ約 4.5cm を測る。表面は暗褐色～褐色および灰白色～白色を呈する泥（シルト～粘土）などに覆われるが、内部が露出する部分や裂け目部分の一部について表面の泥を除去した箇所には黒色物が確認され、とくに後者の箇所の黒色物は光沢を有する（第 30 図）。

本分析では、事前観察の後、上記した黒色物について、予備調査として有機溶剤（クロロホルム）反応の確認を行った結果、溶出することが確かめられた。このことから、アスファルトの可能性があると判断し、赤外分光（FT-IR）分析による性状の検討を行った。

B　分　析　方　法

1）赤外線分光分析の原理

有機物を構成している分子は、炭素や酸素、水素などの原子が様々な形で結合している。この結合した原子間は絶えず振動しているが、電磁波のようなエネルギーを受けることにより、その振動の振幅は増大する。この振幅の増大は、その結合の種類によって、ある特定の波長の電磁波を受けたときに突然大きくなる性質がある。この時に、電磁波のエネルギーは結合の振動に使われて（すなわち吸収されて）、その物

質を透過した後の電磁波の強度は弱くなる。

有機物を構成する分子における結合の場合は、電磁波の中でも赤外線の領域に入る波長を吸収する性質を有するものが多い。そこで、赤外線の波長領域において波長を連続的に変えながら物質を透過させた場合、さまざまな結合を有する分子では、様々な波長において、赤外線の吸収が発生し、いわゆる赤外線吸収スペクトルを得ることができる。通常、このスペクトルは、横軸に波数（波長の逆数 cm^{-1} で示す）、縦軸に吸光度（ABS）を取った曲線で表されることが多い。したがって、既知の物質において、どの波長でどの程度の吸収が起こるかを調べ、その赤外線吸収スペクトルのパターンを定性的に標本化し、これと未知物質の赤外線吸収スペクトルのパターンとを定性的に比較することにより、未知物質の同定をすることもできる［山田 1986］。

2）赤外線吸収スペクトルの測定

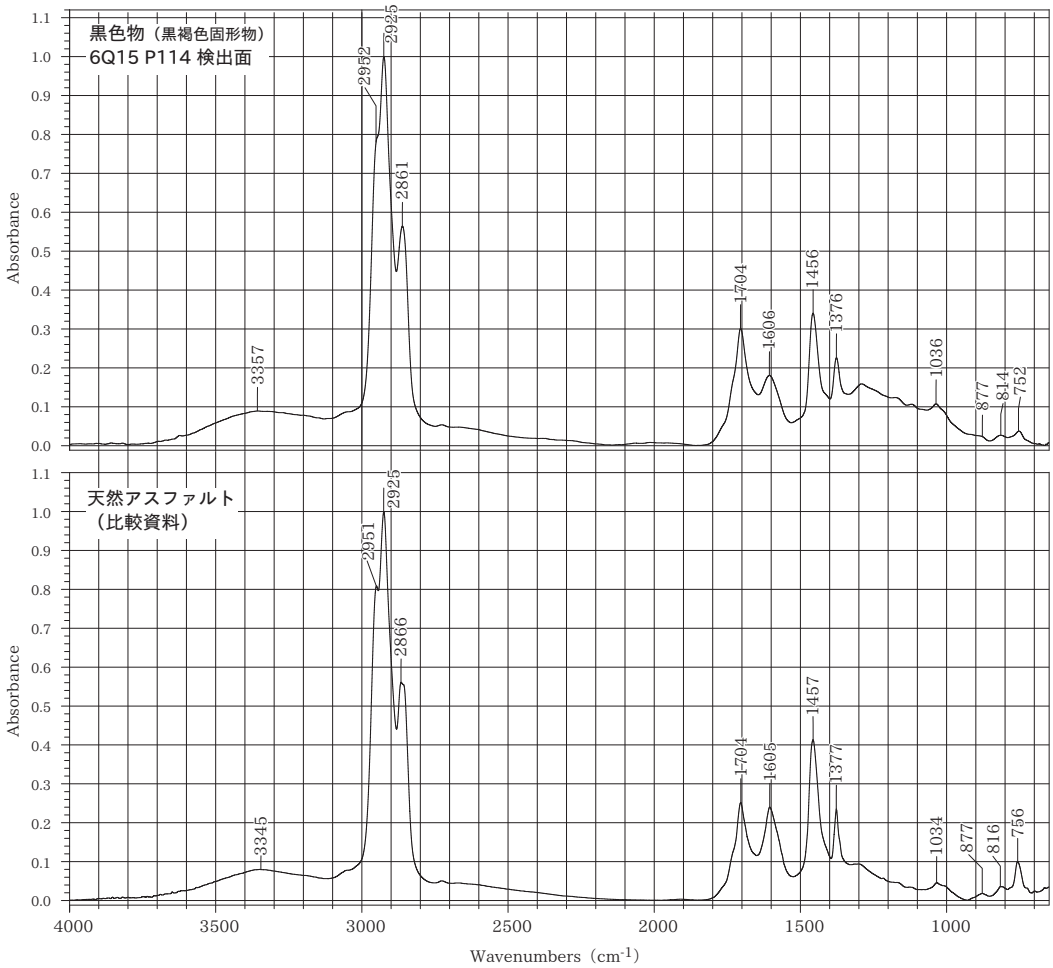
微量採取した試料をダイヤモンドエクスプレスにより加圧成型した後、顕微 FT-IR 装置（サーモエレクトロン（株）製 Nicolet Avatar 370，Nicolet Centaulus）を利用し、測定を実施した。なお、赤外線吸収スペクトルの測定は、作製した試料を鏡下で観察しながら測定位置を絞り込み、アパーチャでマスキングした後、透過法で測定した。得られたスペクトルはベースライン補正などのデータ処理を施した後、吸光度（ABS）で表示している。また、測定条件及び各種補正処理の詳細は、FT-IR スペクトルと共に図中に併記している。

C　結果および考察

黒褐色固形物（150）より採取した黒色物の FT-IR スペクトルを第 29 図に示す。また、図中には、比較資料として天然アスファルトの実測スペクトルも併記した。

黒色物の FT-IR スペクトルは、2952cm^{-1}、2925cm^{-1}、2861cm^{-1} の強い吸収帯と、3357ccm^{-1}、1704cm^{-1}、1606cm^{-1}、1456cm^{-1}、1376cm^{-1} の吸収帯によって特徴付けられた。このうち、3357cm^{-1} の吸収帯は O-H 伸縮振動、2952cm^{-1}、2925cm^{-1}、2861cm^{-1} の吸収帯はメチル基およびメチレン基の C-H 伸縮振動、1704cm^{-1} の吸収帯は C=O 伸縮振動、1606cm^{-1} の吸収帯は C=C 伸縮振動または C=O 伸縮振動、1456cm^{-1} の吸収帯はメチル基およびメチレン基の対称変角振動、1376cm^{-1} の吸収帯は C-O 伸縮振動あるいは O-H 変角振動と予想される。以上の吸収帯の特徴は、比較資料として示した天然アスファルトと類似することから、黒色物はアスファルトと判断される。

アスファルトは、原油に含まれる炭化水素類の中で最も重質の物質である。日本国内では、青森県から新潟県にかけての日本海沿岸地域において天然アスファルトが産出する。アスファルトの利用については、縄文時代を主体として、石鏃等の接着や固定、土器の補修等に用いられる事例が多く確認されている。また、［田中 2000］によれば、阿賀北地域では中世の出土遺物や近世以降の民俗資料などから灯明用としてアスファルトが利用されたことが述べられている。今回の試料については利用用途を明らかとすることはできないが、この点についてはアスファルトの利用痕跡の残る出土遺物の検討などにより明らかになると思われる。

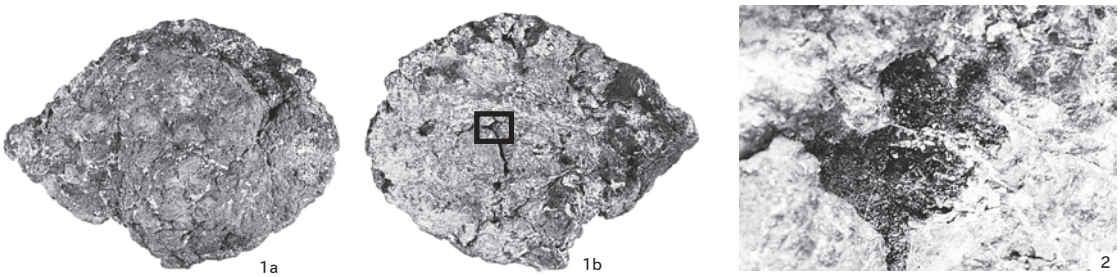


［測定情報］
サンプルスキャン回数：64
バックグラウンドスキャン回数：64
分解能：4.000
サンプルゲイン：8.0
ミラー速度：1.8988

［光学系の構成］
検出器：MCA/A
ビームスプリッタ：KBr
光源：IR

［備考］
ダイヤモンドエクスプレス成型
顕微透過法
可変アパーチャ使用
オートベースライン補正
スムージング処理
Y軸正規化

第 29 図　FT-IR スペクトル



1. 分析試料外観（黒褐色固形物；6Q15 P114 検出面）
2. 試料採取位置（写真1bの枠内）

2cm　5mm
1　2

第 30 図　黒褐色固形物（150）

引用文献

田中耕作，2000，古代におけるアスファルトの利用．石油技術協会誌，第 65 巻，第 4 号，314-319.

山田富貴子，1986，赤外線吸収スペクトル法，機器分析のてびき第 1 集．化学同人，1-18.

5　阿賀野市蕪木遺跡で認められた噴砂の磁化研究

酒井英男・石田桃子・泉　吉紀（富山大学理学部）、菅頭明日香（青山学院大学文学部）、
卜部厚志（新潟大学災害・復興科学研究所）

は　じ　め　に

新潟県阿賀野市に所在する蕪木遺跡は、旧阿賀野川が形成した自然堤防上に立地する（第 31 図）。国道のバイパス整備に伴って平成 26 年に、新潟県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が行われ、そして大型掘立柱建物や灰釉陶器等が見つかり、平安時代（9 世紀）の郡衙に関係した遺跡である可能性が指摘された。また中世の遺構・遺物も出土した。

遺跡には、地震時の液状化で形成された噴砂も認められた。本研究では、噴砂について、その磁性を利用して年代を研究した。蕪木遺跡の周囲では、山口野中遺跡や境塚遺跡でも噴砂が確認されており、同様に磁性を用いる年代研究が実施されている［酒井・木村 2011、酒井ほか 2013］。

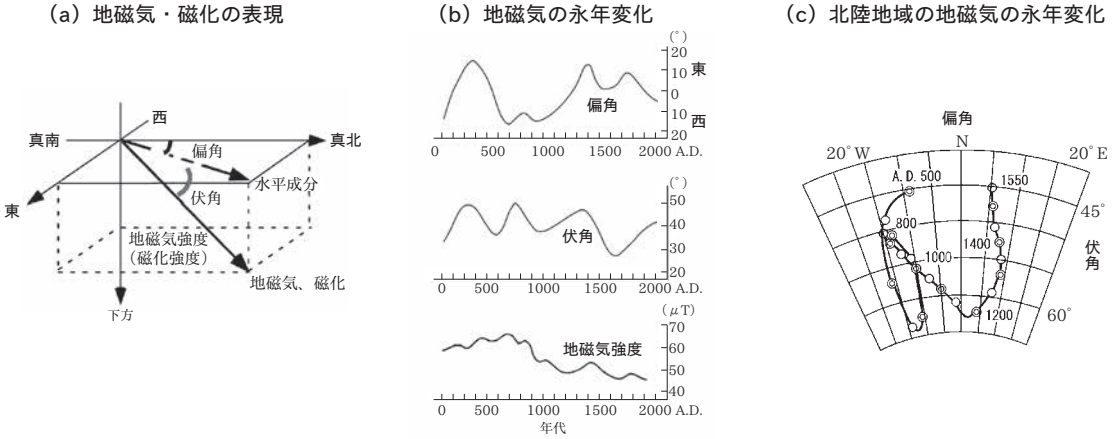
第 31 図　蕪木遺跡の位置と磁化調査の様子

A　残留磁化と年代推定

土壌や岩石には、磁石になる性質を持つ強磁性粒子が微量含まれている。そして、遺跡の焼土や土器などは焼成時に、また土壌は堆積時に、地磁気の記録となる残留磁化（磁化）を獲得する。地磁気と残留磁化は、第 32 図（a）の様に、方向（偏角、伏角）と強度で表される。

地磁気は、地球の流体核の運動で生じており、常に変化している。日本では、Hirooka［1971］や Sakai & Hirooka［1986］等の遺物の磁化研究により、過去 2000 年間の地磁気の詳細な変化が得られている（第 32 図（b））。この地磁気変化を利用して、年代が不明な試料の磁化を求めて比較することで年代を推定できる［酒井ほか 2016］。また最近、地磁気変化には地域で若干の差異があることが判明してきた。北陸地域では、広岡［1997］により、第 32 図（c）に示す A.D.500－1550 年の地磁気変化が求められている。

噴砂は、地震の際に、液状化により地中から土壌と水が間隙水圧で上へ噴出してできる。その際、噴砂に含まれる磁性粒子は、自由になり地磁気方向を向いて堆積し、地磁気方向に磁化を獲得すると考えられる。我々は、この様に獲得される噴砂の磁化を用いて噴砂（地震）の年代推定が可能なことを明らかにした［酒井ほか 1983・2007 など］。本研究では、蕪木遺跡の噴砂の磁化を研究し、北陸地域の地磁気変化と対比して噴砂・古地震の年代を検討した。



第 32 図　(a)：磁化・地磁気の偏角・伏角と強度
(b)：地磁気の過去 2000 年間での変化
（主に西南日本の試料による）Hirooka［1971］，Sakai&Hirooka［1986］より抜粋加筆。
(c)：拡大シュミットネット上での北陸地域の地磁気変化（広岡［1997］より抜粋加筆）。

B　蕪木遺跡で認められた噴砂と研究試料

蕪木遺跡では大規模な噴砂脈が 3 条確認された。第 33 図に示す噴砂脈（噴砂 3、4、5）は、約 30m の間隔で北から順に位置し東西に伸びており、最大で約 25m の長さがあった。

噴砂 3 は、遺跡の西壁で地表 1.6m 下から吹き上がっていた。壁面において、噴砂を挟む左右の対応する地層が、上下に約 25cm ずれていた。これは、液状化による噴砂と共に、地層の東方向への側方流動の影響もあったためと考えられていた。

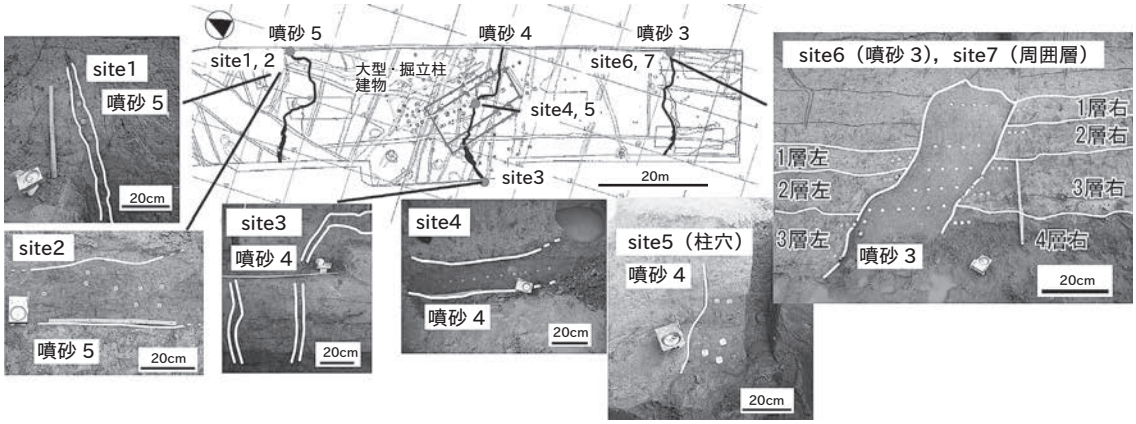
噴砂 4 は遺跡で最も標高の高地に位置し、地表面から約 1m 下で約 30cm 幅に吹き上がっていた。同噴砂は 9 世紀後半の掘立柱建物 SB1 の 3 基の柱穴を貫いていた。

噴砂 5 は北側に向かって地盤が傾斜する位置にあり、地表約 1.5m 下から砂が吹き上がっていた。

噴砂 3、5 は、中世ないし近世以降の溝によって切られており、それ以前の噴出と考えられていた。

< 噴砂の研究試料 >

試料は、噴砂脈に第 33 図の site1‐7 を設定して採取した。採取には、容量 7cc のプラスチックケースを使用した。表層を数 cm 削り取った噴砂面に打込み器でケースを埋め込み、クリノメーターを用いて磁化の解析に必要な試料面の走向と傾斜角を読み取った。図の様に、噴砂 4 から 3 箇所（site3、4、5）、



第 33 図　噴砂試料の採取箇所

噴砂 5 では 2 箇所（site1、2）で、試料を採取した。site5 では掘立柱建物 SB1 の柱穴を貫く噴砂を採取した。噴砂 3 では、噴砂脈を site6、噴砂で分断された地層面を site7 とし、左右の面の 4 層から試料を採取した。

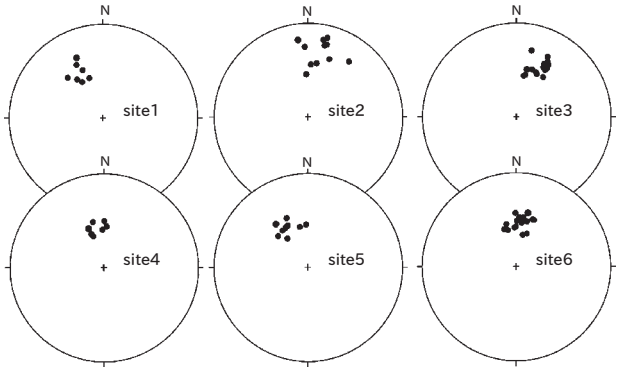
C　磁　化　研　究

試料の自然残留磁化（NRM）をまず測定した。NRM には、様々な要因で二次磁化が付着していることがあり、取り除く必要がある。そこで NRM 測定後、各試料に交流磁場を加え、磁場を徐々に強くしながら二次磁化を段階的に消磁する段階交流消磁実験を行った。

磁化測定と交流消磁実験には、富山大学の超伝導磁力計を使用した。また試料採取の際に磁気コンパスを使用しているので、測定データには、現在の磁北と真北のズレ（現在の偏角）を補正する必要があるが、国土地理院による偏角分布の二次近似式に調査地の緯度・経度を入力して得た、西編 8.1 度を補正値として用いた。

自然残留磁化と交流消磁

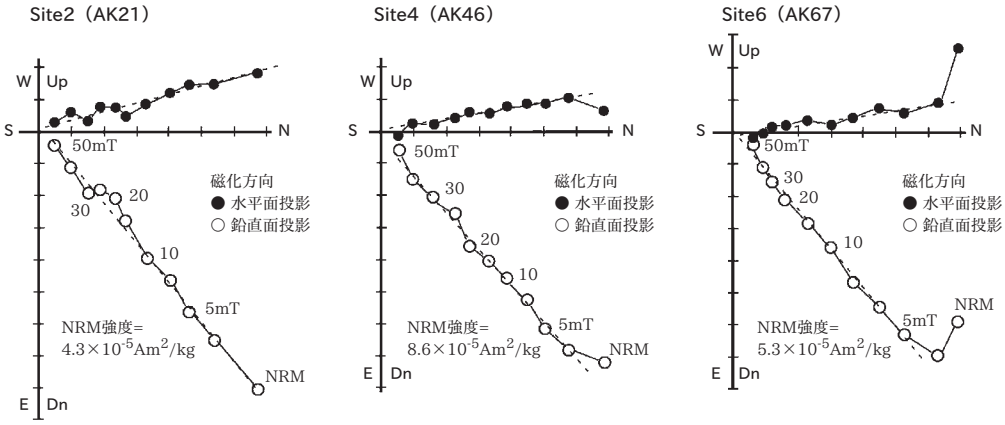
第 34 図に、site7（堆積層）以外の各サイトの噴砂の NRM をシュミットネット図に示した。多くの試料の磁化は北方向を向き、また各サイトでまとまることから、蕪木遺跡の噴砂の磁化は形成時の地磁気方向を記録していると考えられた。



第 34 図　site1 - 6 の噴砂試料の NRM の方向

NRM を測定後、各サイトの試料について、50mT（ミリテスラ）までの 10 段階の交流磁場にて消磁を行った。消磁による磁化の変化は、ザイダーベルト図［Zijdervelt 1967］で解析した。第 35 図に代表的な消磁結果を示す。この図では、磁化を水平・鉛直成分に分解して各平面に投影し、磁化の方向と強さの変化を同時に調べることができる。

多くの試料で、図の磁化プロットは原点へ向かっているが、プロットの直線性が良くなく不安定な磁化を示す試料もあった。また、低い消磁の段階でプロットが直線から大きくずれる試料もみられた。各試料について、ザイダーベルト図のプロットに、主成分分析法［Kirshvink 1980］を適用して、安定な磁化方向を求めた。



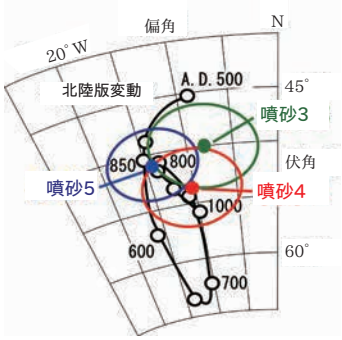
第 35 図　代表的なザイダーベルト図

D　磁化方向と地磁気年代の検討

交流消磁で安定な磁化が得られなかった試料を除き、3 つの噴砂脈の各サイトから信頼度の高い磁化を持つ試料を選んだ。そしてフィッシャー統計［Fisher 1953］を適用して、各噴砂脈について、磁化方向の平均と 95% 信頼角（α_{95}）を求めた。第 5 表に、その結果を示している。

噴砂脈とサイト名	試料数	偏角（°）	伏角（°）	磁化の信頼角 α_{95}（°）	磁化強度（Am^2/kg）
噴砂 5（site1, 2）	8	−14.2	50.9	3.4	4.0×10^{-5}
噴砂 4（site3, 4, 5）	18	−10.3	53.6	3.5	1.01×10^{-4}
噴砂 3（site6）	11	−8.5	49.8	3.9	5.1×10^{-5}

第 5 表　噴砂の磁化の測定結果



第 36 図　site1、2（噴砂 5）、site3 ～ 5（噴砂 4）、site6（噴砂 3）の磁化方向と北陸の地磁気変化（A.D.500-1550）との比較
広岡［1997］より抜粋加筆。）

第 36 図には、噴砂 3、4、5 の磁化方向を拡大シュミットネット図に示し、A.D.500 − 1000 年の北陸の地磁気変化と比較している。各噴砂の磁化方向を囲む小円は α_{95} の範囲を示し、小さい程データの信頼度が高い。

第 36 図の磁化と地磁気変化との対比から、噴砂 5 の年代は A.D.800 − 950 年と推定された。噴砂 3（site6）の磁化については、地磁気変化から東方へずれるが、A.D.800 − 900 年頃の方向に近い。噴砂 3、5 は中世または近世以降の溝で切られており、上記の結果は考古学的見地とも矛盾はない。噴砂 4 については、A.D.850 − 1000 年頃と推測したが、同噴砂は 9 世紀後半の掘立柱建物 SB1 の柱穴を貫いており、調和する年代であった。

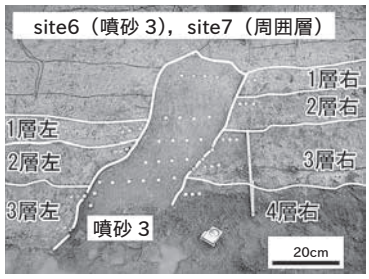
上述の蕪木遺跡の 3 つの噴砂脈が同時に発生している場合、それらの平均の磁化方向（偏角 − 11.0°、伏角 51.5°）は、A.D.900 年頃の地磁気と対応する。この年代に近い新潟で起きた古地震として、A.D.863 年に発生した越中・越後地震があり、蕪木遺跡で認められた噴砂は、磁化研究では越中・越後地震で形成された可能性が高いと考えられた。

噴砂脈 3 の site7 の磁化

site7 の試料は、第 37 図の様に噴砂 3 に接する両側の堆積層から採取した。噴砂脈の両側では、4 層が判別できたが、対応する層は位置（高さ）がずれていた。上から 1 − 4 層として層毎に磁化を調べた結果を、第 6 表にまとめている。磁化方向は、第 5 表の噴砂 3（site6）の磁化方向と違うが、これは、噴砂と周囲土壌の形成年代が異なることが主な理由である。また両側の対応する層の磁化方向も異なっているが、その違いに規則性は見られなかった。噴砂層を挟む上下のずれは、地層が側方流動の影響を受けた痕跡の可能性も指摘されている。これは、磁化データから定量的に研究できるので［酒井ほか 2015］、今後の検討課題としたい。

サイト名	層	試料数（n）	偏角（°）	伏角（°）	磁化の信頼角 α_{95}（°）	平均磁化強度（Am^2/kg）	平均帯磁率（$\times 10^{-6} m^3/kg$）
site7	1 層右	2	5.1	47.5	24.5	1.44×10^{-5}	0.8
	1 層左	2	2.6	53.1	18.9	1.94×10^{-5}	0.9
	2 層右	2	−7.4	49.0	6.2	3.43×10^{-5}	1.8
	2 層左	2	−3.3	40.6	21.1	5.81×10^{-5}	0.7
	3 層右	3	−6.6	54.0	6.2	9.26×10^{-5}	6.5
	3 層左	4	8.4	50.2	3.7	1.34×10^{-5}	6.3
	4 層右	2	6.8	56.4	28.6	2.51×10^{-5}	45.6

第 6 表　噴砂 3（site7）の磁化



第 37 図　site6、7 の試料採取状況

E　ま　と　め

新潟県阿賀野市に所在する蕪木遺跡で認められた３条の噴砂脈の年代を、磁化調査により研究した。採取試料の安定な磁化について、過去の地磁気変化と対比した結果、噴砂４、５ではA.D.850－1000年、噴砂３の磁化では、A.D.800－900年の年代が推定された。これらの年代に対応する、新潟県で過去に起きた地震として、A.D.863年の越中・越後地震がある。蕪木遺跡の噴砂は越中・越後地震により発生した可能性が高いと考えられる。蕪木遺跡の周囲の遺跡でも噴砂が認められており、今後、周辺遺跡での噴砂の磁化研究も含めて、旧阿賀野川流域に影響した古地震の研究を進めることが望まれる。

謝　辞

調査と研究結果の検討にあたって、新潟県埋蔵文化財調査事業団の荒川隆史氏と鈴木俊成氏には大変お世話になった。研究の一部に、新潟大学災害・復興科学研究所共同研究費（2017）および北陸地区国立大学学術研究連携支援研究費を使用した。

参考文献

Fisher, R.A.（1953）: Dispersion on a sphere,Proc. Roy. Soc. London,A,217,295-305.

Hirooka, K.（1971）: Archaeomagnetic study for the past 2000 years in southwest Japan,Mem. Fac. Sci., Kyoto Univ., Ser. Geol. and Mineral., 38, 167-207.

広岡公夫（1997）: 北陸における考古地磁気研究、中・近世の北陸－考古学が語る社会史－，桂書房，560-583.

Kirschvink, J. L.（1980）: The least-squares line and plane and the analysis of paleomagnetic data, Geophys. J.R. Astr. Soc., 62, 699-718.

Sakai, H. and Hirooka, K.（1986）: Archaeointensity determinations from western Japan, J. Geomag. Geoelectr., 38, 1323-1329.

酒井英男・広岡公夫（1983）: 古地磁気・岩石磁気からみた断層運動，月刊地球 7，394-398.

酒井英男, 伊藤　孝, 菅頭明日香（2007）: 考古地磁気法による古地震の年代推定の研究, 活断層研究 27, 活断層研究会, 9-16.

酒井英男，木村克之（2011）: 新潟県阿賀野市境塚遺跡で認められた噴砂の探査と磁化の研究，県営湛水防除事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ，境塚遺跡・山口野中遺跡・三辺稲荷遺跡，阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書第４集，新潟県阿賀野市教育委員会，200-205.

酒井英男，名古屋岳秀，加藤　学（2013）: 山口野中遺跡で認められた噴砂の磁化の研究，山口野中遺跡，新潟県埋蔵文化財調査報告書第 248 集，52-57.

酒井英男, 泉　吉紀, 木村克之, 伊藤　孝, 鹿島昌也, 加藤由美子（2015）:地震による遺構の変形の磁化研究からの検証, 情報考古学，21，20-27.

酒井英男，広岡公夫，中島正志，夏原信義（2016）: 考古地磁気年代推定法，考古学と自然科学，71，1-18.

宇佐美龍夫（1996）: 新編日本被害地震総覧，東京大学出版会，434pp.

Zijderveld, J.D.A.（1967）: A.C. demagnetization of rocks-analysis of results, Methods in Paleomagnetism, edited by Collinson, D.W., Creer, K.M. and Runcorn, S.K., New York, Elsevier, 254-286.

第Ⅶ章　ま　と　め

1　中世以降の遺跡

蕪木遺跡では複数の遺構が重複し、近・現代遺物を伴う明らかな攪乱もみられた。出土遺物から遺跡の中心時期は古代であると考えるが、中世、近世、近・現代の遺物も遺構から出土しており、検出した遺構には異なる時期のものが混在している。ここでは検出遺構を古代とそれ以降（中世～近世、近・現代）の遺構に整理し、併せて中世以降の土地利用について検討したい。なお、分離が不可能な中世、近世の遺構を認定するため近・現代遺構についても整理する。

まず、後世の削平と攪拌（①・②）、遺構埋土の特徴（③）、各時期に伴う遺構（④～⑥）について、その状況と調査所見を以下に整理する。

① 遺構検出面は表土直下で、本来存在したであろう遺物包含層は削平されている。したがって遺構埋土と包含層を対比して遺構の時期を推定することができない状況にある。

② 遺物の接合関係では、重複する遺構同士の接合例が多く認められ（25・46・47・51・66・99・100・102 等）、距離が 10m 以上離れて接合したものも少なくない（57・76・105・106・134 等）。極端な例では SX44 出土品と 4J22 攪乱出土品が接合しており、両者は約 60m 離れている。このことから遺跡表層は攪拌ないし土壌の移動が大きかったことが窺える。これら表層の大規模な改変は、昭和初期の水田化によると考えられる。

③ 遺構埋土の色調には、大きく以下の三種類がある。A 類：淡い灰黄褐色系、B 類：黒褐色～暗褐色系、C 類：灰色～褐灰色系。

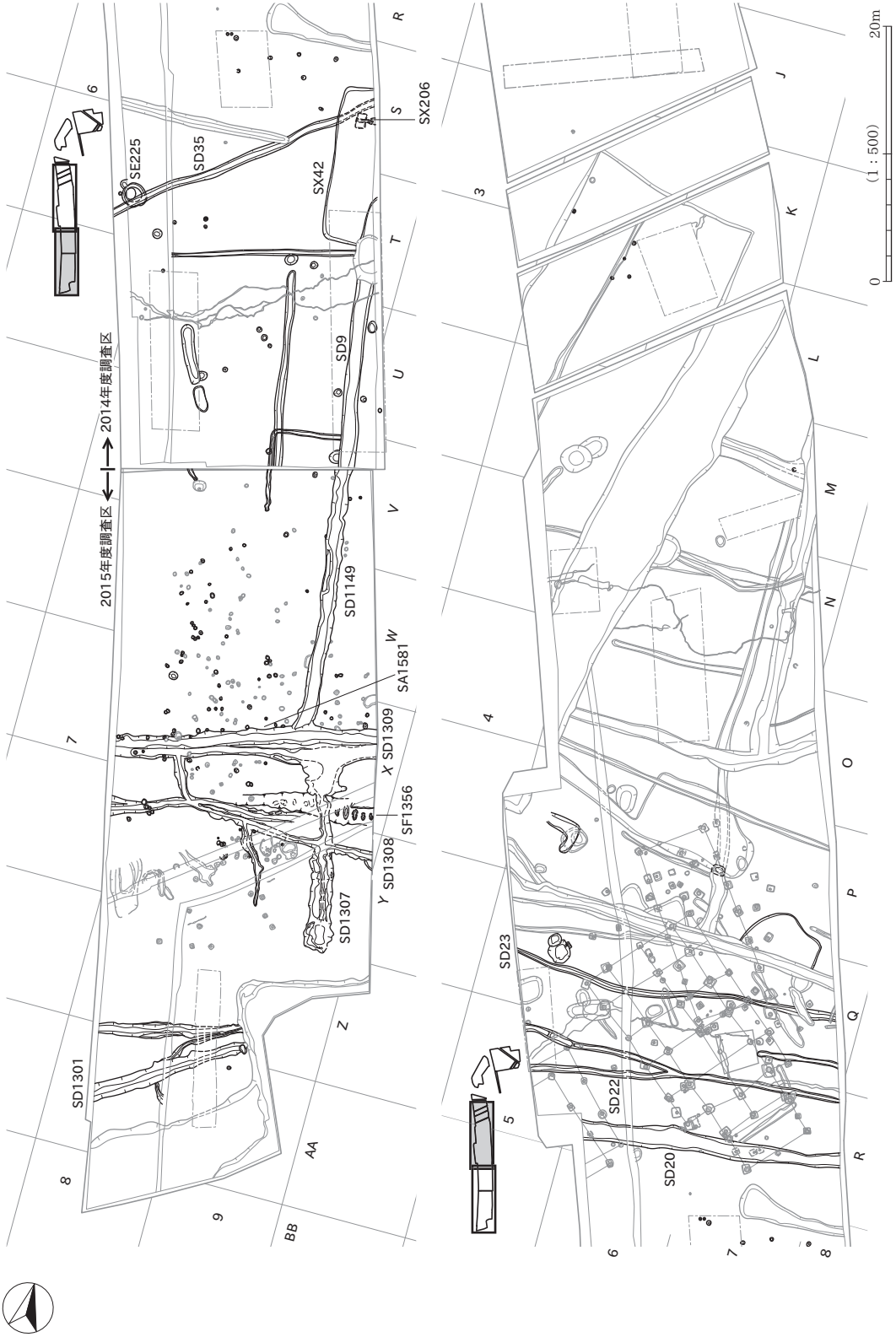
④ 出土遺物から検出遺構の主体時期は古代で、5 ～ 7P ～ S の古代の土器を伴った掘立柱建物群から集落と考えられる。また、建物群を切る溝が複数みられ（SD20・22・23・24）、掘立柱建物と軸が全く異なっていることから、建物群とは無関係な後世の遺構が存在することがわかる。

⑤ 中世の遺構で確実なものは SE225、SK206 があり、これらは出土遺物の放射性炭素年代測定から SE225 が 13 世紀後半～ 14 世紀末、SK206 は 13 世紀末～ 15 世紀初頭である（第Ⅵ章参照）。また、前記の中世遺構は他の遺構（SD35、SX8・42）に切られることから、より新しい時期の遺構が存在することがわかる。

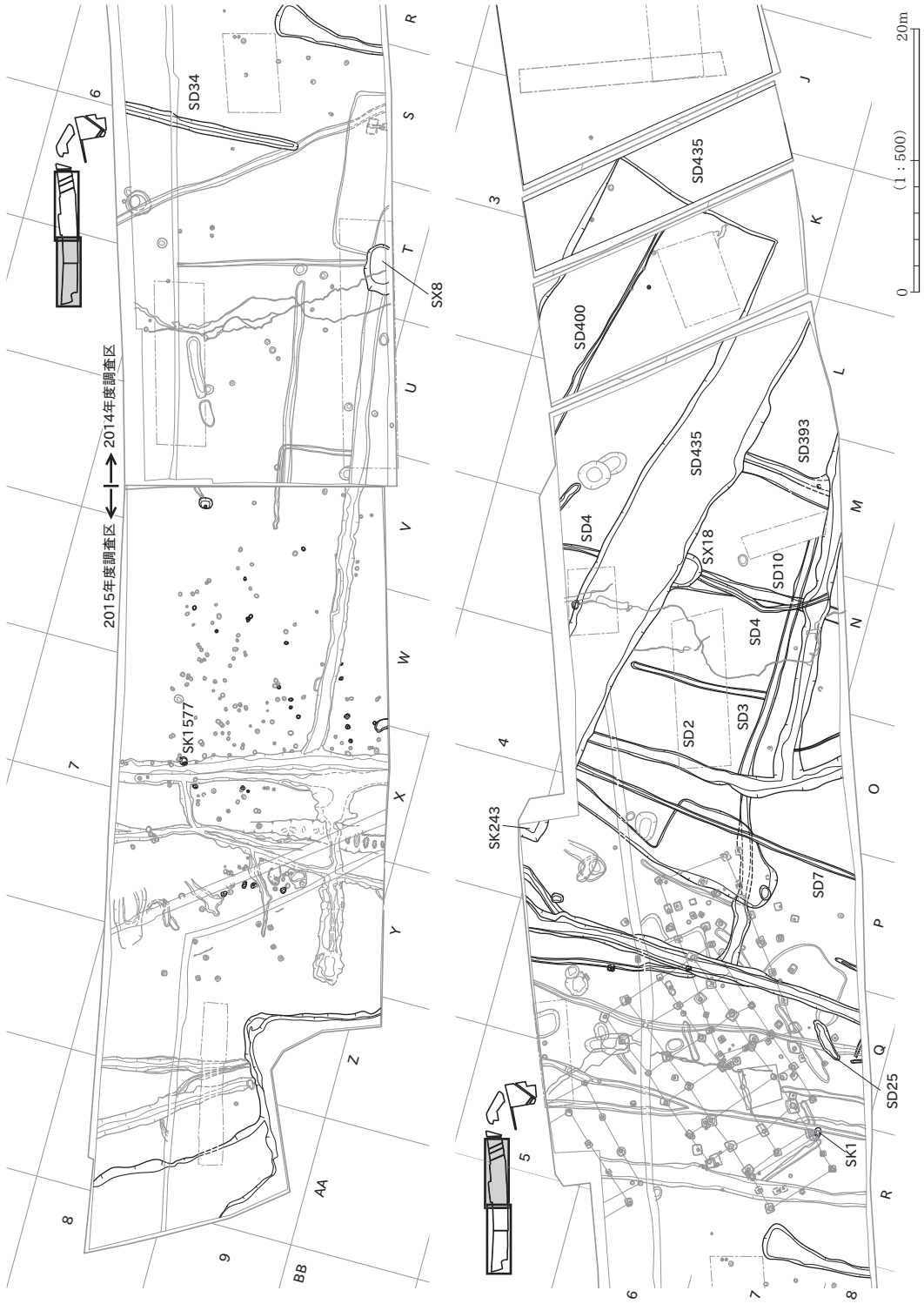
⑥ 近・現代遺物が少量ながら遺構から出土しており、そのうち、SD7・25・34、SK243 は近・現代の遺構の可能性が高い。

次に前述の調査状況③～⑥を踏まえ、遺構の変遷について考えてみたい。遺構の時期が確実なもの④・⑤と遺構埋土の分類③を組み合わせ、各遺構の時期的な可能性を検討する。遺構埋土の分類は前述の三種類であるが、A 類は古代の掘立柱建物群を含めたピットや雨落溝、そしてその周辺の土坑に多い傾向があり、C 類は近・現代遺物を伴う遺構に特徴的にみられた。また、中世遺構として確実な SE225、SK206 は B 類に該当することから、A 類を古代、B 類を中世、C 類を近・現代と推測するが、B 類の遺構については近世遺物の出土をみるものや後述する更正図の区画と近いものがあることから、時期については中世～近世の幅を持たせる。埋土分類と遺構の重複関係を確認できる例として、SB1・2 と SD23、SD25

第38図　古代の遺構分布図



第39図　中～近世の遺構分布図



第40図　近・現代の遺構分布図

がある。これらの遺構の埋土分類はSB1・2がA類、SD23がB類、SD25はC類である。SB1を構成する柱穴P64・80・232と雨落溝SD32、SB2を構成する柱穴P91と雨落溝SD111はSD23に切られ、SD23はSD25に切られる。

すべての遺構の埋土を分類し、遺構の所属時期を想定したのが第38～40図である。古代の遺構（第38図）のうち建物を中心とする詳細は後述するが、遺構は4～7M～R（Ⅰ-D区中央）と8･9V～Z（Ⅱ-A･B区）に集中し、掘立柱建物･土坑･ピットで構成する。そして掘立柱建物はⅠ-D区中央にだけみられる。

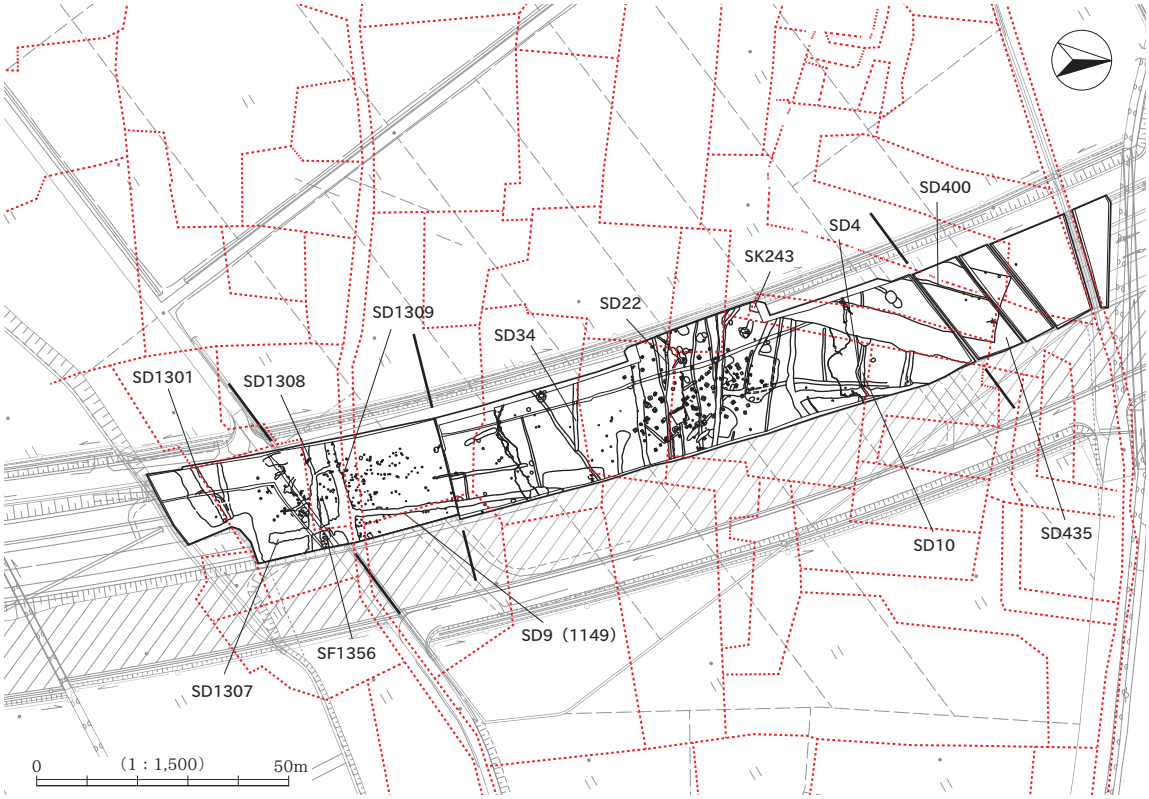
中世～近世の遺構（第39図）はⅠ-D区中央から南側に広がる。井戸SE225が1基みられるものの、遺構の多くは溝であり、火葬土坑SK206が存在することからも集落の縁辺部である可能性が高い。中世遺構の存続期間については、放射性炭素年代測定から13世紀後半～15世紀初頭までの長期間である可能性が示されているが、出土遺物は13～14世紀に収まるので、中心時期も同様と推測する。

近･現代の遺構（第40図）は調査区全体に広がる。これらについては、地図等の記録類との対比を行いたい。蕪木遺跡の調査前の地目は水田である。周辺の詳細な地形図で最も古いものは1911（明治44）年に陸地測量部が測量したものであり、そこには遺跡の位置に桑畑の記号がみられる。堀越地区を含め、周辺では明治期以降に養蚕業が盛んであった。しかし、内地食糧生産増進を目的とした開墾助成法が1919（大正8）年に公布された結果、桑畑のほとんどが大正から昭和にかけて水田へと転じた［水原町1982・1984・1986、村上ほか2013］。このように明治以降の開発行為からも古代・中世・近世の遺物包含層や本来の遺構検出面上部が削平されている可能性は高い。

次に更正図との比較を試みたい。更正図とは「公図」「地籍図」とも呼称し、明治初期に土地への課税を目的として作成された土地台帳の付図の総称［新潟市2014］であると同時に、土地の区画（筆界）・地種・地目・面積・字名・地番、あるいは所有者などを示した大縮尺の地図である［橋本2005］。堀越地区の更正図（阿賀野川土地改良区保管）は区画を表す実線と小字境を表す一点破線、区画内は一部着色を伴って表現されている。黄色は桑畑、青色は川・水路を示し、区画内で無色の場合は水田を示す。第41図は堀越地区の更正図をトレースし、阿賀野バイパスの法線を加筆したものである。着色部分は記号やトーンに置き換えた。第42図のように検出遺構と重ねると、更正図の区画に一致または近似する箇所がいくつかみられる。ほぼ一致するものとしてSD4・10・22・34・400・435・1301、SK243が挙げられるが、このうちSD34とSK243からは近・現代陶磁器が出土している。また、SD435、SK243に比定できる細長い区画は、更正図の色表記から「水田」と読み取れる。この区画線に限らず、更正図内の水田は細長い区画が多い。SD435、SK243の調査からは、この細長い方形区画が掘り込まれて造られていることが明らかで、古くは新潟市細池遺跡・寺道上遺跡［小池ほか1994］で凹地遺構として調査され、能登　健が「掘田」･「掘上田」と区別して「掘込田」と呼称している水田の可能性が高い［能登1996］。従来いわれている「掘田」･「掘上田」は、水田に適さない土地を改変し、水田化するために用いられた手法で、全国的にみられ、「低湿な地面、あるいは湖底の泥土を掻き揚げ、嵩上げし、一方、泥土をとった部分は逆に掘り下げられ水面に没する。その水面と残された水田は、ちょうど櫛状の特異な景観を構成する」［菅2003］ものであるが、前記の「掘込田」は、「掘田」や「掘上田」とは逆に自然堤防上の微高地などの乏水地帯や導水の便が悪い土地を掘削し、湧き水や雨水を溜めて水田とするものである。そのほか中世～近世遺構（第39図）としたSD1149は更正図の区画線と方向・位置が近似し、SF1356は位置がずれるが更正図に記された道と方向が近い。これらは中世ないし近世以降の土地区画を近代まで継承した痕跡ともみられるが、はっきりしない。

第 41 図　蕪木遺跡周辺の旧地割

（「北蒲原郡南部耕地整理組合整理法第十四條第一項該當賃貸価格修正畠は號」をトレース・改変）



第 42 図　検出遺構と旧地割

以上、近・現代遺構としたSD4・10・34・400・435、SK243や中世～近世遺構としたSD22・9(1149)・1301・1307・1308・1309、SF1356は更正図に描かれた区割に比定できる可能性を持ち、後者は上記同様、当時の土地区画を近代まで継承した可能性がある。特にSD435とSK243は更正図に描かれた水田と考えて間違いないだろう。また、前記の遺構を切っているものや、連結する遺構（SD9（1149）・1306～1309など）についても田畑に関連する遺構の可能性が高いと考える。

2　古代遺構の時期と変遷

ここでは遺跡の中心時期である古代の遺構について検討する。まず遺構の時期について述べる。出土土器の主体は食膳具の土師器椀で須恵器の数を圧倒する。須恵器は佐渡小泊窯産が主体を占めているものの、在地産である笹神窯産のものが少量ながら含まれる。阿賀野川以北の須恵器生産は8世紀前葉には開始、8世紀末～9世紀前半に最盛期を迎え、9世紀中頃まで継続されると考えられている［笹沢2004］。また、在地窯産主体から小泊窯産主体への移行が9世紀中頃に始まると考えられているため［坂井1991］、蕪木遺跡の時期はこの移行期であると考えられる。時期的に古い様相としては須恵器無台杯（120）や灰釉陶器皿（76）などがあり、新しい様相としては小泊窯産の有台杯（179）がある。時期幅はおおよそ9世紀代に収まると考えられ、存続時期は短期間であったと思われる。また、遺構一括資料としては、SB1雨落溝であるSD32の出土品があり（1～36）、これらの遺物からSB1の時期は9世紀第3四半期に位置づけられる。

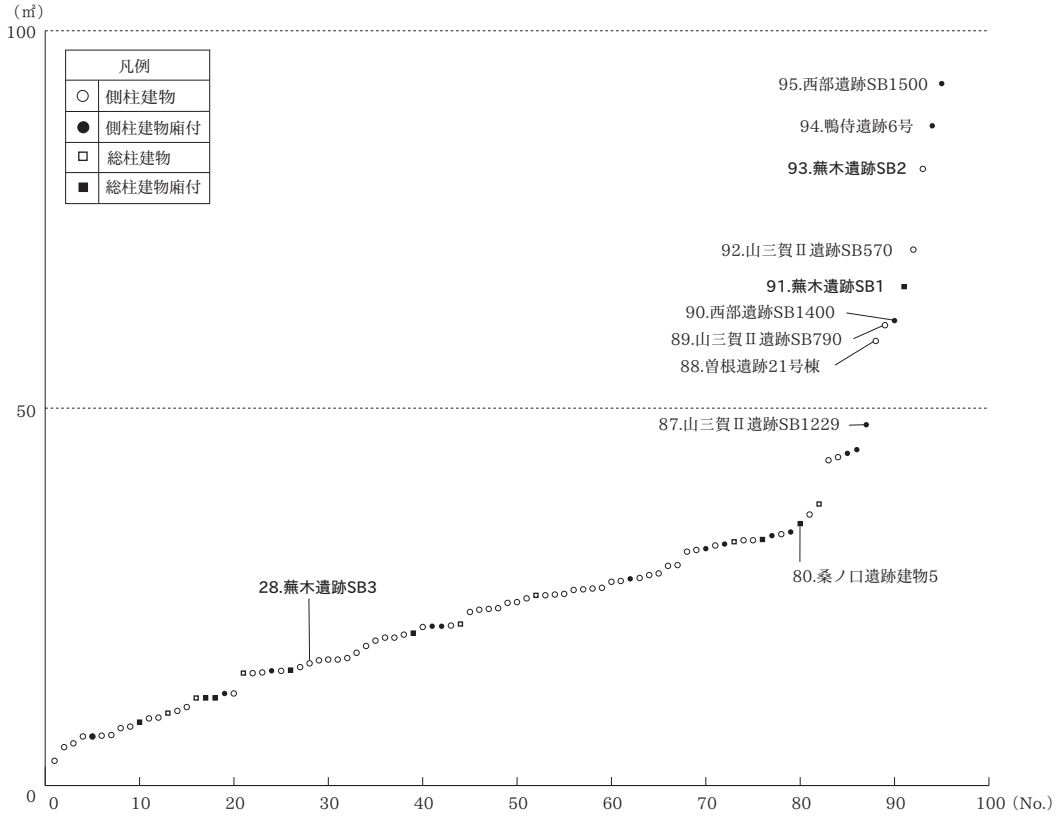
次に建物の変遷について検討する。SB1とSB2、SB1とSB3は確実に重複し、SB4とSB5についても重複する可能性が高い。SB1とSB2の新旧関係は、SB1雨落ち溝のSD32がSB2柱穴のP86を切っているため、SB2→SB1の変遷が考えられる。同様にSB1とSB3の新旧関係は、SB1柱穴のP200がSB3柱穴のP201を切っているため、SB3→SB1の変遷が考えられる。また建物の主軸方位はSB1がN-49°-W、SB2がN-34°W、SB3がN-44°-E、SB4がN-44°-W、SB5がN-49°-Wである。SB1とSB5の主軸が一致するため、SB1とSB5、SB2とSB4の組み合わせが想定できる。この組み合わせを時期差と考えたい。調査区内での変遷でしかないため暫定的ではあるが、SB2・3・4→SB1・5と変遷した可能性がある。

SB1とSB2は他の建物に比べ大型であることが注目される。建物の規模は遺跡の性格に関わる重要な要素ではあるが、遺跡の評価は他の遺構や出土遺物など、総合的に検討する必要がある。まず、建物の面積は、SB1が身舎のみで約65m²、廂を含めて約143m²、SB2が約82m²である。これまで報告されている他遺跡の掘立柱建物の面積を比較するため、阿賀野川以北における8世紀前葉～10世紀中葉の掘立柱建物を集成したものが第7表である。比較にあたっては、身舎の面積のみを対象とし、第43図を作成した。このため、廂を含めた面積で比較した場合と結果が異なる建物もみられた。報告書によっては身舎の面積が示されていないものもあるが、その場合は平面図から計測した。第43図から、第1群50m²未満、第2群50m²以上100m²未満に分けることができる。多くが第1群に含まれ、第2群に8棟みられた。第2群には蕪木遺跡のSB1とSB2のほか、西部遺跡SB1400・1500、鴨侍遺跡6号建物、山三賀Ⅱ遺跡SB570・790、曽根遺跡21号棟がある。このうち西部遺跡のSB1400・1500は、屋内から鍛冶炉や地床炉、漆紙文書、漆パレットなどが検出されていることから官衙関連の工房と報告されている［湯原ほか2010、鈴木2013］。鴨侍遺跡は官衙関連遺跡で、郡司層の居宅の可能性が指摘されている［吉井

2002]。山三賀Ⅱ遺跡は当該期の大規模遺跡であるが、その性格は農耕集落と考えられている［坂井ほか 1989]。その中でSB570・790は比較的規模が大きい。曽根遺跡は多量の墨書土器、円面硯、木簡・斎串・人形・舟形・木沓・檜扇などの木製品が出土し、建物配置を含め一般集落とは考えにくい内容であることから、何らかの官衙関連遺跡と推測されている［坂井 1996]。以上のように第２群に含まれる遺跡は官衙関連遺跡が多いことが指摘できる。ただし、山三賀Ⅱ遺跡のように農耕集落と理解されている遺跡の建物も含まれ、逆に第１群に官衙関連が指摘されている桑ノ口遺跡［鶴巻ほか 2003］で中心的な建物とされる建物５が含まれるなど、単純な面積比較では遺跡の性格づけが困難であることも窺える。官衙関連遺跡と認定する他の要素として、建物型式や建物配置なども指摘されている［坂井 2005]。建物型式は梁間二間の掘立柱建物が律令型と呼称され、重要視されている［春日 2009]。蕪木遺跡では、SB1が２間×４間の総柱建物に４間×６間の廂が付く。ただし、廂の一辺は２間×１間が凸状に付属する。SB2は１間×６間の梁間一間型建物である。また、SB1・２の柱穴掘方は方形のものが多くみられるが、その向きは不規則である。建物配置については、調査範囲が限定されているため、言及する材料を欠く。

その他、遺跡の性格を示唆する遺物として、灰釉陶器皿（76）のような高級品、墨書土器（169）や墨痕が認められる須恵器（99・128)、出土例が少ない黒色土器耳皿（78)、遠隔地からの搬入の可能性が高い双耳瓶（133)、漁労を示す土錘（209～214：中世の可能性も有り)、アスファルト塊（150）があるが、いずれも少量である。

調査状況からは蕪木遺跡の性格は官衙的色彩が濃いが、建物構造等から国に関連する施設と裏付けることはできない。しかし、郡に関連する施設や有力者の居宅である可能性は高いと考えられる。春日真実［1995］は古代の集落をＡ～Ｆ類に分類し、それぞれの性格づけを行っている。蕪木遺跡はＢ類の官衙関連遺跡、もしくはＣ類の官衙とは直接関連しない有力者の居宅とに該当し、調査状況の分析と合致する。



第43図　身舎面積の比較

No.	所在地	遺跡名	遺構名	建物分類（各報告書記載）	梁間×桁行+廂	身舎面積（㎡）	総面積（㎡）	時期	備考
90	村上市	西部遺跡	SB1400	梁間一間型	1間×5間+4面廂	61.6	145.9	9世紀末～10世紀中葉	身舎面積は図上復元
95	村上市	西部遺跡	SB1500	梁間一間型	1間×7間+4面廂	93.0	250.6	9世紀末～10世紀中葉	身舎面積は図上復元
82	村上市	西部遺跡	SB1683	総柱建物	2間×3間	37.3	37.3	9世紀末～10世紀中葉	
86	村上市	西部遺跡	SB2020	梁間一間型	1間×3間+4面廂	44.5	97.9	9世紀末～10世紀中葉	身舎面積は図上復元
74	村上市	西部遺跡	SB2100	梁間一間型	1間×4間	32.5	32.5	9世紀末～10世紀中葉	
23	村上市	西部遺跡	SB3050	梁間一間型	1間×2間	15.0	15.0	9世紀中葉	
11	村上市	西部遺跡	SB3100	梁間一間型	1間×2間	8.9	8.9	9世紀中葉	
58	村上市	中曽根遺跡	SB13	側柱式	2間×3間	26.1	26.1	9世紀代	
84	村上市	鴨侍遺跡	3号建物		3間×4間	43.5	55.0	9世紀第2四半世紀～中葉	14Cでは8世紀第3四半世紀
19	村上市	鴨侍遺跡	4号建物		2間×3間+4面廂	12.2	36.0	9世紀第2四半世紀～中葉	14Cでは8世紀第4四半世紀
52	村上市	鴨侍遺跡	5号建物	総柱建物	2間×3間	25.2	25.2	9世紀第2四半世紀～中葉	
94	村上市	鴨侍遺跡	6号建物		3間×7間+1面廂	87.4	109.2	9世紀第2四半世紀～中葉	14Cでは6世紀第4四半期
60	村上市	鴨侍遺跡	7号建物			27.0	27.0	9世紀第2四半世紀～中葉	
1	村上市	鴨侍遺跡	8号建物		1間×1間	3.3	3.3	9世紀第2四半世紀～中葉	
65	村上市	鴨侍遺跡	9号建物		2間×3間	28.1	28.1	9世紀第3四半世紀	
51	胎内市	船戸桜田遺跡2次	1号		2間×2間	24.8	24.8	9世紀後半	
9	胎内市	船戸桜田遺跡2次	2号		2間×2間	7.8	7.8	9世紀後半	
76	胎内市	船戸桜田遺跡2次	3号	総柱建物	2間×3間+1面廂	32.6	42.0	9世紀後半	身舎面積は図上復元
72	胎内市	船戸桜田遺跡2次	5号		2間×4間+1面廂	32.0	45.0	9世紀後半	総面積は図上復元
10	新発田市	蔵ノ坪遺跡	SB1A		2間×3間※	8.4	12.9	8世紀後葉～9世紀前葉	身舎面積は図上復元　※2間×2間+1面廂
13	新発田市	蔵ノ坪遺跡	SB1B		2間×3間※	9.6	13.4	8世紀後葉～9世紀前葉	身舎面積は図上復元　※2間×2間+1面廂
85	新発田市	蔵ノ坪遺跡	SB2		2間×4間※	44.0	47.4	9世紀中葉～後葉	身舎面積は図上復元　※2間×4間+部分廂
55	新発田市	蔵ノ坪遺跡	SB3	側柱建物	2間×2間	25.4	25.4	9世紀中葉～後葉	
39	新発田市	蔵ノ坪遺跡	SB5	総柱建物	2間×3間※	20.2	24.0	9世紀中葉～後葉	身舎面積は図上復元　※2間×2間+1面廂
49	新発田市	蔵ノ坪遺跡	SB7	側柱建物	2間×2間	24.2	24.2	9世紀中葉～後葉	
77	新発田市	蔵ノ坪遺跡	SB8		2間×3間※	33.1	33.4	9世紀中葉～後葉	身舎面積は図上復元　※3間×2間+部分廂
81	新発田市	蔵ノ坪遺跡	SB9		1間×2間	35.9	35.9	9世紀中葉～後葉	
67	新発田市	蔵ノ坪遺跡	SB10	側柱建物	2間×3間	29.2	29.2	9世紀中葉～後葉	
30	新発田市	蔵ノ坪遺跡	SB11	側柱建物	2間×2間	16.7	16.7	9世紀中葉～後葉	
31	新発田市	蔵ノ坪遺跡	SB12	側柱建物	2間×2間	16.7	16.7	9世紀中葉～後葉	
48	新発田市	蔵ノ坪遺跡	SB15	側柱建物	2間×2間	23.5	23.5	9世紀中葉～後葉	
35	新発田市	蔵ノ坪遺跡	SB16	側柱建物	2間×2間	19.2	19.2	9世紀中葉～後葉	
80	新発田市	桑ノ口遺跡	建物5	総柱建物	2間×3間+4面縁	34.7	74.1	9世紀後半～10世紀前半	身舎面積は図上復元
78	新発田市	桑ノ口遺跡	建物6		2間×4間	33.3	33.3	9世紀後半～10世紀前半	
21	新発田市	桑ノ口遺跡	建物7	総柱建物	2間×2間	14.9	14.9	9世紀後半～10世紀前半	
24	新発田市	荒神裏B遺跡	掘立柱建物10	側柱建物	2間×4間片面廂	15.2	42.8	9世紀第1四半期～	2間×3間両面廂の可能性もあり
47	新発田市	荒神裏B遺跡	掘立柱建物11	側柱建物	2間×3間	23.4	23.4	9世紀第2四半期～第3四半期	
44	新発田市	荒神裏B遺跡	掘立柱建物12	総柱建物	2間×2間	21.4	21.4	9世紀第2四半期～第3四半期	
42	新発田市	荒神裏B遺跡	掘立柱建物13	側柱建物	2間×3間片面廂	21.1	21.1	9世紀第2四半期～第3四半期	
79	新発田市	荒神裏B遺跡	掘立柱建物14	側柱建物	2間×3間+3面廂	33.6	55.1	9世紀第2四半期～第3四半期	身舎面積は図上復元
27	新発田市	荒神裏B遺跡	掘立柱建物15	側柱建物	1間×2間	15.7	15.7	9世紀第2四半期～第3四半期	
26	新発田市	荒神裏B遺跡	掘立柱建物16	総柱建物	2間×2間	15.3	15.3	9世紀第2四半期～第3四半期	
41	新発田市	荒神裏B遺跡	掘立柱建物17	側柱建物	2間×2間片面廂	21.1	26.6	9世紀第2四半期～第3四半期	
66	新発田市	坂ノ沢C遺跡	3号		2間×3間	29.1	29.1	9世紀後葉～10世紀初頭	
45	新発田市	坂ノ沢C遺跡	4号		2間×2間	23.0	23.0	9世紀後葉～10世紀初頭	
62	新発田市	坂ノ沢C遺跡	5号		2間×3間+2面廂	27.4	49.7	9世紀後葉～10世紀初頭	身舎面積は図上復元
25	新発田市	坂ノ沢C遺跡	10号		1間×2間	15.2	15.2	9世紀中葉～後半	
22	新発田市	坂ノ沢C遺跡	11号		1間×2間	14.9	14.9	9世紀後葉～10世紀初頭	
8	新発田市	坂ノ沢C遺跡	12号		1間×2間	7.6	7.6	9世紀後葉～10世紀初頭	
16	新発田市	曽根遺跡	59P12・17		2間×2間	11.6	11.6	8世紀第2四半期～9世紀後半	
17	新発田市	曽根遺跡	59P12・17		2間×2間+部分廂	11.6	11.6	8世紀第2四半期～9世紀後半	
18	新発田市	曽根遺跡	59P17		2間×2間+部分廂	11.6	11.6	8世紀第2四半期～9世紀後半	
75	新発田市	曽根遺跡	64M13		2間×3間	32.5	32.5	8世紀第2四半期～9世紀後半	
40	新発田市	曽根遺跡	5号棟		2間×2間	21.0	21.0	8世紀第2四半期～9世紀後半	
63	新発田市	曽根遺跡	6号棟		2間×2間	27.5	27.5	8世紀第2四半期～9世紀後半	
68	新発田市	曽根遺跡	7号棟		2間×2間	31.0	31.0	8世紀第2四半期～9世紀後半	
33	新発田市	曽根遺跡	10号棟		2間×2間	17.6	17.6	8世紀第2四半期～9世紀後半	
69	新発田市	曽根遺跡	12号棟		2間×3間	31.2	31.2	8世紀第2四半期～9世紀後半	
57	新発田市	曽根遺跡	14号棟		1間×2間?	26.0	26.0	8世紀第2四半期～9世紀後半	
61	新発田市	曽根遺跡	15号棟		2間×3間	27.1	27.1	8世紀第2四半期～9世紀後半	
83	新発田市	曽根遺跡	16号棟		2間×3間	43.1	43.1	8世紀第2四半期～9世紀後半	
50	新発田市	曽根遺跡	17号棟		2間×2間	24.3	24.3	8世紀第2四半期～9世紀後半	
46	新発田市	曽根遺跡	18号棟		2間×2間	23.3	23.3	8世紀第2四半期～9世紀後半	
38	新発田市	曽根遺跡	19号棟		2間×2間	20.0	20.0	8世紀第2四半期～9世紀後半	
54	新発田市	曽根遺跡	20号棟		2間×3間	25.3	25.3	8世紀第2四半期～9世紀後半	
88	新発田市	曽根遺跡	21号棟		2間×4間	58.9	58.9	8世紀第2四半期～9世紀後半	
36	新発田市	曽根遺跡	22号棟		2間×2間	19.6	19.6	8世紀第2四半期～9世紀後半	
34	新発田市	曽根遺跡	23号棟		2間×3間	18.5	18.5	8世紀第2四半期～9世紀後半	
53	新発田市	曽根遺跡	24号棟		2間×4間	25.2	25.2	8世紀第2四半期～9世紀後半	
64	聖籠町	山三賀Ⅱ遺跡	SB100		2間×3間	27.9	27.9	9世紀第2四半期～第3四半期	
92	聖籠町	山三賀Ⅱ遺跡	SB570		2間×4間	71.0	71.0	9世紀第2四半期～第3四半期	
71	聖籠町	山三賀Ⅱ遺跡	SB730		2間×3間	31.8	31.8	9世紀第2四半期～第3四半期	
89	聖籠町	山三賀Ⅱ遺跡	SB790		2間×4間	61.0	61.0	9世紀第2四半期～第3四半期	
70	聖籠町	山三賀Ⅱ遺跡	SB870		2間×3間+1面廂	31.4	37.2	9世紀第2四半期～第3四半期	身舎面積は図上復元
59	聖籠町	山三賀Ⅱ遺跡	SB1161		2間×3間	26.2	26.2	9世紀第2四半期～第3四半期	
56	聖籠町	山三賀Ⅱ遺跡	SB1199		2間×3間	25.9	25.9	9世紀第2四半期～第3四半期?	SB1161と主軸同じ
87	聖籠町	山三賀Ⅱ遺跡	SB1229		2間×4間+1面廂	47.8	66.0	9世紀第2四半期～第3四半期	身舎面積は図上復元
73	阿賀野市	壱本杉遺跡	SB1	総柱式	2間×3間	32.3	32.3	9世紀後半	身舎面積は図上復元　時期は[春日ほか2004]より
91	**阿賀野市**	**蕪木遺跡**	**SB1**	**総柱建物**	**4間×6間+4面廂**	**66.1**	**142.6**	**9世紀第3四半期**	
93	**阿賀野市**	**蕪木遺跡**	**SB2**	**梁間一間型**	**1間×6間**	**81.7**	**81.7**	**9世紀中葉**	
28	**阿賀野市**	**蕪木遺跡**	**SB3**	**梁間一間型**	**2間×2間**	**16.2**	**16.2**	**9世紀中葉**	
29	阿賀野市	村下遺跡	SB1		1間×3間	16.6	16.6	8世紀第2四半期～9世紀第1四半期	
4	阿賀野市	村下遺跡	SB2		1間×2間	6.5	6.5	8世紀第2四半期～9世紀第1四半期	
32	阿賀野市	村下遺跡	SB3		1間×3間	16.9	16..9	8世紀第2四半期～9世紀第1四半期	
6	阿賀野市	村下遺跡	SB4		2間×2間	6.6	6.6	8世紀第2四半期～9世紀第1四半期	
3	阿賀野市	村下遺跡	SB5		2間×4間	5.6	5.6	8世紀第2四半期～9世紀第1四半期	
20	阿賀野市	村下遺跡	SB6		1間×2間	12.2	12.2	8世紀第2四半期～9世紀第1四半期	
14	阿賀野市	村下遺跡	SB7		1間×1間	9.9	9.9	8世紀第2四半期～9世紀第1四半期	
43	阿賀野市	村下遺跡	SB8		1間×2間	21.2	21.2	8世紀第2四半期～9世紀第1四半期	
37	阿賀野市	村下遺跡	SB9		1間×2間	19.6	19.6	8世紀第2四半期～9世紀第1四半期	
7	阿賀野市	村下遺跡	SB10		1間×1間	6.7	6.7	8世紀第2四半期～9世紀第1四半期	
15	阿賀野市	村下遺跡	SB11		1間×1間	10.4	10.4	8世紀第2四半期～9世紀第1四半期	
2	阿賀野市	村下遺跡	SB12		1間×1間	5.1	5.1	8世紀第2四半期～9世紀第1四半期	
5	阿賀野市	村下遺跡	SB13		1間×4間+1面廂	6.5	6.5	8世紀第2四半期～9世紀第1四半期	
12	阿賀野市	村下遺跡	SB14		1間×1間	9.0	9.0	8世紀第2四半期～9世紀第1四半期	

第７表　阿賀野川以北の主な古代掘立柱建物一覧表

また、そのような視点で捉えた場合、旧河道の自然堤防上に立地していることは注目に値する。古代において内水面交通が重要であったことは既に多くの指摘がなされており[坂井 1996、鶴巻 2007・2015 など]、旧河道蛇行部右岸に位置するこの地は内水面交通の要衝であったと思われる。

3 遺 跡 の 評 価

蕪木遺跡は海岸から約 20km の越後平野東部にあり、平野を南東から北西に流れる阿賀野川の右岸沖積地上に所在している。遺跡付近には阿賀野川及びその支流の河道跡が多く残り、蕪木遺跡も内陸側にある旧河道の右岸自然堤防上（遺構検出面で標高 10.4 ～ 9.4m）に立地している。本調査で河道跡を検出していないが、遺跡の中心時期である古代には、この河道が流路として機能していたことが阿賀野市庚塚遺跡［佐藤ほか 2009］の調査成果から判断できる。

出土した遺物は古墳時代・古代・中世・近世と近・現代であるが、大多数は古代で、古墳時代は土師器 1 点、中世は土器・陶磁器 8 点、近世～近・現代の陶磁器約 300 点である。第 38 ～ 40 図で整理した遺構も古代以外では少なく、古墳時代で未検出、中世～近世は井戸 1・火葬土坑 1・土坑 12・道路状遺構 1・柵 1・性格不明遺構 6・ピット 28、近・現代は土坑 6・溝 21・性格不明遺構 4 である。以下、時代ごとに前述までの要点を記し、遺跡の評価としたい。

近・現代の検出遺構は主に溝である。土地更正図をみると、調査区が桑畑と一部水田であったことがわかる。検出した溝の幾つかは更正図の土地区画と重なることから、これらについては 1919（大正 8）年の開墾助成法公布以前の区画沿いに設けた水路などといったものが考えられる。また、Ⅰ－C 区、Ⅰ－D 区にある幅 6m 前後の幅広の溝 SD435 は水田と表記されている部分と重なり、検出面から約 30cm 掘り込んで造成していることから掘込田[能登前掲]と考えられる。更正図での水田表記は標高の低いグリッド M ～ O ライン以北にみられ、SD435 同様、南北方向に長い辺をとる方形で区画される場合が多く、以南にみる東西方向に長い辺をとる区画と対照的である。導水の管理がままならない地区環境でグリッド M ～ O ライン以南の微高地は乾燥に強い桑栽培を、以南では低地の湧水や雨水を溜めた掘込田を併用した稲作が行われたのであろう。なお、掘込田造成に伴う掘削土は隣接の畑地嵩上げに利用したことが推測される。

中世～近世のうち、中世の時期については出土遺物や放射性炭素年代測定から 13 世紀～ 15 世紀の幅がある。遺構の分布はグリッド P ライン以南で、前記の近・現代で示した東西方向に長い辺をとる区画が集まる微高地上である。おおむね東西、南北方向に走る溝と井戸・火葬土坑などを検出している。このうち中世に帰属するものは井戸と火葬土坑で、ほかは中世～近世の幅を持たせている。建物は検出していないが、水溜に曲物側板を敷設した井戸 SE225 は調査区西端での検出で、調査区外の西側に井戸に伴う建物やそれが集合した集落の存在が想定される。また、井戸から北東方向約 20m には焼けたヒトの四肢骨が出土した（第Ⅵ章 2）火葬土坑 SK206 が存在する。燃料材の放射性炭素年代測定から 13 世紀末～ 15 世紀初めが得られており、前述の井戸出土の漆器椀（ケヤキ：13 世紀後半～ 14 世紀末）やそのほかの出土遺物の年代観よりも若干新しく位置づけた場合は、集落廃絶後の土地利用として興味深い。仮に 13 世紀代に併存していたとしても、火葬土坑の位置は集落の外れにあたる可能性が高い。検出遺構の多数を占める溝の多くは、中世と限定できない遺構である。断面観察から同時に機能していた溝も多く、近代の更正図の区画に重複するものもあることから、前時代の生産域に関連する水路とも考えられるが、グリッド S ～ X 間に分布する多数のピットや土坑、そして SD1309 沿いの柵 SA1581 の存在を重視するなら、屋

敷地の区画や道路の側溝などといった性格も想定される。これらについては調査区周辺の調査を待って結論づける課題である。

遺跡の主体である古代は、遺物から 9 世紀代に収まる。第 38 図で古代として整理した遺構は、グリッド M ～ R を中心に一部グリッド X・Y に分布する。前述の更正図の東西を長軸とする区画で構成する範囲にあたり、中世～近世同様、微高地上に収まる。この微高地上に存在する現農道（Ⅱ-A 区とⅡ-B 区境）付近の標高が遺構検出面で 10.4m と最も高く、旧河道に向かう南端は約 50cm 減、反対の北側低地（Ⅰ-C 区付近）は 1m 減の標高 9.4m である。これらの高低差は下層に堆積する河川起源の砂礫の標高からも追える（図版 14）。前述のとおり調査区のほぼ全域で遺物包含層を含めた表層の削平がみられることを考慮すれば、調査区内における当時の地表の標高差は、現状よりも大きかったと想定される。遺構は掘立柱建物 5・土坑 23・溝 5・ピット 172 で、このうち建物は北側の低地からの駆け上がり、微高地頂部手前の北緩斜面に集中し、検出状況から建物分布はさらに調査区外の東･西方向に延びるものと思われる。また、調査区南側の 8・9YZ において、柱穴掘方平面が方形で明瞭な柱痕を持つピットが数基まとまっている。この地区はちょうど微高地頂部にあたり、ほかの古代遺構も比較的集中し遺物も多い。建物を復元できなかったが、柱穴の規模や並びから SB1・2 よりかなり小型の建物が、SB1 の軸線と近い形で建っていた可能性があり、古代遺跡の遺構配置や、性格を考えるうえでの課題となる。検出した建物は主軸方向や切合い関係から SB2・3・4 → SB1・5 の変遷を想定している。このうち SB1 は雨落溝 SD32 出土土器から 9 世紀第 3 四半期と考えられ、重複する地震噴砂の磁化研究による時期設定とおおむね整合する（第Ⅵ章 5）。建物全体がわかる SB1・2 の面積は、官衙関連を推測させる大きさである。また、井戸が未検出なことは、共同使用の堅牢な井戸が調査区外の近くに存在することを想像させ、一般村落との違いともみることができる。遺物についても両面黒色の土器や一般集落でみることがない稀少な耳皿(78)・アスファルト塊（150）の出土が注目される。耳皿は SB1・2 を切る SD23 出土で、埋土の特徴から中世～近世の遺構としたが（第 39 図）、位置的関係から SB1 ないし SB2 に伴った遺物と考えたほうがよさそうである。アスファルト塊（第Ⅵ章 4 黒褐色固形物）は SB1-P63A・B に切られる P114 柱痕部からの出土を示し、蕪木遺跡古代遺構の中でも古く位置づけられる。古代の文献では 668（天智 7）年「越国が燃える土と燃える水を献上」『日本書紀 27 巻』とあり、越後の中世～近代には灯明用の油として使用されたことが知られている［田中 2000］。しかし、蕪木遺跡出土品中にはアスファルト付着や使用痕跡を示すものがなく、使いみちは不明で、これについても課題といえる。一方、建物自体を細かくみると、両建物とも柱筋が直線上に通らず（チドリか）、柱の掘方平面の向きは不規則、柱穴径にもばらつきがある。そして、SB1 の雨落溝（SD32）からは土師器椀を中心に比較的多くの遺物が出土したが、飯村　均のいう宴会後の廃棄行為［飯村 2008］を想起させるほどの量でなく、器種の偏りも明確でない。ひいき目にみてもこの建物で公の活動を頻繁に行ったとは考えづらい。

以上、立地・遺構・遺物についてみてきたが、蕪木遺跡を代表する大型建物群は、その規模や稀少遺物の出土から一般農村集落の建物とは考えにくく、ある程度の社会的地位を持つ有力者の造営によるものと推定される。建物の時期である 9 世紀中葉～後葉は、郡衙経営の衰退前なので［山中 1994］、造営には郡の関与も否定できない。しかし、遺物やその出土状況からは、郡としての公な活動内容を推し量ることができなかった。また、遺物の器種組成では土師器椀が多いものの煮炊具や貯蔵具も定量存在し、極端な偏りはみられない。この状況からは建物や建物群が限定された機能に特化した施設とは想定できず、公の施設というよりは、居宅と考えたほうがよさそうである。

引用・参考文献

相田泰臣　2004　「資料編　第Ⅱ章沼垂郡（54）上土地亀遺跡」『越後阿賀北地域の古代土器様相』　新潟古代土器研究会

青木　学ほか 2006　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 168 集　中曽根遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史・石丸和正・猪狩俊哉ほか　2004　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 93 集　青田遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史・加藤　学　1999　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 93 集　和泉 A 遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史ほか 2006　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 153 集　大坪遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史　2011　「山口遺跡Ⅱ」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報　平成 22 年度』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史ほか 2012　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 232 集　境塚遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

飯坂盛泰ほか 2002　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 115 集　蔵ノ坪遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

飯村　均　2008　「土器の系譜－中世土器様式を準備したもの－」『東北学』第 16 号　東北芸術工科大学東北文化研究センター　柏書房

家田順一郎ほか 1981『豊浦町文化財報告三　曽根遺跡Ⅰ』　新潟県豊浦町教育委員会

家田順一郎ほか 1982『豊浦町文化財報告四　曽根遺跡Ⅱ』　新潟県豊浦町教育委員会

石垣義則　2012　「中世の火葬土坑について－新潟県及び東北地方を中心に－」『新潟考古』第 23 号　新潟県考古学会

石川智紀ほか 2001　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 103 集　新保遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

石川日出志ほか 1981『安田町文化財調査報告 5　横峯 A 遺跡　横峯 B 遺跡』　新潟県安田町教育委員会

潮田憲幸　2014　「第Ⅶ章総括　第 3 節まとめ　1）遺跡の立地について」『細池寺道上遺跡Ⅱ　第 25 次調査』　新潟県新潟市教育委員会

浦部頼之　2001　「第Ⅱ章 B. 阿賀野川流路の変遷」『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 99 集　堀越館跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

大矢雅彦・加藤泰彦　1984　『阿賀野川水害地形分類図　説明書』　建設省北陸地方建設局・阿賀野川工事事務所

春日真実　1995　「古代集落の展開－越後を事例として－」『研究紀要』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

春日真実　2004a　「報告編　第Ⅰ章　阿賀北地域の環境」『越後阿賀北地域の古代土器様相』　新潟古代土器研究会

春日真実　2004b　「資料編　第Ⅱ章　沼垂郡（58）横峯 B 遺跡」『越後阿賀北地域の古代土器様相』　新潟古代土器研究会

春日真実　2004c　「資料編　第Ⅱ章　沼垂郡（34）五輪敷沢窯跡」『越後阿賀北地域の古代土器様相』　新潟古代土器研究会

春日真実　2006　「古代越後の集団と地域」『日本海域歴史大系　第二巻　古代篇Ⅱ』　清文堂

春日真実　2009　「越後における古代掘立柱建物」『新潟県の考古学Ⅱ』　新潟県考古学会

春日真実　2017　「古代蒲原郡の施釉陶磁器」『郷土史燕』　第 10 号

春日真実編　2004　『越後阿賀北地域の古代土器様相』　新潟古代土器研究会

（財）河川環境管理財団　1998　『河道変遷特性に関する研究』

加藤　学ほか 2010　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 223 集 村前東 A 遺跡・村前東 B 遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
加藤　学　2010　「柄目木遺跡Ⅱ」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成 21 年度』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
加藤　学ほか 2013　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 237 集 柄目木遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
川上貞雄ほか 1977　『水原町文化財調査報告 6 水原城館址及水原代官所址発掘調査報告書』 新潟県水原町教育委員会
川上貞雄　1989　『笹神村文化財調査報告 7 小曽根遺跡発掘調査報告書』 新潟県笹神村教育委員会
川上貞雄ほか 1991　『笹神村文化財調査報告 8 発久遺跡』 新潟県笹神村教育委員会
川上貞雄　1997　『豊浦町文化財報告 6 曽根遺跡Ⅲ』 新潟県豊浦町教育委員会
川上貞雄　1999a　『笹神村文化財調査報告 9 前田遺跡 壱本杉遺跡』 新潟県笹神村教育委員会
川上貞雄　1999b　『豊浦町文化財調査報告 7 志村山須恵窯址』 新潟県豊浦町教育委員会
川上貞雄　2002　『笹神村文化財調査報告 13 腰廻遺跡』 新潟県笹神村教育委員会
川上貞雄　2003　「福島潟周辺の遺跡から」『五頭郷土文化』第 51 号
川畑　誠　1995　「石川県内の古代建物に関する基礎的考察－掘立柱建物の平面プランを中心にして－」『社団法人 石川県埋蔵文化財保存協会年報』6
建設省北陸地方建設局・阿賀野川工事事務所　1988　『阿賀野川史－改修 60 年のあゆみ－』
小池義人ほか 1994　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 59 集 細池遺跡 寺道上遺跡』 新潟県教育委員会
国土交通省北陸地方整備局・国土地理院　2004　『古地理で探る越後の変遷－荒川・阿賀野川・関川・姫川－』
五頭山のおいたち編集委員会　1984　『五頭山のおいたち』 新潟日報事業社
小林昌二　1999　「3 章 1 節 国郡制の施行」『村上市史 通史編 1 原始・古代・中世』 新潟県村上市
小林昌二　2010　「古代越後の蒲原・沼垂郡－新潟市西区の四十石遺跡にふれて－」『新潟史学』第 63 号
小林　弘　2004　「報告編 第Ⅲ章沼垂郡の土器様相 3 五頭山麓窯跡群」『越後阿賀北地域の古代土器様相』 新潟古代土器研究会
小山正忠・竹原秀雄　1998　『新版標準土色帖』 日本色研事業株式会社
坂井秀弥ほか 1989　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 53 集 山三賀Ⅱ遺跡』 建設省新潟国道工事事務所・新潟県教育委員会
坂井秀弥　1991　「佐渡の須恵器」『新潟考古』第 2 号
坂井秀弥　1996　「水辺の古代官衙遺跡－越後平野の内水面・舟運・漁業－」『越と古代の北陸－古代王権と交流 3－』 名著出版
坂井秀弥　2005　「国府と郡家」『列島の古代史ひと・もの・こと 3 社会集団と政治組織』 岩波書店
狭川真一　2011　「第Ⅱ部 火葬の受容と展開 第 3 節 火葬土坑の検討」『中世墓の考古学』 高志書院
笹神村　2004　『笹神村史』通史編 新潟県笹神村
笹神村　2003　『笹神村史』資料編一 原始・古代・中世 新潟県笹神村
笹神村　2002　『笹神村史』資料編五 自然 新潟県笹神村
笹沢正史　2004　「報告編 第Ⅳ章 各論 1 須恵器生産の概要」『越後阿賀北地域の古代土器様相』 新潟古代土器研究会
佐藤友子ほか 2009　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 203 集 庚塚遺跡 狐塚遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
佐藤友子ほか 2010　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 216 集 柄目木遺跡Ⅰ』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
佐藤友子　2015　「一般国道 49 号阿賀野バイパス関係」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 260 集 平成 26 年度県内遺跡試掘・確認調査』 新潟県教育委員会
塩入亮乗　1999　「きたまくら 北枕」『日本仏教史辞典』今泉淑夫編 吉川弘文館

水原町史編さん委員会　1982 『水原町編年史』第三巻　新潟県水原町役場
水原町史編さん委員会　1984 『水原町編年史』第四巻　新潟県水原町役場
水原町史編さん委員会　1986 『水原町編年史』第五巻　新潟県水原町役場
菅　豊　2003 「「水辺」の開拓史－近世中期における掘り上げ水田工法の発展とその要因－」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 105 集
鈴木郁夫　1993 「阿賀野川右岸の沖積面に残る旧流路」『続・新潟のすぐれた自然 地形・地質編』 新潟県環境保健部 環境保全課
鈴木郁夫ほか 1975 『下越開発地域土地分類基本調査 新津』 新潟県
鈴木俊成　2013 「越後国の官衙と関連遺跡－村上市西部遺跡の工房群を中心に－」『古代東国の考古学① 東国の古代官衙』 高志書院
鈴木正崇　2005 「来世観」『民俗小事典 死と葬送』新谷尚紀・関まゆみ編　吉川弘文館
巣本村史編集委員会　1973 『巣本村史』 新潟県巣本村
関　雅之ほか 1993 『上土地亀遺跡』 新潟県豊栄市教育委員会
高橋保雄ほか 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 172 集 鴨深甲遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
高橋保雄ほか 2010 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 215 集 山口遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
田中一穂　2005 「古代の沼垂郡に関する一試論」『環日本海歴史民俗学叢書 12 古代の越後と佐渡』 高志書院
田中耕作　2000 「古代におけるアスファルトの利用」『石油技術協会誌』第 65 巻 第 4 号
鶴巻康志　2003 『新発田市埋蔵文化財調査報告 第 27 桑ノ口遺跡』 新潟県新発田市教育委員会
鶴巻康志　2007 「新潟県における古代・中世の刳舟について」『新潟考古学談話会』第 33 号
鶴巻康志　2015 「新潟平野の潟に面した古代集落－新潟県曽根遺跡－」『入り海の記憶－知られざる出雲の面影－』 島根県立古代出雲歴史博物館
中川成夫・倉田芳郎　1962 『豊浦村文化財報告一 新潟県北蒲原郡における二窯址の調査』 新潟県豊浦村教育委員会
中川成夫ほか 1973 『笹神村文化財調査報告 4 狼沢窯址群の調査』 新潟県笹神村教育委員会
中野豈任　1968 「白河庄の中世鉱業と修験」『新潟史学』 創刊号
楢崎修一郎　2007 「群馬県出土中世火葬遺構」『研究紀要 25』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
楢崎修一郎　2008 「群馬県中世火葬遺構出土火葬人骨」『研究紀要 26』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
新潟県　1986 『新潟県史 通史編 1 原始・古代』
新潟県教育委員会　1970 『新潟県文化財調査年報 第十 水原郷』
新潟県考古学会編　1999 『新潟県の考古学』 高志書院
新潟市歴史文化課歴史資料整備室　2014 「更正図の歴史と保存・活用－横越公文書分類センターの紹介－」『新潟市歴史資料だより』第 19 号
能登　健　1996 「中・近世の農業」『考古学による日本歴史 2 産業Ⅰ 狩猟・漁業・農業』 雄山閣
橋本直子　2005 「地籍図」『郷土史大辞典（下）』歴史学会編 朝倉書店
原田享二　1994 「Ⅲ火葬施設について」『大菅並木Ⅱ・名古屋三ツ矢発掘調査報告書』 下総町教育委員会
平川　南　2005 「古代越後国の磐船郡と沼垂郡」『環日本海歴史民俗学叢書 12 古代の越後と佐渡』 高志書院
古澤妥史　2002 『京ヶ瀬村埋蔵文化財発掘調査報告書 第 1 集 町道上遺跡発掘調査報告書』 新潟県京ヶ瀬村教育委員会
古澤妥史ほか 2004 『京ヶ瀬村埋蔵文化財発掘調査報告書 第 3 集 村下遺跡』 新潟県京ヶ瀬村教育委員会
古澤妥史　2005 『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書 第 1 集 土居内西遺跡』 新潟県阿賀野市教育委員会
古澤妥史　2012 「阿賀野市内の古代遺跡」『平成 24 年度 越後国域確定 1300 年記念事業 記録集』 新潟県教育委員会
古澤妥史ほか 2014 『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書 第 8 集 下福岡遺跡』 新潟県阿賀野市教育委員会

古澤妥史　2014　『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書 第９集 柄目木遺跡』 新潟県阿賀野市教育委員会
本間信昭ほか 1973　『下金田遺跡』 新潟県水原町立水原博物館
満日郷土史編纂委員会　1977 『満日郷土史』 新潟県満日村
水澤幸一・吉村光彦　2001 『中条町埋蔵文化財調査報告 第 22 集 船戸桜田遺跡２次』 新潟県中条町教育委員会
村上章久ほか 2013　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 248 集 山口野中遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
安田町　1997　『安田町史』近世編一　新潟県安田町
簗瀬裕一　2009　「第２部 東日本編 房総の中世墓」『日本の中世墓』狭川真一編　高志書院
山口精一　1997　「第一章 第一節 社会組織 四 ムラの葬儀」『安田町史』民俗編 新潟県安田町
山中敏史　1994　『古代地方官衙遺跡の研究』 塙書房
山元孝広　2003　「東北日本，沼沢火山の形成史：噴出物層序，噴出年代及びマグマ噴出量の再検討」『地質調査研究報告』第 54 巻 第 9/10 号
山本信夫　2000　『大宰府条坊跡ⅩⅤ－陶磁器分類編－』 太宰府市教育委員会
湯原勝美ほか 2010　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 206 集 西部遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
吉井雅勇　2002　『荒川町埋蔵文化財調査報告 第８集 鴨侍遺跡』 新潟県荒川町教育委員会
吉岡康暢　1994　『中世須恵器の研究』 吉川弘文館
吉澤　悟　2013　「火葬土坑・火葬場」『事典 墓の考古学』土生田純之編　吉川弘文館
吉田東伍編　1902　「北蒲原郡」『増補 大日本地名辞書』第五巻 北国・東国　冨山房
渡辺達郎ほか 2002　『笹神村文化財調査報告 14 腰廻西遺跡』 新潟県笹神村教育委員会
渡辺文男ほか 2004　『安田町文化財調査報告 14 上野林Ｊ遺跡・上野林Ｅ遺跡』 新潟県安田町教育委員会
渡邊美穂子ほか 2006 『新発田市埋蔵文化財調査報告 第 32 荒神裏Ｂ遺跡』 新潟県新発田市教育委員会
渡邊美穂子・田中耕作　2001 『新発田市埋蔵文化財調査報告 第 23-2 坂ノ沢Ｃ遺跡』 新潟県新発田市教育委員会

掘立柱建物（SB）観察表

遺構番号	型式	グリッド	梁間	桁間	梁行長	身舎梁行長（m）	梁行柱間長	梁行下屋長	桁行長（m）	身舎桁行長	桁行柱間長	桁行下屋長	長軸方向	面積（㎡）	
														身舎	全体
SB1	総柱建物	6P,5 ～ 7Q, 6・7R	4	6	北 9.78 南 9.20	6.00 ～ 5.70	3.00 ～ 2.78	2.12 ～ 1.60	西 16.0 東 15.9	10.7	3.06 ～ 2.52	2.52 ～ 1.82	N-49° -W	66.09	142.56
SB2	梁間一間型建物	5・6P,6・7Q	1	6	北 5.38 南 5.96	5.96 ～ 5.38	5.96 ～ 5.38	－	西 14.0 東 14.3	14.3 ～ 14.0	2.487 ～ 2.10	－	N-34° -W	81.67	81.67
SB3	梁間一間型建物	7R	2	2	西 2.75 東 2.74	2.75 ～ 2.74	1.64 ～ 1.16	－	北 5.64 南 5.56	5.64 ～ 5.56	2.86 ～ 2.74	－	N-44° -E	16.16	16.16
SB4	梁間一間型?	5・6R		3	－	－	－	－	8.66	8.66	2.84 ～ 2.96	－	N-44° -W	－	－
SB5	梁間一間型?	5・6R・6S		3	－	－	－	－	8.32	8.66	2.68 ～ 2.88	－	N-49° -W	－	－

SB1 柱穴（P）観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積形状	埋土色調分類	出土遺物	切り合い
			掘方上端長径	掘方上端短径	深度	柱痕上端長径					
48B	7R7・8	Ⅳ	56	53	50	(33)	9.616	E	A	1層：土師器片3	<P48A
49A	7R3・4	Ⅳ	(67)	(60)	38	(33)	9.621	E	A	2層：土師器片2／1層：土師器鍋（実測）1	>SB3（P187） <SD22, P49B
51	6R15・20	Ⅳ	71	70	67	34	9.468	E	A	1層：須恵器無台杯片1、土師器片24、黒色土器片1	>P176
52	6R10・15,7R6・11	Ⅳ	82	80	77	40	9.334	E	A	1層：須恵器杯片2、土師器片14、黒色土器片3	－
53	7R1・2・6・7	Ⅳ	97	60	57	34	9.463	E	A	1層：椀を含む土師器片6	－
54	7Q22・23,7R2・3	Ⅳ	110	90	70	45	9.330	E	A	2層：土師器片3、鉄滓（実測）1／1層：杯を含む須恵器片3、土師器片5	>P391
55	7Q23	Ⅳ	(51)	(50)	43	(37)	9.579	E	A	1層：椀を含む土師器片5、黒色土器片1	<SD43
56	6R9・14	Ⅳ	55	52	57	(30)	9.603	E	A	2層：土師器片1／1層：土師器片4、黒色土器片1	>P426・P434
57	6R9・10	Ⅳ	(77)	(75)	60	34	9.400	E	A	2層：皿（実測）を含む土師器片12	>P172 <P169
59	7Q17	Ⅳ	62	58	41	32	9.613	E	A	1層：須恵器杯1、土師器片約15、黒色土器片1	－
60	6R3・8	Ⅳ	(70)	(45)	63	33	9.405	E	A	2層：須恵器杯片1	<SD22
61	6R3・4	Ⅳ	60	58	70	27	9.260	E	A	－	<P425
63B	6Q15・20,7Q16	Ⅳ	76	70	63	40	9.480	E	A	2層：土師器片1／1層：須恵器片2、土師器片約23、黒色土器片3	>P63A・114・430
64	7Q11	Ⅳ	(62)	(51)	(42)	(29)	9.512	E	A	2層：須恵器片1、土師器片2、黒色土器片1	<SD23
65	6R2	Ⅳ	(42)	(38)	(58)		9.363	E	A	1層：土師器片1	－
66	6Q22・23	Ⅳ	79	73	(63)	33	9.391	E	A	4層：土師器片1／1層：土師器片4、須恵器片1、黒色土器片1	>SK100
67	6Q18・19	Ⅳ	59	55	30	33	9.714	E	A	－	－
68A	6Q14・15	Ⅳ	79	77	41	42	9.57	E	A	1層：土師器片3、無台椀（実測）含む黒色土器片3	>P68B
69	6Q10	Ⅳ	48	48	36	34	9.566	E	A	－	－
70	6Q12・13	Ⅳ	61	52	25	33	9.754	E	A	－	－
71	6Q8・9	Ⅳ	71	65	60	20	9.380	E	A	2層：土師器片1／1層：土師器片10、黒色土器片1	>P118
73	6Q6・7	Ⅳ	46	44	13	22	9.814	E	A	1層：土師器片1	－
74	6Q2・3	Ⅳ	(78)	(52)	(63)	(34)	9.284	E	A	1層：土師器片1	<SD24,SX31
75	6P23	Ⅳ	57	47	55	24	9.455	E	A	－	－
80	6Q16	Ⅳ	(40)	(36)	(23)		9.182	E	A	－	<SD23
200	7R11・12	Ⅳ	44	28	38	32	9.614	E	A	1層：土師器片1	>SB3（P201), P47
230	5Q15,6Q11	Ⅳ	(68)	66	45	24	9.511	E	A	2層：土師器片1、鉄滓1	>P423
232	5Q20	Ⅳ	(68)	(62)	46	(27)	9.556	E	A	－	<SD23
358	5Q25,6Q21	Ⅳ	(77)	(66)	60	(34)	9.315	E	A	2層：土師器片2、黒色土器片1	>SK221
390	6Q19・20・24・25	Ⅳ	58	(39)	(39)	32	9.488	E	A	1層：土師器片5、黒色土器片1	>P62
422	7Q16・17・21・22	Ⅳ	(51)	(42)	(34)	(21)	9.494	E	A	2層：土師器片3／1層：土師器長胴甕（実測）1	－

SB1 雨落溝（SD）観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）				底面標高（m）	長軸方向	埋土色調分類	出土遺物	切り合い	備考
			長さ	上端幅	下端幅	深度						
21	7R4・8・9・12・13	Ⅳ	(544)	60	46	17 ～ 20	9.858 ～ 9.838	N-39° -E	A	2層：土師器片5／1層：須恵器片4、土師器片41、黒色土器有台皿（実測）1	<SD20	－
32	7Q6・7・11 ～ 13・17 ～ 19	Ⅳ	(704)	(112 ～ 48)	(70 ～ 22)	21 ～ 32	9.955 ～ 9.815	N-52° -W	A	3層：須恵器片1、土師器片3／2層：須恵器無台杯（実測）1、土師器片9、黒色土器無台椀（実測）2／1層：無台杯（実測）含む須恵器片14、椀（実測）・無台椀（実測）・無台皿（実測）・小甕（実測）・長胴甕（実測）・盤（実測）含む土師器片約150、無台椀（実測）・鉢（実測）含む黒色土器片22、砥石（実測）1	>SB2（P86), P361・362・413 <SD23	－
110	6P23・24,6Q4・5	Ⅳ	(380)	(72 ～ 54)	(48 ～ 36)	17	9.812	N-56° -W	A	層不明：黒色土器片1／2層：土師器片2／1層：須恵器片7、無台椀（実測）・椀（実測）含む土師器片8、近世陶磁器片1	>P152 <SD3・24	－

SB2 柱穴（P）観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積形状	埋土色調分類	出土遺物	切り合い
			掘方上端長径	掘方上端短径	深度	柱痕上端長径					
81	6P13・14	Ⅳ	(70)	(49)	(23)	(21)	9.471	E	A	－	<SD3,SX11
82	6P19	Ⅳ	(63)	(62)	50	(27)	9.377	E	A	1層：土師器鍋片3	<SD3
83A	6P25	Ⅳ	75	65	50	27	9.391	E	A	－	>P83B
84	6Q5,7Q1	Ⅳ	(53)	(52)	(43)	(24)	9.464	E	A	－	<SX16
85	7Q1・6	Ⅳ	(82)	75	51	27	9.522	E	A	2層：杯（実測）・壺・瓶類（実測）・横瓶含む須恵器片19、土師器片24、黒色土器片2／1層：杯（実測）含む須恵器片7、土師器片8／一括：須恵器片6、土師器片9、黒色土器片2	<SD24
86	7Q7・12	Ⅳ	(90)	(78)	(72)	(25)	9.220	E	A	2層：須恵器片2、土師器片7	<SD32
87	5P15・20,6P11・16	Ⅳ	52	42	52	21	9.468	E	A	2層：須恵器甕（実測）1、土師器片14／1層：土師器片1	－
88	6P16・21	Ⅳ	73	54	45	25	9.467	E	A	－	－
89	6Q2・7	Ⅳ	(45)	(41)	(38)	(20)	9.410	E	A	1層：須恵器無台杯（実測）1、土師器片1	<SD24
90	6Q8・13	Ⅳ	76	74	69	30	9.301	E	A	2層：土師器片1/1層：須恵器杯片1、土師器片4	－
91A	6Q14・19	Ⅳ	(62)	(48)	47	(25)	9.478	E	A	1層：須恵器片1、土師器片4	>P91B <SD23
92	6Q19・20	Ⅳ	61	50	31	27	9.535	E	A	2層：土師器片1	－
93	6P7・8	Ⅳ	(69)	(64)	(27)	(35)	9.515	E	A	－	<SX11
125	6P22,6Q2	Ⅳ	(57)	(55)	(55)	(28)	9.485	E	A	1層：土師器片2	<SX31

SB2 雨落溝（SD）観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）				底面標高（m）	主軸方向	埋土色調分類	出土遺物	切り合い	備考
			上端長さ	上端径	下端径	深度						
111	6Q13・18・19・23・24	Ⅳ	（316）	（58～40）	（42～25）	16～12	9.874～9.835	N-36°-W	A	1層：須恵器無台杯（実測）1、土師器片4	<SD23	－

SB3 柱穴（P）観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積形状	埋土色調分類	出土遺物	切り合い
			掘方上端長径	掘方上端短径	深度	柱痕上端長径					
187	7R3・4・9	Ⅳ	（73）	（60）	57	（32）	9.433	E	A	2層：須恵器片1、椀（実測）含む土師器片10／1層：土師器片7	<SB1（P49),SK1
189	7R9	Ⅳ	45	41	36	24	9.624	E	A	1層：須恵器杯片1	－
190	7R9・10	Ⅳ	54	45	60	35	9.479	E	A	3層：土師器片1／1層：須恵器片2、土師器片9	－
196	7R13	Ⅳ	28	27	16		9.814	A	A	－	－
199	7R18・23	Ⅳ	69	64	38	42	9.517	E	A	－	－
201	7R12・17	Ⅳ	（64）	（55）	64	（38）	9.364	E	A	3層：土師器片1／2層：土師器片1／1層：土師器片3	<SB1（P200),SD20 P47
202	7R17	Ⅳ	（54）	（53）	（36）	（28）	9.396	E	A	1層：須恵器杯蓋1	<SD20
205	7R14・19	Ⅳ	（40）	（40）	（24）	（30）	9.600	E	A	1層：土師器片4、黒色土器片1	<SD20

SB4 柱穴（P）観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積形状	埋土色調分類	出土遺物	切り合い
			掘方上端長径	掘方上端短径	深度	柱痕上端長径					
371	6R23	Ⅳ	（38）	（34）	34		9.656	A	A	3層：土師器片2／2層：土師器片1	<SD20
377	6R11	Ⅳ	51	44	44	20	9.565	E	A	－	－
378	6R17	Ⅳ	68	65	63	31	9.457	E	A	1層：椀（実測）含む土師器片8、須恵器片1	－
380	5R10	Ⅳ	（45）	（29）	（42）	（24）	9.657	E	A	1層：土師器片7	<SD22

SB5 柱穴（P）観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積形状	埋土色調分類	出土遺物	切り合い
			掘方上端長径	掘方上端短径	深度	柱痕上端長径					
369	6R22・23, 6S2・3	Ⅳ	60	52	40	37	9.600	E	A	1層：土師器片6	－
374	6R21・22	Ⅳ	（58）	（40）	（40）	（22）	9.518	E	A	3層：土師器片1／2層：土師器片2／1層：土師器片4	<SD20
376	5R20,6R16	Ⅳ	55	45	54	18	9.525	E	A	1層：須恵器片1	－
379	5R14・15	Ⅳ	53	50	57	25	9.516	E	A	－	－

土坑（SK）観察表（1）

遺構番号	グリッド	検出層位	形態			規模（cm）				深度	底面標高（m）	埋土堆積状況	埋土色調分類	長軸方向	出土遺物	切り合い
			平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径							
1	7R4	Ⅳ	楕円形		緩やか	70	45	42	23	12	9.958	C	C	N-9°-W	2層：土師器片1	>SB3 (P187), SD22
19	5N5	Ⅳ	円形	台形状	緩やか	90	70	62	48	12	9.726	A	A	N-28°-W	－	－
26	5P4・9	Ⅳ	楕円形	台形状	緩やか	（70）	（57）	（61）	（42）	11	9.783	A	A	N-34°-E	－	－
27	5P4・5・9・10	Ⅳ	楕円形	台形状	緩やか	（200）	（163）	（152）	（81）	12	9.825	A	A	N-6°-E	2層:土師器片1／1層:須恵器片2、小甕（実測）含む土師器片約20	<SX11
30	6P13・14・18・19	Ⅳ	楕円形	台形状	緩やか	（114）	（74）	63	49	（14）	9.507	A	B	N-82°-W	2層：土師器片1／1層：甕含む須恵器片2、土師器片6	<SD3, SX11
40	7Q7・8	Ⅳ	（楕円形）	台形状	緩やか	（168）	（108）	（120）	（92）	25	9.893	A	A	N-10°-E	1層：無台杯（実測）・甕含む須恵器片5、土師器片約48、黒色土器片2、近・現代陶磁器片1	<SD24・25
100	6Q17・18・22・23	Ⅳ	楕円形	台形状	急斜度	（138）	（90）	118	70	23	9.798	A	A	N-51°-E	1層：土師器片3	<SB1 (P66)
151	6P23・24, 6Q3	Ⅳ	（楕円形）	台形状	急斜度	（55）	（48）	（39）	（30）	（25）	9.746	A	A	N-63°-W	－	<SD3
183	6R23・24	Ⅳ	楕円形	台形状	穏やか	（70）	（52）	（60）	（40）	18	9.931	A	A	N-27°-W	1層：小甕（実測）・長胴甕（実測）含む土師器片9	－
206	8S12・13・17・18	Ⅳ	－	台形状	急斜度	（119）	（80）	（107）	（70）	（26）	9.733	A	B	N-10°-W	3・4・6・7層：人骨片	<SX42
210	5P22	Ⅳ	楕円形	台形状	緩やか	88	67	65	39	10	9.756	A	C	N-86°-E	－	>SD209
220	5P13・17・18	Ⅳ	方形	台形状	緩やか	（192）	（145）	（166）	（155）	（10）	9.748	A	A	N-51°-W	1層：有台杯（実測）・甕含む須恵器片2、土師器片3	<SK310, SD219
221	5Q25, 6Q16・21	Ⅳ	長方形	台形状	緩やか	（213）	（158）	（190）	（100）	30	9.747	A	A	N-69°-E	4層：土師器片1／3層：有台杯（実測）含む須恵器片2、土師器片9、無台椀（実測）・有台皿（実測）含む黒色土器2／2層:杯・甕含む須恵器片4、土師器片21、黒色土器片1／1層：須恵器片2、長胴甕（実測）・椀含む土師器片23、黒色土器片6,近・現代以降陶磁器片1	>SK222・385, SD224 <P358
222	5Q24・25	Ⅳ	（長方形）	台形状	緩やか	（134）	（112）	（88）	（64）	（23）	9.867	A	A	N-69°-E	2層：椀（実測）含む土師器片3、黒色土器片1 1層：須恵器杯片1、土師器片3	>SK385 <SK221
223	5Q17・18・22・23	Ⅳ	－	台形状	緩やか	（204）	（192）	（167）	（138）	（30）	9.787	A	A	N-65°-E	－	－
243	4P15, 5P6・11	Ⅳ	（方形）	－	急斜度	（197）	（184）	（117）	（102）	（53）	9.416	A	C	N-10°-E	3層：近・現代陶磁器片1／1層：甕含む須恵器片4、土師器片1、釘1、近・現代陶磁器片6	－
246	8V5・10	Ⅳ・Ⅳ'	－	台形状	急斜度	（100）	（90）	（56）	（50）	31	9.819	A	B	N-56°-E	1層：土師器片1	<SD9
248	8U19	Ⅳ・Ⅳ'	円形	半円状	急斜度	62	60	32	30	20	9.917	A	B	N-56°-E	－	－
251	8U5・10	Ⅳ・Ⅳ'	楕円形	台形状	急斜度	（94）	（70）	（74）	（56）	28	9.779	A	B	N-9°-W	1層：須恵器杯片1、土師器片2	－
267	7U24	Ⅳ	円形	台形状	急斜度	（86）	（72）	（46）	（40）	22	9.868	A	B	N-62°-E	1層：土師器片1	<SX150
301	4C3・4・8・9	Ⅳ	円形	台形状	急斜度	90	80	62	58	29	8.750	A	A	N-53°-W	－	－
310	5P13・18	Ⅳ	方形	台形状	緩やか	（125）	（117）			23	9.654	A	A	N-87°-E	2層：土師器片2／1層：杯（実測）・甕含む須恵器片9、無台椀（実測）・小甕（実測）含む土師器片19、黒色土器片1	>SK220 <SD219

土坑（SK）観察表（2）

遺構番号	グリッド	検出層位	形態			規模（cm）				深度	底面標高（m）	埋土堆積状況	埋土色調分類	長軸方向	出土遺物	切り合い
			平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径							
335	8T22	Ⅳ	円形	台形状	急斜度	58	55	(78)	(70)	15	9.918	A	A	N-49° -E	1層：須恵器片1	−
341	8T16・21	Ⅳ	楕円形	台形状	急斜度	104	80	31	27	18	9.884	A	B	N-59° -E	1層：土師器片1	<SD37
359	7T21	Ⅳ	円形	台形状		79	74	60	50	62	9.475	A	B	N-90°	4層：黒色土器片1／1層：土師器片1	−
385	5Q19・20・24・25	Ⅳ	(楕円形)	台形状	緩やか	(130)	(98)	45	32	25	9.769	A	A	N-26° -W	2層：有台杯(実測)を含む須恵器片3、椀含む土師器片12、黒色土器片1／1層：須恵器片3、土師器片約20、無台椀(実測)含む黒色土器片5	<SK221・222
394	4M18～20・23・24	Ⅳ	楕円形	台形状	緩やか	234	201	94	52	36	9.346	A	A	N-44° -E	−	>SK395
395	4M14・15・19・20	Ⅳ	楕円形	台形状	緩やか	(206)	(160)	110	107	(14)	9.621	A	A	N-44° -E	−	<SK394
398	4N19・20	Ⅳ	楕円形	台形状	急斜度	(68)	(52)	(132)	(94)	18	9.543	A	A	N-10° -W	−	<SD435
428	6T14・19	Ⅳ	−	台形状	急斜度	(78)	(42)	46	32	(45)	9.528	A	B	N-81° -W	−	<SE225
1304	9Z22・23	Ⅶ	楕円形	半円状	急斜度	74	48	(33)	(27)	34	9.498	D	B	N-28° -W	−	>SD1301
1321	8Y16・17・21・22、8Z1・2	Ⅵ	楕円形	弧状	緩やか	(330)	232	(180)	97	31	10.209	A	A	N-46° -E	2・3・5層を中心に須恵器片2、土師器片約80、刀子1	−
1322	8Y17・22	Ⅵ	楕円形	弧状	台形状	110	38	(77)	(28)	40	10.208	A	A	N-55° -E	3層：須恵器片2／2層：土師器片3	>SD1323
1336	9Y6	Ⅵ	楕円形	弧状	緩やか	128	100	(121)	89	12	9.973	D	A	N-17° -W	1層：須恵器横瓶片（実測）1・須恵器杯片（実測）2、土師器片7	<P1334・1335
1355	9Y7	Ⅵ	楕円形	台形状	緩やか	174	125	97	52	31	9.833	A	A	N-34° -W	2層：須恵器杯片3、土師器片22 P2-2層：土錘1	<P1341・1354 >SD1308
1575	8V9・14	Ⅶ	楕円形	台形状	台形状	48	36	17	13	23	9.857	A	B	N-9° -W	−	−
1576	8X1・6	Ⅶ	円形	半円状	台形状	68	59	37	27	21	9.937	A	B	N-64° -W	−	−
1577	8X17	Ⅶ	円形	弧状	緩やか	67	64	(46)	38	12	10.055	A	C	N-49° -W	−	<P1500 >SD1309, P1519
1578	9W23・24、9X3・4	Ⅶ	楕円形	弧状	緩やか	(123)	73	(96)	59	10	9.951	A	C	N-45° -E	−	−
1579	7V20	Ⅶ	円形	台形状	台形状	97	89	67	52	18	9.919	A	C	N-78° -E	−	−
1580	9W16・21	Ⅶ	楕円形	弧状	台形状	(109)	(37)	(89)	(25)	(10)	9.977	A	A	N-4° -W	−	<SD1149

井戸（SE）観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	形態			規模（cm）					底面標高（m）	埋土堆積状況	埋土色調分類	長軸方向	出土遺物	切り合い
			平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度						
225	6T14・15・19・20	Ⅳ	円形	袋状	内傾	(190)	(185)	120	114	150	8.54	G	B	N-77° -W	7層：漆器椀（実測）1、板状木製品（実測）3／1層：土師器片6、瓷器系陶器片1／埋土：砥石（実測）1	>SK428 <SD35

溝（SD）観察表（1）

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）				底面標高（m）	長軸方向	埋土色調分類	出土遺物	切り合い	備考
			長さ	上端幅	下端幅	深度						
2	6L～N, 5～7O	Ⅳ	南北（2674） 東西（1936）	南北 (225～120) 東西 (163～86)	南北 (146～25) 東西 (97～30)	南北 (32)～63 東西 (20)～(40)	南北 9.356～9.161 東西 9.808～9.440	南北 N-7° -W 東西 N-88° -E	C	6層：須恵器片1／3層：須恵器片1、土師器片3／2層：須恵器片2、土師器片21、黒色土器片1、釘1／1層：須恵器片2、土師器片8、近世以降擂鉢片1／不明：須恵器片1、土師器片5	>SD3・10・393 <SD4・5・435	
3	6M～Q	Ⅳ	(1588)	140～62	70～30	7～37	9.742～9.513	N-4° -W	C	3層：須恵器片4、土師器片19 2層：須恵器片3、土師器片約30、黒色土器片1 1層：須恵器片1、土師器片3	>SB1(SD110), SB2(P81・82), SK30・151, SD4・7・10・12・13, P124・158 <SD2・24, SX11	
4	4～6N	Ⅳ	東西（837） 南東（520）	東西 55～40 南東 45～35	東西 35～14 南東 22～13	東西 18～30 南東 28～34	東西 9.682～9.575 南東 9.567～9.508	東西 N-88° -W 南東 N-61° -E	C	1層：土師器片2、釘（実測）1	>SD2・10 <SD3・435, SX18	
5	6・7O	Ⅳ	(376)	26～20	16～8	3～15	9.829～9.715	N-54° -E	C	1層：土師器片1	>SD2	
7	5O,5～7P	Ⅳ	(2260)	(58～34)	(31～16)	16～(40)	9.688～9.485	N-82° -W	C	5層：土師器片2、近世以降陶磁器片3、瓦片2／1層：土師器片1	>SX11 >SD3・435	
9	8T・U・V, 9V	Ⅳ・Ⅳ'	(2104)	(133～108)	(98～58)	20～40	9.930～9.740	N-7° -W	B	2層：土師器片2／1層：須恵器片1、土師器片11、黒色土器片2、不明石製品（実測）1	>SK246, SD147, SX42 <SX8	
10	5・6N	Ⅳ	(730)	(164～72)	(150～60)	18	9.733	N-87° -E	C	2層：土師器片1／1層：須恵器片2	>SD3 <SD2・4・435, SX18	
12	5・6P	Ⅳ	(768)	80～54	40～12	5～14	9.911～9.833	N-79° -E	C	1層：土師器片2	>P160・421 >SD3	
13	5・6O	Ⅳ	(1052)	55～42	42～16	5～9	9.736～9.707	N-86° -E	C	1層：土師器片2	<SD3	
14	5・6Q	Ⅳ	(1170)	60～33	32～14	16～25	9.876～9.745	N-81° -E	C	2層：土師器片1／1層：須恵器片3、土師器片7	>P388 <SD24	
15	7P23・24	Ⅳ	(180)	28	18～10	5～(30)	9.887～9.847	N-78° -W	C	−	−	
20	6～8R	Ⅳ	(2046)	190～87	149～60	14～30	9.914～9.777	N-83° -E	B	3層：須恵器片1、鍋（実測）含む土師器片42、釘(実測)1／2層：杯・甕含む須恵器片8、土師器片約130、黒色土器片8、灰釉陶器皿（実測）1、鉄滓（実測）1／1層：鉄滓2	>SB1(SD21), SB3(P201・202・205), SB4(P371), SB5(P374), P46・180・203・204	
22	5～8R	Ⅳ	(2460)	73～35	35～20	8～55	9.930～9.547	N-85° -E	B	1層：杯・甕含む須恵器片4、土師器片51、黒色土器片2	>SB1(P49・60), SB4(P380), SD188, P238・383 <SK1	
23	5～7Q	Ⅳ	(2580)	78～30	33～8	12～26	9.962～9.828	N-82° -W	B	1層：杯・甕含む須恵器片8、無台椀（実測）・鍋（実測）含む土師器片約100、耳皿（実測）含む黒色土器片8	>SB1(SD32, P64・80・232), SB2(SD111, P91), P361 <SD25・33	

溝（SD）観察表（2）

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）				底面標高（m）	長軸方向	埋土色調分類	出土遺物	切り合い	備考
			長さ	上端幅	下端幅	深度						
24	5P, 5 ～ 7Q	Ⅳ	（2640）	136～98	56～38	（18）～44	9.649～9.487	N-80° -W	C	4層：須恵器片4、無台椀（実測）含む土師器片約50、黒色土器片2／3層：須恵器片7、土師器片約50、黒色土器片3、珠洲焼甕（実測）1、鉄滓1／2層：須恵器片10、土師器片約100、黒色土器片6／1層：須恵器片17,土師器片約100、黒色土器片4、近・現代以降陶磁器片1	>SB1（SD110, P74), SB2（P85・89), SK40, SD3・14・209, P118・140, SX16・31・44	
25	7Q7・8・13・14	Ⅳ	350	90～50	50～25	20～18	9.959～9.921	N-47° -W	C	1層：無台杯（実測）含む須恵器片27、無台椀（実測）・長胴甕（実測）含む土師器片60、黒色土器片2、近世以降陶磁器片2	>SK40, SD23	
33	7Q9・14	Ⅳ	（130）	23	13	8	10.030	N-6° -E	C	－	>SD23	
34	6・7S・T	Ⅳ	（1285）	105～70	39～22	35～78	9.737～9.296	N-89° -E	C	2層：土師器片3、釘1、近世以降陶磁器片5／1層：横瓶含む須恵器片4、土師器片14、近世以降陶磁器片24, 近・現代瓦片1、砥石1、釘1	>SD35	
35	7・8S, 6・7T	Ⅳ	（2228）	76～55	40～27	（12）～34	9.940～9.856	N-53° -E	B	3層：土師器片3／2層：須恵器片5、灰釉陶器皿片1、土師器片27、黒色土器片1	>SE225 <SD34, SX42	
37	7・8T,7U	Ⅳ	（1422）	53～39	29～18	6～16	10.051～9.959	N-74° -E	B	－	>SK341 <SX8	
38	7Q14・15	Ⅳ	（85）	20	9	16	10.018	N-73° -E	C	－	－	
43	7Q22 ～ 25	Ⅳ	（640）	57～33	43～24	7	9.931	N-83° -E	B	1層：須恵器片1、土師器片3	>SB1（P55), P126	
147	8V2 ～ 5・7・8・12・13	Ⅳ・Ⅳ'	南北（274） 東西（526）	南北 （44～32） 東西 （42～28）	南北 （16～12） 東西 （24～12）	南北 18 東西12～15	南北 9.963～9.955 東西 10.007～9.955	南北 N-10° -W 東西 N-80° -E	B	－	>SD148 <SD9, P241	
148	8T・U・V	Ⅳ	（1527）	（72～50）	（38～16）	16～36	10.071～9.979	N-11° -W	B	1層：土師器片1	<SD147	
188	7Q23, 7R3・4	Ⅳ	（204）	（58）	（36）	11	9.904	N-39° -W	A	1層：須恵器片1、土師器片2	<SD22	
209	4P20・25, 5P16・21・22,5Q2	Ⅳ	（475）	（100～56）	（38～19）	24～30	9.688～9.546	N-53° -W	C	1層：土師器片1	<SK210, SD24	
219	5P12・13・17・18	Ⅳ	南北（250） 東西（225）	南北 （77～70） 東西 （125～95）	南北 （57～37） 東西 （76～53）	南北 6 東西 6	南北 9.817 東西 9.856	南北 N-16° -E 東西 N-79° -W	B	1層：須恵器片1	>SK220・310	
224	6Q21,6R1	Ⅳ	（200）	（42～30）	（22～10）	16	9.889	N-54° -W	A	1層：土師器片1	<SK221	
305	5E7	Ⅳ	（60）	44	54	29	9.100	N-78° -E	C	－	－	
393	5・6M	Ⅳ	（650）	（170～143）	（49～26）	16	9.767	N-87° -W	C	1層：土師器片2	>P402 <SD2・435	
396	4M23・24, 4N3	Ⅳ	（194）	（66～58）	（37～24）	26	9.614	N-26° -E	C	－	－	
400	4K・L・M	Ⅳ	（1750）	70～25	40～10	6～17	9.735～9.626	N-15° -E	C	1層：須恵器片2,土師器片3	>P407・408	
435	2I・J,3I ～ L, 4I ～ L・N・O,5J ～ O	Ⅳ	－	－	－	16～（37）		南北 N-26° -E 東西 N-79° -W	C	－	>SK398, SD2・4・7・10・393, P411, SX18	
1301	8AA4・5・8 ～ 10・12 ～ 14, 9AA1・2, 9Z21 ～ 23	Ⅶ	東西1260	158～95	48～22	24～43	西 9.713 東 9.707	N-58° -E	B	7層：椀含む土師器片3／6層：須恵器甕片1／4層：古式土師器壺片1／1層：馬臼歯	>SD1302 <SK1304	
1302	8Z25、 8AA5・9・10・15, 9Z17・21・22	Ⅶ	南北 108 東西 238	南北 45～21 東西 55～27	南北 17～10 東西 16～6	11～31	（南北） 北 9.902 南 9.900 （東西） 東 9.831 西 9.804	南北 N-35° -W 東西 N-39° -E	B	－	>SD1303 <SD1301	
1303	8Z22 ～ 25, 8AA2 ～ 4, 9Z16・17・21・22	Ⅶ	東西 1118	132～70	46～19	11～23	西 10.064 東 9.835	N-76° -E	B	2層：甕含む土師器片3／1層：須恵器杯片1	<SD1302	
1307	9X17・18・19・22・23,9Y3・4・8・9・13・14・18・19・24・25,9Z4	Ⅶ	南北 1462	233～72	78～28	23～44	北 9.804 南 9.613	N-16° -W	B	15層：土師器片20／10層：須恵器片1、土師器片8／8層：杯・杯蓋含む須恵器片4、土師器片10／7層：甕・杯蓋・杯含む須恵器片10、土師器片30以上／6層：土師器片1／5層：須恵器杯片1、甕・鍋含む土師器片16／4層：土師器片4／3層：杯・甕・横瓶含む須恵器片3、黒色土器椀・甕含む土師器片22／2層：杯含む須恵器片3、甕含む土師器片15／1層：甕含む土師器片24、土錘1	>SF1356 =SD1308・1309	
1308	7Y10・15, 8Y2 ～ 10 9Y1 ～ 10	Ⅶ	東西 2102	151～60	50～27	29～54	西 10.081 東 9.781	N-71° -E N-82° -W	B	10層：須恵器片2、土師器片1／9層：土師器片2／7層：土師器片10／5層：土師器片1／4層：甕含む土師器片6／3層：椀・鍋含む土師器片5／2層：須恵器片1、鍋・甕含む土師器片9／1層：杯含む須恵器片3、椀・鍋・甕含む土師器片約50	>SF1356 <SK1355, P1525 ～ 1529 =SD1307・1310・1376	
1309	7X19・20・25, 8X13 ～ 22, 9X6 ～ 9・11 ～ 14・16・17	Ⅶ	2044	300～162	82～33	30～45	西 9.894 東 9.683	N-74° -E	B	4層：甕含む須恵器片2、甕含む土師器片2／3層：甕含む須恵器片2、椀含む土師器片約30、珠洲焼片口片1／2層：杯・甕・横瓶含む須恵器片6、椀・黒色土器椀・甕・小甕含む土師器片約40／1層：杯・杯蓋・甕含む須恵器片16、椀・鍋・黒色土器椀含む土師器片約100	>P1459 <SK1577、P1500 ～ 1504・1518・1533 ～ 1536・1538・1541・1542・1554 =SD1149・1307・1376	
1310	8Y10, 9Y6・11・16	Ⅶ	南北 638	86～19	53～13	5～29	北 9.911 南 9.780	N-10° -W N-33° -E	B	6層：小甕含む土師器片2／5層：土師器片4／4層：須恵器杯蓋片1、甕含む土師器片27／3層：杯・甕含む須恵器片6、土師器片5／2層：甕含む土師器片13	>P1331 =SD1308	

溝（SD）観察表（3）

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）				底面標高（m）	長軸方向	埋土色調分類	出土遺物	切り合い	備考
			長さ	上端幅	下端幅	深度						
1323	8Y17・18・23	Ⅵ	南北 210	58～22	30～5	14	北 10.347 南 10.272	N-21° -W	A	1層：須恵器杯片1、鍋含む土師器片4	>SD1358 <SK1322	
1325	8Y13 ～ 15・18 ～ 20	Ⅵ	南北 330	158～40	121～18	24	北 10.259 南 10.164	N-57° -W	A	2層：土師器片3	－	
1358	8Y23	Ⅵ	（110）	50～46	31～29	16	－	N-52° -W	A	1層：須恵器杯片2	<SD1323	
1376	8X22・23, 8Y2・3	Ⅵ	347	100～51	49～26	33～23	北 9.855 南 9.822	N-28° -W	B	2層：甕含む土師器片7／1層：土師器片6	=SD1308・1309	
1378	7V19・20	Ⅵ	103	36～24	20～15	15～10	南10.156 北10.153	N-48° -W	B	－	－	H26調査区未検出
1379	8V12・13・18	Ⅵ	324	35～27	26～12	8～14	南 10.068 北 9.968	N-11° -W	B	2層：土師器片2／1層：土師器片1	－	H26調査区に延びる（SD147と同一）
1149	8V10・16・20・25, 9V6・11・16・21, 9W1・6・11・12・16・17・21・22, 9X1・2・6・7	Ⅶ	2022	145～100	103～29	18～32	南 9.922 北 9.824	N-7° -W	B	3層：椀・甕含む土師器片3／2層：椀・甕含む土師器片約40、須恵器片1／1層：杯・甕含む須恵器片4、椀・黒色土器椀・甕・鍋含む土師器片約100	>SK1580・P1549 =SD1309	H26調査区に延びる（SD9と同一）

柵（SA）観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）			底面標高（m）	埋土堆積形状	埋土色調分類	長軸方向	出土遺物	切り合い
			長径	短径	深度						
SA1581	7・8X	Ⅶ	1211			－	－	B	N-70° -E	－	－
P1460	8X10	Ⅶ	28	17	8	10.072	E	B	－	－	－
P1519	8X17	Ⅶ	38	（32）	11	10.029	E	B	－	－	<SK1577, P1513
P1520	8X12・13・17・18	Ⅶ	40	31	8	9.968	A	B	－	－	－
P1534	7X20・25	Ⅶ	26	23	7	9.947	A	B	－	－	>SD1309
P1536	8X16	Ⅶ	33	21	16	10.009	A	B	－	－	>SD1309
P1557	8X14	Ⅶ	29	25	12	9.979	E	B	－	－	－
P1568	8X13	Ⅶ	26	26	14	9.788	E	B	－	1層：土師器椀片2	－

道路状遺構（SF）観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	形態			規模（cm）					底面標高（m）	埋土堆積形状	埋土色調分類	長軸方向	出土遺物	切り合い
			平面	断面	立ち上り	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度						
1356	8X25, 8Y5, 9X21 ～ 25, 9Y1・2	Ⅵ	－	弧状	緩やか	1088	196	－	－	12	西 10.113 東 10.105	－	B	N-82° -E	1層：椀・甕含む土師器片約80、杯・瓶含む須恵器片8	<SD1307・1308
1356-SD1	9X19・20・24・25	Ⅵ	－	弧状	急傾斜	（182）	－	－	－	20	西 10.005 東 9.973	A	B	N-76° -E	－	－
1356-SK1	9X25	Ⅵ	楕円形	弧状	緩やか	43	23	39	10	6	10.077	D	B	N-26° -E	－	－
1356-SK2	9X25	Ⅵ	楕円形	弧状	緩やか	49	26	24	13	7	10.059	D	B	N-13° -E	－	－
1356-SK3	9X24	Ⅵ	楕円形	弧状	緩やか	75	31	54	17	12	9.979	D	B	N-6° -E	－	－
1356-SK4	9X24	Ⅵ	楕円形	弧状	緩やか	（93）	39	60	15	11	9.983	D	B	N-9° -E	－	－
1356-SK5	9X24	Ⅵ	楕円形	弧状	緩やか	（39）	（28）	（28）	10	8	10.042	D	B	N-13° -E	－	－

性格不明遺構（SX）観察表（1）

遺構番号	グリッド	検出層位	形態			規模（cm）					底面標高（m）	埋土堆積形状	埋土色調分類	長軸方向	出土遺物	切り合い
			平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度						
8	8T14・19・24・25	Ⅳ	（長楕円形）	台形状	急斜度	（384）	（168）	（280）	（120）	（18 ～ 53）	9.606	A	C	N-13° -W	2層：横瓶（実測）含む須恵器片3、青磁椀（実測）1、白磁皿（実測）1、砥石（実測）1／1層：無台杯（実測）含む須恵器片5、土師器片29、黒色土器片1、珠洲焼片口鉢（実測）1、釘（実測）1	>SD9・37, SX42
11	5・6O・P	Ⅳ	不整形	台形状	緩やか	（1570）	（640）	（1570）	（610）	（3 ～ 19）	9.811 ～ 9.517	D	C	N-74° -W	1層：有台杯（実測）含む須恵器片15、土師器片約60、黒色土器片3、近世肥前磁器片1／不明：須恵器片1、土師器片3	>SB2（P81・93）, SK27・30, SD3, P124・161 ～ 163・165・412・420 <SD7
16	6P25, 6Q5, 7P21 ～ 23, 7Q1 ～ 3	Ⅳ	不整形	台形状	緩やか	（610）	（336）	（585）	（327）	（10）～ 18	9.801	D	B	N-77° -W	1層：杯蓋（実測）・無台杯（実測）・甕（実測）含む須恵器片22、小甕（実測）含む土師器片約170、黒色土器片17	>SB2（P84）, P121・140 <SD24
18	5N3・4・8・9	Ⅳ	（円形）	台形状	急斜度	（224）	（162）	（208）	（112）	38	9.399	D	C	N-22° -E	1層：須恵器片1	>SD4・10 <SD435
31	6P22・23, 6Q1 ～ 3	Ⅳ	（方形）	台形状	急斜度	（374）	（198）	（370）	（157）	31	9.784	A	A	N-3° -E	3層：須恵器片1、土師器片3／2層：椀（実測）含む土師器片約30／1層：須恵器片1、土師器片約30	>SB2（P125）, P153・431, SX44 <SD24
39	7R23・24, 7S3・4・5, 8S1・2	Ⅳ	不整形	台形状	緩やか	（862）	275 ～ 75	（818）	218 ～ 44	15 ～ 24	9.953 ～ 9.796	A	C	N-88° -W	1層：無台杯（実測）・杯（実測）含む須恵器片5、土師器片41、黒色土器片1	－
42	8S・T	Ⅳ	（長方形）	台形状	急斜度	（1225）	（330）	（1177）	（320）	7 ～ 27	9.931	A	B	N-9° -W	2層：土師器片1／1層：杯含む須恵器片6、土師器片約30、近・現代陶磁器片1	>SK206, SD35 <SD9, SX8
44	5P25, 5Q5, 6P21, 6Q1	Ⅳ	－	台形状	緩やか	（242）	（153）	（223）	（132）	（15 ～ 21）	9.831	A	A	N-46° -W	2層：無台椀（実測）含む土師器片約100、黒色土器片2／1層：無台杯（実測）・瓶（実測）・甕含む須恵器片11、椀（実測）、長胴甕（実測）含む土師器片約40、無台皿（実測）含む黒色土器片3	<SD24, SX31

性格不明遺構（SX）観察表（2）

遺構番号	グリッド	検出層位	形態			規模（cm）					底面標高（m）	埋土堆積形状	埋土色調分類	長軸方向	出土遺物	切り合い
			平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度						
149	7U24, 7V4・5	Ⅳ	長楕円形	台形状	緩やか	205	91	186	81	13	10.046	A	B	N-31°-W	－	－
150	7U13・18・ 19・23・ 24	Ⅳ	長楕円形	台形状	緩やか	471	105	397	74	17	9.941	A	B	N-26°-W	1層：土師器片6、釘（実測）1、 不明鉄製品1	>SK267
216	5Q8・13	Ⅳ	長方形	台形状	急斜度	110	86	65	55	20	9.778	A	B	N-50°-W	－	>SX217
217	5Q13・14・ 18・19	Ⅳ	不整形	台形状	急斜度	（170）	（167）	110	100	36	9.629	A	B	N-44°W	1層：土師器片2、黒色土器片1	>P387 <SX216

ピット（P）観察表（1）

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）			底面標高（m）	埋土堆積形状	埋土色調分類	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径	深度					
28	6O8・13	Ⅳ	（35）	（16）	（17）	9.727	D	A	－	－
29	6N24	Ⅳ	（32）	（16）	（14）	9.599	－	A	－	－
45	6P20・25,7P16・21	Ⅳ	55	55	40	9.474	E	A	1層：土師器片1、黒色土器片2	－
46	7R16	Ⅳ	（22）	（16）	（16）	9.760	－	－	－	<SD20
47	7R11・12	Ⅳ	（79）	（67）	55	9.444	E	A	1層：椀含む土師器片2	>SB3（P201） <SB1（P200）
48A	7R7・8	Ⅳ	56	53	19	9.804	－	A	－	>SB1（P48B）
49B	7R3・4	Ⅳ	（67）	（60）	53	9.621	－	A	1層：土師器片2	>SB1（P49A），SB3（P187） <SD22
62	6Q25	Ⅳ	（53）	39	33	9.400	E	A	1層：須恵器杯片2、黒色土器片1	<SB1（P390）
63A	6Q15・20	Ⅳ	76	70	45	9.484	－	A	－	>P114・430 <SB1（P63B）
68B	6Q14・15	Ⅳ	（35）	（30）	51	9.430	E	A	2層：土師器片5	<SB1（P68A）
76	6P21	Ⅳ	69	57	37	9.667	E	A	2層：土師器片1、黒色土器片1 1層：鍋（実測）含む土師器片2、黒色土器片1	－
77	6P17・22	Ⅳ	56	45	42	9.584	E	A	－	－
79	6P11・16	Ⅳ	26	19	26	9.629	－	A	－	－
83B	6P25	Ⅳ	75	65	（49）	9.391	－	A	－	<SB2（P83A）
91B	6Q14・19	Ⅳ	（62）	（48）	（69）	9.172	－	A	－	<SB2（P91A），SD23
94	6Q13	Ⅳ	40	40	24	9.767	E	A	－	－
95	6Q7・12	Ⅳ	50	49	14	9.852	A	A	－	－
96	6Q7	Ⅳ	60	49	40	9.586	－	A	1層：土師器片1	－
103	6Q20・25	Ⅳ	52	49	31	9.699	E	A	1層：土師器片1	>P62
104	6Q20・25	Ⅳ	58	57	46	9.506	E	A	－	－
106	6Q20	Ⅳ	15	15	7	9.866	－	－	－	－
107	6Q20	Ⅳ	22	14	50	9.768	－	－	－	－
109	6Q19	Ⅳ	51	50	A 26 B 46	A 9.475 B 9.521	E	A	2層：土師器片1	P109A>P109B
114	6Q15,7Q11	Ⅳ	（74）	（60）	25	9.705	E	A	1層：土師器片1／検出面：アスファルト塊（実測）1	<SB1（P63B）
115	6Q13・14	Ⅳ	41	36	27	9.726	E	A	2層：土師器片1	－
117	6Q9	Ⅳ	28	26	24	9.759	－	－	－	－
118	6Q8	Ⅳ	（22）	（21）	19	9.817	－	－	－	<SB1（P71），SD24
121	7P21,7Q1	Ⅳ	（67）	（54）	（35）	9.475	E	A	3層：須恵器杯片3 1層：無台杯（実測）含む須恵器片2、土師器片1	<SX16
124	6P8	Ⅳ	（60）	（52）	（37）	9.434	E	A	－	<SD3，SX11
126	7Q22・23	Ⅳ	（53）	（48）	20	9.809	E	A	－	<SD43
127	7Q17・22	Ⅳ	55	55	25	9.766	E	A	1層：土師器片1	－
128	7Q17	Ⅳ	55	50	29	9.744	E	A	1層：須恵器片1、土師器片7、黒色土器片2	－
130	7Q17	Ⅳ	32	26	12	9.743	D	A	－	－
131	7Q11	Ⅳ	42	42	17	9.775	E	A	－	－
132	7Q6・11	Ⅳ	55	53	55	9.401	E	A	1層：須恵器片1	－
133	7Q7	Ⅳ	15	15	24	9.724	D	A	1層：土師器片1	－
136	7Q8・9・13・14	Ⅳ	49	48	27	9.818	E	A	1層：無台椀（実測）含む土師器片5	－
140	7Q1	Ⅳ	（25）	（22）	（9）	9.786	－	－	－	<SD24，SX16
145	7P11・16	Ⅳ	57	50	32	9.548	E	A	－	－
146	7P12・13	Ⅳ	45	34	30	9.535	D	A	－	－
152	6P18・23	Ⅳ	（79）	（55）	45	9.535	E	A	1層：土師器片5	<SB1（SD110）
153	6P22・23	Ⅳ	（64）	（60）	52	9.580	E	A	－	<P431，SX31
154	6P16・17	Ⅳ	67	55	31	9.651	E	A	－	－
157	6P17・18	Ⅳ	38	32	16	9.746	－	A	－	－
158	6P24	Ⅳ	（35）	（33）	（15）	9.855	D	A	1層：土師器片2	<SD3
159	6P15	Ⅳ	57	54	29	9.591	E	A	－	－
160	5P15,6P11	Ⅳ	（25）	（22）	24	9.646	D	A	－	<SD12
161	6P11	Ⅳ	（30）	（29）	（14）	9.694	－	A	－	<SX11
162	6P12	Ⅳ	（60）	（57）	（45）	9.447	E	A	－	<SX11
163	6P13	Ⅳ	（24）	（20）	（9）	9.777	D	A	－	<SX11
165	6P9	Ⅳ	（33）	（32）	（6）	9.701	－	A	－	<SX11
166	6Q23,6R3	Ⅳ	48	44	17	9.745	E	A	－	－
169	6R10	Ⅳ	29	26	27	9.739	D	A	1層：土師器片1	>SB1（P57），P170・172
170	6R10	Ⅳ	（27）	（20）	26	9.723	E	A	1層：須恵器無台杯（実測）1、椀（実測）含む土師器片3	>P172 <P169
172	6R9・10	Ⅳ	（62）	（39）	35	9.658	E	A	2層：土師器片1	<SB1（P57），P169・170
175	6R15	Ⅳ	24	22	15	9.885	A	A	1層：土師器片1	－
176	6R15	Ⅳ	（96）	（75）	36	9.658	E	A	－	<SB1（P51）
178	6R14・15	Ⅳ	76	71	21	9.836	E	A	1層：土師器片1	－
180	6R15・20	Ⅳ	（63）	（30）	18	9.861	E	A	－	<SD20
193	7R12	Ⅳ	（25）	（18）	27	9.722	－	A	－	－
203	7R18	Ⅳ	（50）	（50）	（14）	9.720	－	A	－	<SD20

ピット（P）観察表（2）

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）			底面標高（m）	埋土堆積形状	埋土色調分類	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径	深度					
204	7R13・18	Ⅳ	(53)	(42)	(13)	9.731	E	A	−	<SD20
214	7S9	Ⅳ	30	28	21	9.786	−	B	−	−
215	7S15	Ⅳ	36	34	33	9.681	−	B	−	−
226	5P13・14	Ⅳ	28	26	12	9.758	D	A	−	−
228	5P24・25,5Q4・5	Ⅳ	58	55	36	9.602	E	A	1層：土師器片1	−
229	5Q5・10,6Q6	Ⅳ	(50)	(38)	42	9.486	E	A	2層：土師器片1／1層：甕含む須恵器片4	−
237	5R3	Ⅳ	33	31	17	9.877	−	A	1層：須恵器片1、土師器片4	−
238	5R3	Ⅳ	39	31	21	9.841	−	A	−	<SD22
241	8V7	Ⅳ	42	38	20	9.926	−	B	−	>SD147
247	8U20	Ⅳ・Ⅳ'	48	44	13	9.94	D	B	−	−
250	9U16・21	Ⅳ・Ⅳ'	(34)	(28)	(21)	9.805	−	B	−	−
272	7U20・25	Ⅳ	38	36	12	9.956	D	B	−	−
282	7U11	Ⅳ	34	31	11	9.964	−	−	−	−
283	7U11	Ⅳ	20	18	8	9.990	−	−	−	−
286	7U1	Ⅳ	25	24	25	9.858	−	B	−	−
287	8U11	Ⅳ	28	26	15	9.935	D	B	1層：土師器片1	−
288	8U11	Ⅳ	50	46	14	9.951	D	B	−	−
289	8U11	Ⅳ	42	40	15	9.944	D	B	−	−
328	8U2	Ⅳ	(32)	(24)	24	9.808	A	B	−	−
334	8T22・23	Ⅳ	30	22	10	9.958	−	−	−	−
350	7T18	Ⅳ	27	24	44	9.659	−	B	−	−
351	7T17・18	Ⅳ	35	32	40	9.718	E	B	−	−
356	7T16・21	Ⅳ	29	28	36	9.708	−	B	−	−
361	7Q12	Ⅳ	(102)	(92)	70	9.400	E	A	6層：土師器片1／5層：土師器無台椀（実測）1／1層：土師器片7／1層上面：土師器片6	<SB1(SD32), SD23
362	7Q12・17・18	Ⅳ	(54)	(39)	35	9.643	E	A	1層：須恵器杯（実測）1	<SB1(SD32)
363	7T2・3	Ⅳ	24	20	15	9.902	D	B	−	−
364	8S16	Ⅳ	36	20	18	9.873	D	B	−	−
365	8S6	Ⅳ	38	30	20	9.821	−	B	−	−
366	7S1	Ⅳ	18	14	13	9.810	−	A	−	−
367	7S6・7	Ⅳ	22	22	16	9.795	D	B	−	−
368	7S7	Ⅳ	38	34	13	9.872	−	B	−	−
370	6R22	Ⅳ	30	30	13	9.884	−	A	−	−
372	7S8	Ⅳ	28	28	30	9.691	D	B	−	−
373	7S12	Ⅳ	(24)	(14)	25	9.729	−	B	1層：須恵器無台杯（実測）1	−
382	7S7	Ⅳ	22	19	15	9.808	−	B	−	−
383	5R5	Ⅳ	(32)	(30)	(24)	9.612	D	A	−	<SD22
384	6R7	Ⅳ	42	40	36	9.670	E	A	−	−
386	8U8	Ⅳ	34	30	13	9.889	−	−	−	−
387	5Q14	Ⅳ	(50)	(47)	43	9.613	E	A	−	<SX217
388	5Q9・10	Ⅳ	(51)	(47)	32	9.576	E	A	1層：須恵器片1、土師器片2	<SD14
391	7Q23,7R3	Ⅳ	(29)	(20)	41	9.593	E	A	1層：土師器片5	<SB1(P54)
402	6M7・12	Ⅳ	(31)	(30)	49	9.302	D	A	−	<SD393
403	4K24,4L4	Ⅳ	30	28	20	9.552	A	B	−	−
404	4L9	Ⅳ	26	24	18	9.562	−	B	−	−
407	4L4	Ⅳ	(20)	(8)	(27)	9.484	−	B	−	<SD400
408	4L8・9	Ⅳ	(28)	(24)	(18)	9.552	−	B	−	<SD400
409	4K21	Ⅳ	30	30	44	9.156	E	B	−	−
410	4K12・17	Ⅳ	44	44	6	9.591	A	A	1層：無台椀（実測）・小甕（実測）含む土師器片3	−
411	3K10,4K6	Ⅳ	(28)	(26)	28	9.133	E	A	−	<SD435
412	6P9・10	Ⅳ	(19)	(12)	(15)	−	−	−	−	<SX11
413	7Q13・18	Ⅳ	(36)	(33)	16	9.914	−	−	1層：土師器片3	<SB1(SD32)
415	6N18	Ⅳ	26	24	24	9.556	−	A	−	−
416	6Q20	Ⅳ	(50)	(43)	26	9.703	D	A	1層：土師器鍋（実測）1	−
417	6P22	Ⅳ	33	30	37	9.635	A	A	−	−
419	6P17	Ⅳ	50	45	23	9.620	A	A	−	−
420	6P13	Ⅳ	(51)	(43)	47	9.429	E	A	−	>P421 <SX11
421	6P12・13・18	Ⅳ	(49)	(32)	42	9.561	E	A	−	<SD12, P420
423	5Q15,6Q11	Ⅳ	(48)	(44)	63	9.274	E	A	2層：土師器片1、鉄滓1／1層：土師器椀（実測）1	<SB1(P230)
424	6Q25,7Q21	Ⅳ	(35)	(30)	(37)	9.535	D	A	−	−
425	6R3・4	Ⅳ	(18)	(14)	(36)	9.549	E	A	−	>SB1(P61)
426	6R14	Ⅳ	(25)	(21)	51	9.532	A	A	−	<SB1(P56)
429	6T19	Ⅳ	28	25	13	9.849	−	B	−	−
430	6Q20	Ⅳ	(47)	(47)	56	9.374	E	A	2層：土師器椀片1	<SB1(P63)
431	6P22・23	Ⅳ	(34)	(30)	20	9.696	D	A	1層：土師器椀片1	>P153 <SX31
432	6P17	Ⅳ	40	33	39	9.400	E	A	−	−
434	6R9・14	Ⅳ	(15)	(14)	(30)	9.684	D	A	−	<SB1(P56)
1311	8Y24	Ⅶ	36	34	10	10.021	E	A	−	−
1312	8Z4・5	Ⅶ	43	38	15	9.85	E	A	−	−
1313	8Z5・10	Ⅶ	38	36	20	9.786	E	A	−	−
1314	8Z9・10	Ⅶ	38	33	21	9.875	E	A	−	−
1316	9Y16	Ⅶ	40	36	40	9.511	E	A	6層：須恵器杯片1／2層：土師器椀片3	−
1317	9Y17	Ⅶ	38	38	18	9.982	E	A	−	−
1319	9Y22	Ⅶ	35	33	24	9.757	E	A	−	−
1320	9Y22	Ⅶ	39	39	25	9.683	E	A	−	−
1362	8Z8	Ⅵ	42	40	17	9.936	E	A	−	−
1375	8X25,8Y5	Ⅵ	43	20	24	9.896	E	A	3層：土師器片1	−

土器観察表（1）

報告番号	グリッド	遺構番号	層位	種類	時代／時期	器種	分類	法量（cm）			外面色調	内面色調	胎土	底部切り離し	成形・調整	備考
								口径	器高	底径						
1	7Q12	SD32（SB1）	1層	須恵器	古代/9c	無台杯		12.6	2.9	6.8	7.5Y灰白7/1	7.5Y灰白7/1	白色粒子	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
2	7Q18	SD32（SB1）	2層	須恵器	古代/9c	無台杯		12.2	2.7	7.6	10Y灰6/1	5Y灰5/1	白色粒子	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
3	7Q18	SD32（SB1）	1層	土師器	古代/9c	無台椀	A	11.7	3.4	5.0	10YR褐灰6/1	10YR浅黄橙8/3	砂礫・雲母	回転糸切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
4	7Q13	SD32（SB1）	1層	土師器	古代/9c	無台椀	A	11.9	4.0	4.4	10YR浅黄橙8/4	7.5YR浅黄橙8/4	砂礫	回転糸切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
5	7Q12	SD32（SB1）	1層	土師器	古代/9c	無台椀	A	12.4	3.8	5.6	7.5YR浅黄橙8/3	7.5YR浅黄橙8/3	砂礫	回転糸切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
6	7Q18	SD32（SB1）	1層	土師器	古代/9c	無台椀	A	12.2	4.4	5.2	7.5YR浅黄橙8/3	7.5YR浅黄橙8/3	砂礫	摩耗の為不明	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
7	7Q12	SD32（SB1）	1層	土師器	古代/9c	椀	A	12.4	(3.2)	－	10YR灰白8/1	10YR褐灰5/1	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	5・6O・P・N Ⅰ層と接合
8	7Q18	SD32（SB1）	1層	土師器	古代/9c	無台椀	A	12.4	4.1	5.9	7.5YR浅黄橙8/4	7.5YR浅黄橙8/3	砂礫	回転糸切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
9	7Q13	SD32（SB1）	1層	土師器	古代/9c	椀	A	13.0	3.2	－	7.5YRにぶい橙7/4	7.5YRにぶい橙7/4	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
10	7Q12	SD32（SB1）	1層	土師器	古代/9c	椀	A	13.0	(4.1)	－	5YR橙7/6	5YR橙7/6	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
11	7Q13	SD32（SB1）	1層	土師器	古代/9c	椀	A	13.4	(4.0)	－	7.5YR浅黄橙8/3	7.5YR浅黄橙8/3	石英・砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
12	7Q13・18	SD32（SB1）	1層	土師器	古代/9c	無台椀	A	13.4	3.9	6.2	7.5YR浅黄橙8/3	7.5YR浅黄橙8/3	砂礫	回転糸切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
13	7Q13	SD32（SB1）	1層	土師器	古代/9c	椀	B	13.7	(2.5)	－	7.5YR浅黄橙8/3	7.5YR浅黄橙8/3	砂礫・雲母		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
14	7Q13	SD32（SB1）	1層	土師器	古代/9c	無台椀	A	13.4	3.6	5.8	7.5YR浅黄橙8/3	7.5YR灰白8/2	砂礫	回転糸切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
15	7Q12	SD32（SB1）	1層	土師器	古代/9c	椀	A	14.0	(3.2)	－	7.5YR浅黄橙8/3	7.5YR浅黄橙8/3	砂礫・雲母		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
16	7Q13	SD32（SB1）	1層	土師器	古代/9c	椀	B	(15.0)	(3.9)	－	5YR橙7/6	7.5YR浅黄橙8/3	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
17	7Q12	SD32（SB1）	1層	土師器	古代/9c	無台椀	－	－	(3.6)	5.2	5YR淡橙8/4	5YR浅黄橙8/4	砂礫	回転糸切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
18	7Q18	SD32（SB1）	1層	土師器	古代/9c	無台椀	A	17.2	6.1	6.2	5YR橙7/6	5YR橙7/6	砂礫	回転ケズリ	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ（上半）、回転ケズリ（下半）	
19	7Q12・13	SD32（SB1）	1層	土師器	古代/9c	無台椀	B	17.0	5.2	7.2	7.5YR浅黄橙8/3	7.5YR浅黄橙8/3	砂礫	摩耗の為不明	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	No.20・21同一個体か?
20	7Q12	SD32（SB1）	1層	土師器	古代/9c	椀	B	(17.0)	(3.5)	－	7.5YR浅黄橙8/3	7.5YR浅黄橙8/4	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	No.19・21と同一個体か?
21	7Q13	SD32（SB1）	1層	土師器	古代/9c	椀	B	17.0	(4.4)	－	7.5YR浅黄橙8/3	7.5YR浅黄橙8/3	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	No.19・20と同一個体か?
22	7Q18	SD32（SB1）	1層	土師器	古代/9c	無台椀	A	15.7	5.7	5.5	7.5YR浅黄橙8/4	7.5YR浅黄橙8/4	砂礫	回転糸切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
23	7Q12	SD32（SB1）	1層	土師器	古代/9c	盤		16.2	1.7	7.4	7.5YR橙7/6	7.5YRにぶい橙7/4	砂礫	ケズリ後ナデ	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
24	7Q12	SD32（SB1）	1層	土師器	古代/9c	無台皿		13.0	2.7	5.7	2.5Y淡黄8/3	2.5Y淡黄8/3	砂礫	回転糸切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
25	7Q12	SD32（SB1）	1層	黒色土器	古代/9c	無台椀	B	16.0	(3.3)	－	5Y灰白8/2	10YR黒褐2/2	砂礫		内：ロクロナデ、ミガキ、擦痕、黒色処理 外：ロクロナデ、口縁部ミガキ	7Q12 P361 1層上面と接合
26	7Q12	SD32（SB1）	1層	黒色土器	古代/9c	無台椀	B	(16.0)	(3.3)	－	2.5Y灰白8/1	10YR黒褐3/1	砂礫		内：ロクロナデ、ミガキ、黒色処理 外：ロクロナデ	
27	7Q12・13	SD32（SB1）	1層	黒色土器	古代/9c	無台椀	B	16.0	(4.2)	－	10YR灰白8/1	10YR黒褐2/2	砂礫		内：ロクロナデ、ミガキ、縦方向の擦痕、黒色処理 外：ロクロナデ、口縁部ミガキ	
28	7Q12	SD32（SB1）	1層	黒色土器	古代/9c	無台椀	A	14.2	4.4	5.2	10YR灰白8/1	10YR黒褐3/1	砂礫	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ、黒色処理、擦痕 外：ロクロナデ	
29	7Q12・13・18	SD32（SB1）	1，2層	黒色土器	古代/9c	無台椀	A	17.2	(3.6)	－	2.5灰白8/2	2.5黒褐3/1	砂礫		内：ロクロナデ、ミガキ、黒色処理、擦痕 外：ロクロナデ	
30	7Q18	SD32（SB1）	1層	黒色土器	古代/9c	無台椀	A	19.1	(5.8)	－	2.5Y灰白8/2	10YR黒2/1	砂礫		内：ロクロナデ、ミガキ、黒色処理、擦痕 外：ロクロナデ、口縁部ミガキ	
31	7Q12	SD32（SB1）	1層	黒色土器	古代/9c	無台椀	B	16.6	(5.4)	－	2.5Y灰白8/1	2.5Y黒褐3/1	砂礫		内：ロクロナデ、ミガキ、縦方向の擦痕、黒色処理 外：ロクロナデ、口縁部ミガキ	
32	7Q18	SD32（SB1）	2層	黒色土器	古代/9c	無台椀	A	17.0	6.5	6.6	10YR灰白8/1	10YR黒褐3/1	砂礫	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ、黒色処理、擦痕 外：ロクロナデ、ヘラケズリ	
33	7Q18	SD32（SB1）	1層	黒色土器	古代/9c	有台椀		16.0	5.5	8.8	7.5YR灰白8/1	10YR黒褐3/1	砂礫		内：ロクロナデ、ミガキ、黒色処理、擦痕 外：ロクロナデ、口縁部ミガキ	
34	7Q18	SD32（SB1）	1層	黒色土器	古代/9c	鉢		26.2	(10.5)	－	7.5YR浅黄橙8/3	10YR黒2/1	砂礫・雲母		内：ロクロナデ、ミガキ、黒色処理、擦痕 外：ロクロナデ、ヘラケズリ	
35	7Q12	SD32（SB1）	1層	土師器	古代	小甕		13.4	(2.8)	－	10YR灰白8/1	10YR灰白7/1	砂礫・雲母		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	

土器観察表（2）

報告番号	グリッド	遺構番号	層位	種類	時代／時期	器種	分類	法量（cm）			外面色調	内面色調	胎土	底部切り離し	成形・調整	備考
								口径	器高	底径						
36	7Q18	SD32（SB1）	1層	土師器	古代	長胴甕	C	23.2	（12.4）	－	2.5浅黄8/3	7.5Y灰白8/2	砂礫		内：カキメ 外：カキメ、タタキメ	
37	7R9	SD21（SB1）	1層	黒色土器	古代/9c	有台皿		13.8	4.4	9.2	2.5Y灰黄7/2	10YR黒褐3/1	砂礫		内：ロクロナデ、黒色処理 外：ロクロナデ	底部穿孔
38	6Q5	SD110（SB1）	1層	土師器	古代/9c	無台椀	A	13.4	4.1	4.6	5YR橙7/6	5YR橙7/8	石英・砂礫	回転糸切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
39	6Q5	SD110（SB1）	1層	土師器	古代/9c	椀	A	13.0	（3.8）	－	7.5YR橙7/6	7.5YR橙7/6	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
40	6Q14	P68A（SB1）	1層	黒色土器	古代	椀	A	（15.2）	（3.2）	－	10YR浅黄橙8/3	7.5YR黒褐3/1	砂礫		内：ロクロナデ、擦痕、黒色処理 外：ロクロナデ、口縁部ミガキ	
41	6Q14	P68A（SB1）	1層	黒色土器	古代/9c	無台椀	A	14.6	（3.4）	－	7.5YR灰白8/1	10YR黒褐3/1	砂礫		内：ロクロナデ、黒色処理 外：ロクロナデ	
42	7Q22	P422（SB1）	1層	土師器	古代	長胴甕	A	（22.8）	（3.6）	－	2.5Y淡黄8/3	7.5YR灰白8/2	砂礫		内：ロクロナデ、カキメ 外：ロクロナデ、カキメ	
43	6R10	P57（SB1）	2層	土師器	古代	皿		12.6	（2.2）	－	7.5YR浅黄橙8/4	7.5YR浅黄橙8/3	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
44	7R4	P49A（SB1）	1層	土師器	古代	鍋	A	42.2	（7.9）	－	10YRにぶい黄橙7/3	7.5YR浅黄橙8/3	砂礫		内：ハケメ 外：ケズリ	内面コゲ、外面スス付着
45	6Q18	SD111（SB2）	1層	須恵器	古代/9c	無台杯		11.8	3.0	8.4	7.5Y灰6/1	7.5Y灰6/1	白色粒子	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
46	6Q2	P89（SB2）	1層	須恵器	古代/9c	無台杯		11.6	2.6	7.2	10BG青灰6/1	10BG青灰6/1	白色粒子	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産、6Q21 SK221 4層・6Q1・3 SD24 1・4層、7P23 SX16 1層と接合
47	7Q1・6	P85（SB2）	2層	須恵器	古代/9c	杯蓋		－	（2.6）	14.0	5B青灰6/1	5B青灰6/1	石英・長石		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	笹神窯産、6Q5 SD24 4層と接合
48	7Q1・6	P85（SB2）	一括	須恵器	古代/9c	杯		11.3	（2.8）	－	2.5GYオリーブ灰6/1	2.5GYオリーブ灰6/1	白色粒子		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産、7Q12 P361 1層上面と接合
49	7Q1・6	P85（SB2）	2層	須恵器	古代/9c	杯		12.5	（2.3）	－	2.5Y灰白8/2	2.5Y灰黄7/2	白色粒子		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
50	7Q1・6	P85（SB2）		須恵器	古代	杯		（13.4）	（2.3）	－	5Y灰白8/1	5Y灰白7/1	白色粒子		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産、No.87と同一個体か?
51	7Q1・6	P85（SB2）	2層	須恵器	古代/9c	無台杯		11.7	2.9	7.2	10Y灰5/1	10Y灰5/1	白色粒子	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産、7Q2 SD24 1層と接合
52	7Q1・6	P85（SB2）	2層	須恵器	古代/9c	杯		13.4	（2.8）	－	5YR灰白8/1	2.5YR灰白8/1	石英・砂		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
53	7Q1・6	P85（SB2）	2層	須恵器	古代/9c	無台杯		－	（1.3）	6.5	10BG青灰6/1	10BG青灰5/1	白色粒子	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
54	7Q1・6	P85（SB2）	2層	須恵器	古代/9c	無台杯		12.3	2.9	6.8	5BG青灰6/1	5BG青灰6/1	白色粒子	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
55	7Q1・6	P85（SB2）	2層	須恵器	古代/9c	無台杯		13.4	2.9	8.2	7.5Y灰白7/1	7.5Y灰白7/1	白色粒子		全体風化著しく調整不明	小泊窯産
56	7Q1・6	P85（SB2）	2層	須恵器	古代/9c	壺・瓶類		25.2	（10.9）	13.2	N灰6/	N灰6/	石英・長石		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	笹神窯産、底部内面・外面黒色付着
57	5P20	P87（SB2）	2層	須恵器	古代/9c	甕		65.6	28.9	－	N灰5/	N灰6/	石英		内：ロクロナデ（口縁）、当て具痕（胴部） 外：ロクロナデ（口縁）、タタキメ（胴部）、類部波状文	笹神窯産、6P21 SX44 1層、6Q21 SK221 1層、5Q23 Ⅳ'層、5Q表土と接合
58	7R4	P187（SB3）	2層	土師器	古代/9c	椀	A	15.4	（2.3）	－	7.5YR浅黄橙8/3	7.5YR浅黄橙8/3	砂礫・石英		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
59	7R4	P187（SB3）	2層	土師器	古代/9c	無台椀	－	－	（2.4）	5.6	7.5YR明褐灰7/2	7.5YR褐灰6/1	砂礫	回転糸切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
60	6R17	P378（SB4）	1層	土師器	古代/9c	無台椀	－	－	（1.3）	5.0	7.5YR黄橙8/8	7.5YR黄橙8/8	砂礫	回転糸切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
61	5P9	SK27	1層	土師器	古代	長胴甕	B	22.4	（9.9）	－	5YR橙7/6	10YR黄橙8/6	砂礫・石英		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
62	7Q8	SK40	1層	須恵器	古代/9c	無台杯		12.6	（3.0）	－	N灰白7/	N灰白7/	白色粒子・砂		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
63	5P18	SK220	1層	須恵器	古代/9c	有台杯		－	（2.4）	8.5	5BG青灰5/1	10BG暗青灰4/1	石英・長石		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	笹神窯産
64	6R24	SK183	1層	土師器	古代/9c	小甕		14.7	（5.9）	－	5YRにぶい橙6/3	5YRにぶい橙6/3	砂礫		内：ロクロナデ、カキメ 外：ロクロナデ、カキメ	
65	6R24	SK183	1層	土師器	古代	長胴甕	B	21.2	（6.6）	－	7.5YR灰白8/3	2.5YR淡黄8/3	砂礫・石英		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
66	5Q25	SK221	3層	須恵器	古代/9c	有台杯		11.6	2.9	7.0	10BG明青灰7/1	10BG明青灰7/1	白色粒子		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産、5Q25 SK385 2層と接合
67	5Q25	SK221	3層	黒色土器	古代/9c	無台椀	A	14.0	5.3	5.8	2.5Y淡黄8/3	10YR黒褐2/2	砂礫	ヘラケズリ	内：ロクロナデ、黒色処理、擦痕、ミガキ 外：ヘラナデ	
68	6Q21	SK221	1層	土師器	古代/9c	長胴甕	A	（22.8）	（1.9）	－	10YRにぶい黄褐7/4	10YRにぶい黄橙7/3	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
69	5Q25	SK221	3層	黒色土器	古代/9c	有台皿		12.9	3.0	5.6	7.5YR浅黄橙8/4	10YR黒褐3/1	砂礫・雲母		内：ロクロナデ、黒色処理 外：ロクロナデ	
70	5Q25	SK222	2層	土師器	古代	無台椀	－	－	（1.5）	5.6	5YR橙6/8	5YR浅黄橙8/3	砂礫	回転糸切り	内：ロクロナデ 外：ヘラケズリ	

土器観察表（3）

報告番号	グリッド	遺構番号	層位	種類	時代／時期	器種	分類	法量（cm）			外面色調	内面色調	胎土	底部切り離し	成形・調整	備考
								口径	器高	底径						
71	5P18	SK310	1層	須恵器	古代/9c	杯		(12.0)	(2.3)	−	5PB青灰5/1	5PB青灰6/1	白色粒子		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
72	5P18	SK310	1層	土師器	古代/9c	無台椀	−	−	(3.8)	4.9	5YR橙7/8	5YR橙7/6	砂礫	回転糸切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
73	5P18	SK310	1層	土師器	古代/9c	小甕		12.9	(9.0)	−	7.5YRにぶい褐5/3	10YR浅黄橙8/3	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、カキメ	内面コゲ、外面スス付着
74	5Q20・25	SK385	2層	須恵器	古代	有台杯		−	(3.3)	(7.0)	10Yオリーブ黒3/2	7.5Y灰オリーブ4/2	石英		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
75	5Q20・25	SK385	1,2層	黒色土器	古代/9c	椀	A	12.4	(3.5)	−	10YR灰白8/2	7.5YR黒2/1	砂礫		内：ロクロナデ、黒色処理、擦痕 外：ロクロナデ、回転ケズリ	
76	6R19	SD20	2層	灰釉陶器	古代/9c前	皿		−	(1.6)	−	5Y淡黄8/3	5Y灰白8/2			内：ロクロナデ、施釉 外：ロクロナデ、施釉（上半）	K14窯式、7T4 SD35 2層と接合
77	6R19	SD20	3層	土師器	古代/9c	鍋	B	43.7	(6.3)	−	2.5Y灰白8/2	2.5Y淡黄8/3	砂礫･石英･雲母		内：ロクロナデ、ハケメ 外：ロクロナデ	内面コゲ付着
78	7Q12	SD23	1層	黒色土器	古代/9c	耳皿		(9.6)	(2.9)	(5.3)	10YR黒褐3/1	10YR褐灰4/1	砂礫		内：ロクロナデ、黒色処理 外：ロクロナデ、黒色処理	口唇部連続刺突
79	7Q12	SD23	1層	土師器	古代/9c	無台椀	A	16.2	3.6	6.0	7.5YR浅黄橙8/3	7.5YR浅黄橙8/4	砂礫・雲母		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
80	7Q12	SD23	1層	土師器	古代/9c	鍋	B	38.1	(6.3)	−	2.5Y淡黄8/4	10YR灰白8/2	砂礫・雲母		内：カキメ 外：カキメ、ヘラケズリ	外面スス付着
81	7Q13	SD23	1層	土師器	古代	鍋	B	40.0	(5.0)	−	10YR浅黄橙8/3	10YR浅黄橙8/3	石英･長石･雲母		内：ロクロナデ、カキメ 外：ロクロナデ、カキメ	
82	6Q3	SD24	4層	土師器	古代/9c	無台椀	−	−	(3.4)	4.7	7.5YR浅黄橙8/3	7.5YR浅黄橙8/3	砂礫	回転糸切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
83	7Q2	SD24	3層	珠洲焼	中世/13c	甕・Ⅱ～Ⅲ期			8.3	−	N灰4/	N灰4/	白色粒子・雲母・長石		外体：平行タタキ	
84	7Q13	SD25	1層	須恵器	古代/9c	無台杯		12.4	2.5	7.2	5G明緑灰7/1	10GY緑灰6/1	白色粒子	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
85	7Q13	SD25	1層	須恵器	古代/9c	無台杯		12.7	2.9	7.6	N灰白8/	7.5Y灰白7/1	白色粒子	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
86	7Q13	SD25	1層	須恵器	古代/9c	無台杯		12.0	3.0	6.8	5Y灰白8/1	2.5Y灰白8/1	白色粒子	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
87	7Q13	SD25	1層	須恵器	古代/9c	無台杯		13.4	3.2	7.8	7.5Y灰白8/1	7.5Y灰白8/1	白色粒子	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産、No.50と同一個体か?
88	7Q13	SD25	1層	須恵器	古代/9c	無台杯		12.0	2.8	(7.6)	N灰6/	N灰6/	白色粒子		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産、7Q3 SD24 3層と接合
89	7Q13	SD25	1層	須恵器	古代/9c	無台杯		−	(3.0)	6.5	7.5Y灰白8/2	7.5Y灰白8/1	石英	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	笹神窯産
90	7Q13	SD25	1層	土師器	古代/9c	無台椀	A	12.0	3.6	4.3	7.5YRにぶい橙8/4	7.5YRにぶい橙7/4	砂礫	回転糸切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
91	7Q13	SD25	1層	土師器	古代/9c	無台椀	B	12.4	3.7	5.1	7.5YR浅黄橙8/4	7.5YR浅黄橙8/4	砂礫	回転ヘラ切り?	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
92	7Q13	SD25	1層	土師器	古代	長胴甕	A	20.0	(12.7)	−	7.5YR灰白8/2	7.5YRにぶい橙7/3	石英･砂礫･雲母		内：カキメ 外：カキメ	
93	8T19	SX8	1層	須恵器	古代/9c	無台杯		11.9	2.9	8.3	5Y淡黄8/3	5Y淡黄8/3	白色粒子	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
94	8T19	SX8	2層	白磁	中世	皿		(15.2)	(1.7)	−	10Y灰白8/1	10Y灰白8/1	混入物少なく精良		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
95	8T19	SX8	2層	青磁	中世/13c	椀・Ⅱ-b		−	(3.1)	−	5GY明オリーブ灰7/1	5GY明オリーブ灰7/1	混入物少なく精良		外：鎬蓮弁文	龍泉窯
96	8T19	SX8	1層	珠洲焼	中世/13c中	片口鉢・Ⅲ期		33.6	(8.65)	−	5Y灰6/1	5Y7/2灰白	白色粒子・海骨・長石		内：ロクロナデ、卸目2.1cm8目以上1単位 外：ロクロナデ	7・8S-W Ⅰ層、8V撹乱と接合
97	8T19	SX8	2層	須恵器	古代	横瓶		−	(4.7)	−	5Y灰4/1	7.5Y灰6/1	白色粒子		内：当て具痕（同心円） 外：ロクロナデ、タタキメ（格子目）	
98	6P15	SX11	1層	須恵器	古代/9c	有台杯		−	(2.3)	8.2	N灰6/1	N灰6/1	石英		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	笹神窯産
99	7P22, 7Q2	SX16	1層	須恵器	古代/9c	杯蓋		−	2.8	14.2	10YRにぶい黄橙6/3	10YR褐灰6/1	白色粒子		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産、内面口縁付近に黒色（墨?）付着、7Q2・3 SD24 1・4層と接合
100	7Q2	SX16	1層	須恵器	古代/9c	無台杯		11.8	3.1	6.8	10Y灰白7/1	2.5Y灰黄7/2	白色粒子	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産、7Q1 SD24 1層、阿賀野BP 22-2T Ⅱ層と接合
101	7Q3	SX16	1層	須恵器	古代/9c	甕		31.0	(7.1)	−	10Y灰白8/1	2.5Y灰白7/1	白色粒子・黒色粒子		内：ロクロナデ（口縁）、当て具痕（胴部） 外：ロクロナデ（口縁）	6Tと接合
102	7Q3	SX16	1層	土師器	古代	小甕		−	(2.7)	6.4	5YR橙7/6	5YR橙7/6	砂礫	回転糸切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	7Q2 SD24 1層と接合
103	6P22	SX31	2層	土師器	古代	椀	B	12.6	(4.2)	−	7.5YR黄橙8/8	7.5YR黄橙8/8	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
104	6P22	SX31	2層	土師器	古代/9c	椀	A	16.6	(4.8)	−	7.5YR浅黄橙8/3	7.5YR浅黄橙8/3	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
105	7S4	SX39	1層	須恵器	古代/9c	無台杯		12.6	3.0	6.8	Nオリーブ灰5/1	N灰白5/	石英	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	笹神窯産、6Q15 SD23 1層と接合

土器観察表（4）

報告番号	グリッド	遺構番号	層位	種類	時代／時期	器種	分類	法量（cm）			外面色調	内面色調	胎土	底部切り離し	成形・調整	備考
								口径	器高	底径						
106	7S4	SX39	1層	須恵器	古代/9c	杯		12.0	(2.5)	−	10Y灰6/1	5BG明青灰7/1	白色粒子		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
107	6P21	SX44	1層	須恵器	古代/9c	無台杯		12.8	2.8	6.7	10Y灰6/1	10Y灰6/1	白色粒子	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産、7Q3 SX16 1層と接合
108	6P21	SX44	1層	須恵器	古代/9c	瓶		13.6	(1.7)	−	N灰6/1	N灰白7/	白色粒子		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
109	6P21	SX44	2層	土師器	古代/9c	無台椀	A	12.8	4.2	6.6	7.5YR黄橙8/8	7.5YR黄橙8/8	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
110	6P21	SX44	1層	土師器	古代/9c	椀	A	11.6	(2.2)	−	7.5YR浅黄橙8/3	7.5YR浅黄橙8/3	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
111	5P25,6P21	SX44	1層	黒色土器	古代/9c	有台皿		12.7	2.0	4.6	7.5YR黒褐3/1	7.5YR黒褐3/1	砂礫	ヘラケズリ	内：ロクロナデ、ミガキ、黒色処理 外：ロクロナデ（上半）、回転ケズリ（下半）黒色処理	
112	6P21	SX44	1層	土師器	古代/9c	長胴甕	A	(22.8)	(3.1)	−	10YR灰黄褐6/2	10YRにぶい黄橙7/2	砂礫		内：ロクロナデ、カキメ 外：ロクロナデ、カキメ	
113	6P21	P76	1層	土師器	古代	鍋	A	51.1	(9.8)	−	10YR浅黄橙8/3	10YR浅黄橙8/3	石英		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ヘラケズリ（下半）	
114	7P21	P121	1層	須恵器	古代/9c	無台杯		−	(1.5)	7.2	7.5Y灰6/1	5Y灰白7/1	石英・砂	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	6P25 P45（SB2?）1層と接合、墨痕あり
115	7Q8	P136	1層	土師器	古代/9c	無台椀	−	−	(2.4)	5.9	2.5Y灰白8/2	2.5Y灰白8/2	砂礫	回転ケズリ	内：ロクロナデ 外：回転ケズリ	
116	6R10	P170	1層	須恵器	古代/9c	無台杯		11.4	2.9	6.8	10GY緑灰6/1	10Y灰5/1	白色粒子	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
117	6R10	P170	1層	土師器	古代/9c	椀	A	14.4	(4.0)	−	10YR浅黄橙8/3	10YRにぶい黄橙6/3	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	6R3 P166 1層と接合
118	7Q12	P361	1層,1層上面,5層	土師器	古代	無台椀	A	12.8	3.9	4.6	7.5YR黄橙8/8	5YR橙7/6	砂礫	回転糸切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
119	7Q17	P362	1層	須恵器	古代/9c	杯		14.2	(2.3)	−	2.5Y灰白7/1	2.5Y灰白8/1	白色粒子		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
120	7S12	P373	1層	須恵器	古代/8・9c	無台杯		12.8	3.9	8.2	5G緑灰6/1	5B青灰6/1	石英	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	笹神窯産、7・8S ～ W、7R･S･6S Ⅰ層と接合
121	4K17	P410	1層	土師器	古代/9c	無台椀	A	15.8	4.8	6.0	5Y橙7/6	5Y橙7/6	砂礫・雲母	回転糸切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
122	4K17	P410	1層	土師器	古代/9c	無台椀	A	13.0	4.8	5.2	7.5YR橙8/3	7.5YR浅黄橙7/6	砂礫	回転糸切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
123	4K17	P410	1層	土師器	古代/9c	小甕		15.4	(7.8)	−	7.5YR灰白8/2	10YRにぶい黄褐5/3	石英・砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	口縁部内側コゲ付着
124	5Q15	P423	1層	土師器	古代/9c	椀	A	13.0	(4.3)	−	5YR橙7/6	5YR橙7/6	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
125	6Q20	P416	1層	土師器	古代	鍋	C	46.0	(4.8)	−	7.5YR灰白8/2	7.5YR灰白8/2	石英・砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
126	4・5K・L		Ⅰ層	須恵器	古代/9c	無台杯		11.3	2.7	7.6	N灰白6/	N灰白7/	白色粒子	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
127	4C7		検出面	須恵器	古代/9c	無台杯		−	(1.6)	(8.4)	N灰白8/	N灰白8/	白色粒子	ヘラ切り?	全体風化著しく調整不明	小泊窯産
128	8T18		Ⅳ層	須恵器	古代/9c	有台杯		−	(2.4)	7.4	5Y灰白8/2	7.5Y灰6/1	石英･長石･雲母	高台内ヘラケズリ	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	笹神窯産、底部墨痕
129	6・7S ～ W		Ⅰ層	須恵器	古代/9c	短頸壺蓋		−	3.0	11.0	5Y灰オリーブ6/2	2.5Y暗灰黄5/2	白色粒子・黒色粒子		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
130	3K,4J・K	撹乱		須恵器	古代/9c	甕		17.0	(4.8)	−	5Y灰白7/1	2.5GY暗オリーブ灰4/1	石英・長石		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	笹神窯産
131	7R･S,6S		Ⅰ層	須恵器	古代/9c	横瓶		12.6	(3.2)	−	10BG青灰5/1	10BG暗青灰4/1	白色粒子		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	同一個体の破片から横瓶と推定
132	5Q		表土	須恵器	古代/9c	甕		(51.7)	(10.5)	−	10Y褐灰5/1	7.5Y灰5/1	石英		内：ロクロナデ（口縁）、当て具痕（胴部） 外：ロクロナデ（口縁）、タタキメ（胴部）	笹神窯産、頸部波状文
133	5Q		Ⅰ層	須恵器	古代/9c	双耳瓶		（長）8.8 ×（幅）3.8 ×（厚）1.15cm			10YR褐灰4/1	−	白色粒子		ハケと木口によるナデ	
134	9V1		Ⅳ'層	須恵器	古代/9c	横瓶		13.0	(10.7)	−	2.5Y灰白7/1	2.5Y灰白8/1	白色粒子・黒色粒子		内：ロクロナデ（口縁）、当て具痕（同心円） 外：ロクロナデ（口縁）、タタキメ（平行）	8Y7 SD1308 1層と接合
135	5Q23		Ⅳ'層	土師器	古代/9c	椀	A	12.7	(2.6)	−	10YR褐灰6/1	7.5YRにぶい橙7/4	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
136	5Q22・23		Ⅳ'層	土師器	古代/9c	椀	B	14.6	(5.2)	−	7.5YRにぶい橙6/4	7.5YRにぶい橙7/4	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	二次被熱
137	5M	撹乱		土師器	古代/9c	椀	−	−	(1.3)	5.0	7.5YR浅黄橙8/4	7.5YR浅黄橙8/3	砂礫	回転糸切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
138	5Q23		Ⅳ'層	黒色土器	古代/9c	無台椀	A	17.3	5.6	6.8	5YR橙7/6	7.5YR黒褐3/1	砂礫	ヘラケズリ	内：ロクロナデ、ミガキ、黒色処理、擦痕 外：ロクロナデ、回転ケズリ	
139	3J	撹乱		黒色土器	古代	無台椀	A	16.0	(5.1)	−	7.5YR灰白8/2	10YR黒褐3/1	砂礫		内：ロクロナデ、ミガキ、擦痕、黒色処理 外：ロクロナデ	
140	4・5K・L		Ⅰ層	黒色土器	古代/9c	無台椀	A	(14.2)	(4.1)	−	2.5Y灰白8/2	2.5Y黒褐3/1	砂礫		内：ロクロナデ、ミガキ、黒色処理 外：ロクロナデ	

土器観察表（5）

報告番号	グリッド	遺構番号	層位	種類	時代／時期	器種	分類	法量（cm）			外面色調	内面色調	胎土	底部切り離し	成形・調整	備考
								口径	器高	底径						
141	2D10		表土	黒色土器	古代/9c	盤		27.8	(3.2)	−	10YR褐灰4/1	10YR褐灰4/1	砂礫		内：ロクロナデ、黒色処理 外：ロクロナデ、黒色処理	
142	5Q23		Ⅳ'層	土師器	古代	長胴甕	A	20.4	(5.1)	−	7.5YR灰白8/2	7.5YR浅黄橙8/3	砂礫･雲母･石英		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
143	5･6O･P･N		Ⅰ層	土師器	古代	長胴甕	B	(23.8)	(6.5)	−	7.5YR灰白8/2	7.5YR浅黄橙8/3	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
144	8U19		Ⅳ'	土師器	古代	小甕		−	(5.0)	7.4	5YR淡橙8/4	10YR灰白8/2	砂礫・石英	回転糸切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
145	4・5K・L	撹乱		青白磁	中世	合子		7.0	1.7	4.2	10GY明緑灰7/1	5Y8/1灰白	混入物少なく精良			
164	8Y21	SK1321	5層	黒色土器	古代/9c	無台椀	−	−		5.6	2.5Y灰白8/1	2.5Y黒2/1	砂	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ、黒色処理、擦痕 外：ロクロナデ	
165	8Y21	SK1321	3層	黒色土器	古代/9c	無台椀	B	15.0	(2.5)	−	2.5Y黒2/1	2.5Y灰白8/2	砂		内：ロクロナデ、ミガキ、黒色処理、擦痕 外：ロクロナデ	
166	8Y22	SK1321	3層	土師器	古代	鍋	A	45.0	(11.8)	−	7.5YR浅黄橙8/4	10YR浅黄橙8/4	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、タタキメ、カキメ	外面スス付着
167	8Y17	SK1322	3層	須恵器	古代/9c	杯		14.0	(2.8)	−	10Y灰6/1	7.5Y灰白7/1	白色粒子		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
168	9Y6	SK1336	1層	須恵器	古代/9c	無台杯		11.9	3.3	7.0	7.5YR灰白6/1	7.5YR灰白7/1	白色粒子	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
169	9Y6	SK1336	1層	須恵器	古代/9c	無台杯		−	(0.6)	−	10Y灰白7/1	7.5Y灰白71	石英	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	墨書土器「廣」
170	9Y6	SK1336	1層	須恵器	古代	横瓶		−	(18.3)	−	10Yオリーブ灰5/2	2.5Y浅黄7/3	石英・長石		内：当て具痕 外：ロクロナデ、タタキメ、カキメ、自然釉	
171	9Y7	SK1355	2層	須恵器	古代/9c	無台杯		12.2	3.0	6.2	5B青灰5/1	5B青灰5/1	白色粒子	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊産、9Y7 SK1355-P1 1層/9Y7 Ⅴ層と接合
172	9Y7	SK1355	2層，層なし	土師器	古代	長胴甕	A	18.0	(6.2)	−	7.5YRにぶい橙7/4	7.5YRにぶい橙7/4	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	9Y2 SF1356 層なしと接合
173	8AA9	SD1301	6層	須恵器	古代/9c	甕		21.2	(5.4)	−	5PB青灰6/1	5B青灰6/1	白色粒子		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、タタキメ	小泊窯産
174	8AA10	SD1301	4層	土師器	古墳	壺		−	(3.2)	4.2	10YR浅黄橙8/4	10Y黒2/1	砂礫		内：指ナデ、ハケメ、黒色処理 外：ハケメ、ヘラケズリ	
175	8Z25	SD1303	1層	須恵器	古代/9c	無台杯		−	(2.4)	6.4	5B青灰5/1	5B青灰6/1	白色粒子	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産、10Z1 撹乱と接合
176	8Z23	SD1303	2層	土師器	古代	鍋	A	(32.9)	(2.4)	−	10YRにぶい黄橙6/3	10YR灰白8/3	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
177	9Y9	SD1307	2層	須恵器	古代/9c	杯		(14.0)	(2.2)	−	10Y灰白7/1	2.5GY明オリーブ灰7/1	石英		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	笹神窯産
178	9Y24	SD1307	7層	須恵器	古代/9c	杯		13.0	(2.7)	−	5B暗青灰4/1	5B青灰5/1	白色粒子		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
179	8X15	SD1307	2層	須恵器	古代/9c	有台杯		−	(3.4)	6.2	5B青灰5/1	5B青灰6/1	白色粒子		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産、9Y1 SD1308 1層/8X15 SD1309 1層と接合
180	9Y19	SD1307	1層	土師器	古代	小甕		−	(1.7)	7.6	2.5Yにぶい黄6/3	10YRにぶい黄褐5/3	石英・砂礫	回転糸切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	8X23 SD1358 1層と接合
181	9Y3・4・8・9	SD1307	2，5，7層	土師器	古代	長胴甕	C	30.0	(5.7)	−	7.5YR橙7/6	7.5YRにぶい橙7/4	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、カキメ	
182		SD1308	1層	須恵器	古代	折縁杯		(10.8)	(2.7)	−	5B青灰5/1	5B青灰6/1	石英		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	笹神窯産
183		SD1308	2層	須恵器	古代	横瓶		14.4	(3.6)	−	N灰6/1	N灰4/1	白色粒子		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、タタキ	9Y7 Ⅴ層と接合
184	8Y5，8Y4	SD1308	1層	土師器	古代	鍋	C	31.5	(4.7)	−	7.5YRにぶい橙7/4	7.5YRにぶい橙6/4	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、カキメ	内面コゲ付着
185		SD1308	2層	土師器	古代	鍋	C	29.6	(3.2)	−	7.5YR橙7/6	7.5YR橙6/6	砂礫		内：ロクロナデ、カキメ 外：ロクロナデ、カキメ	
186	8Y4	SD1308	1層	土師器	古代	長胴甕	A	20.8	(6.0)	−	10YRにぶい黄橙7/4	10YR灰黄褐6/2	石英・砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、カキメ	
187	9X13	SD1309	3層	須恵器	古代/9c	杯蓋		−	(1.4)	(15.0)	10YR灰黄褐6/2	10YRにぶい黄橙6/3	白色粒子		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
188	9X17	SD1309	1層	須恵器	古代/9c	杯		12.8	(2.8)	−	10BG青灰6/1	2.5GYオリーブ灰6/1	白色粒子		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
189	9X8	SD1309	1層	須恵器	古代/9c	杯		(13.0)	(2.3)	−	5B青灰5/1	5B青灰6/1	白色粒子		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
190	9X11	SD1309	4層	須恵器	古代	甕		44.0	(4.8)	−	10R赤褐5/4	10R赤黒2/1	石英		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	笹神窯産
191	8X17	SD1309	1層	土師器	古代	鍋	B	(46.8)	(4.0)	−	10YR浅黄橙8/3	10YRにぶい黄橙7/4	砂礫・雲母		内：ロクロナデ、カキメ、ハケメ 外：ロクロナデ	
193		SD1310	4層	須恵器	古代/9c	杯蓋		−	(1.4)	−	N灰6/	N灰7/	白色粒子		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
194	8Y10	SD1310	2層	土師器	古代	長胴甕	−	−	(6.1)	11.4	7.5YRにぶい橙6/4	7.5YRにぶい橙7/4	石英	回転糸切り	内：ロクロナデ、カキメ 外：ロクロナデ	
195	8Y23	SD1358	1層	須恵器	古代/9c	無台杯		12.6	3.0	6.6	7.5YR灰白7/1	2.5YR灰白7/1	白色粒子	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産

土器観察表（6）

報告番号	グリッド	遺構番号	層位	種類	時代／時期	器種	分類	法量（cm）			外面色調	内面色調	胎土	底部切り離し	成形・調整	備考
								口径	器高	底径						
196	8Y23	SD1358	1層	須恵器	古代/9c	無台杯		12.9	3.1	7.6	5GYオリーブ灰6/1	10BG青灰6/1	白色粒子	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
197	9W21	SD1149	1層	土師器	古代	鍋	B	(42.0)	(2.2)	－	7.5YRにぶい橙7/4	7.5YRにぶい橙6/4	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
198	9X1	SD1149	1層	黒色土器	古代/9c	無台椀	－	－	(4.0)	5.6	5Y灰白8/1	2.5Y黒2/1	砂礫	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ、黒色処理 外：ロクロナデ	
200		SF1356		土師器	古代	長胴甕	C	28.6	(4.4)	－	10YR浅黄橙8/4	7.5YR橙7/6	砂礫・石英		内：ロクロナデ、カキメ 外：ロクロナデ	
201	9Y16	P1316	6層	須恵器	古代/9c	杯		(13.0)	(3.3)	－	5G緑灰6/1	5Gオリーブ灰6/1	石英		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	笹神窯産
202	8Y18	P1324	1層	土師器	古代	鍋	A	35.5	(10.8)	－	10YRにぶい黄橙7/4	10YRにぶい黄橙7/3	石礫		内：ロクロナデ、下部指頭圧痕、カキメ 外：ロクロナデ、ヘラケズリ、下部タタキメ	内面コゲ付着
203	8Y18	P1324	1層	土師器	古代	小甕		16.8	(7.3)	－	7.5YR橙6/6	7.5YR橙7/6	砂礫		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	内面口縁部コゲ付着、外面スス付着
204	9W21	P1573	1層	土師器	古代	鍋	B	(36.6)	(4.0)	－	10YR灰白8/2	10YR浅黄橙8/4	砂礫・雲母		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	
205	10Y21		表土	須恵器	古代/9c	無台杯		12.8	2.8	6.6	10BG青灰6/1	5B青灰6/1	白色粒子	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
206	9Z9	撹乱	6層	須恵器	古代/9c	無台杯		13.4	2.9	8.0	5B青灰5/1	10BG青灰5/1	白色粒子	回転ヘラ切り	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	小泊窯産
207	8Y10		Ⅰ層	瓷器系陶器	中世/13～14c	甕		－	6.3	－	10R暗赤褐3/3	10R赤褐4/3	石英		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	赤坂山窯産
208	9X18		表土	染付	近代	鉢		16.0	(4.0)	－	7.5GY明緑灰8/1	10GY明緑灰8/1			外：ロクロナデ	肥前系磁器

石製品観察表

報告番号	グリッド	遺構番号	層位	器種	石材	法量（cm）			重量（g）	遺存状況	備考
						長さ	幅	厚さ			
152	8T19	SX8	2層	砥石	凝灰岩	12.85	10.80	7.50	1141.0		敲打痕あり
153	5Q23		Ⅳ'層	砥石	凝灰岩	4.90	4.30	3.20	64.0	両端・側面・裏面欠損	
154	6T19	SE225	埋土	砥石	砂岩	6.15	3.90	2.35	52.0		被熱
155	7Q18	SD32	1層	礫	凝灰岩	12.60	6.35	6.00	358.0		被熱
156	5M		表土	硯	粘板岩	4.55	2.50	0.80	11.0		硯縁のみ残存、携帯用?
157	8V10	SD9	1層	不明	凝灰岩	3.35	3.20	3.45	27.0	上部欠損	球状、一端が平坦

木製品・その他観察表

報告番号	グリッド	遺構番号	層位	種別	器種	木取り	法量（cm）			重量（g）	樹種	備考
							現存長	幅	厚さ			
146	6T19	SE225	6層	木製品	漆器椀	－	器高（5.67）	胴部（15.6）	底径（8.0）	－	ケヤキ	内面朱漆、外面黒漆地・朱漆文様（州浜桐竹文）、自然科学分析済
147	6T19	SE225	6層	木製品	板状木製品	柾目	(8.1)	2.4	0.3	－	－	
148	6T19	SE225	6層	木製品	板状木製品	板目	(26.2)	2.8	1.0	－	－	
149	6T19	SE225	6層	木製品	板状木製品	板目	(15.9)	2.8	1.0	－	－	曲物の一部、151と同一?
150	6Q15	P114	検出面	アスファルト	－	－	9.2	12.2	4.5	121.4	－	自然科学分析済（黒褐色固形物）
151	6T19	SE225	6層	木製品	曲物	板目	89.0	75.8	36.6	－	スギ	井戸の水溜

土製品観察表

報告番号	グリッド	遺構番号	層位	種類	法量（cm）			重量（g）	色調	備考
					長さ	幅	厚さ			
192	8X15	SD1309	3層	転用研磨具	6.5	5.4	4.3	87.5	内：7.5Y灰6/1・ 外：7.5Y灰白7/1	珠洲焼（片口鉢）底部静止切、内：ロクロナデ・卸目、外：ロクロナデ
199	9W16	SD1149	1層	転用研磨具	8.6	6.15	1.5	96.0	内：10YR灰黄褐6/2・ 外：2.5YR赤黒2/1	須恵器（甕）
209	9Y7	SK1355-P2	2層	土錘	4.0	1.3	1.15	5.5	2.5Y浅黄7/3	
210	9X18	SD1307	1層	土錘	4.0	1.3	1.15	5.5	10YR灰白8/2	
211	9X18	SF1356	1層	土錘	3.7	1.25	1.10	5.0	2.5Y浅黄8/3	
212	9AA		Ⅰ層	土錘	3.4	1.20	1.05	4.0	10YRにぶい黄橙7/4	
213	9AA		Ⅱ層	土錘	(2.9)	1.10	1.00	2.5	2.5Y灰白8/2	
214	9AA		Ⅱ層	土錘	(3.3)	1.15	1.05	4.0	10YR灰白8/2	

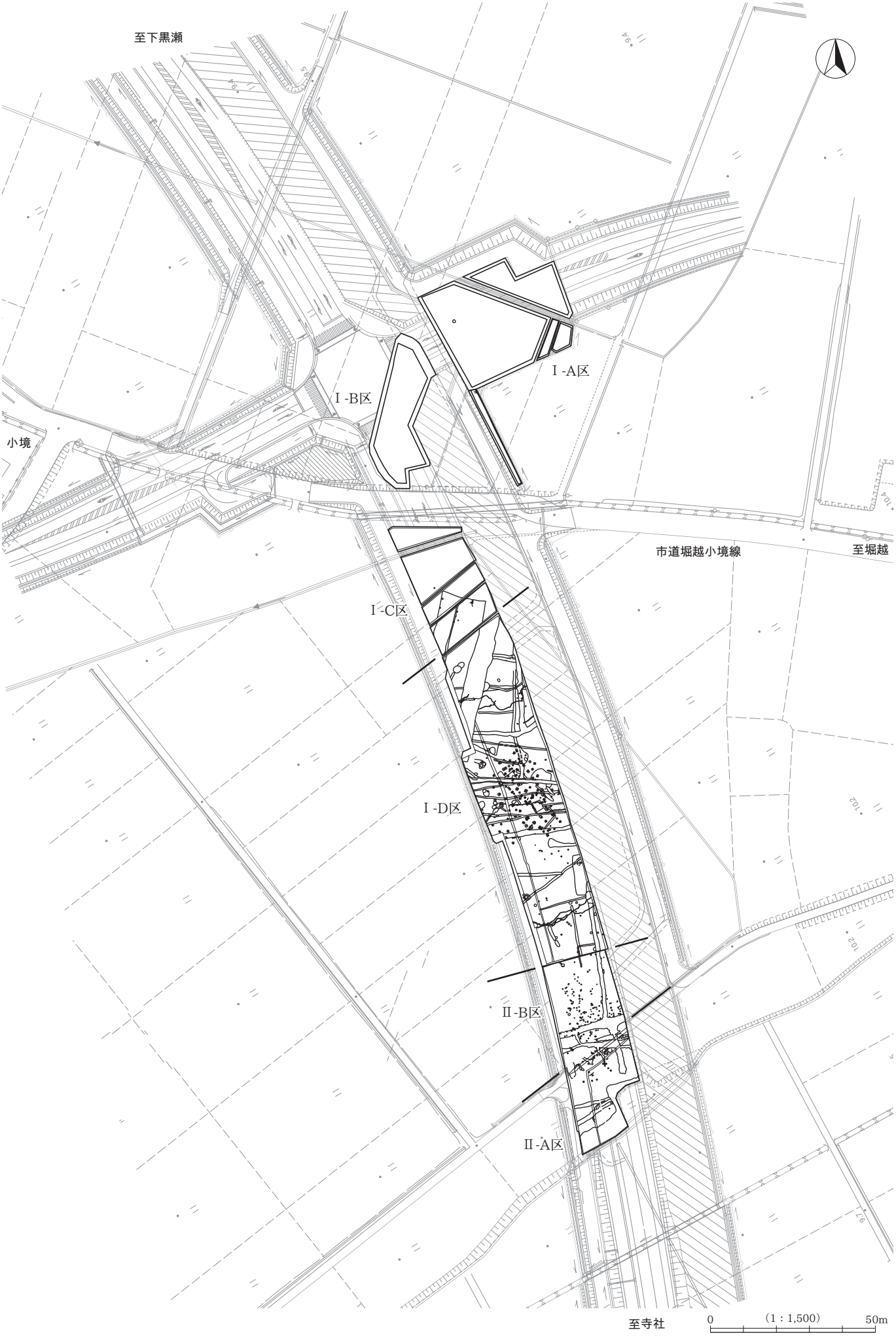
金属製品・その他観察表

報告番号	グリッド	遺構番号	層位	種類	法量（cm）			重量（g）	備考
					長さ	幅	厚さ		
158	7R20	SD20	3層	釘	9.70	1.05	1.60	25.0	
159	8T19	SX8	1層	不明	6.20	1.70	1.10	14.0	釘の可能性あり
160	6N8	SD4	1層	釘	2.05	0.60	0.45	0.5	
161	7U	SX150	1層	釘	5.10	1.20	1.35	2.0	
162	7R16	SD20	2層	鉄滓	3.00	2.45	1.95	17.5	椀形滓の可能性あり
163	7R2	P54	2層	鉄滓	2.70	1.50	1.00	4.5	SB1ピット
215	9Y23		撹乱	銭貨	2.55	2.55	0.50	6.4	
216	8Y21	SK1321	2層	刀子	5.30	1.10	0.30	6.9	

図　　版

調査範囲図

図 版 1



2015年度調査区
2014年度調査区
8
7
6
9
BB
AA
Z
Y
X
W
V
U
T
S
R
5
4
3
6
7
8
R
Q
P
O
N
M
L
K
J
0
(1 : 250)
10m

噴砂　柱痕アタリ　0　（1：100）　5m

遺構分割図（2）

SA1581
SD1308
SD1309
SD1376
SK1577
SK1321
SK1322
SD1323
SD1358
SD1325
SD1310
SK1336
SK1355
SD1307
SF1356
SF1356-SK5
SF1356-SK4
SF1356-SK3
SF1356-SK2
SF1356-SK1
SF1356-SD1
SK1355-P1
SK1355-P2
噴砂1
噴砂2
10.30
10.20
10.40
10.10
10.00
9.90
9.80
8Z
8Y
9Z
9Y
10Z
10Y
噴砂
柱痕アタリ
0
(1：100)
5m

10.10
P1480
P1481
P1479
P1410
P1411
P1483
P1484
P1412
P1413
8X
8W
P1497
P1496
P1498
P1499
SK1576
P1493
P1494
P1495
P1492
P1490
P1485
P1486
P1487
P1491
P1489
P1488
P1422
P1420
P1429
P1423
P1421
P1431
P1414
P1409
P1430
P1571
P1432
P1433
P1520
P1416
P1415
P1440
P1439
P1551
P1428
P1427
P1426
P1424
P1425
P1419
P1550
P1417
P1418
P1506
P1561
P1505
P1507
P1441
P1542
P1508
P1446
P1442
P1453
P1452
P1552
P1560
P1443
P1444
P1568
P1559
P1445
P1558
P1569
P1447
P1574
P1547
E
P1557
P1448
P1570
P1450
P1451
P1510
P1511
P1509
P1512
P1523
P1522
P1524
P1555
P1449
P1553
P1556
P1521
P1455
P1404
P1549
B
P1460
P1457
P1459
P1456
9X
P1573
9W
P1458
SK1580
D
P1403
P1405
P1406
P1407
P1401
SD1149
P1402
P1539
P1465
P1468
P1467
P1469
P1464
P1466
P1538
P1581
P1463
SD1309
P1471
P1531
P1470
P1461
P1462
SK1578
P1544
P1543
0
(1：100)
5m

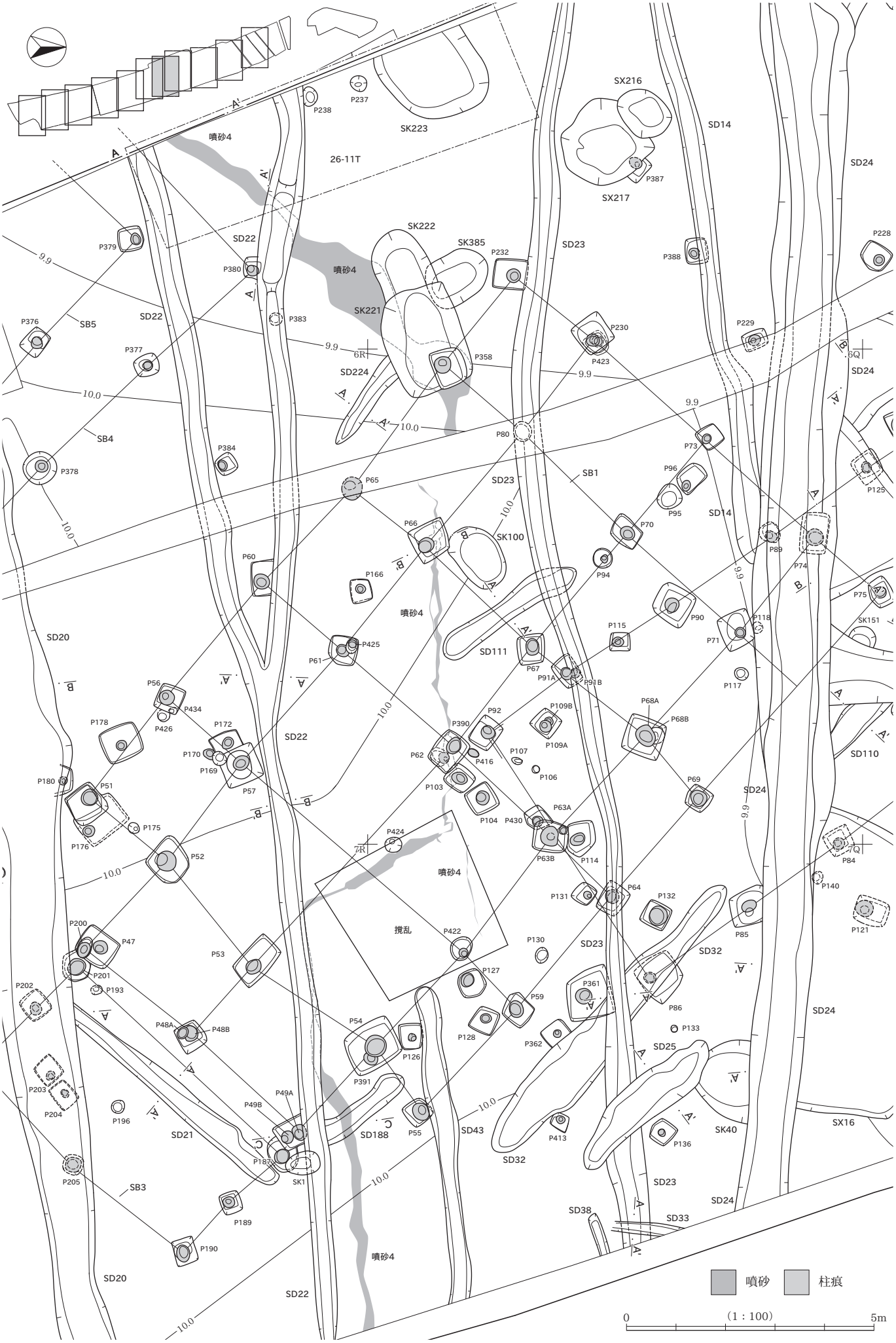
遺構分割図（4）

噴砂3
P282
P283
噴砂3
P286
A
A'
10.1
26-8T
SX150
SX149
SK267
SD1378
SK1579
P1537
P272
8V
P289
P288
P287
SD148
P1454
P241
P328
SD1379
P386
SD147
SK1575
SK248
26-9T
SD9
SK246
P1408
SK251
P247
9V
10.0
P250
P1546
P1545
(SD9)
7V
噴砂
0
(1：100)
5m

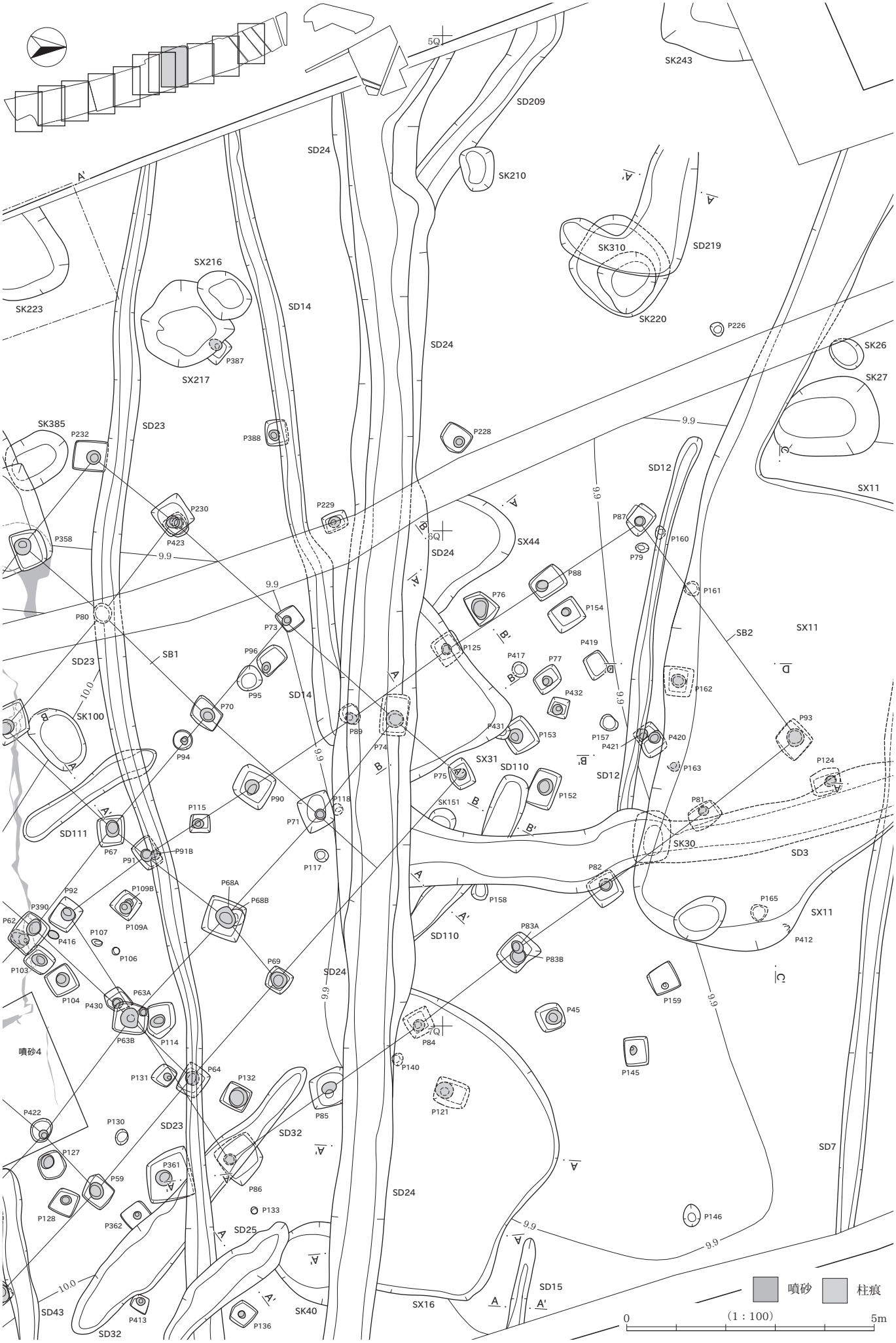
P429
SK428
SE225
SD34
10.0
7U
7T
SK359
P356
SD35
P363
P373
26-7T
P350
P351
SD37
P372
P215
噴砂3
8U
8T
P364
SK341
SX42
SK335
P328
P334
SD37
SK206
SD9
SX8
噴砂3
噴砂
柱痕
0
(1：100)
5m

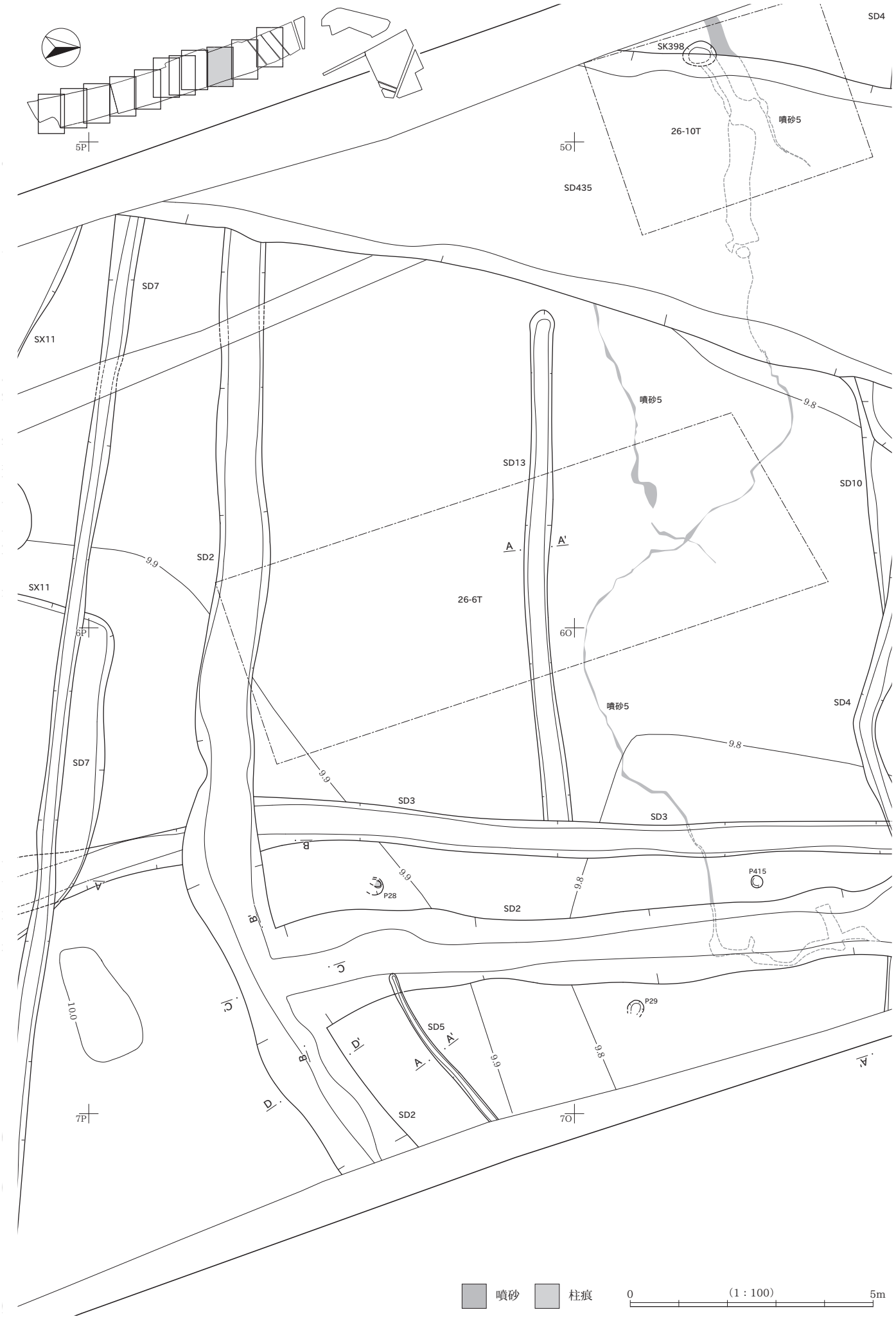
遺構分割図（6）

噴砂
柱痕
噴砂4
26-11T
SD22
SB5
SB4
SD20
SK183
SD21
SB3
SX39
SK1
26-7T
6S
7S
8S
P238
P379
P380
P383
P376
P377
P374
P378
P384
P369
P370
P371
P60
P61
P56
P434
P426
P178
P172
P170
P169
P57
P180
P51
P175
P176
P52
P46
P366
P367
P382
P368
P373
P200
P47
P201
P193
P53
P202
P48A
P48B
P199
P203
P204
P196
P49A
P49B
P187
P205
P189
P190
P372
P214
P215
P364
P365
9.9
10.0
0
(1 : 100)
5m

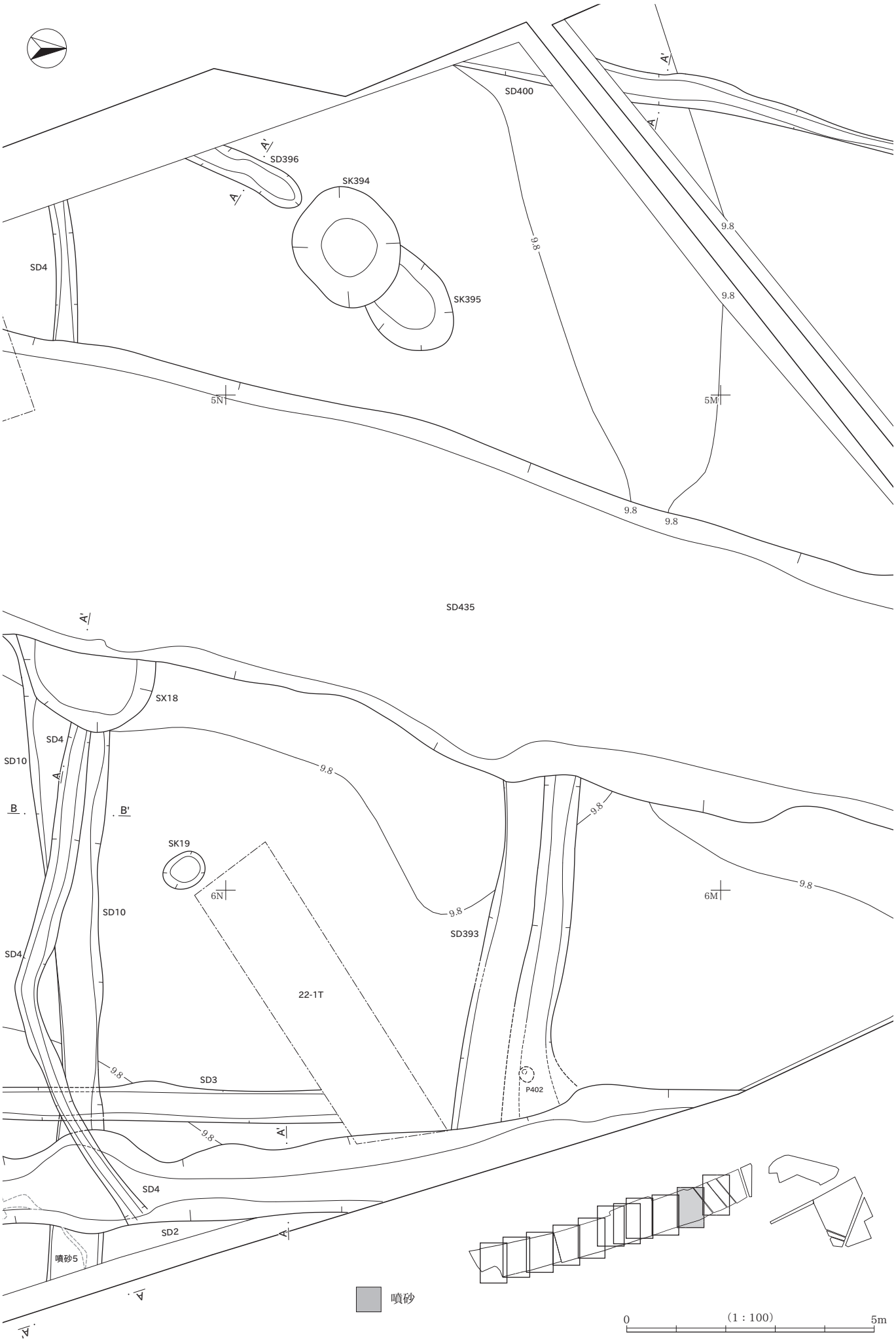

噴砂4
26-11T
SK223
SX216
SX217
SD14
SD24
SK222
SK385
SD22
SD23
SK221
SD224
SB5
SB4
SB1
SK100
SD111
SD20
SD110
SD32
SD25
SD43
SD188
SD21
SK40
SX16
SD38
SD33
SK151
撹乱
SK1
SB3
6R
6Q
7R
7Q
9.9
10.0
噴砂
柱痕
0
(1：100)
5m

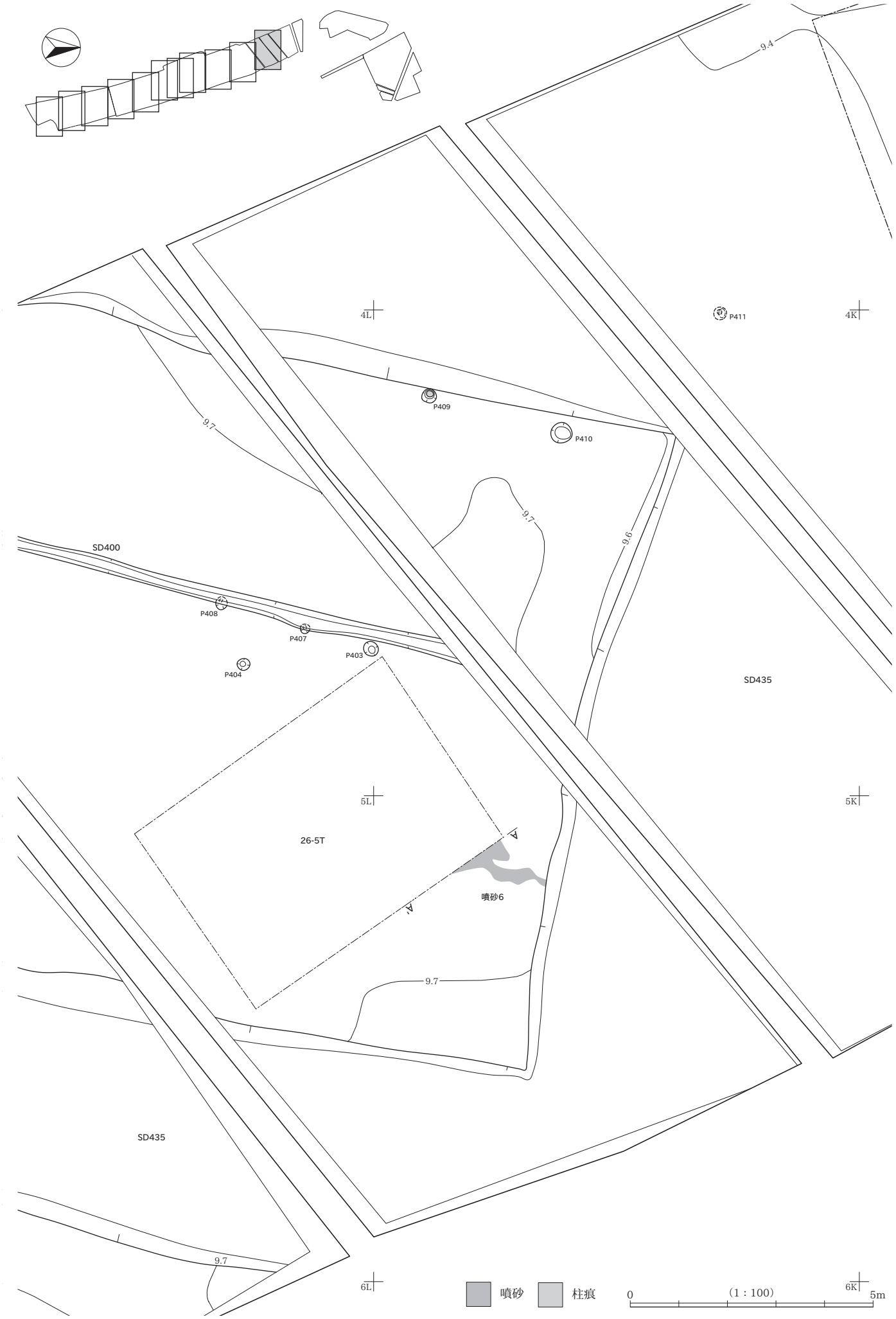
遺構分割図（8）


SK243
SD209
SD24
SK210
SK310
SD219
SK220
SX216
SK223
SD14
SX217
P387
P226
SK26
SK27
SK385
SD23
P232
P388
P228
SD12
SX11
P230
P229
P423
P358
SX44
P87
P160
P79
P88
P76
P154
P161
P80
P73
SB2
P125
P419
P417
P77
P96
SB1
P95
P432
P162
P70
P89
P74
P431
P153
P157
P420
P421
P93
P94
SX31
SD110
P163
P124
P75
P152
SK151
P81
P90
P118
P115
P71
SK100
SD111
P67
P91
P91B
P117
SK30
SD3
P82
P158
P68A
P68B
P92
P109B
P390
P62
P109A
P416
P107
P106
P165
P412
P83A
P83B
P103
P104
P69
P430
P63A
P63B
P114
P159
P45
P84
噴砂4
P140
P145
P131
P64
P132
P121
P85
P422
P130
P127
P361
P86
P59
P128
P362
P133
P146
SD25
SD43
P413
SK40
P136
SD32
SD15
SX16
SD7
噴砂
柱痕
0
(1 : 100)
5m

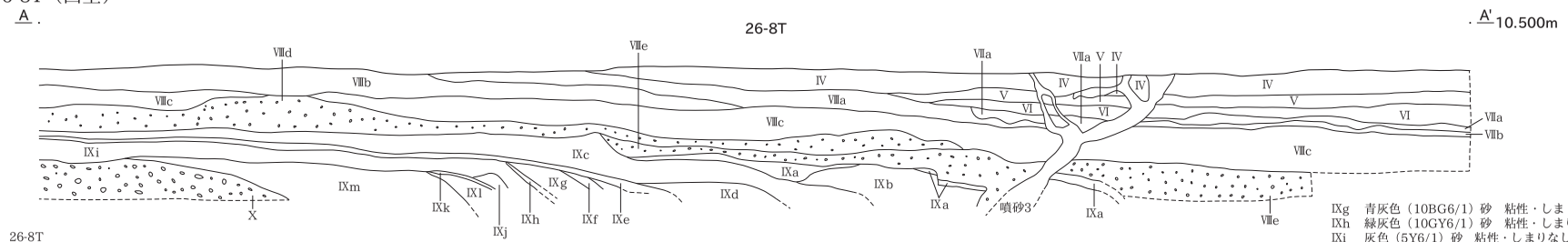

SD4
SK398
26-10T
噴砂5
5P
5O
SD435
SD7
SX11
噴砂5
9.8
SD13
SD10
A
A'
SD2
9.9
SX11
26-6T
6P
6O
噴砂5
SD4
9.8
SD7
9.9
SD3
SD3
B
P415
P28
9.9
9.8
SD2
A'
B'
C
C'
10.0
P29
SD5
D'
A'
A
9.9
9.8
B
D
SD2
7P
7O
A'
噴砂
柱痕
0
(1：100)
5m

遺構分割図（10）


SD400
SD396
SK394
SK395
SD4
5N
5M
9.8
SD435
SX18
SD10
B
B'
SK19
6N
6M
SD393
22-1T
SD3
P402
SD2
噴砂5
噴砂
0
(1：100)
5m

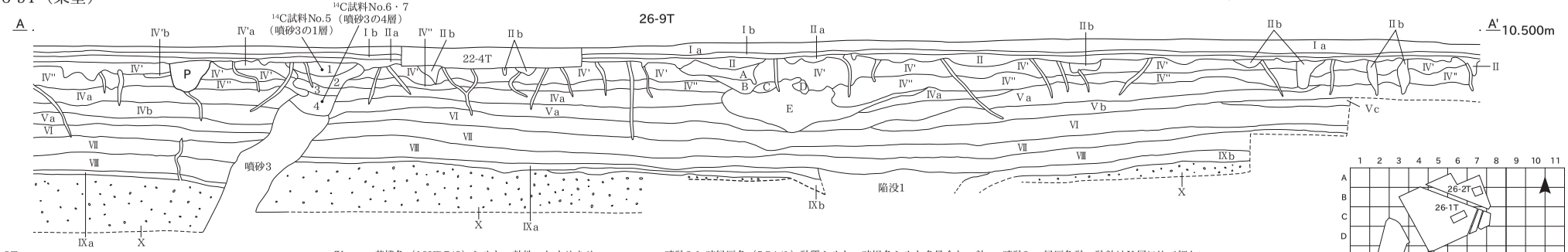

9.4
4L
P411
4K
P409
P410
9.7
9.7
9.6
SD400
P408
P407
P403
P404
SD435
5L
5K
26-5T
A
A'
噴砂6
9.7
SD435
9.7
6L
6K
噴砂
柱痕
0
(1：100)
5m

26-8T（西壁）



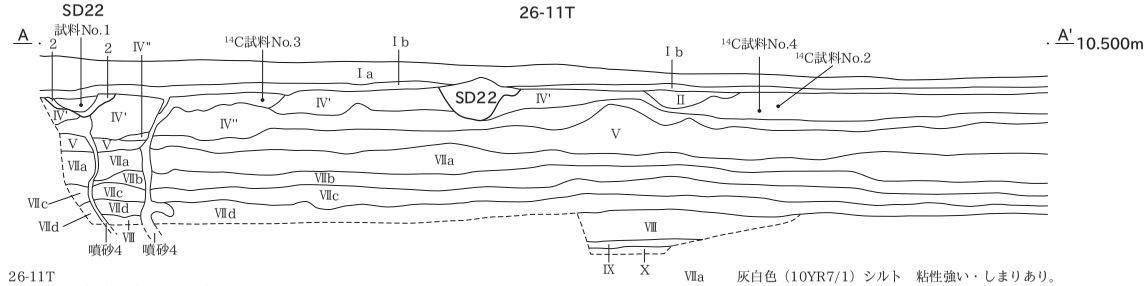
26-8T
- Ⅳ　黄褐色（10YR5/6）シルト
- Ⅴ　灰白色（10YR8/1）シルト　粘性・しまりあり。
- Ⅵ　橙色（7.5YR6/8）砂　灰白色砂質シルト含む。粘性・しまりなし。
- Ⅶa　橙色（7.5YR6/8）砂質シルト　粘性・しまり弱い。
- Ⅶb　褐灰色（10YR6/1）砂　粘性・しまりなし。
- Ⅷa　暗褐色（10YR3/4）砂　粘性・しまりなし。
- Ⅷb　橙色（7.5YR6/8）砂　粘性・しまりなし。
- Ⅷc　黄褐色（10YR5/8）砂　粒径粗い。粘性・しまりなし。
- Ⅷd　橙色（7.5YR6/6）砂　径1～3cmの礫を多量含む。
- Ⅷe　灰色（5Y6/1）砂　径1～3cmの礫を多量含む。
- Ⅸa　灰白色（10YR8/2）シルト　部分的に橙色シルト　粘性・しまりあり。
- Ⅸb　灰色（10YR8/2）砂　粘性・しまりなし。
- Ⅸc　灰色（10YR8/2）砂　径1cm程度の礫少量含む。粘性・しまりなし。
- Ⅸd　青灰色（10BG6/1）砂　粘性・しまりなし。
- Ⅸe　橙色（7.5YR6/8）シルト　粘性・しまりあり。
- Ⅸf　灰白色（10YR7/1）砂　粘性・しまりなし。
- Ⅸg　青灰色（10BG6/1）砂　粘性・しまりなし。
- Ⅸh　緑灰色（10GY6/1）砂　粘性・しまりなし。
- Ⅸi　灰色（5Y6/1）砂　粘性・しまりなし。
- Ⅸj　暗青灰色（10BG7/1）砂　黒い筋状の砂が見られる。粘性・しまりなし。
- Ⅸk　緑灰色（10GY6/1）砂　粘性・しまりなし。
- Ⅸl　黄灰色（2.5Y6/1）砂　粘性・しまりなし。
- Ⅸm　灰色（5Y6/1）砂　径1cm程度の礫少量含む。粘性・しまりなし。
- X　褐色（7.5YR4/4）礫層　径1cm～10cmの礫多量含む。

26-9T（東壁）



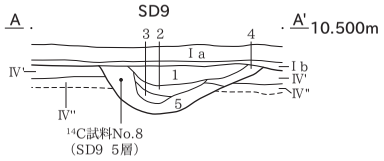
26-9T
- Ⅰa　灰色（N4/）シルト　表土。
- Ⅰb　暗灰色（N3/）シルト　水田床土。鉄分多量含む。
- Ⅱa　褐灰色（10YR4/1）シルト
- Ⅱb　暗褐色（10YR3/4）シルト　黄褐色シルト多量含む。粘性・しまりあり。
- Ⅳ'　暗緑灰色（7.5GY4/1）砂質シルト　暗褐色シルト多量含む。粘性・しまり弱い。
- Ⅳ'a　暗緑灰色（5G4/1）砂質シルト　粘性・しまり弱い。
- Ⅳ'b　暗褐色（10YR3/4）シルト　粘性・しまりあり。
- Ⅳ''　暗緑灰色（7.5GY4/1）砂質シルト　暗褐色シルト少量含む。粘性・しまり弱い。
- Ⅳa　黄橙色（10YR7/8）シルト　粘性・しまりあり。
- Ⅳb　黄橙色（10YR7/8）砂質シルト　粘性・しまりあり。
- Ⅴa　黄橙色（10YR8/8）シルト　粘性・しまりあり。
- Ⅴb　黄橙色（10YR8/6）砂質シルト　粘性・しまり弱い。
- Ⅴc　灰白色（5Y7/1）砂質シルト　粘性・しまり弱い。
- Ⅵ　灰白色（7.5Y7/1）シルト　粘性強い・しまりあり。
- Ⅶ　緑灰色（10GY6/1）シルト　粘性強い・しまりあり。
- Ⅷ　青灰色（5BG6/1）砂　粘性・しまりなし。
- Ⅸa　緑灰色（5G6/1）シルト　粘性・しまりあり。
- Ⅸb　緑灰色（10G6/1）砂　粘性・しまりなし。
- X　暗赤褐色（5YR3/6）砂　径1cm～10cmの円礫多量含む。粘性・しまりなし。
- 噴砂3-1 暗緑灰色（5G4/1）砂質シルト　暗褐色シルト多量含む。粘性・しまり弱い。
- 噴砂3-2 暗灰色（N3/）砂質シルト　粘性・しまり弱い。
- 噴砂3-3 オリーブ灰色（2.5GY5/1）砂質シルト　粘性・しまり弱い。
- 噴砂3-4 暗緑灰色（7.5GY4/1）砂質シルト　粘性・しまり弱い。
- 噴砂3　緑灰色砂　砂粒はX層に比べ細かい。
- 陥没1　青灰色（10BG6/1）シルト　粘性・しまりあり。
- A　褐色（10YR5/1）砂質シルト　黄褐色シルトブロック多量含む。粘性・しまり弱い。
- B　黄橙色（10YR8/8）砂質シルト　褐灰色シルト粒少量含む。粘性・しまり弱い。
- C　黄褐色（10YR5/8）砂　粘性・しまりなし。
- D　暗褐色（10YR3/4）砂　粘性・しまりなし。
- E　暗緑灰色（5G4/1）砂　粘性・しまりなし。

26-11T（西壁）



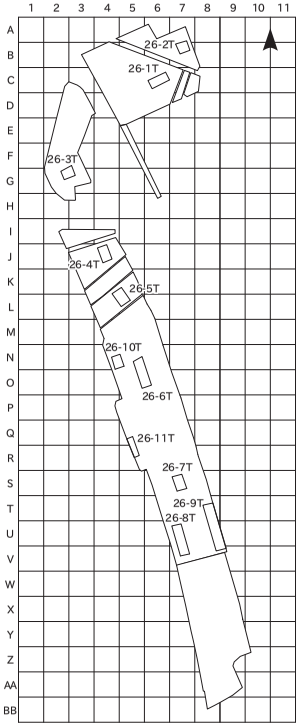
26-11T
- Ⅰa　灰色（N4/）シルト　表土。
- Ⅰb　暗灰色（N3/）シルト　水田床土。鉄分多量含む。
- Ⅱ　暗褐色（10YR3/4）砂質シルト　黄褐色シルトブロック多量含む。粘性・しまり弱い。
- Ⅳ'　暗緑灰色（7.5YR4/1）砂質シルト　古代の遺物を含む。液状化の影響を受けた層。粘性・しまり弱い。
- Ⅳ''　にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質シルト　液状化の影響を受けた層。
- Ⅴ　黄橙色（10YR8/8）シルト　粘性・しまりあり。
- Ⅶa　灰白色（10YR7/1）シルト　粘性強い・しまりあり。
- Ⅶb　灰白色（10YR8/1）砂質シルト　砂質強い。粘性・しまり弱い。
- Ⅶc　灰白色（10YR8/2）砂質シルト　粘性強い・しまりあり。
- Ⅶd　暗褐色（10YR3/4）砂　砂粒は粗い。粘性・しまりなし。
- Ⅷ　緑灰色（7.5GY6/1）砂　Ⅷ層より砂粒細かい。粘性・しまりなし。
- Ⅸ　緑灰色（5G6/1）シルト　粘性・しまりあり。
- X　暗赤褐色（5YR3/6）砂　湧水が認められる。粘性・しまりなし。
- 噴砂4　灰色（5Y7/1）砂～暗緑灰（7.5GY4/1）砂　Ⅷ層より粒子細かく、Ⅸ層より粗い。上層は暗緑灰砂となる。粘性・しまりなし。

SD9（8・9V）



SD9
- 1　暗褐色（10YR3/4）シルト　黄褐色シルトブロック少量含む。粘性・しまりあり。
- 2　暗褐色（10YR3/4）シルト　黄褐色シルト粒少量含む。粘性・しまりあり。
- 3　暗褐色（10YR3/4）シルト　黄褐色シルトブロック多量含む。粘性・しまりあり。
- 4　暗褐色（10YR3/4）シルト　黄褐色シルトブロック・黄褐色シルト粒多量含む。粘性・しまりあり。
- 5　黄褐色（10YR5/8）シルト　暗褐色シルトブロック多量含む。粘性しまりあり。
- Ⅰa　灰色（N4/）シルト　表土
- Ⅰb　暗灰色（N3/）シルト　水田床土。鉄分多量含む。
- Ⅳ'　暗緑灰色（7.5G4/1）砂質シルト　暗褐色シルト多量含む。粘性・しまり弱い。
- Ⅳ''　暗緑灰色（7.5GY4/1）砂質シルト　暗褐色シルト少量含む。粘性・しまり弱い。

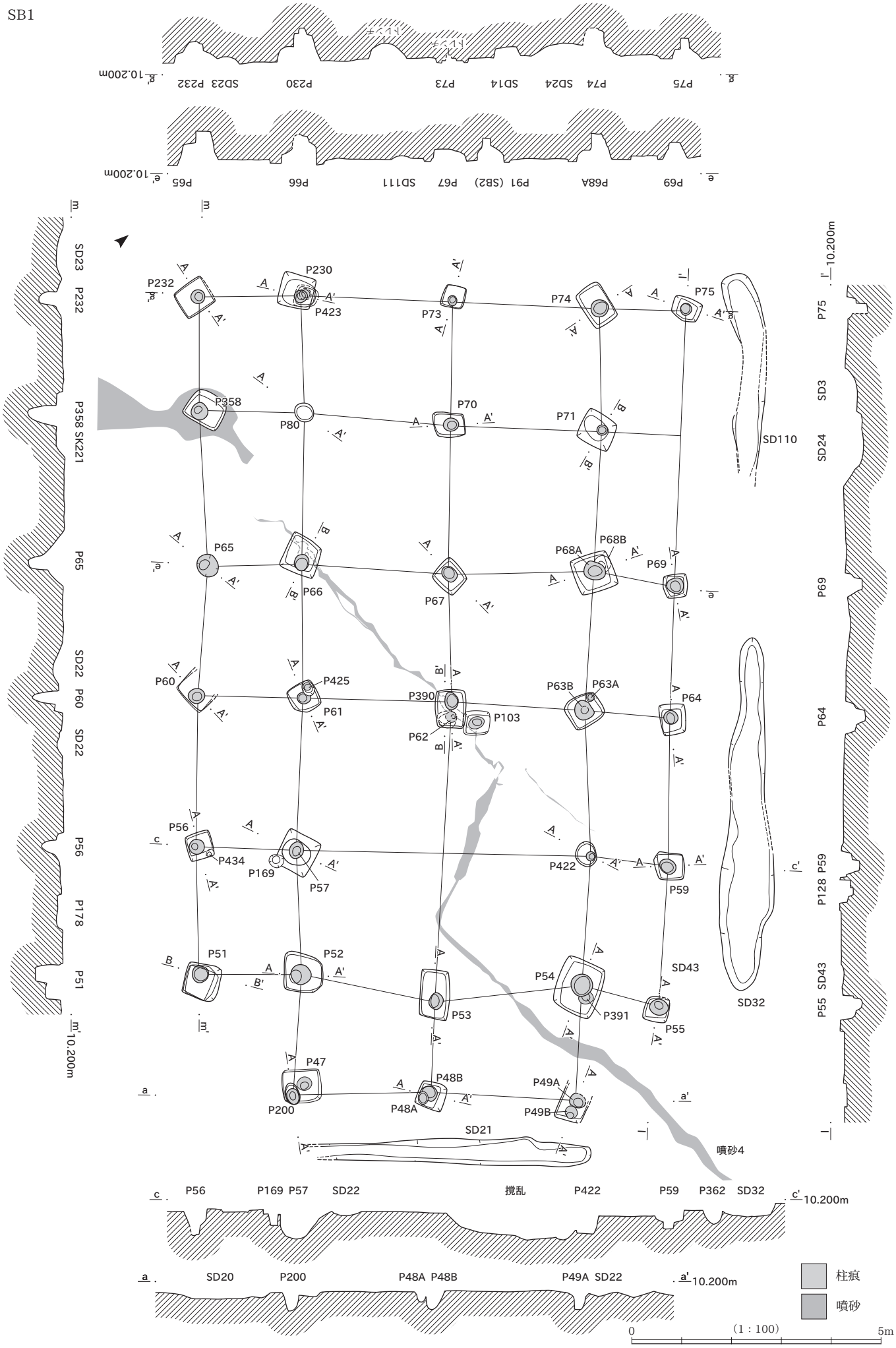
SD22
- 1　暗褐色（10YR3/3）シルト　黄褐色シルトをブロック状に多量含む。粘性・しまり弱い。
- 2　黄褐色（2.5Y5/4）シルト　暗褐色シルト少量含む。粘性・しまり弱い。

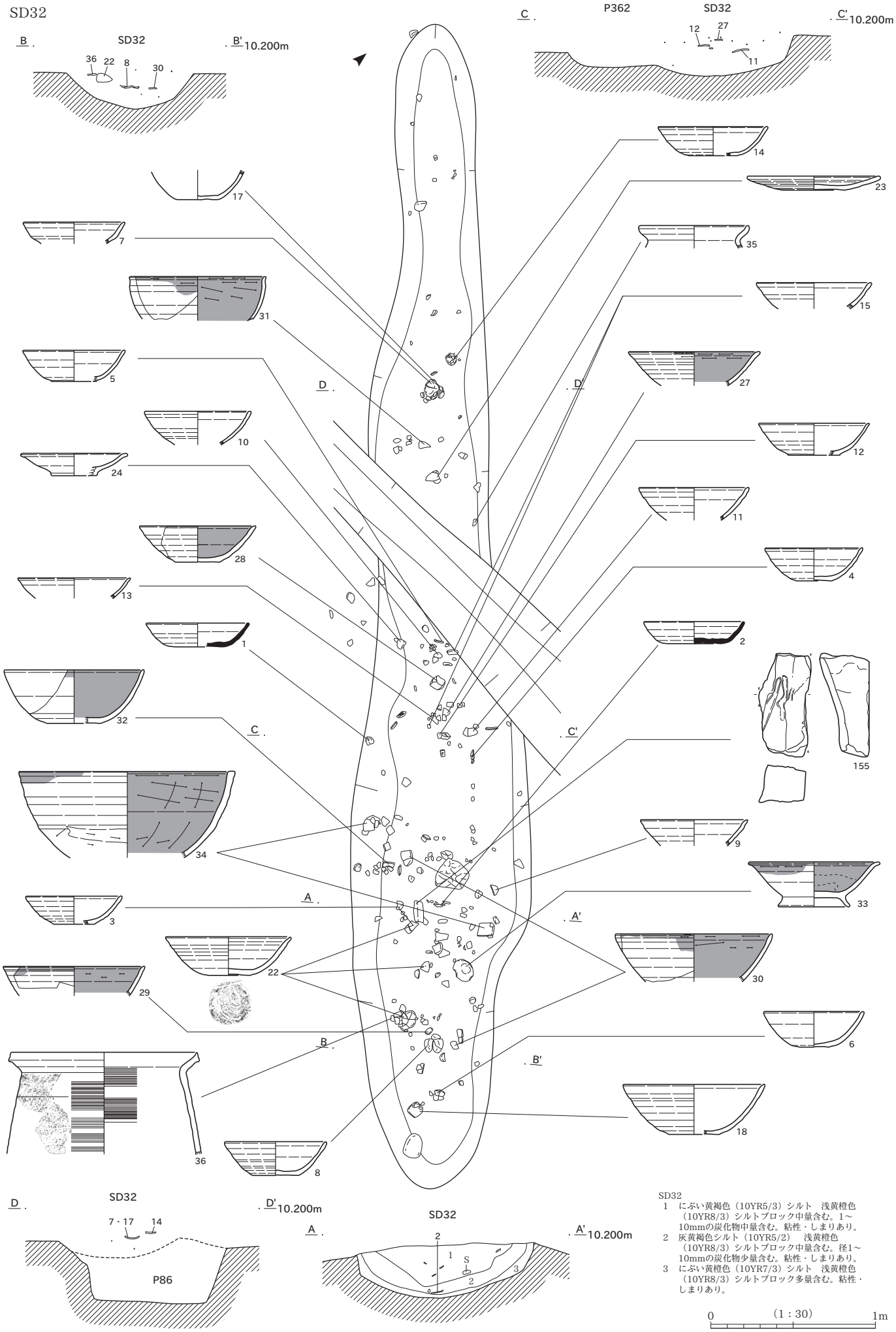


0　平面図（1：3,000）　100m

0　断面図（1：60）　3m

SB1

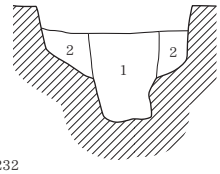

P232
P230
P423
P73
P74
P75
P358
P80
P70
P71
SD110
P65
P66
P67
P68A
P68B
P69
P60
P425
P61
P390
P103
P62
P63B
P63A
P64
P56
P434
P169
P57
P422
P59
P51
P52
P53
P54
P391
SD43
P55
SD32
P47
P200
P48A
P48B
P49A
P49B
SD21
噴砂4
SD23
SD22
SD3
SD24
P178
P128
P55
10.200m
P56
P169 P57
SD22
撹乱
P422
P59
P362
SD32
SD20
P200
P48A P48B
P49A SD22
柱痕
噴砂
0
(1：100)
5m



SD32
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック中量含む。1～10mmの炭化物中量含む。粘性・しまりあり。
2　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック中量含む。径1～10mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
3　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。粘性・しまりあり。

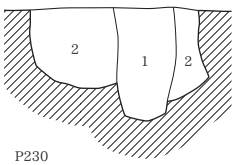
0　（1：30）　1m

P232



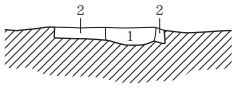
P232
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　褐灰色（10YR4/1）シルト　灰白色シルトブロック状に多量含む。粘性・しまりあり。

P230



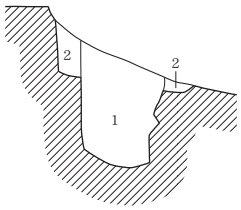
P230
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　灰黄褐（10YR4/2）シルト　黄褐色シルトブロック多量含む。粘性・しまりあり。

P73



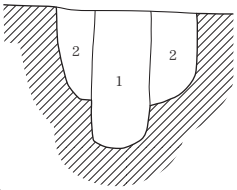
P73
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P74



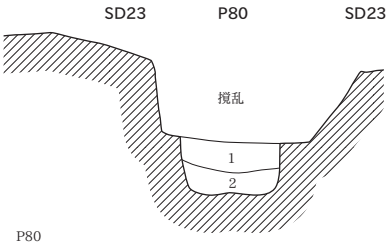
P74
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P75



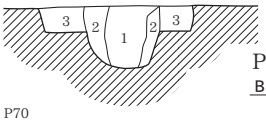
P75
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P80



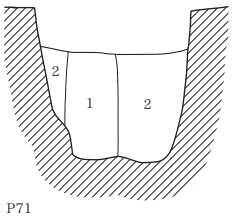
P80
1　にぶい黄褐色（10YR6/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。浅黄灰色土ブロック少量含む。粘性・しまりあり。

P70



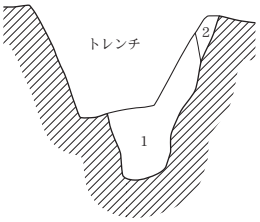
P70
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック中量含む。径1～10mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
3　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P71



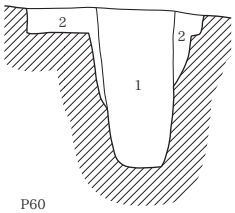
P71
1　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　微細な炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P65



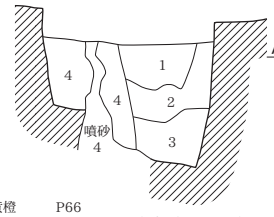
P65
1　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P60



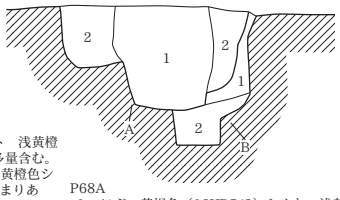
P60
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P66



P66
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。浅黄橙色シルトブロック多量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。浅黄橙色シルトブロック少量含む。粘性・しまりあり。
3　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。浅黄橙色シルトブロック多量含む。粘性・しまりあり。
4　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

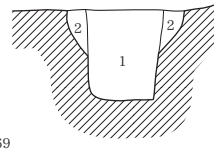
P68A・68B



P68A
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

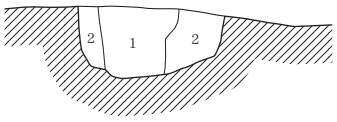
P68B
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロックを多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P69



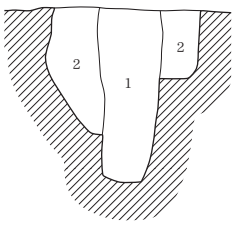
P69
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P67



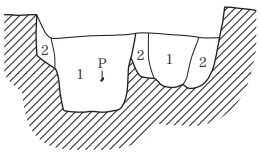
P67
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　（10YR8/3）浅黄橙色シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　（10YR8/3）浅黄橙色シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

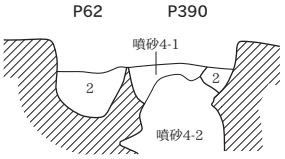
P61



P61
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

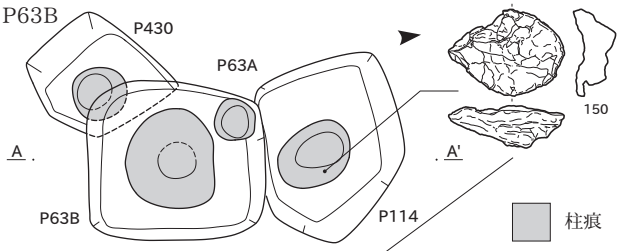
P62・390

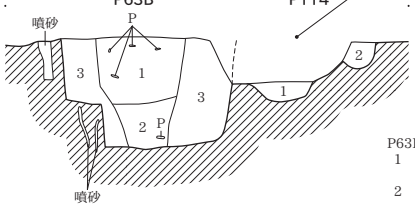




P62・390
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。
噴砂4-1　シルト質
噴砂4-2　細砂

P63B





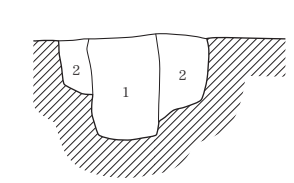
0　（1：30）　1m

P114
1　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック中量含む。径1～10mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P63B
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック中量含む。径1～10mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
3　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

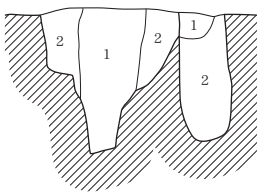
2014 年度調査　遺構（4）SB1（P48B・49A・51・52・53・54・55・56・57・59・64・200・422、SD21・110）、SB3（P201）、P48A・49B・172・176・426

P64



P64
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

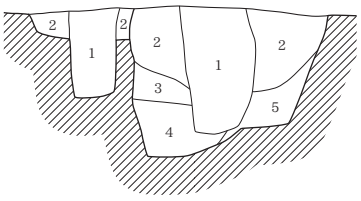
P56



P56
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P426
1　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　微細な炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。

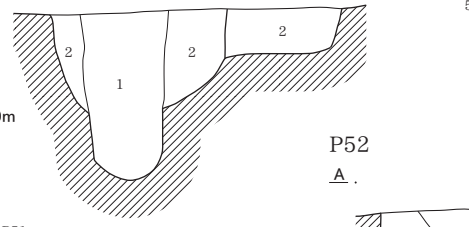
P57



P172
1　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　微細な炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P57
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR6/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。
3　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。
4　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
5　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

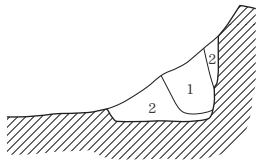
P51



P51
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

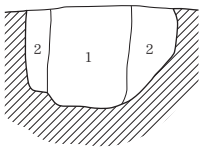
P176
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P422



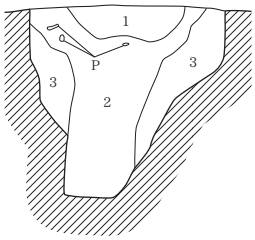
P422
1　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　微細な炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P59



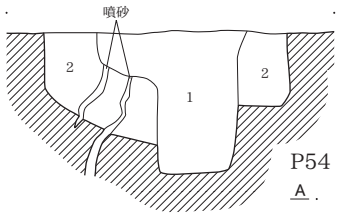
P59
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P52



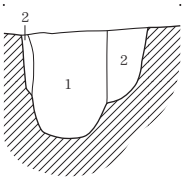
P52
1　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック中量含む。径1～10mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
3　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P53



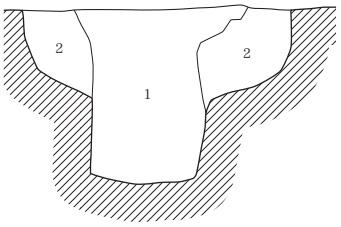
P53
1　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック中量含む。径1～10mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P55



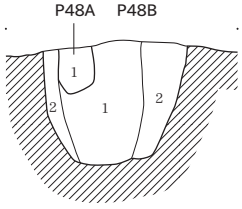
P55
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P54



P54
1　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック中量含む。径1～10mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

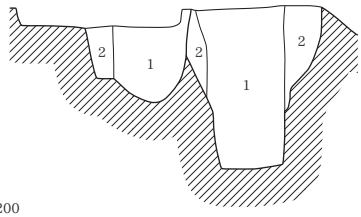
P48B



P48A
1　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　径5～10mmの炭化物中量含む。粘性・しまりあり。

P48B
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

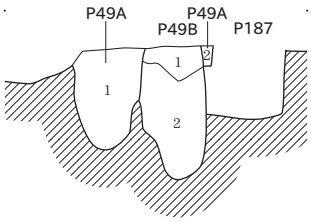
P200



P200
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P201
1　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック中量含む。径1～10mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

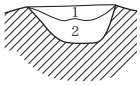
P49A



P49A
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

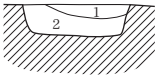
P49B
1　黒褐色（7.5YR3/2）シルト　浅黄橙色（7.5YR8/3）シルトブロック少量含む。粘性あり・しまり弱い。
2　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。

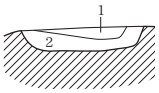
SD21



SD21
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック中量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。粘性・しまりあり。

SD110

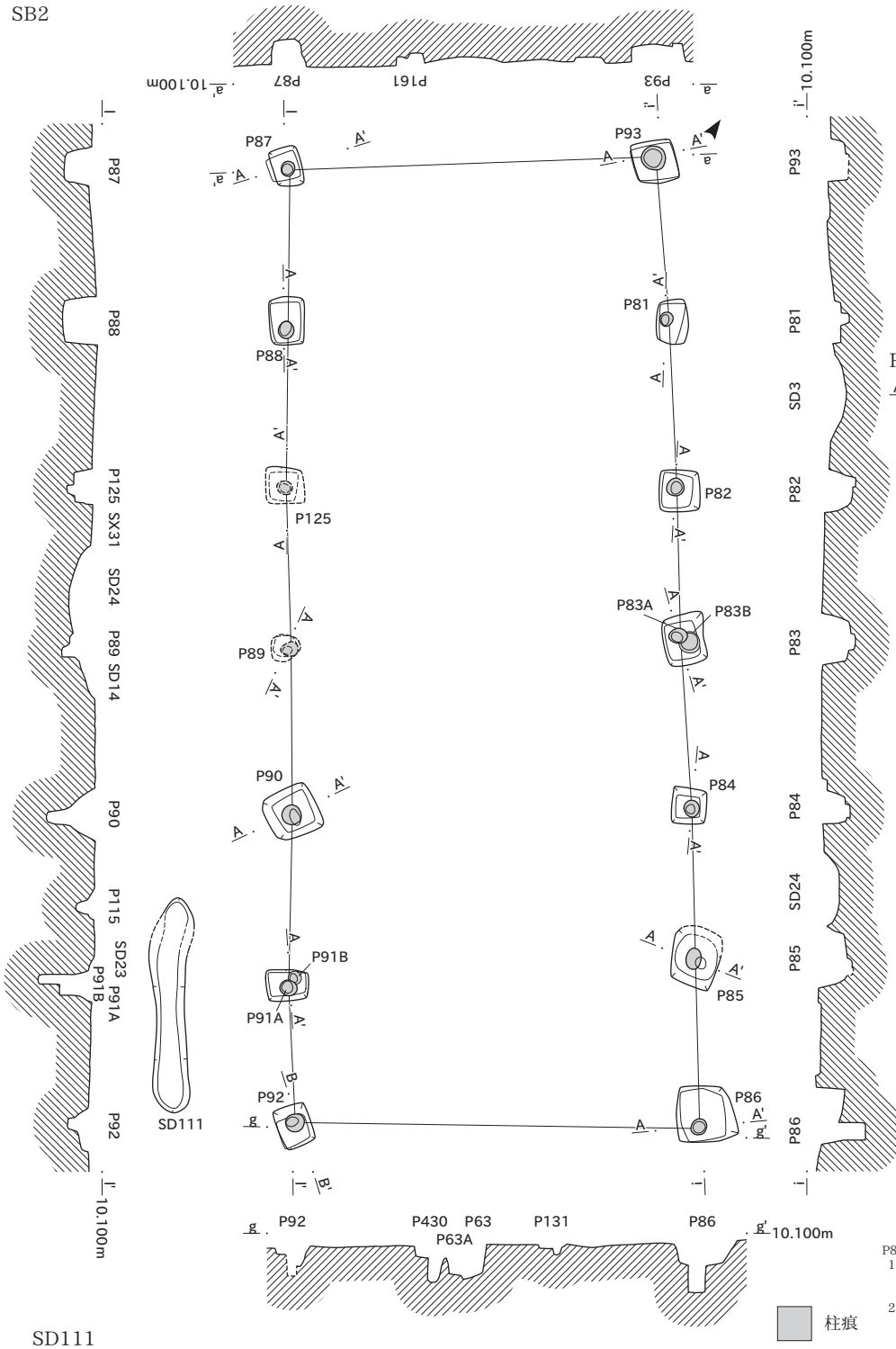




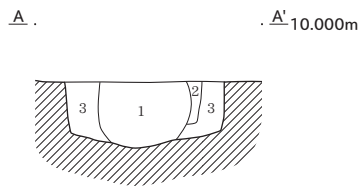
SD110
1　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　浅黄橙（10YR8/3）シルトブロック中量含む。径1～10mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　（浅黄橙色10YR8/3）シルトブロック多量含む。粘性・しまりあり。

0　SD21・110（1：40）　2m　　0　その他（1：30）　1m

SB2

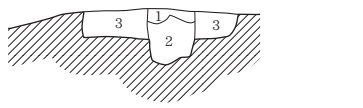


P93



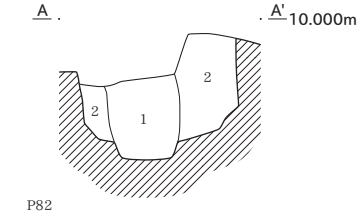
P93
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　灰白色シルト多量含む。粘性・しまりあり。
3　褐灰色（10YR4/1）シルト　灰白色シルトブロック多量含む。粘性・しまりあり。

P81



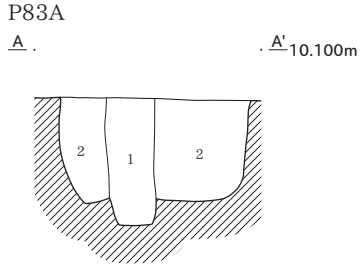
P81
1　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　粘性・しまりあり。
2　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　粘性・しまりあり。
3　灰黄褐色（10YR6/2）シルト　黄褐色シルト少量含む。粘性・しまりあり。

P82



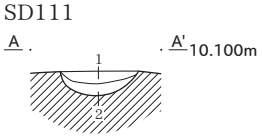
P82
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P83A



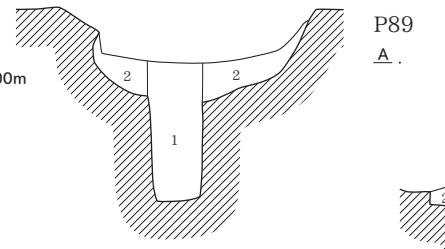
P83A
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

SD111



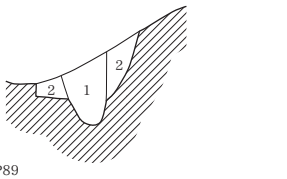
SD111
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　径5～10mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　粘性・しまりあり。

P86



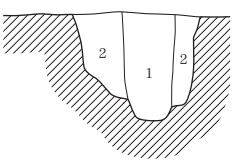
P86
1　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　微細な炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P89



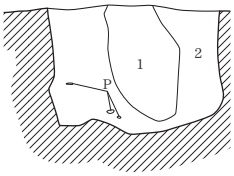
P89
1　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　微細な炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P84



P84
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P85

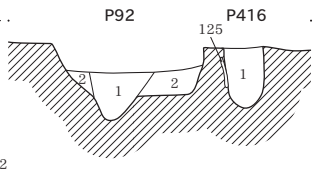


P85
1　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック中量含む。径1～10mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。

0　平面図・エレベーション図（1：100）　5m
0　SD111（1：40）　2m
0　その他（1：30）　1m

2014 年度調査　遺構（6）SB2（P87・88・90・91A・92・125・187・189）、SB3（P190・196・199・201・202・205）、SB1（P200）、P91B・160・416

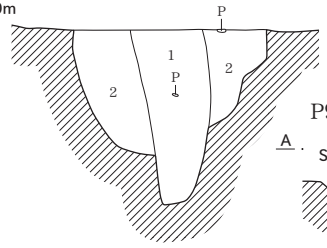
P92



P92
1　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　微細な炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

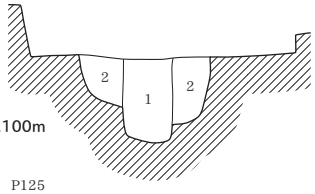
P416
1　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　微細な炭化物少量含む。粘性・しまりあり。

P90



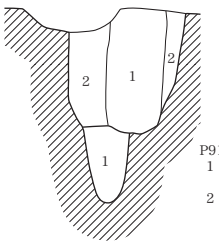
P90
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P125



P125
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　灰白色シルト多量含む。粘性・しまりあり。

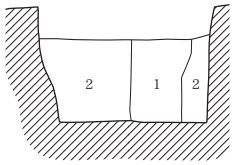
P91A



P91A
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

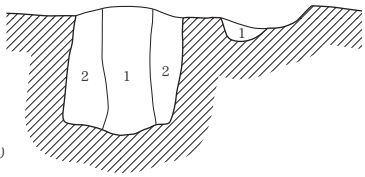
P91B
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。

P88



P88
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　灰黄褐色（10YR6/2）シルト　炭化物微量含む。粘性・しまりあり。

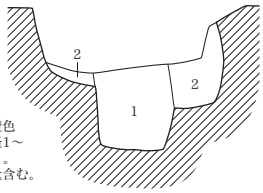
P87



P87
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　灰黄褐色（10YR6/2）シルト　炭化物微量含む。粘性強い・しまりあり。

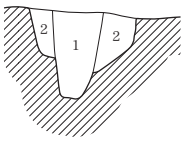
P160
1　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　微細な炭化物少量含む。粘性・しまりあり。

P187



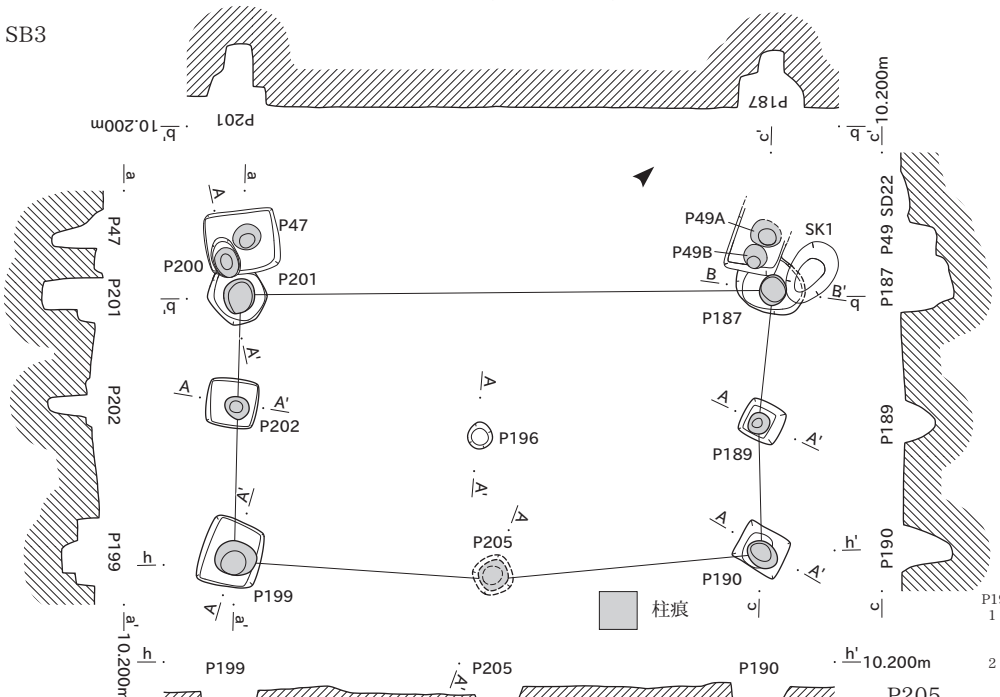
P187
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P189

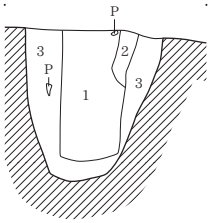


P189
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

SB3

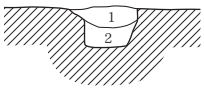


P190



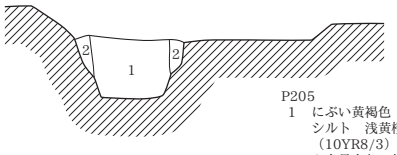
P190
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。地山粒やや多い。粘性・しまりあり。
3　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P196



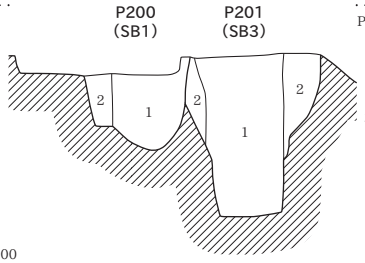
P196
1　にぶい黄橙色（10YR6/3）シルト　径1～3mm炭化物微量含む。にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト（地山粒）微量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　（10YR8/3）浅黄橙色シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。

P205



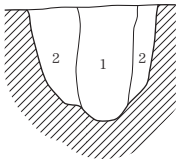
P205
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P201



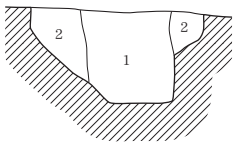
P201
1　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック中量含む。径1～10mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

P202



P202
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　微細な炭化物少量含む。粘性・しまりあり。

P199

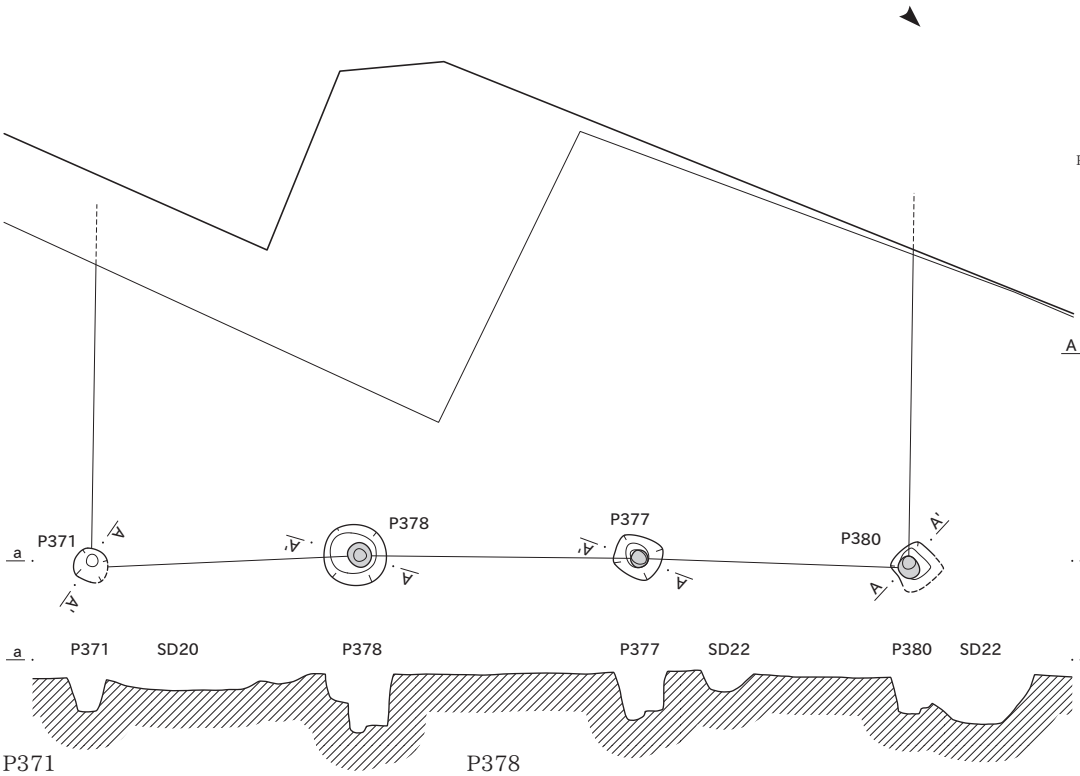


P199
1　にぶい黄橙色（10YR6/3）シルト　径1～3mm炭化物微量含む。明黄褐色（10YR7/6）シルト（地山粒）多量含む。砂質土。しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　微細な炭化物少量含む。粘性・しまりあり。

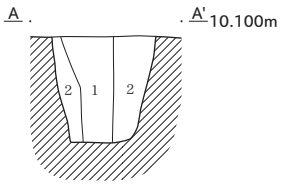
P200
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

0　断面図（1：30）　1m　0　平面図・エレベーション図（1：80）　4m

SB4

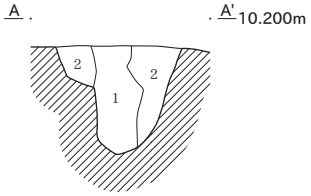


P380



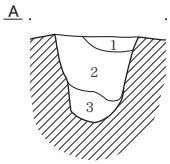
P380
1　にぶい黄橙色（10YR6/4）シルト　灰黄褐色シルト少量含む。粘性・しまりあり。
2　黄褐色（10YR5/6）シルト　灰黄褐色シルト微量含む。粘性・しまりあり。

P377



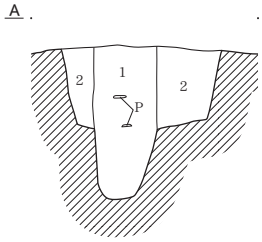
P377
1　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　黄褐色シルトをブロック状に含む。粘性・しまり弱い。
2　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　粘性・しまり弱い。

P371



P371
1　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　炭化粒少量含む。粘性・しまり弱い。
2　褐色（10YR4/4）シルト　粘性・しまり弱い。
3　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　粘性あり・しまり弱い。

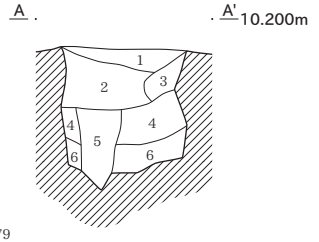
P378



P378
1　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　粘性・しまり弱い。
2　褐色（10YR4/4）シルト　暗褐色シルトをブロック状に少量含む。粘性・しまり弱い。

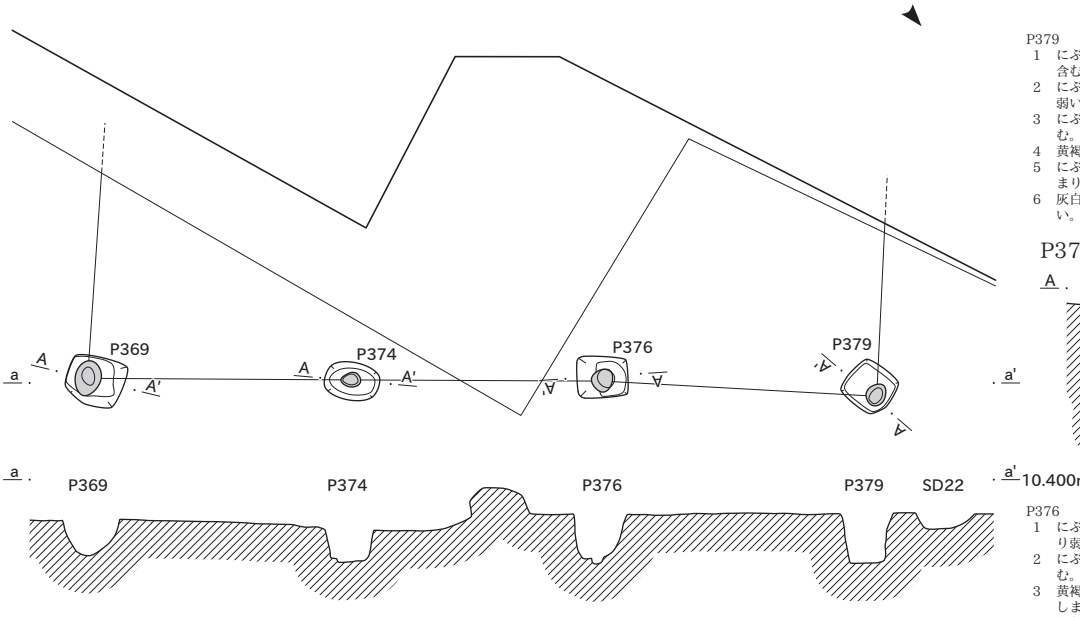
柱痕

P379

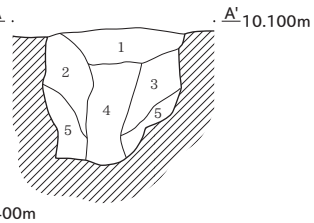


P379
1　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　褐色シルトを含む。粘性・しまり弱い。
2　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　粘性・しまり弱い。
3　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　砂粒多量含む。粘性・しまり弱い。
4　黄褐色（2.5Y5/4）シルト　粘性・しまり弱い。
5　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　粘性あり・しまり弱い。
6　灰白色（10YR7/1）シルト　粘性あり・しまり弱い。

SB5

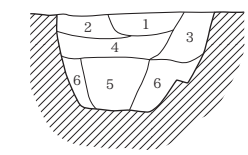


P376



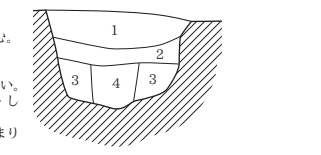
P376
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　粘性・しまり弱い。
2　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　砂粒多量含む。粘性・しまり弱い。
3　黄褐色（2.5Y5/4）シルト　砂粒を含む。粘性・しまり弱い。
4　褐色（10YR4/6）シルト　粘性あり・しまり弱い。
5　灰白色（10YR7/1）シルト　粘性強い・しまりあり。

P369



P369
1　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　炭化粒子を含む。粘性・しまり弱い。
2　黄褐色（2.5Y5/4）シルト　粘性・しまり弱い。
3　オリーブ褐色（2.5Y4/4）シルト　粘性・しまり弱い。
4　褐色（10YR4/4）シルト　炭化粒少量含む。粘性・しまり弱い。
5　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　粘性あり・しまり弱い。
6　黄褐色（10YR5/6）シルト　粘性あり・しまり弱い。

P374

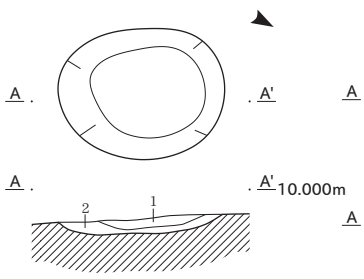


P374
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　炭化粒子少量含む。粘性・しまり弱い。
2　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト炭化粒少量含む。粘性・しまり弱い。
3　褐色（10YR4/4）シルト　粘性・しまり弱い。
4　にぶい黄橙色（10YR6/4）シルト　炭化物微量含む。粘性・しまりあり。

0　平面図・エレベーション図（1：80）　4m

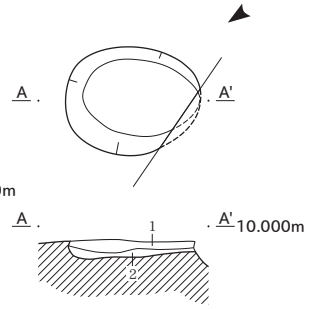
0　断面図（1：30）　1m

SK19



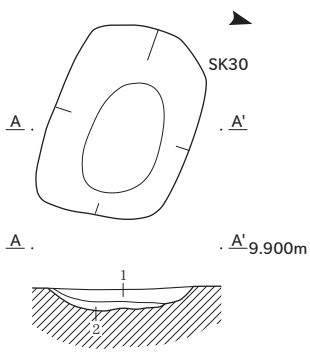
SK19
1　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　黄褐色シルト多量含む。　径1cm程度の炭化物多量含む。粘性・しまりあり。
2　黒褐色（10YR3/2）シルト　径1cm程度の炭化物多量含む。黄褐色シルト少量含む。焼土粒微量含む。粘性・しまりあり。

SK26



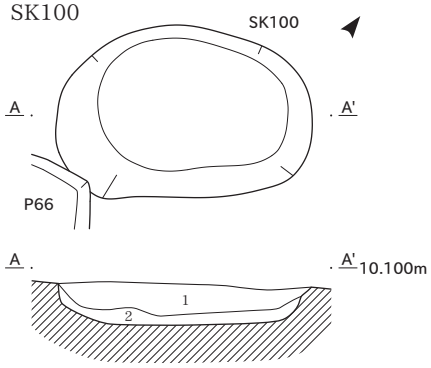
SK26
1　灰黄褐色（10YR6/2）シルト　径1～5mmの炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　灰黄褐色（10YR6/2）シルト　径5mm程度の炭化物微量含む。粘性・しまりあり。

SK30



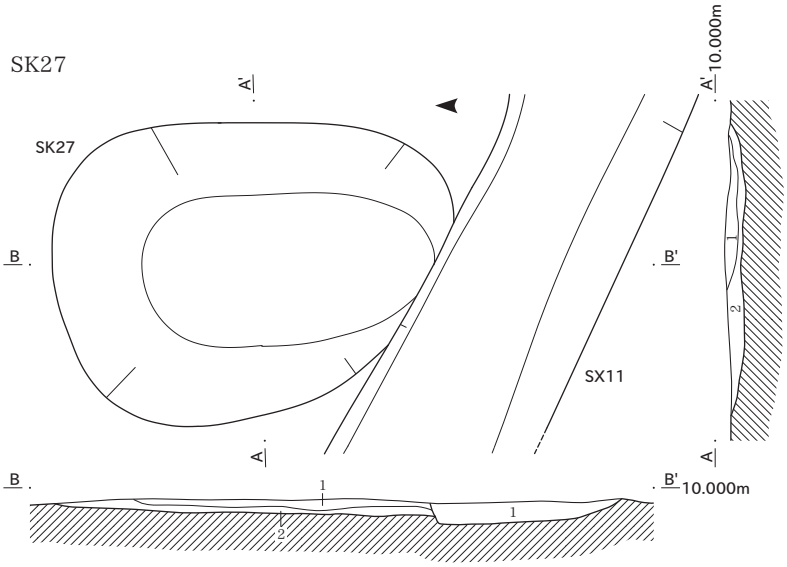
SK30
1　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　黄褐色シルト粒少量含む。炭化物微量含む。粘性・しまりあり。
2　黄褐色（10YR5/8）シルト　灰黄褐色シルト少量含む。粘性・しまりあり。

SK100



SK100
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　微細な炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　Ⅳ層類以層　粘性・しまりあり。

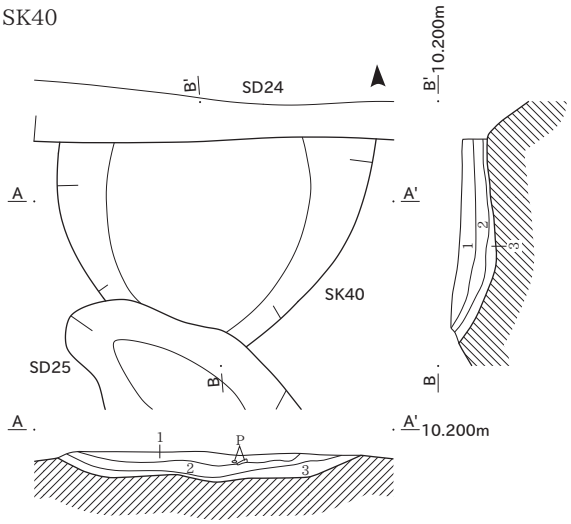
SK27



SK27
1　灰黄褐色（10YR6/2）シルト　径1～3cmの炭化物　径5mm程度の炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　褐色（10YR4/6）シルト　径5mm程度の炭化物少量含む。粘性・しまりあり。

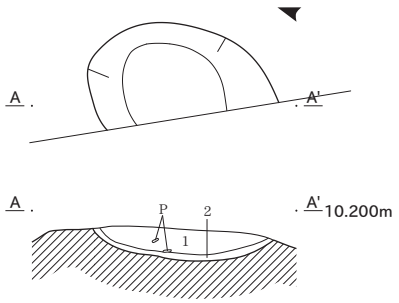
SX11
1　褐灰色（10YR4/1）シルト　黄褐色シルトブロック多量含む。粘性・しまりあり。

SK40



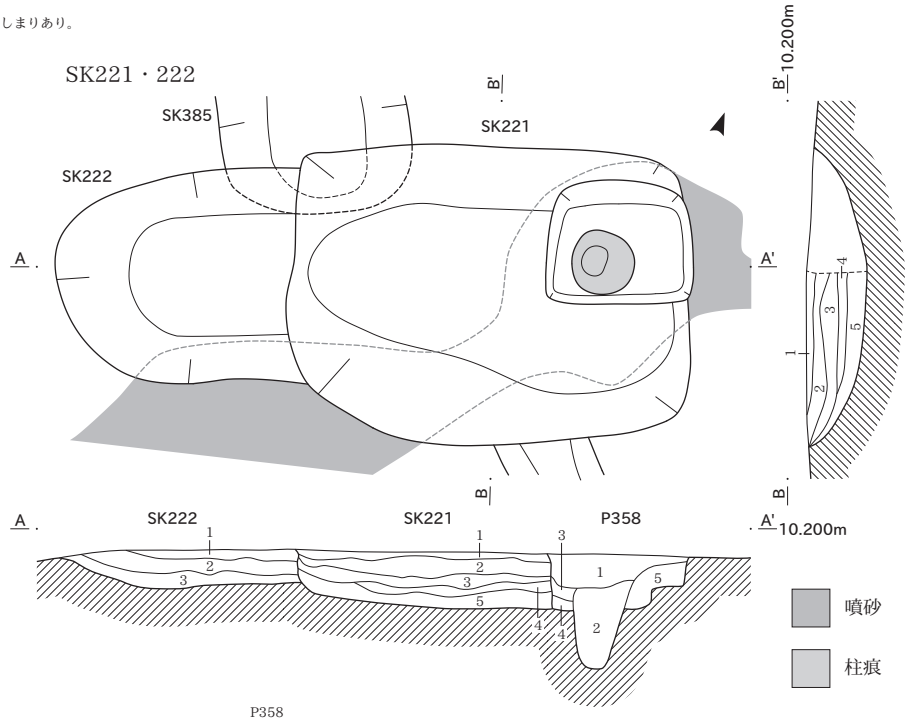
SK40
1　褐灰色（10YR6/1）シルト　径1～2cmの炭化物　炭化物多量含む。粘性・しまりあり。
2　褐灰色（10YR6/1）シルト　炭化物少量含む。焼土粒微量含む。粘性・しまりあり。
3　黄褐色（10YR5/6）シルト　褐灰色シルトブロック多量含む。粘性・しまりあり。

SK183



SK183
1　褐色（10YR4/4）シルト　焼土粒・炭化物を少量含む。粘性・しまり弱い。
2　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　粘性・しまり弱い。

SK221・222



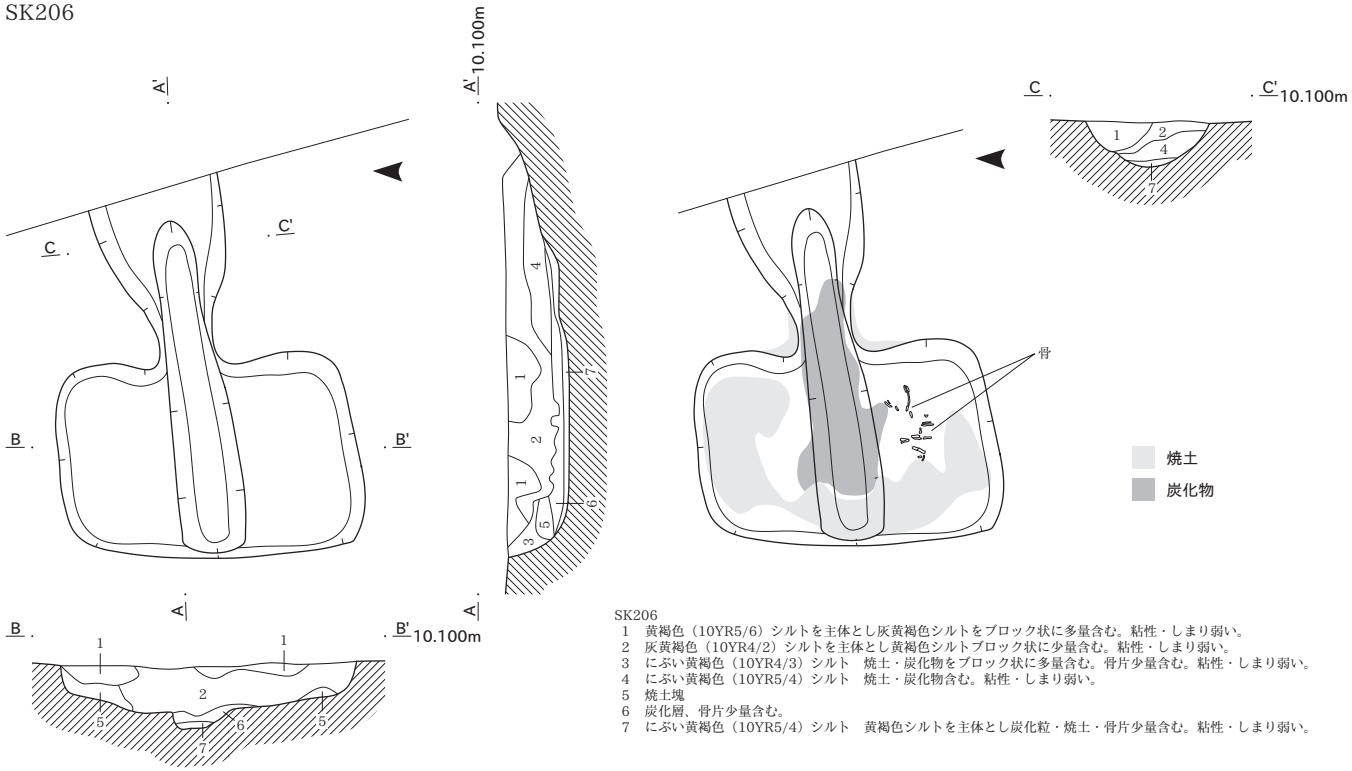
SK221
1　暗褐色（10YR3/3）シルト　炭化物多量含む。黄褐色シルト粒少量含む。粘性・しまりあり。
2　褐灰色（10YR4/1）シルト　暗褐色シルト多量含む。粘性・しまりあり。
3　褐灰色（10YR5/1）シルト　暗褐色シルト多量含む。炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
4　黒褐色（10YR2/2）シルト　炭化物・炭化物多量含む。粘性・しまりあり。
5　にぶい黄橙色（10YR6/3）シルト　黒褐色シルト少量含む。粘性・しまりあり。

P358
1　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　黄褐色シルト粒多量含む。炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　暗褐色（10YR3/4）シルト　炭化物少量含む。黄褐色シルト粒微量含む。粘性・しまりあり。
3　褐灰色（10YR4/1）シルト　黄褐色シルト多量含む。
4　黄褐色（10YR5/6）シルト　暗褐色シルト微量含む。粘性・しまりあり。
5　黄褐色（10YR5/6）シルト　褐灰色シルト少量含む。粘性・しまりあり。

SK222
1　灰黄褐色（10YR4/2）土　炭化物微量含む。地山粒微量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄褐色（10YR5/3）土　炭化物少量含む。地山粒少量含む。焼土粒微量含む。粘性・しまりあり。
3　浅黄色（2.5Y7/3）土　地山を主体として褐色シルトブロック少量含む。炭化物微量含む。粘性・しまりあり。

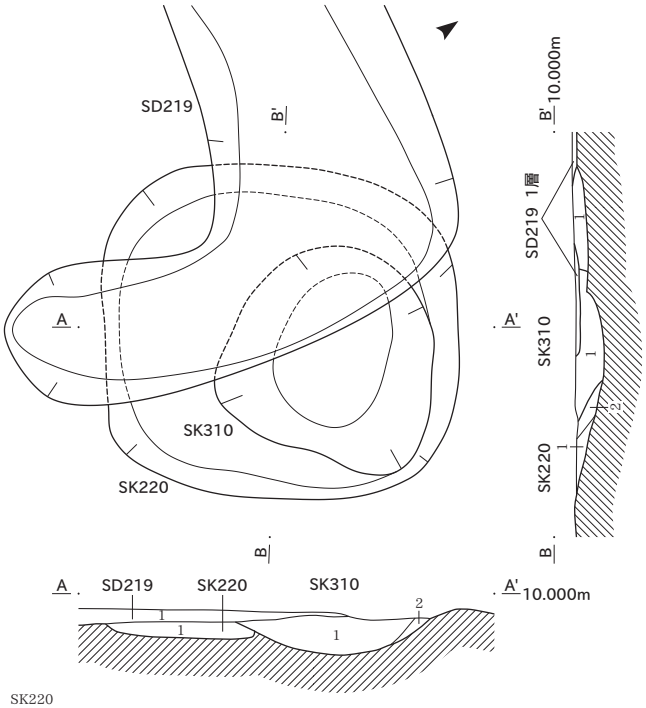
0　（1：40）　2m

SK206



SK206
1　黄褐色（10YR5/6）シルトを主体とし灰黄褐色シルトをブロック状に多量含む。粘性・しまり弱い。
2　灰黄褐色（10YR4/2）シルトを主体とし黄褐色シルトブロック状に少量含む。粘性・しまり弱い。
3　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　焼土・炭化物をブロック状に多量含む。骨片少量含む。粘性・しまり弱い。
4　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　焼土・炭化物含む。粘性・しまり弱い。
5　焼土塊
6　炭化層、骨片少量含む。
7　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　黄褐色シルトを主体とし炭化粒・焼土・骨片少量含む。粘性・しまり弱い。

SK220・310

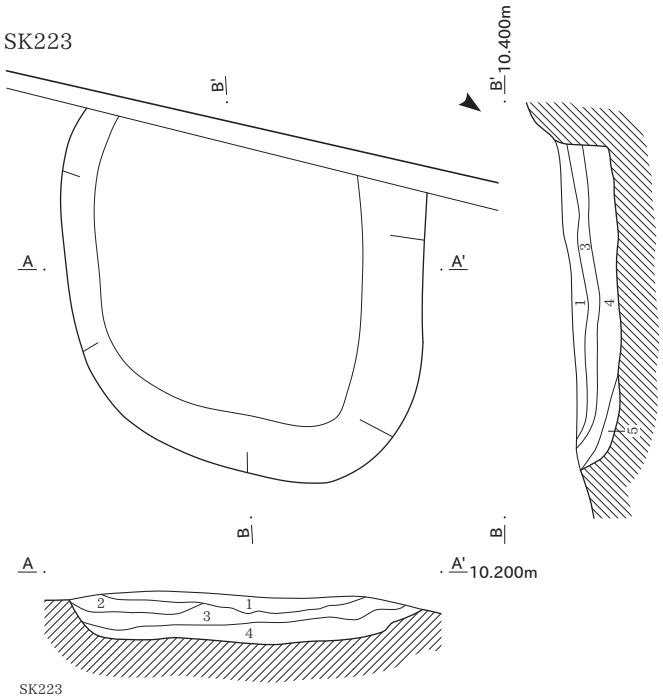


SK220
1　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　炭化物微量含む。地山ブロック多量含む。粘性・しまりあり。

SK310
1　にぶい黄橙色（10YR6/3）シルト　炭化物少量含む。地山ブロック微量含む。粘性強い・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　炭化物微量含む。地山ブロック多量含む。粘性・しまりあり。

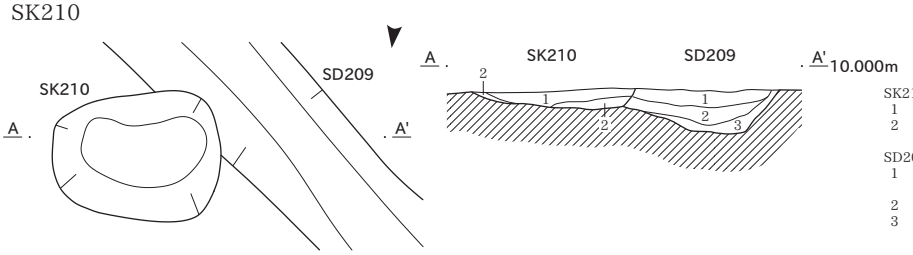
SD219
1　褐灰色（10YR6/1）シルト　黄褐色シルトブロック多量含む。粘性・しまりあり。

SK223



SK223
1　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　炭化物少量含む。黄褐色シルト粒微量含む。粘性・しまりあり。
2　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　黄褐色シルトブロック多量含む。炭化物微量含む。粘性・しまりあり。
3　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　黄褐色シルトブロック多量含む。炭化物微量含む。粘性・しまりあり。
4　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　灰黄褐色シルトブロック少量含む。粘性・しまりあり。
5　褐色（10YR4/4）シルト　黄褐色シルトブロック多量含む。粘性・しまりあり。

SK210

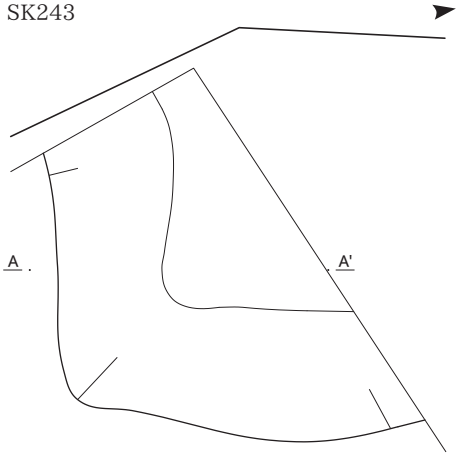


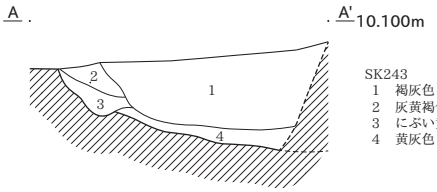
SK210
1　褐灰色（10YR5/1）シルト　黄褐色シルト微量含む。粘性・しまりあり。
2　褐灰色（10YR5/1）シルト　黄褐色シルト多量含む。粘性・しまりあり。

SD209
1　褐灰色（10YR6/1）シルト　炭化物少量含む。黄褐色シルト微量含む。粘性・しまりあり。
2　褐灰色（10YR4/1）シルト　黄褐色シルト微量含む。粘性・しまりあり。
3　褐灰色（10YR4/1）シルト　黄褐色シルト多量含む。粘性・しまりあり。

0　SK206（1：30）　1m　0　その他（1：40）　2m

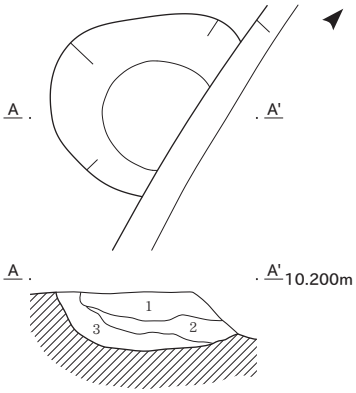
SK243





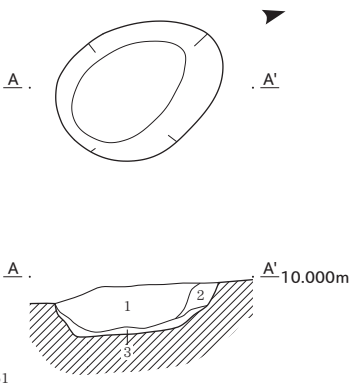
SK243
1　褐灰色（10YR6/1）シルト　炭化物微量含む。粘性・しまりあり。
2　灰黄褐色（10YR6/2）シルト　炭化物微量含む。粘性・しまりあり。
3　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　炭化物微量含む。地山粒少量含む。粘性・しまりあり。
4　黄灰色（2.5Y6/1）シルト　地山多量含む。しまりあり。

SK246



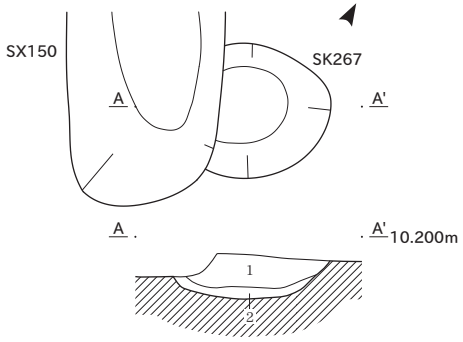
SK246
1　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　黄褐色シルトをブロック状に含む。粘性・しまり弱い。
2　褐色（10YR4/4）シルト　にぶい黄褐色シルトをブロック状に含む。粘性・しまり弱い。
3　にぶい黄褐色（2.5Y6/4）シルト　褐色シルト少量含む。粘性・しまりあり。

SK251



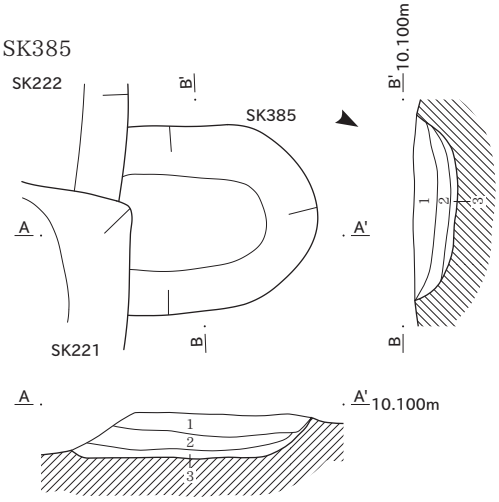
SK251
1　黒褐色（10YR2/3）シルト　にぶい黄褐色シルトをブロック状に少量含む。粘性・しまり弱い。
2　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　粘性あり・しまり弱い。
3　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　黒褐色シルトをブロック状に少量含む。粘性あり・しまり弱い。

SK267



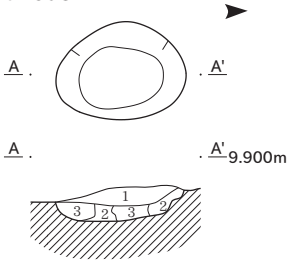
SK267
1　暗褐色（10YR3/3）シルト　にぶい黄褐色シルト含む。粘性・しまり弱い。
2　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　暗褐色シルト少量含む。粘性・しまり弱い。

SK385



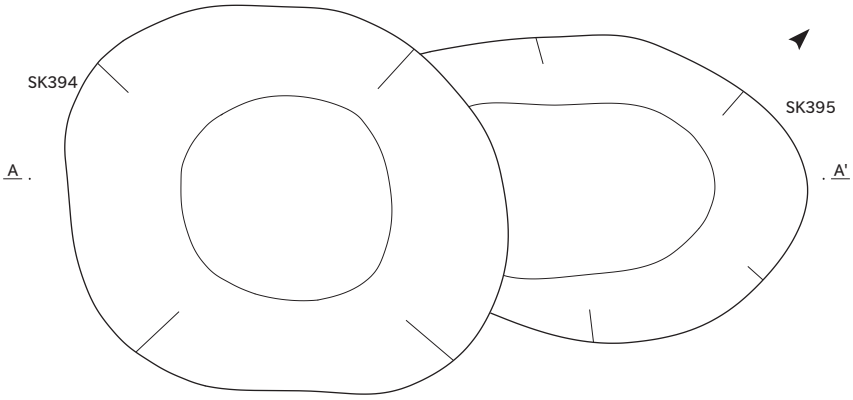
SK385
1　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　暗褐色シルトをブロック状に含む。炭化粒少量含む。粘性・しまり弱い。
2　褐色（10YR4/4）シルト　炭化粒少量含む。粘性・しまり弱い。
3　黄褐色（10YR5/6）シルト　褐色シルトをブロック状に含む。砂粒含む。粘性弱・しまり弱い。

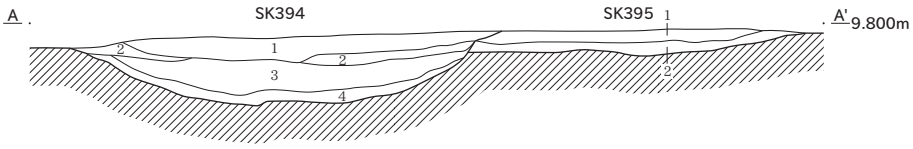
SK398



SK398
1　褐色（10YR4/4）シルト　炭化物多量含む。粘性・しまりあり。
2　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　黄褐色シルト少量含む。粘性・しまりあり。
3　黄褐色（10YR5/6）シルト　灰黄褐色シルト微量含む。粘性・しまりあり。

SK394・395



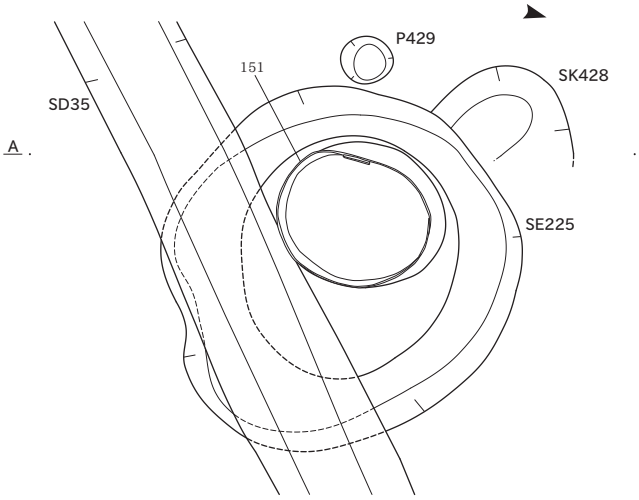


SK394
1　黒褐色（10YR3/2）シルト　炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　黒褐色シルト多量含む。粘性・しまりあり。
3　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　黒褐色シルト微量含む。粘性・しまりあり。
4　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　黒褐色シルト極微量含む。粘性・しまりあり。

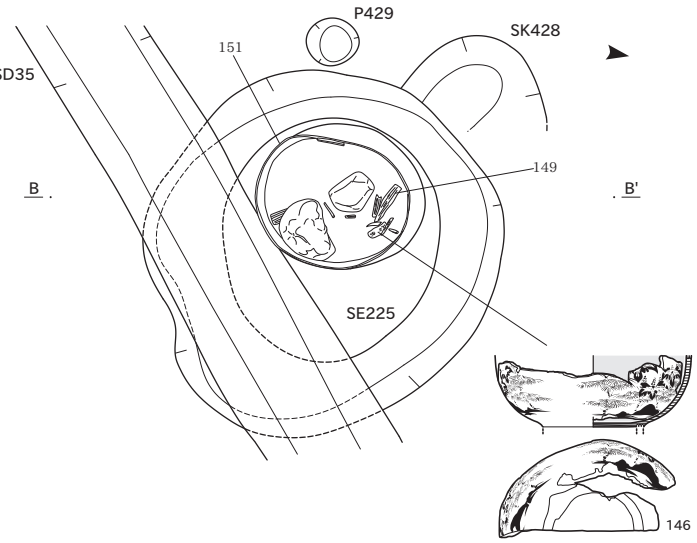
SK395
1　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　炭化物少量含む。粘性・しまりあり。
2　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　炭化物微量含む。粘性・しまりあり。

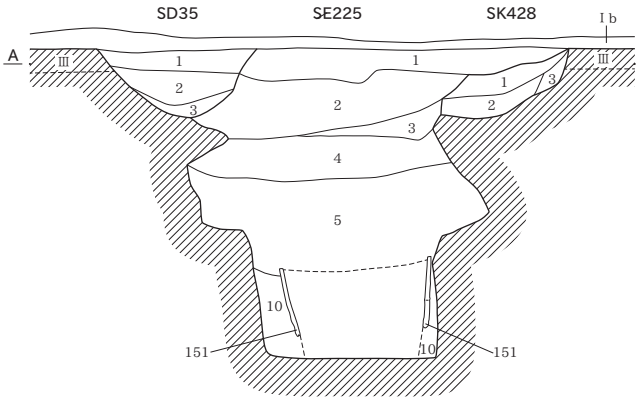
0　（1：40）　2m

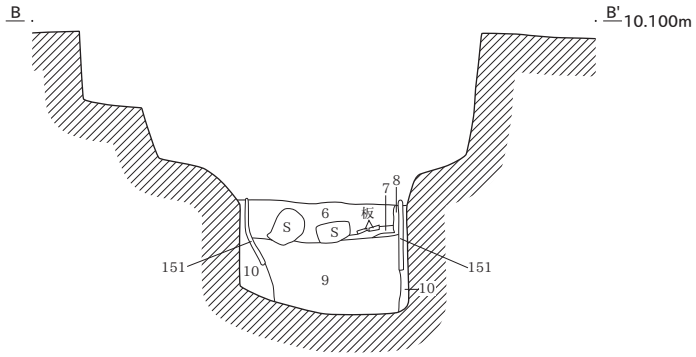
SE225



SE225





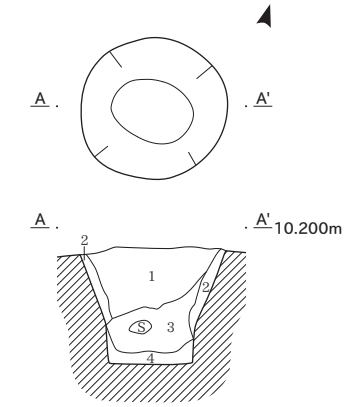


SE225
1　暗褐色（10YR3/4）シルト　黄褐色シルト少量含む。粘性・しまり弱い。
2　褐色（10YR4/4）シルト　黄褐色シルトをブロック状に多量含む。粘性・しまり弱い。
3　黒色（10YR2/1）シルト　黄褐色（2.5Y5/4）シルトの混合土。炭化粒多量含む。粘性・しまり弱い。
4　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　黄褐色シルト少量含む。赤褐色の鉄分多量含む。粘性弱い・しまりあり。
5　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　赤褐色の鉄分多量含む。粘性・しまりあり。
6　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　赤褐色の鉄分多量含む。黒褐色シルトをブロック状に少量含む。粘性あり・しまり弱い。
7　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性あり・しまり弱い。
8　黄灰色（2.5Y5/1）シルト　砂粒を含む。粘性・しまり弱い。
9　暗灰黄色（2.5Y4/2）砂層　粘性・しまりなし。
10　黄褐色（2.5Y5/4）砂層　粘性・しまりなし。

SD35
1　暗褐色（10YR3/4）シルト　壁面にのみ検出。粘性・しまり弱い。
2　暗褐色（10YR3/4）シルト　黄褐色シルトをブロック状に含む。粘性・しまり弱い。
3　黄褐色（2.5Y5/6）を主体とし暗褐色シルトをブロック状に含む。粘性・しまり弱い。

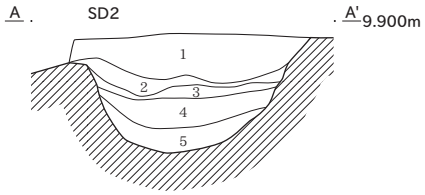
SK428
1　黒褐色（10YR2/3）シルト　炭化粒少量含む。粘性・しまり弱い。
2　黒色（10YR2/1）シルト　炭化粒を主体とする炭層。黄褐色シルトを含む。粘性・しまり弱い。
3　暗褐色（10YR3/3）シルト　黄褐色シルトを含む。粘性・しまり弱い。

SK359

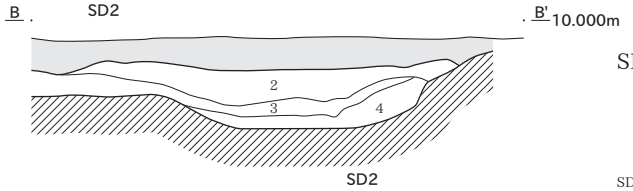


SK359
1　暗褐色（10YR3/3）シルト　オリーブ暗褐色シルト少量含む。粘性・しまり弱い。
2　オリーブ暗褐色（2.5Y4/4）シルトの地山土を主体とし暗褐色シルト少量含む。
3　暗褐色（10YR3/3）シルトを主体としオリーブ暗褐色シルトをブロック状に多量含む。粘性・しまり弱い。
4　にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質シルト　オリーブ褐色シルトを含む。　粘性・しまりあり。

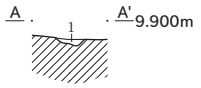
SD2



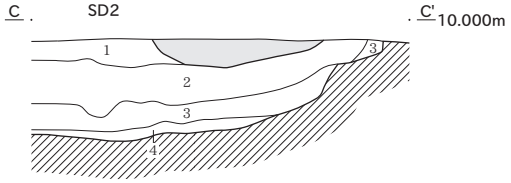
SD2
1　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　黄褐色シルトをブロック状に少量含む。粘性・しまり弱い。
2　明黄褐色（10YR7/6）シルト　地山主体　褐色土粒少量含む。粘性・しまりあり。
3　褐灰色（10YR5/1）シルト　シルト～砂質（細粒）しまりあり。
4　灰黄褐色（10YR6/2）シルト　地山ブロック多量含む。粘性・しまりあり。
5　黄褐色（2.5Y5/4）シルト　粒子の細かい砂粒多量含む。粘性・しまりあり。
6　にぶい黄橙色（10YR6/3）　炭化物微量含む。褐色土少量含む。地山多量含む。粘性・しまりあり。



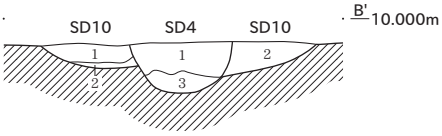
SD5



SD5
1　褐灰色（7.5YR5/1）　炭化物微量含む。地山ブロック少量含む。粘性・しまりあり。

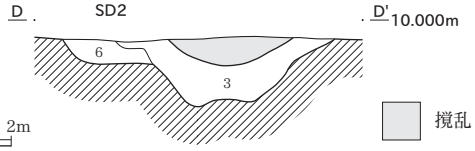


SD10



SD10
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　黄褐色シルト少量含む。粘性弱・しまりややあり。
2　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　黄褐色シルト　灰黄色シルトをブロック状に含む。粘性・しまり弱い。

SD4
1　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　灰黄褐色シルト　明黄褐色シルトをブロック状に含む。粘性弱い・しまりあり。
3　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　粘性・しまり弱い。

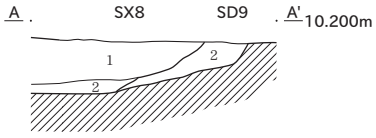


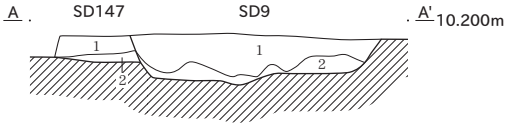
0　（1：40）　2m

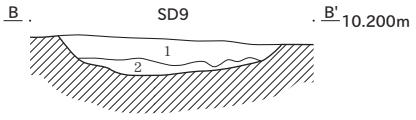
撹乱

2014 年度調査　遺構（12）SD9・13・15・20・22・23・25・33・34・35・37・147・148・188、SX8・42、P380

SD9





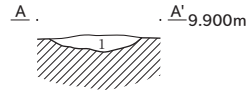


SD9
1　暗褐色（10YR3/4）シルト　黄褐色シルトブロック少量含む。粘性・しまりあり。
2　暗褐色（10YR3/4）シルト　黄褐色シルト粒少量含む。粘性・しまりあり。

SX8
1　暗褐色（10YR3/4）シルト　炭化粒少量含む。粘性弱い・しまりあり。
2　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　黄褐色シルト含む。炭化粒少量含む。粘性・しまり弱い。

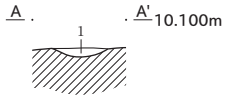
SD147
1　暗褐色（10YR3/4）シルト　黄褐色シルト含む。粘性・しまり弱い。
2　黄褐色（2.5Y8/6）シルト　暗褐色シルトをブロック状に含む。粘性・しまり弱い。

SD13



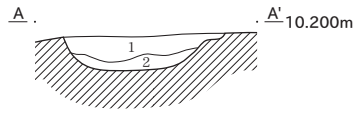
SD13
1　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　地山多量含む。炭化物微量含む。粘性・しまりあり。

SD15



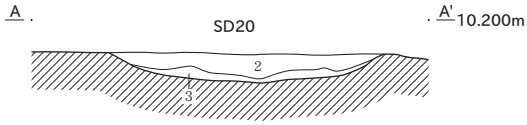
SD15
1　10YR5/2灰黄褐色シルト　炭化物微量含む。地山粒微量含む。粘性・しまりあり。

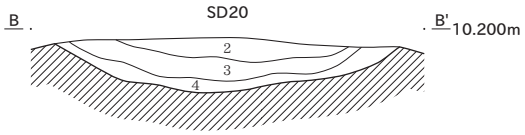
SD25



D25
1　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　炭化物微量含む。地山少量含む。粘性・しまりあり。
2　明黄褐色（10YR7/6）シルト　炭化物微量含む。1層土少量含む。地山主体。粘性・しまりあり。

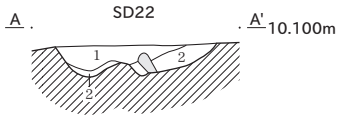
SD20

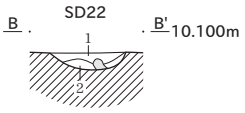


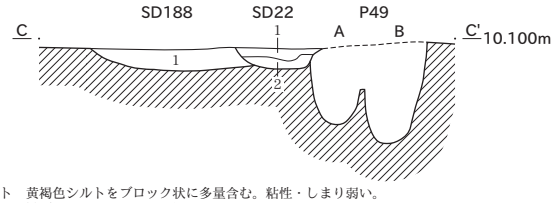


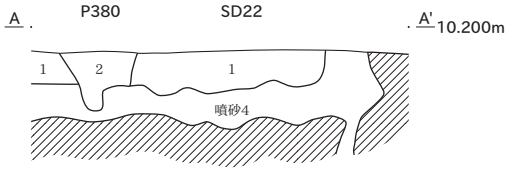
SD20
2　暗褐色（10YR3/4）シルト　黄褐色シルト粒微量含む。粘性・しまりあり。
3　暗褐色（10YR3/4）シルト　黄褐色シルト少量含む。粘性・しまりあり。
4　暗褐色（10YR3/4）シルト　黄褐色シルト多量含む。粘性・しまりあり。

SD22







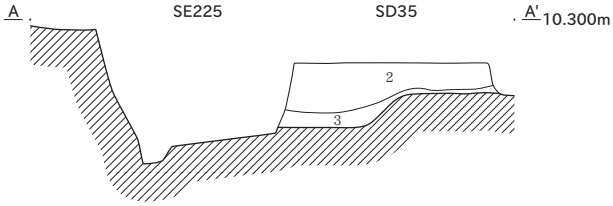


SD22
1　暗褐色（10YR3/3）シルト　黄褐色シルトをブロック状に多量含む。粘性・しまり弱い。
2　黄褐色（2.5Y5/4）シルト　暗褐色シルト少量含む。粘性・しまり弱い。

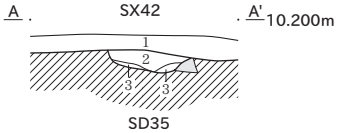
SD188
1　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　粘性・しまりあり。浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。

P380
2　黄褐色（10YR5/6）シルト　灰黄褐色シルト微量含む。粘性・しまりあり。

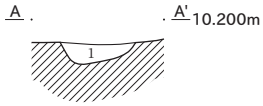
SD35



SD35・SX42



SD23



SD23
1　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　炭化物少量含む。地山粒少量含む。粘性・しまりあり。

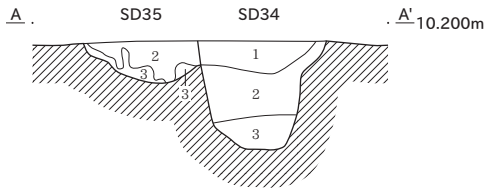
SD35
2　暗褐色（10YR3/4）シルト　黄褐色シルトをブロック状に含む。粘性・しまり弱い。
3　黄褐色（2.5Y5/6）を主体とし暗褐色シルトをブロック状に含む。粘性・しまり弱い。

SD34
1　黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性・しまり弱い。
2　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　黄褐色シルト少量含む。粘性・しまり弱い。
3　黄褐色（10YR5/8）シルト　にぶい黄褐色シルト多量含む。粘性・しまり弱い。

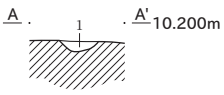
SX42
1　褐色（10YR4/4）シルト　黄褐色シルト多量含む。粘性・しまり弱い。

SD33
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　炭化物微量含む。地山粒微量含む。粘性・しまりあり。

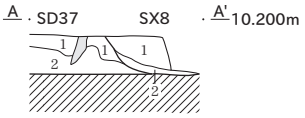
SD34・35



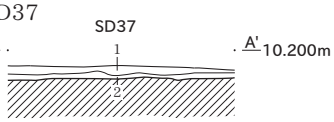
SD33

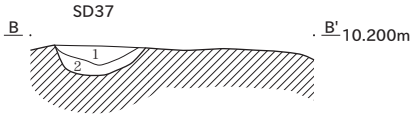


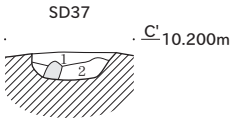
SD37・SX8



SD37



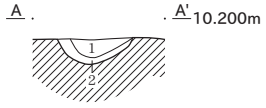




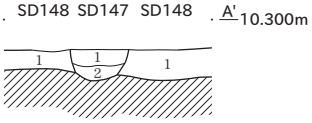
SD37
1　褐色（10YR4/4）シルト　黄褐色シルト含む。粘性・しまり弱い。
2　黄褐色（2.5Y5/4）シルト　褐色シルトをブロック状に含む。粘性・しまり弱い。

SX8
1　暗褐色シルト（10YR3/4）　炭化粒少量含む。粘性弱い・しまりあり。
2　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　黄褐色シルトを含む。炭化粒少量含む。粘性・しまり弱い。

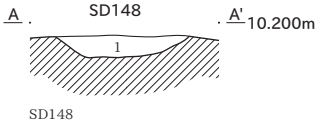
SD147

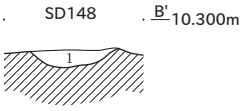


SD147・148



SD148





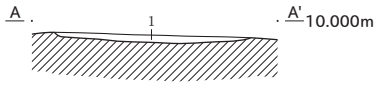
SD147
1　暗褐色（10YR3/4）シルト　黄褐色シルト含む。粘性・しまり弱い。
2　黄褐色（2.5Y8/6）シルト　暗褐色シルトをブロック状に含む。粘性・しまり弱い。

SD148
1　オリーブ褐色（2.5Y4/4）シルト　褐色シルト含む。粘性・しまり弱い。

撹乱

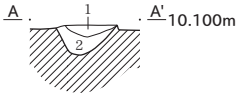
0　（1：40）　2m

SD219



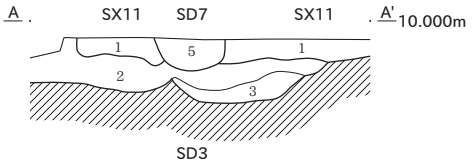
SD219
1　褐灰色（10YR6/1）シルト　黄褐色シルトブロック多量含む。粘性・しまりあり。

SD224



SD224
1　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　粘性・しまり弱い。
2　褐色（10YR4/4）シルト　暗褐色シルト含む。粘性・しまり弱い。

SX11

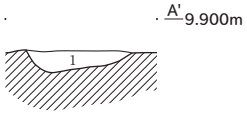


SX11
1　褐灰色（10YR4/1）シルト　黄褐色シルトブロック多量含む。粘性・しまりあり。

SD3
2　灰褐色（7.5YR5/2）シルト　地山粒少量含む。粘性・しまりあり。
3　明黄褐色（10YR7/6）シルト　地山主体。2層土粒少量含む。粘性・しまりあり。

SD7
5　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　黄褐色シルト粒少量含む。粘性・しまりあり。

SD396

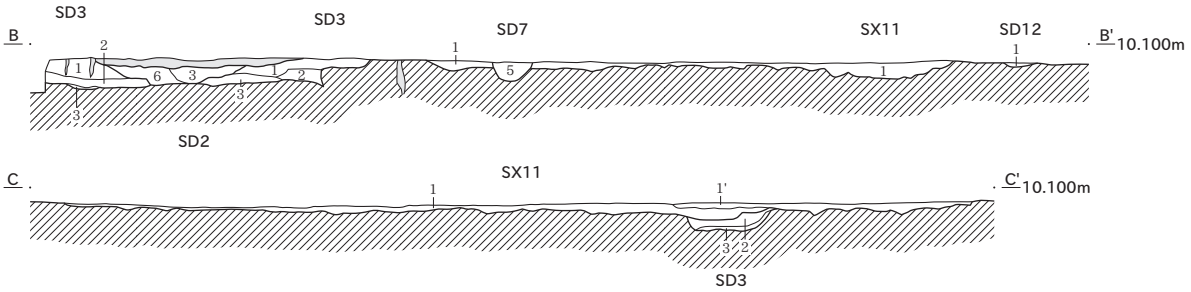


SD396
1　黄褐色（10YR5/6）シルト　灰黄褐色シルトをブロック状に多量含む。粘性・しまりあり。

SD400

SD400
にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　黄褐色シルト少量含む。粘性・しまりあり。

SX11



SX11
1　褐灰色（10YR4/1）シルト　黄褐色シルトブロック多量含む。粘性・しまりあり。
1'　褐灰色（10YR5/1）シルト　黄褐色シルトブロック多量含む。粘性・しまりあり。

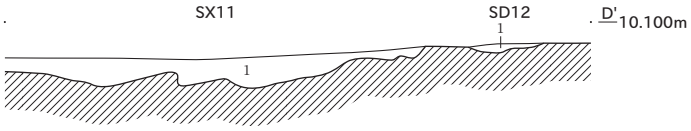
SD2
3　褐灰色（10YR5/1）シルト　しまりあり。
6　にぶい黄橙色（10YR6/3）　炭化物微量含む。褐色土少量含む。地山多量含む。粘性・しまりあり。

SD3
1　にぶい黄橙色（10YR6/3）シルト　炭化物微量含む。地山ブロック少量含む。粘性・しまりあり。
2　灰褐色（7.5YR5/2）シルト　地山粒少量含む。粘性・しまりあり。
3　明黄褐色（10YR7/6）シルト　地山主体。2層土粒少量含む。粘性・しまりあり。

SD7
5　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　黄褐色シルト粒少量含む。粘性・しまりあり。

SD12
1　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　黄褐色シルト多量含む。粘性・しまりあり。

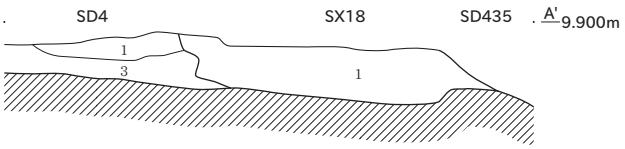
SX11



SX11
1　褐灰色（10YR4/1）シルト　黄褐色シルトブロック多量含む。粘性・しまりあり。

SD12
1　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　黄褐色シルト多量含む。粘性・しまりあり。

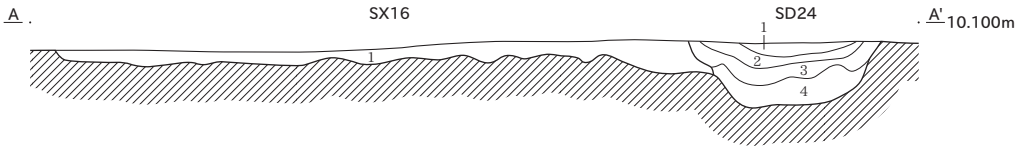
SX18

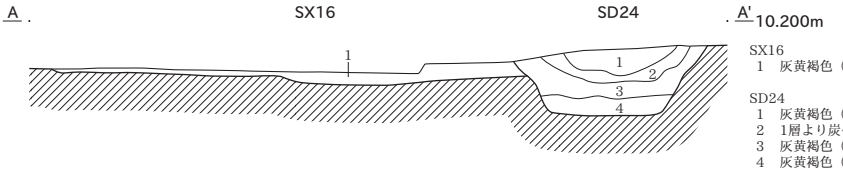


SX18
1　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　にぶい黄褐色土をブロック状に少量含む。粘性・しまり弱い。

SD4
1　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　灰黄褐色シルト　明黄褐色シルトをブロック状に含む。粘性弱い・しまりあり。
3　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　粘性・しまり弱い。

SX16

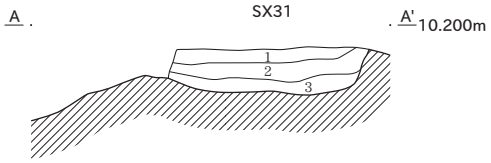


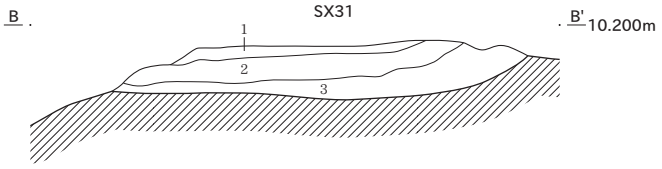


SX16
1　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　地山ブロック多量含む。炭化物少量含む。粘性・しまりあり。

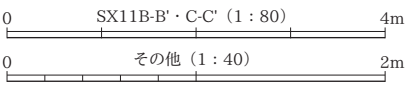
SD24
1　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　炭化物微量含む。地山粒少量含む。粘性・しまりあり。
2　1層より炭化物を多く含む。
3　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　炭化物微量含む。地山粒微量含む。粘性強い・しまりあり。
4　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　炭化物微量含む。地山ブロック多量含む。粘性・しまりあり。

SX31



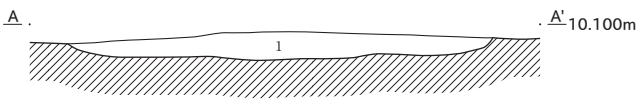


SX31
1　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　径5mm前後の炭化物・焼土塊含む。粘性・しまり弱い。
2　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　炭化物・炭化粒子・焼土粒含む。粘性・しまり弱い。
3　黄褐色（10YR5/6）シルト　炭化粒少量含む。粘性あり・しまり弱い。



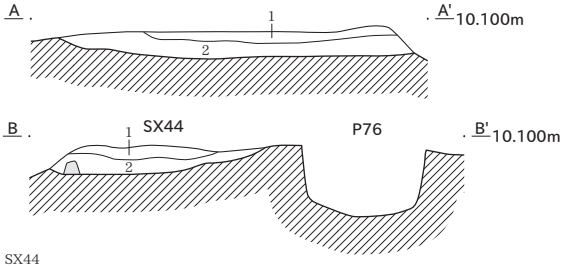
撹乱

SX39



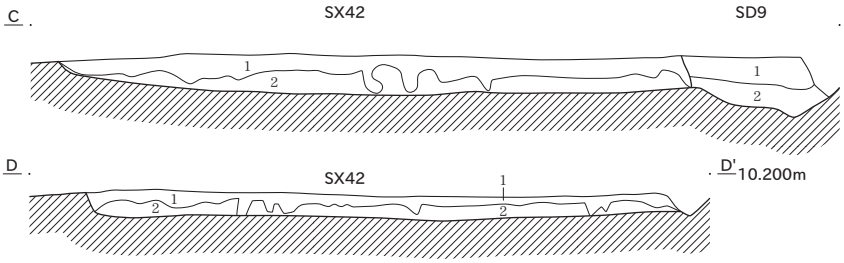
SX39
1　黄褐色（2.5Y5/4）シルトを主体とし褐色（10YR4/4）シルトをブロック状に多量含む。粘性・しまり弱い。

SX44



SX44
1　にぶい黄橙色（10YR6/3）シルト　炭化物微量含む。地山粒微量含む。粘性・しまりあり。
2　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　炭化物微量含む。地山粒多量含む。粘性・しまりあり。

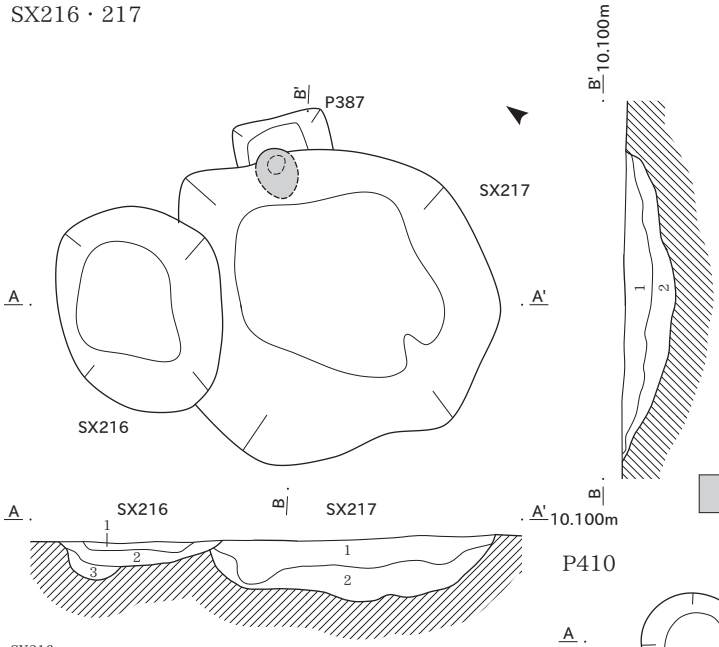
SX42



SX42
1　褐色（10YR4/4）シルト　黄褐色シルト多量含む。粘性・しまり弱い。
2　黄褐色（2.5Y5/6）シルト　褐色シルトをブロック状に含む。粘性・しまり弱い。

SD9
1　暗褐色（10YR3/4）シルト　黄褐色シルトブロック少量含む。粘性・しまりあり。
2　暗褐色（10YR3/4）シルト　黄褐色シルト粒少量含む。粘性・しまりあり。

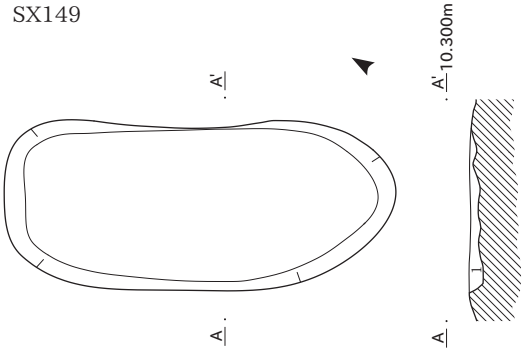
SX216・217



SX216
1　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　地山ブロック（砂）多量含む。炭化物微量含む。砂質シルト。しまりあり。
2　浅黄色（2.5Y7/4）シルト　褐色土粒少量含む。砂質シルト。しまりあり。
3　にぶい黄色（2.5Y6/3）シルト　褐色土粒少量含む。砂質シルト。しまりあり。

SX217
1　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　地山ブロック（砂）多量含む。炭化物微量含む。砂質シルト。しまりあり。
2　浅黄色（2.5Y7/4）シルト　褐色土粒少量含む。砂質シルト。しまりあり。

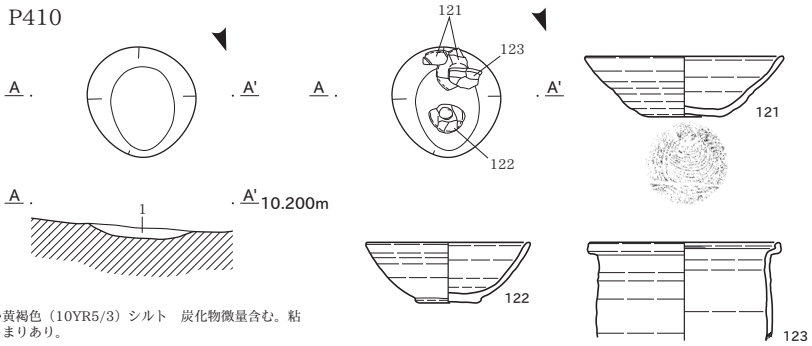
SX149



SX149
1　暗褐色（10YR3/3）シルト　黄褐色シルト少量含む。粘性・しまり弱い。

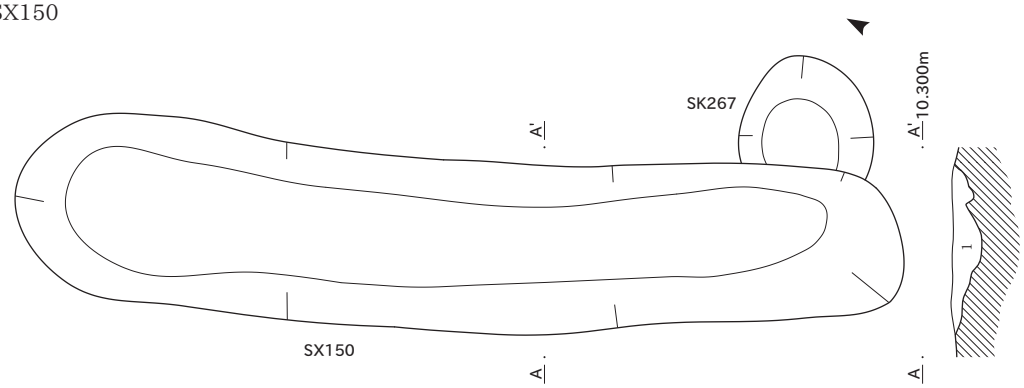
柱痕

P410



P410
1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　炭化物微量含む。粘性・しまりあり。

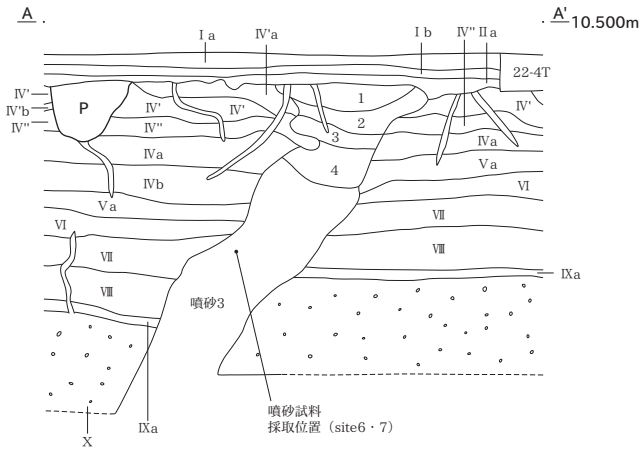
SX150

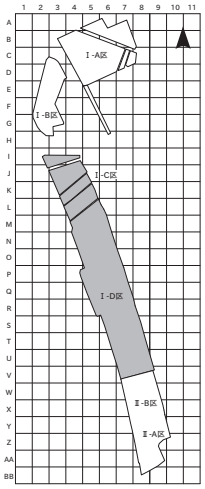


SX150
1　暗褐色（10YR3/3）シルト　黄褐色シルト少量含む。粘性・しまり弱い。

撹乱　0　（1：40）　2m

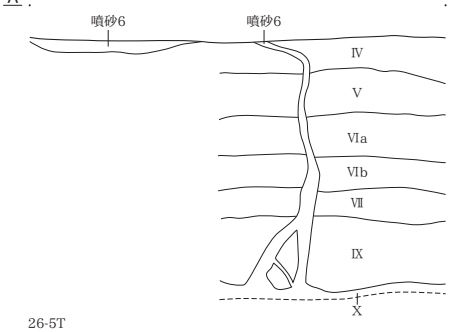
噴砂3　site6・7





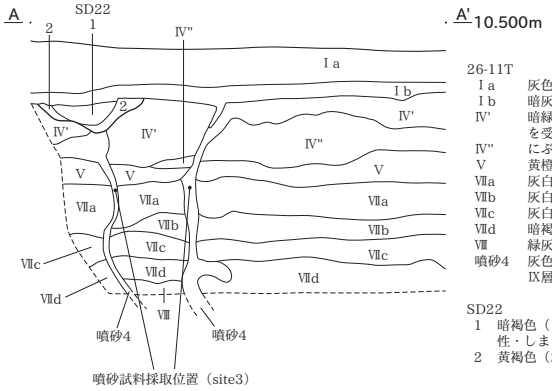
26-9T
- Ⅰa　灰色（N4/）シルト　表土。
- Ⅰb　暗灰色（N3/）シルト　水田床土。鉄分多量含む。
- Ⅱa　褐灰色（10YR4/1）シルト
- Ⅳ'　暗緑灰色（7.5GY4/1）砂質シルト　暗褐色シルト多量含む。粘性・しまり弱い。
- Ⅳ'a　暗緑灰色（5G4/1）砂質シルト　粘性・しまり弱い。
- Ⅳ'b　暗褐色（10YR3/4）シルト　粘性・しまりあり。
- Ⅳ''　暗緑灰色（7.5GY4/1）砂質シルト　暗褐色シルト少量含む。粘性・しまり弱い。
- Ⅳa　黄橙色（10YR7/8）シルト　粘性・しまりあり。
- Ⅳb　黄橙色（10YR7/8）砂質シルト　粘性・しまりあり。
- Ⅴa　黄橙色（10YR8/8）シルト　粘性・しまりあり。
- Ⅵ　灰白色（7.5Y7/1）シルト　粘性強い・しまりあり。
- Ⅶ　緑灰色（10GY6/1）シルト　粘性強い・しまりあり。
- Ⅷ　青灰色（5BG6/1）砂　粘性・しまりなし。
- Ⅸa　緑灰色（5G6/1）シルト　粘性・しまりあり。
- X　暗赤褐色（5YR3/6）砂　径1cm～10cmの円礫多量含む。粘性・しまりなし。
- 噴砂3-1　暗緑灰色（5G4/1）砂質シルト　暗褐色シルト多量含む。粘性・しまり弱い。
- 噴砂3-2　暗灰色（N3/）砂質シルト　粘性・しまり弱い。
- 噴砂3-3　オリーブ灰色（2.5GY5/1）砂質シルト　粘性・しまり弱い。
- 噴砂3-4　暗緑灰色（7.5GY4/1）砂質シルト　粘性・しまり弱い。
- 噴砂3　緑灰色砂　砂粒はX層に比べ細かい。

噴砂6



26-5T
- Ⅳ　黄褐色（10YR5/6）シルト
- Ⅴ　明黄褐色（10YR7/6）シルト　灰白色シルト多量含む。粘性・しまりあり。
- Ⅵa　にぶい黄橙色（10YR7/4）シルト　粘性・しまりあり。
- Ⅵb　浅黄色（2.5Y7/4）シルト　粘性・しまりあり。
- Ⅶ　明緑灰色（10GY7/1）シルト　鉄分多量含む。粘性・しまりあり。
- Ⅸ　青灰色（10BG6/1）シルト　鉄分微量含む。粘性・しまりあり。
- X　青灰色（10BG6/1）砂　粘性・しまりなし。湧水が認められる。

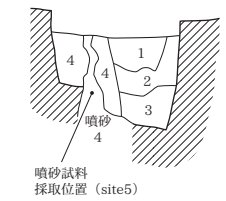
噴砂4　site3



26-11T
- Ⅰa　灰色（N4/）シルト　表土。
- Ⅰb　暗灰色（N3/）シルト　水田床土。鉄分多量含む。
- Ⅳ'　暗緑灰色（7.5YR4/1）砂質シルト　古代の遺物を含む。液状化の影響を受けた層。粘性・しまり弱い。
- Ⅳ''　にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質シルト　液状化の影響を受けた層。
- Ⅴ　黄橙色（10YR8/8）シルト　粘性・しまりあり。
- Ⅶa　灰白色（10YR7/1）シルト　粘性強い・しまりあり。
- Ⅶb　灰白色（10YR8/1）砂質シルト　砂質強い。粘性・しまり弱い。
- Ⅶc　灰白色（10YR8/2）砂質シルト　粘性強い・しまりあり。
- Ⅶd　暗褐色（10YR3/4）砂　砂粒は粗い。粘性・しまりなし。
- Ⅷ　緑灰色（7.5GY6/1）砂　Ⅷ層より砂粒細かい。粘性・しまりなし。
- 噴砂4　灰色（5Y7/1）砂～暗緑灰（7.5GY4/1）砂　Ⅷ層より粒子細かく、Ⅸ層より粗い。上層は暗緑灰砂となる。粘性・しまりなし。

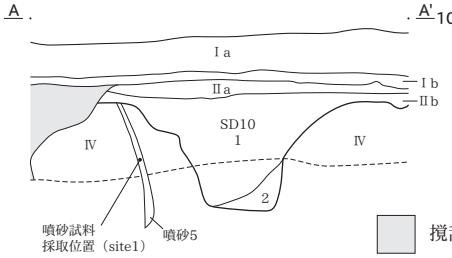
SD22
- 1　暗褐色（10YR3/3）シルト　黄褐色シルトをブロック状に多量含む。粘性・しまり弱い。
- 2　黄褐色（2.5Y5/4）シルト　暗褐色シルト少量含む。粘性・しまり弱い。

噴砂4　site5



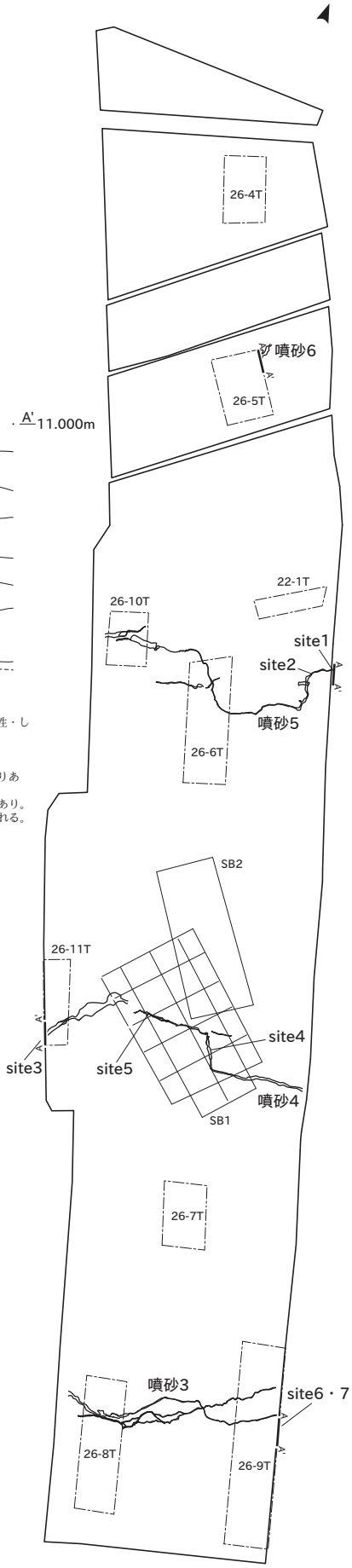
P66
- 1　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。浅黄橙色シルトブロック多量含む。粘性・しまりあり。
- 2　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。浅黄橙色シルトブロック少量含む。粘性・しまりあり。
- 3　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物少量含む。浅黄橙色シルトブロック多量含む。粘性・しまりあり。
- 4　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。径1～5mmの炭化物が少量混入する場合あり。粘性・しまりあり。

噴砂5　site1



基本層序東壁
- Ⅰa　灰色（N4/）シルト　表土。
- Ⅰb　暗灰色（N3/）シルト　水田床土。鉄分多量含む。
- Ⅱa　褐灰色（10YR4/1）シルト
- Ⅱb　褐灰色（10YR4/1）シルト　黄褐色シルト粒少量含む。
- Ⅳ　黄褐色（10YR5/6）シルト

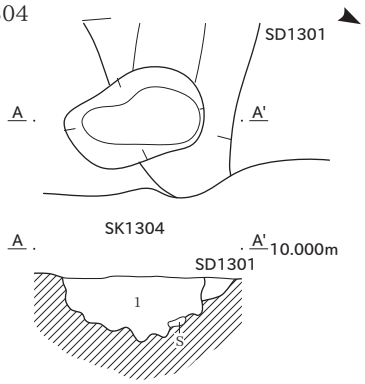
SD10
- 1　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　黄褐色シルト少量含む。粘性・しまり弱い。
- 2　にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　黄褐色シルト　灰黄色シルトをブロック状に含む。粘性・しまり弱い。



0　平面図（1：600）　20m

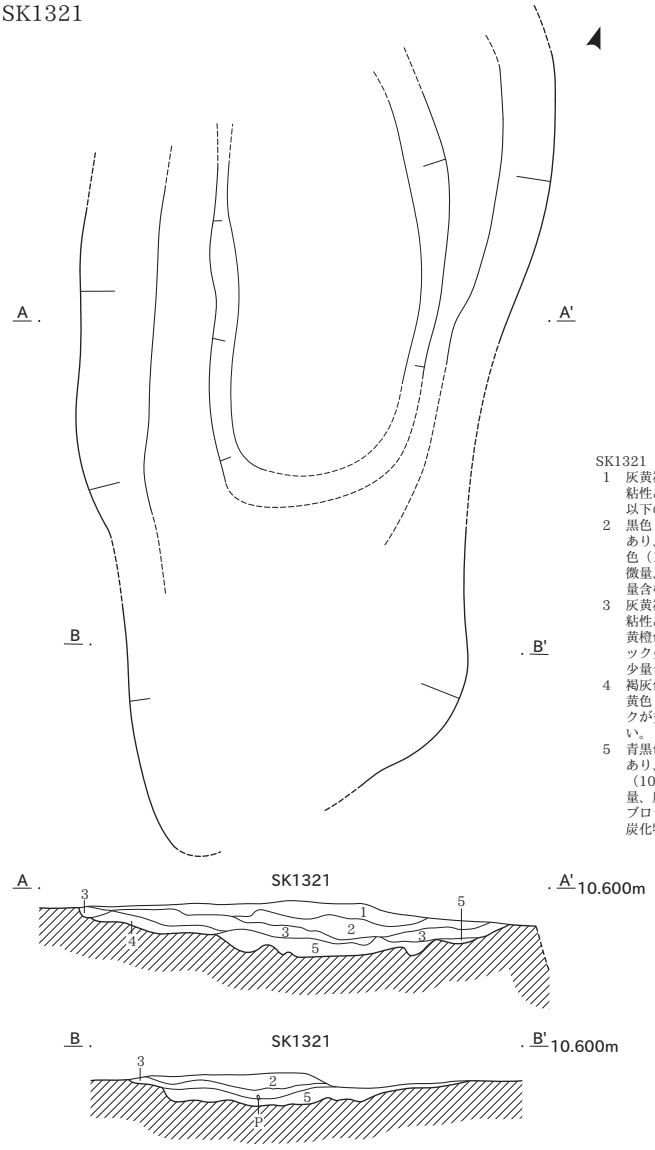
0　断面図（1：40）　2m

SK1304



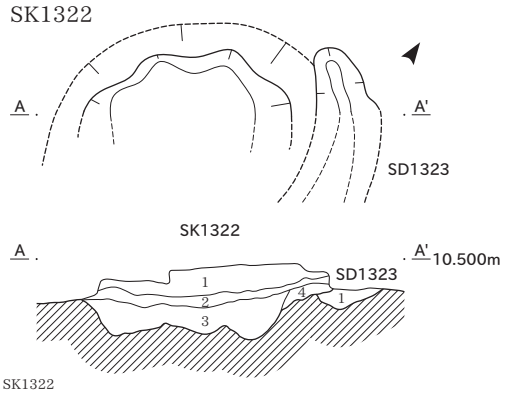
SK1304
1　褐灰色（10YR4/1）シルトと褐灰色（10YR5/1）シルトと浅黄色（2.5Y8/3）シルトのブロックが充填。粘性あり、しまり強い。径10mm以下の炭化物少量含む。

SK1321



SK1321
1　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　粘性あり、しまり強い。径5mm以下の炭化物少量含む。
2　黒色（10YR2/1）シルト　粘性あり、しまり強い。にぶい黄橙色（10YR7/3）シルトブロック微量、径10mm以下の炭化物微量含む。
3　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　粘性あり、しまり強い。にぶい黄橙色（10YR7/3）シルトブロック少量、径5mm以下の炭化物少量含む。
4　褐灰色（10YR5/1）シルトと浅黄色（10YR8/3）シルトブロックが充填。粘性あり、しまり強い。
5　青黒色（5B2/1）シルト　粘性あり、しまりなし。浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック少量、灰白色（10YR8/2）シルトブロック微量、径10mm以下の炭化物少量含む。

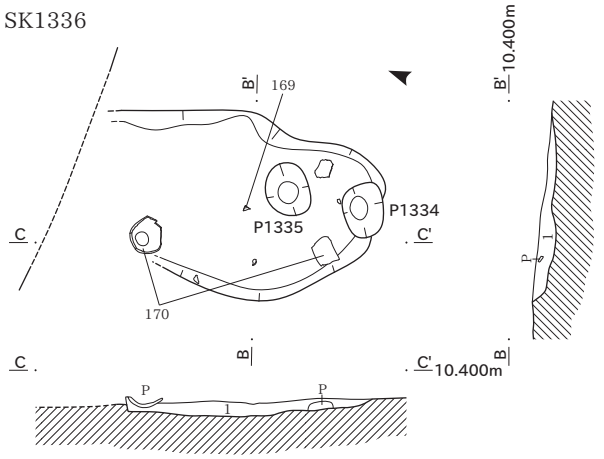
SK1322



SK1322
1　青黒色（5B2/1）シルト　粘性弱い、しまりあり。浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック少量含む。
2　黄灰色（2.5Y5/1）シルトとにぶい黄色（2.5Y6/4）シルトのブロックが充填。粘性弱い、しまり強い。
3　褐灰色（7.5YR5/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/4）シルトのブロックが充填。粘性あり、しまり強い。褐灰色（7.5YR5/1）シルトの割合が高い。径3mm以下の炭化物微量含む。
4　灰白色（10YR7/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/3）シルトと灰白色（10YR8/1）シルトのブロック充填。粘性やや強い、しまりあり。径10mm以下の炭化物微量含む。

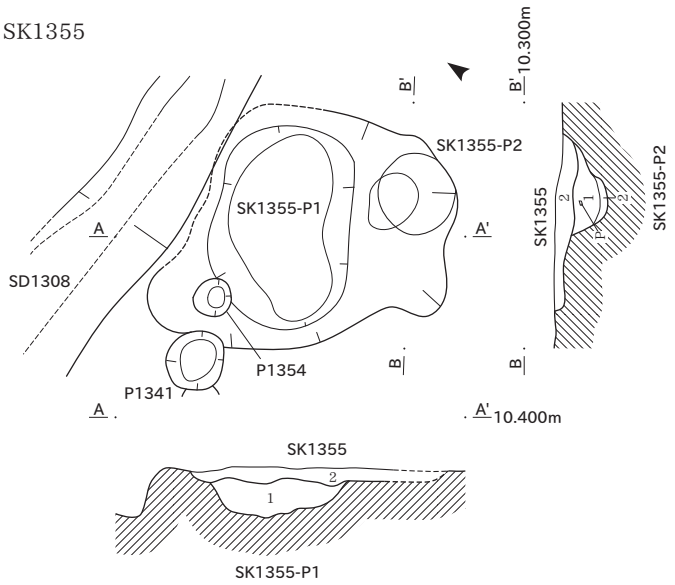
SD1323
1　灰白色（10YR7/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/3）シルトと灰白色（10YR8/1）シルトのブロックが充填。粘性・しまりあり。径10mm以下の炭化物微量含む。

SK1336



SK1336
1　褐灰色（7.5YR6/1）シルトと明褐灰色シルトのブロックが充填。粘性・しまりあり。径10mm以下の炭化物微量含む。

SK1355

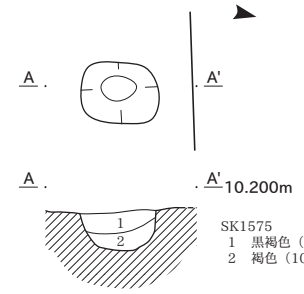


SK1355
2　褐灰色（10YR5/1）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/3）シルトのブロックが充填。褐灰色（10YR5/1）シルトの割合が高い。粘性・しまりあり。

SK1355-P1
1　褐灰色（10YR5/1）砂質シルトとにぶい黄橙色（10YR7/3）砂質シルトのブロック充填。粘性弱い、しまり強い。細砂多量含む。

SK1355-P2
1　褐灰色（10YR6/1）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/3）シルトのブロックが充填。粘性弱い、しまり強い。
2　褐灰色（10YR5/1）砂質シルトとにぶい黄橙色（10YR7/3）砂質シルトのブロックが充填。褐灰色（10YR5/1）シルトの割合が高い。粘性・しまりあり。細砂多量含む。

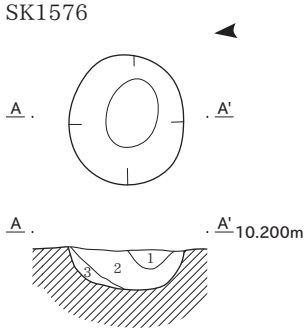
SK1575



SK1575
1　黒褐色（10YR3/1）粘質シルトに灰褐色シルトブロック含む。
2　褐色（10YR6/2）粘質シルト　ブロック多量、黒褐色シルト少量含む。

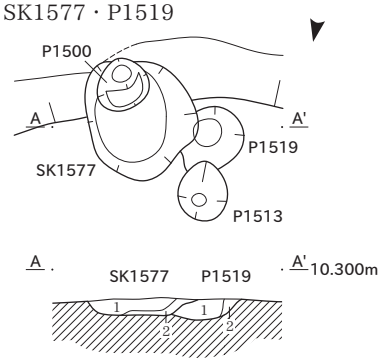
0　（1：40）　2m

SK1576



SK1576
1　黒色（7.5YR2/1）シルト　浅黄橙色シルトブロック少量含む。
2　暗褐色（7.5YR3/4）シルト　浅黄橙色シルトブロック多量含む。
3　褐灰色（7.5YR6/2）シルト　浅黄橙色シルトブロック微量含む。

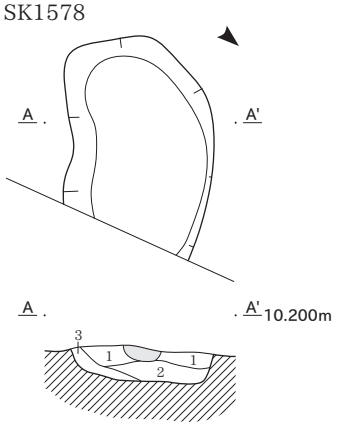
SK1577・P1519



SK1577
1　暗褐色（7.5YR3/4）粘土　径2mmの浅黄橙色土少量含む。
2　褐灰色（7.5YR6/1）粘土。

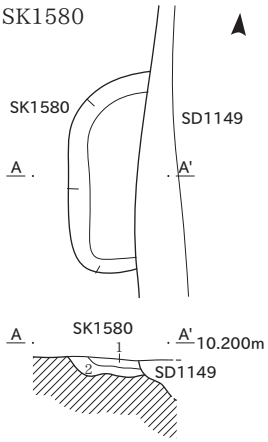
P1519
1　灰褐色（7.5YR6/2）シルト質土　径2mmの浅黄橙色土少量含む。
2　灰褐色（7.5YR6/2）シルト質土

SK1578



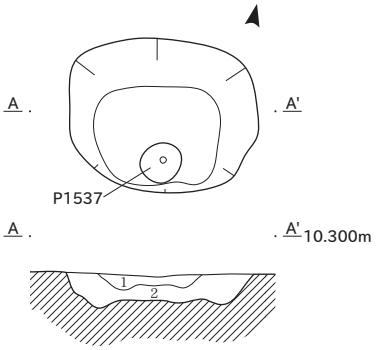
SK1578
1　黒褐色（7.5YR3/1）砂礫　径10mmの灰褐色土中量含む。
2　黒色（7.5YR2/1）シルト　径10mmの灰褐色土中量含む。
3　暗褐色（7.5YR3/1）砂礫。

SK1580



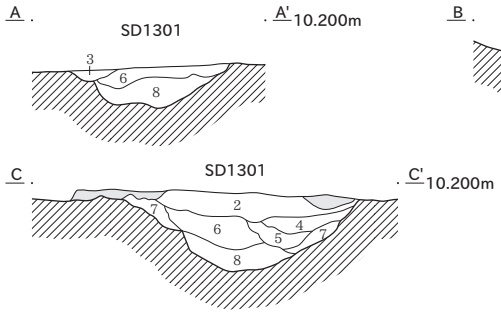
SK1580
1　黒褐色（7.5YR3/1）砂礫　径2mmの浅黄橙色土微量含む。
2　黒褐色（7.5YR3/1）砂礫　径2mmの浅黄橙色土中量含む。

SK1579



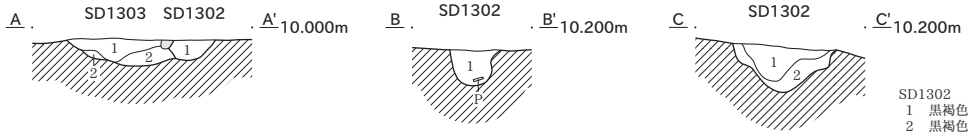
SK1579
1　黒褐色（7.5YR3/1）土　径10mmの暗褐色土多量含む。
2　浅黄橙色（7.5YR8/3）シルト　径5mmの暗褐色土少量含む。

SD1301



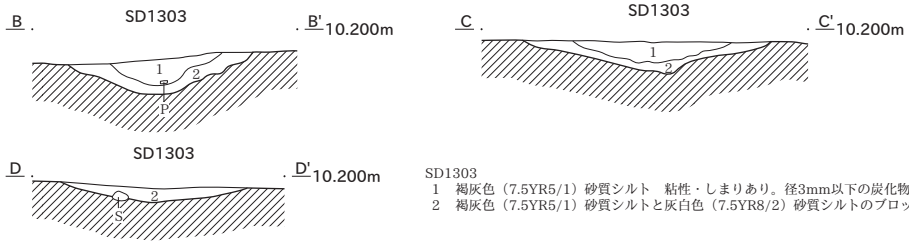
SD1301
1　褐灰色（7.5YR4/1）砂質シルト　粘性弱く、しまり強い。
2　灰褐色（7.5YR4/2）シルト　粘性弱い、しまり強い。
3　灰褐色（7.5YR4/2）シルト　粘性弱い、しまり強い。2層に比べてやや色調が暗い。
4　灰褐色（7.5YR4/2）シルト　粘性弱い、しまり強い。3層に比べてやや色調が暗い。
5　灰褐色（7.5YR4/2）砂質シルト　粘性弱い、しまり強い。酸化鉄の沈着が顕著。
6　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性・しまりあり。径5mm以下の炭化物微量含む。
7　褐灰色（7.5YR4/1）シルト　粘性・しまりあり。
8　黒褐色（10YR3/1）砂質シルト　粘性・しまりあり。斑状に黒褐色（7.5YR3/1）シルトブロック微量含む。

SD1302



SD1302
1　黒褐色（7.5YR3/1）シルト　粘性弱い、しまり強い。粗砂少量含む。
2　黒褐色（7.5YR3/1）砂質シルト　粘性あり、しまり強い。浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック微量、粗砂多量含む。

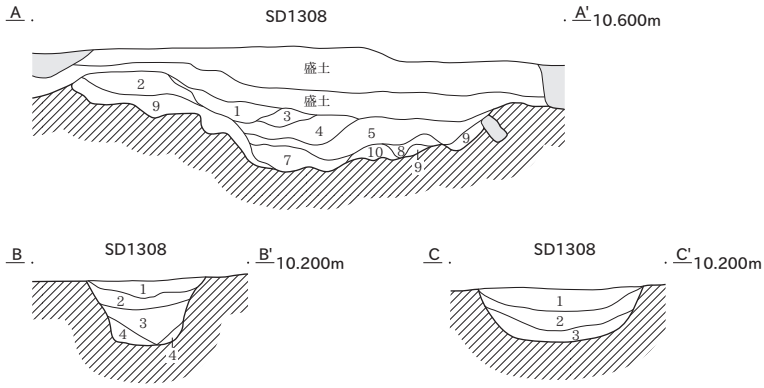
SD1303



撹乱

SD1303
1　褐灰色（7.5YR5/1）砂質シルト　粘性・しまりあり。径3mm以下の炭化物微量含む。
2　褐灰色（7.5YR5/1）砂質シルトと灰白色（7.5YR8/2）砂質シルトのブロックが充填。粘性あり、しまりなし。D-D'部は細砂少量含む。

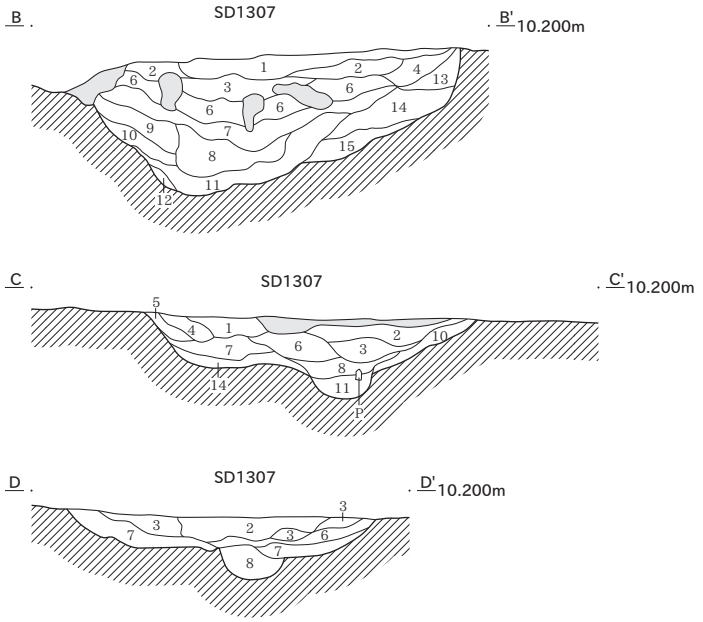
SD1308



SD1308
1　黒褐色（10YR3/1）粘質シルト　粘性あり、しまり弱い。にぶい黄褐色（10YR5/3）シルトブロック少量、径5mm以下の炭化物少量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質シルト　粘性強い、しまり弱い。斑に黒色（10YR2/1）シルトブロック少量含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質シルト　粘性あり、しまり弱い。灰白色（10YR8/1）シルトブロック微量含む。
4　黒褐色（10YR3/1）粘質シルト　粘性あり、しまり弱い。にぶい黄褐色（10YR5/3）シルトブロック多量、径10mm以下の炭化物少量含む。
5　黒褐色（10YR3/1）粘質シルト　粘性あり、しまり弱い。にぶい黄褐色（10YR5/3）シルトブロック微量、径5mm以下の炭化物少量含む。
7　黒褐色（10YR2/2）シルト　粘性・しまりあり。灰褐色（10YR4/2）シルトブロック微量、細砂少量含む。
8　黒褐色（2.5YR3/1）シルト　粘性あり、しまり弱い。にぶい褐色（10YR5/4）シルトブロック少量、径1mm以下の炭化物微量含む。
9　にぶい黄橙色（10YR6/4）シルトと灰黄褐色（10YR5/2）シルトのブロックが充填。粘性あり、しまり弱い。径5mm以下の炭化物微量、細砂少量含む。
10　灰白色（10YR8/2）シルトと褐灰色（10YR4/1）シルトのブロックが充填。灰白色（10YR8/2）シルトの割合が高い。粘性あり、しまり強い。

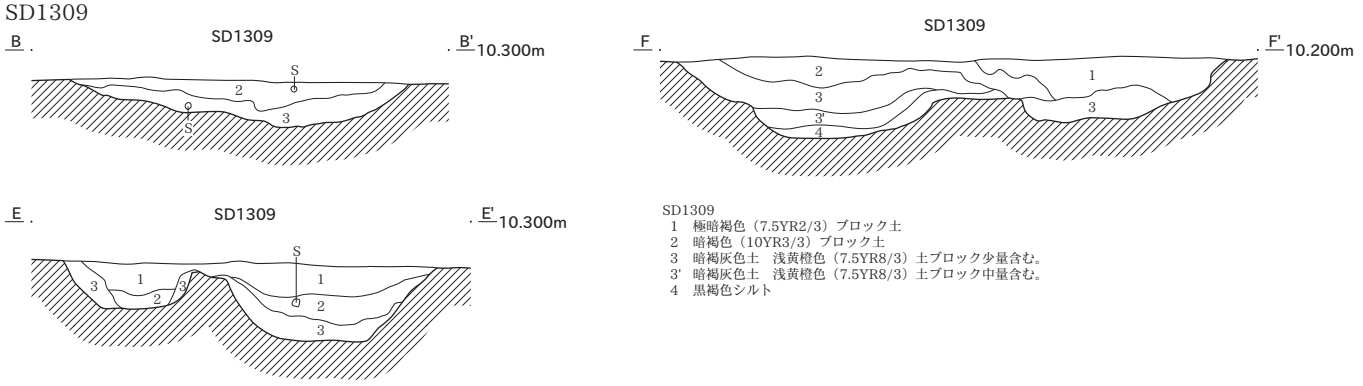
0　（1：40）　2m

SD1307



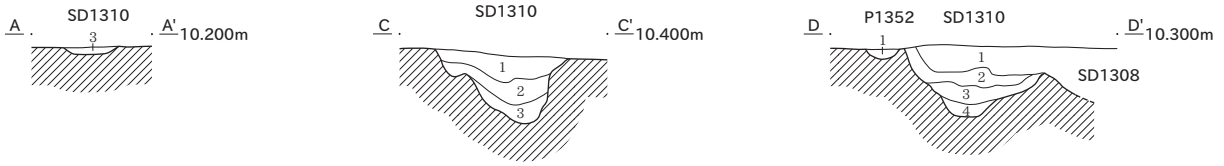
SD1307
1　暗褐色（10YR3/3）シルト　粘性あり、しまり強い。灰黄褐色（10YR6/2）シルトブロック少量、径5mm以下の炭化物少量含む。
2　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　粘性あり、しまり強い。
3　黒褐色（7.5YR4/1）シルトと褐灰色（7.5YR5/1）シルト多量、径10mmの炭化物含む。斑に褐灰色（7.5YR4/1）シルトと褐灰色（7.5YR5/1）シルト多量、径1mmの炭化物含む。
4　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　粘性あり、しまり強い。にぶい黄褐色（10YR5/3）シルトブロック微量、径5mm以下の炭化物微量含む。2層に比べてやや色調が明るい。
5　褐灰色（7.5TR5/1）シルトと灰白色（10YR8/2）シルトのブロックが充填。粘性・しまりあり。細砂微量含む。
6　褐灰色（5YR4/1）シルト　粘性あり、しまり弱い。斑に黒褐色（5YR3/1）シルト少量含む。
7　褐灰色（7.5YR5/1）砂質シルト　粘性あり、しまり弱い。灰白色（10YR8/2）シルトブロック少量含む。径1mm以下の炭化物微量含む。
8　灰褐色（5YR4/2）砂礫　粘性弱い、しまり強い。上部の色調は褐色（5YR5/1）で徐々に色調が暗くなり、下部は黒褐色（5YR3/1）を呈する。
9　褐灰色（5YR4/1）シルト　粘性あり、しまり弱い。
10　黒褐色（5YR3/1）シルト　粘性あり、しまり弱い。にぶい黄橙色（10YR7/2）シルトブロック微量、径5mm以下の炭化物微量含む。
11　褐灰色（5YR4/1）シルト　粘性あり、しまり弱い。にぶい黄橙色（10YR7/2）シルトブロック微量、径10mm以下の炭化物微量、細砂少量含む。
12　褐灰色（7.5YR5/1）シルトと灰白色（10YR8/2）シルトのブロックが充填。粘性・しまりあり。細砂微量含む。
13　褐灰色（7.5YR5/1）シルト　粘性弱い、しまり強い。灰白色（10YR8/2）シルトブロック少量含む。径1mm以下の炭化物微量含む。
14　褐灰色（10YR5/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/3）シルトと褐灰色（7.5YR4/1）シルトのブロックが充填。粘性あり、しまり弱い。径1mm以下の炭化物微量含む。
15　褐灰色（10YR5/1）シルト　粘性・しまり弱い。褐灰色（7.5YR4/1）シルトブロック微量、浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック微量、細砂少量含む。

SD1309



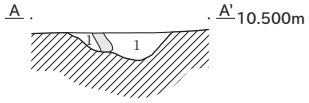
SD1309
1　極暗褐色（7.5YR2/3）ブロック土
2　暗褐色（10YR3/3）ブロック土
3　暗褐灰色土　浅黄橙色（7.5YR8/3）土ブロック少量含む。
3'　暗褐灰色土　浅黄橙色（7.5YR8/3）土ブロック中量含む。
4　黒褐色シルト

SD1310



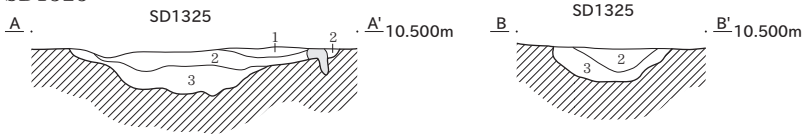
SD1310
1　黒褐色（7.5YR8/2）シルト　粘性弱い、しまり強い。灰白色（10YR8/2）シルトブロック微量、径3mm以下の炭化物少量、粗砂多量含む。
2　黒褐色（7.5YR2/2）シルト　粘性弱い、しまりあり。灰白色（10YR8/2）シルトブロック多量、径3mm以下の炭化物微量含む。
3　黒褐色（10YR2/2）シルト、粘性弱い、しまりあり。灰白色（10YR8/2）シルトブロック微量含む。
4　灰白色（10YR8/2）シルトのブロックが充填。粘性・しまりあり。斑状に褐灰色（10YR5/1）シルト少量、径3mm以下の炭化物微量含む。

SD1323



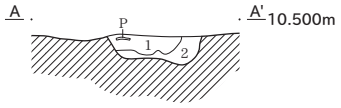
SD1323
1　灰白色（10YR7/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/3）シルトと灰白色（10YR8/1）シルトのブロックが充填。粘性・しまりあり。径10mm以下の炭化物微量含む。

SD1325



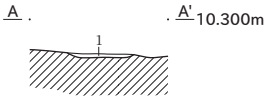
SD1325
1　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　粘性弱い、しまりあり。にぶい黄橙色（10YR7/3）シルトブロック微量、径3mm以下の炭化物微量含む。
2　褐灰色（10YR5/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロックが充填。粘性あり、しまり強い。細砂微量含む。
3　灰白色（2.5Y7/1）シルト　粘性あり、しまり強い。灰黄色（2.5Y7/2）シルトブロック多量含む。径1mm以下の炭化物微量含む。

SD1358



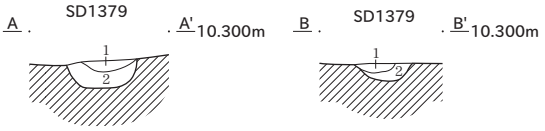
SD1358
1　黄灰色（2.5Y5/1）シルトと灰白色（2.5Y8/2）シルトのブロックが充填。粘性弱い、しまり強い。径10mm以下の炭化物微量含む。
2　黄灰色（2.5Y5/1）砂質シルトと灰白色（2.5Y8/2）砂質シルトのブロックが充填。粘性弱い、しまり強い。細砂多量含む。

SD1378

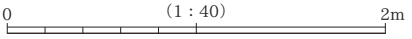


SD1378
1　暗褐色（7.5YR3/4）シルト

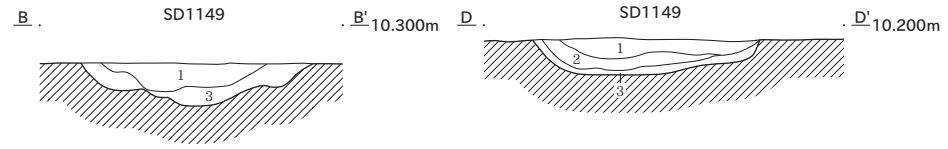
SD1379



SD1379
1　黒色（2.5YR2/1）粘土
2　暗褐色（2.5YR3/4）シルト

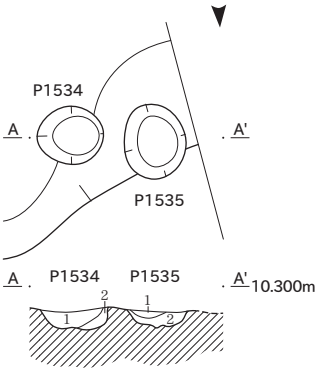


SD1149



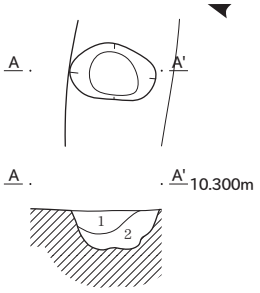
SD1149
1　黒色褐色（10YR3/1）粘土　しまりあり。径30mm未満の浅黄色（10YR8/3）土少量含む。
2　黒色（10YR2/1）粘土　しまりあり。径10mmほどの浅黄色（10YR8/3）土微量含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘土　しまりあり。径30～50mmの浅黄色（10YR8/3）土微量含む。

P1534・1535



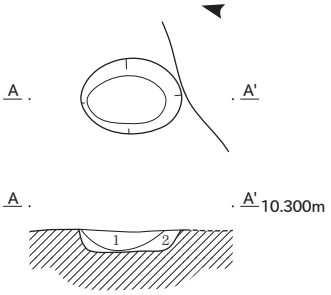
P1534・1535
1　黒褐色（7.5YR3/4）シルト　径2mmほどの浅黄橙色（7.5YR8/3）土少量含む。
2　黒褐色（7.5YR3/1）シルト　径2mmほどの浅黄橙色（7.5YR8/3）土少量含む。

P1536



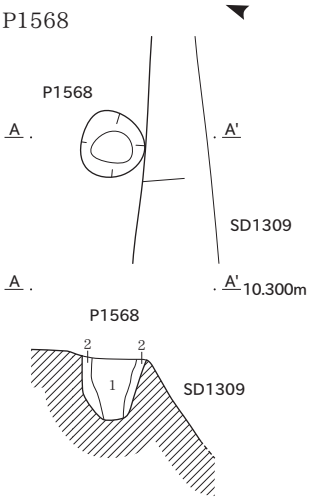
P1536
1　暗褐色（7.5YR3/4）シルト
2　黒褐色（7.5YR8/3）シルト

P1520



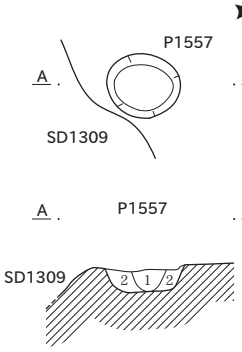
P1520
1　黒褐色（7.5YR3/1）粘土
2　浅黄色（7.5YR8/3）粘土　径2mmほどの暗褐色（7.5YR3/4）土中量含む。

P1568



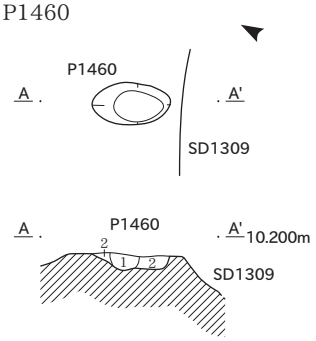
P1568
1　褐灰色（7.5YR6/1）土　径2mmほどの浅黄橙色（7.5YR8/3）土少量含む。
2　灰褐色（7.5TR6/2）土　径2mmほどの浅黄橙色（7.5YR8/3）土少量含む。

P1557



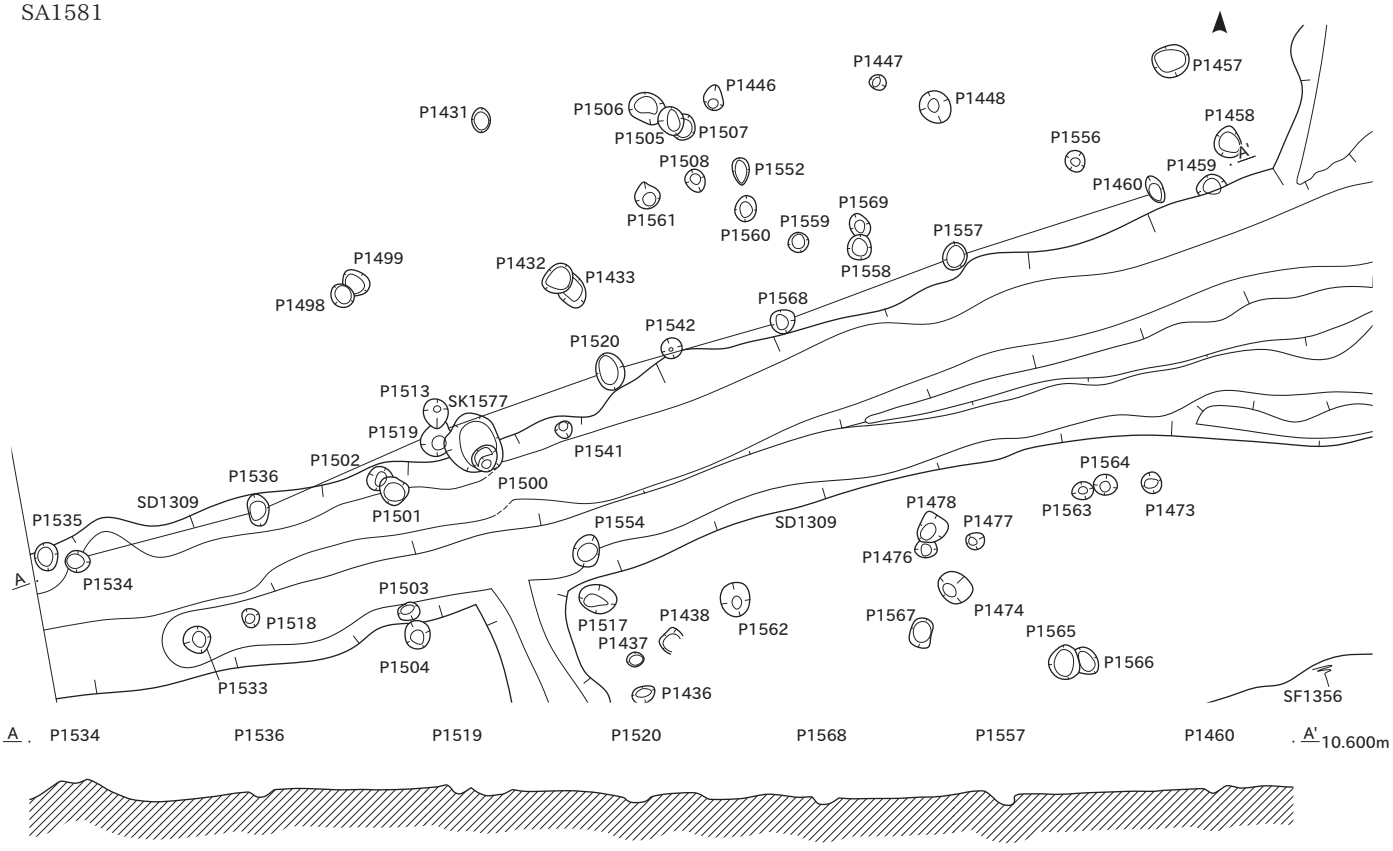
P1557
1　黒色（7.5YR2/1）土
2　灰褐色（7.5YR6/2）土　径1mmほどのマンガン少量含む。

P1460

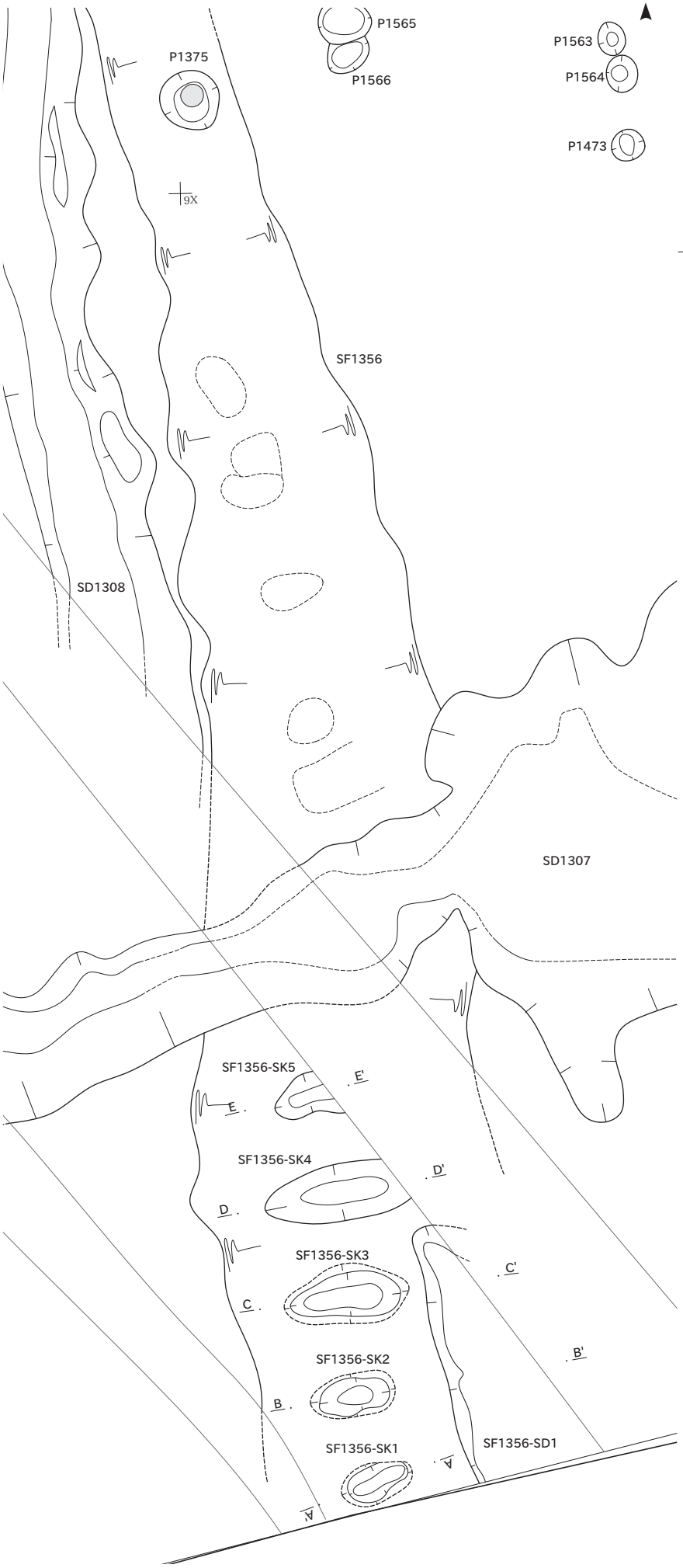


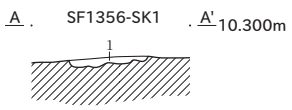
P1460
1　黒褐色（7.5YR3/1）土　径2mmほどの褐灰色（7.5YR6/1）土微量含む。
2　褐灰色土（7.5YR6/1）　径10mmほどの褐灰色（7.5YR6/1）土中量含む。

SA1581

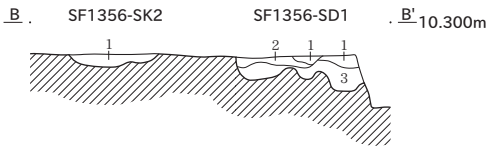


0　SA1581（1：80）　4m　0　SD1149（1：40）　2m　0　その他（1：30）　1m



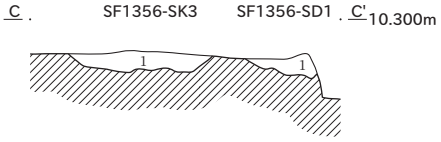


SF1356-SK1
1　灰褐色（7.5YR4/2）シルトと褐灰色（7.5YR5/1）や灰白色（10YR8/2）のシルトブロックが充填。粘性あり、しまり強い。マンガン粒や細砂、小礫多量含む。



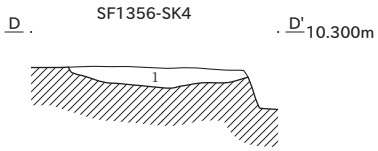
SF1356-SK2
1　黒褐色（7.5YR4/2）シルト　粘性・しまりあり。褐灰色（7.5YR5/1）シルトブロック微量、灰白色（10YR8/2）シルトブロック少量、マンガン粒少量、細砂微量、小礫少量含む。

SF1356-SD1
1　黒褐色（7.5YR3/2）シルト　粘性弱い、しまり強い。径1mmほどの小礫多量含む。
2　暗褐色（7.5YR3/3）シルト　粘性弱い、しまりあり。にぶい橙色（7.5YR7/3）シルトブロック微量、径1mm以下の小礫微量含む。
3　黒褐色（7.5YR3/1）砂質シルトと褐灰色（7.5YR4/1）砂質シルトとにぶい黄橙色（10YR7/4）砂質シルトのブロックが充填。粘性あり、しまり弱い。

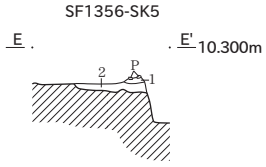


SF1356-SK3
1　灰褐色（7.5YR4/2）シルト　粘性・しまりあり。褐灰色（7.5YR5/1）シルトブロック微量、灰白色（10YR8/2）シルトブロック微量、マンガン粒少量、細砂微量、小礫少量含む。

SF1356-SD1
1　黒褐色（7.5YR3/2）シルト　粘性弱い、しまり強い。径1mmほどの小礫多量含む。



SF1356-SK4
1　灰褐色（7.5YR5/2）シルト　粘性弱い、しまりあり。灰白色（10YR8/2）シルトブロック少量、マンガン粒少量、細砂微量、小礫少量含む。

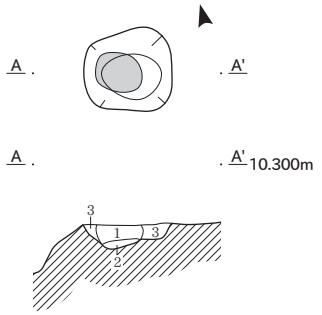


SF1356-SK5
1　灰褐色（7.5YR4/2）シルト　粘性弱い、しまり強い。
2　灰褐色（7.5YR4/2）シルト　粘性・しまりあり。白色（10YR4/2）シルトブロック少量、褐灰色（7.5YR6/1）シルトブロック少量、径3mm以下の炭化物微量、マンガン粒少量、小礫少量含む。

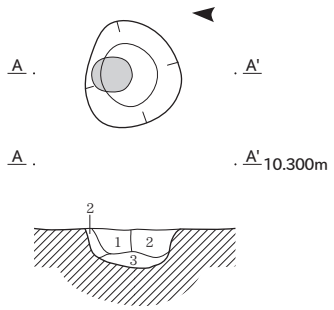
柱痕アタリ

0　（1：40）　2m

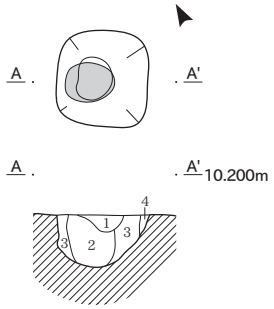
P1311



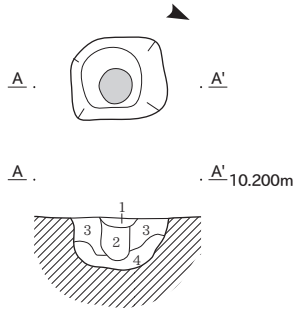
P1312



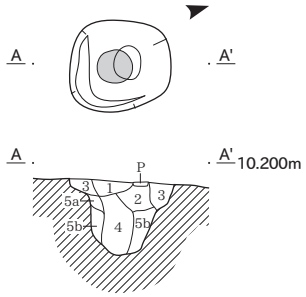
P1313



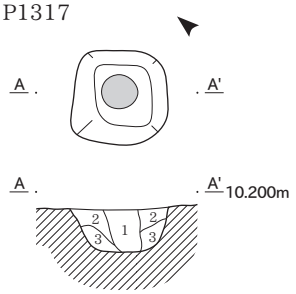
P1314



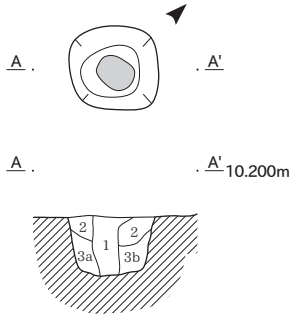
P1316



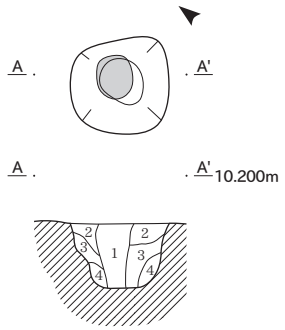
P1317



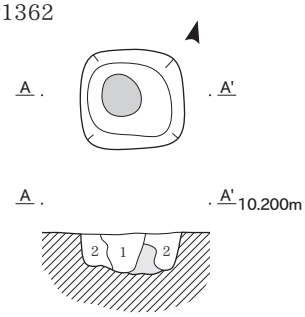
P1319



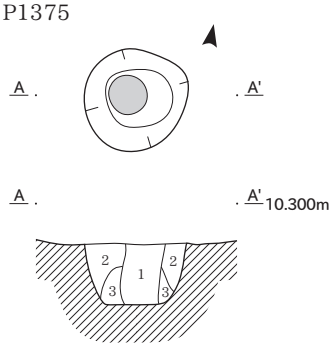
P1320



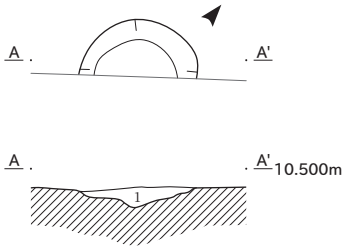
P1362



P1375



P1324



P1311
1　黄灰色（2.5Y5/1）シルト　粘性・しまりあり。径1mm以下の炭化物微量含む。
2　灰白色（2.5Y8/2）シルト　粘性弱い、しまり強い。
3　黄灰色（2.5Y5/1）シルトと灰黄色（2.5Y7/3）シルトのブロックが充填。粘性・しまりあり。

P1312
1　黄灰色（2.5Y5/1）シルト　粘性・しまりあり。径1mm以下の炭化物微量含む。
2　黄灰色（2.5Y5/1）シルトと灰黄色（2.5Y7/3）シルトのブロックが充填。粘性・しまりあり。径1mm以下の炭化物微量含む。
3　灰白色（2.5Y8/2）シルト　粘性弱い、しまり強い。黄灰色（2.5Y5/1）シルトが斑状に少量、径1mm以下の炭化物微量含む。

P1313
1　黄灰色（2.5Y5/1）シルトと灰黄色（2.5Y7/3）シルトのブロックが充填。粘性あり、しまりなし。
2　1層に比べて灰黄色（2.5Y7/3）シルトの割合が高い。酸化鉄少量含む。
3　灰黄色（2.5Y7/3）シルト　粘性やや弱い、1層に比してしまる。斑に灰褐色（7.5YR4/2）シルト多量含む。
4　灰白色（10YR8/2）シルト　地山に比して色調やや明るく、粘性やや強い。1層に比して粘性弱い。

P1314
1　浅黄色（2.5Y7/3）シルト　粘性・しまりあり。斑状に暗黄灰色（2.5Y5/2）シルト微量含む。
2　1層に比べて粘性が強い。
3　浅黄色（2.5Y7/3）シルト　粘性・しまりあり。1・2層に比べてやや粘性が高く、しまる。斑状に暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト微量含む。
4　灰黄色（2.5Y8/1）シルト　粘性強い、しまりなし。

P1316
1　灰黄色（2.5Y7/3）シルト　粘性弱い、しまりあり。
2　灰黄色（2.5Y6/2）シルト　粘性弱い、しまりあり。径10mm以下の炭化物微量含む。土師器片出土。
3　灰黄色（2.5Y7/3）シルト　粘性弱い、しまりあり。
4　灰黄色（2.5Y6/2）シルト　柱痕。粘性弱い、しまりあり。1層との層界は明瞭に識別できるが、2・5・6層とは不明瞭で、灰黄色（2.5Y6/2）シルトの色調のわずかな違いで分層した。4層は相対的に暗い色調である。
5a　灰黄色（2.5Y7/2）砂質シルト　粘性弱い、しまりあり。
5b　灰黄色（2.5Y7/2）シルト　粘性弱い、しまりあり。

P1317
1　浅黄色（2.5Y7/3）シルト　粘性・しまりあり。斑状に暗灰黄色（2.5Y4/1）シルト少量含む。
2　浅黄色（2.5Y7/3）シルト　粘性・しまりあり。1・2層に比べてやや粘性が強く、しまる。斑状に暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト微量含む。
3　灰白色（2.5Y8/1）シルト　粘性強い、しまりなし。

P1319
1　灰黄色（2.5Y7/2）シルト　粘性あり、しまりなし。斑状に浅黄色（2.5Y7/3）シルト少量含む。
2　灰黄色（2.5Y7/2）シルトと灰褐色（7.5Y6/2）シルトのブロックが充填。粘性やや強い、1層よりもしまり強い。
3a.b 褐灰色（7.5YR6/1）シルトと浅黄色（2.5Y7/3）シルトのブロックが充填。粘性やや強く、2層よりもしまり強い。3b層は細砂を多量含む。

P1320
1　褐灰色（7.5YR6/1）シルト　粘性強い。上位はしまらないが下位ほどしまり強い。しまりの差異は、2・3層との層界のレベルとやや異なることから、柱痕は遺構底面まで達していると判断した。
2　褐灰色（7.5YR6/1）シルト　粘性あり、しまりなし。1層よりも色調がやや明るい。径10mm以下の炭化物微量含む。
3　灰黄色（3.5Y6/2）砂質シルト　粘性・しまりあり。細砂を少量含む。
4　3層に類似する。細砂を多量に含む。

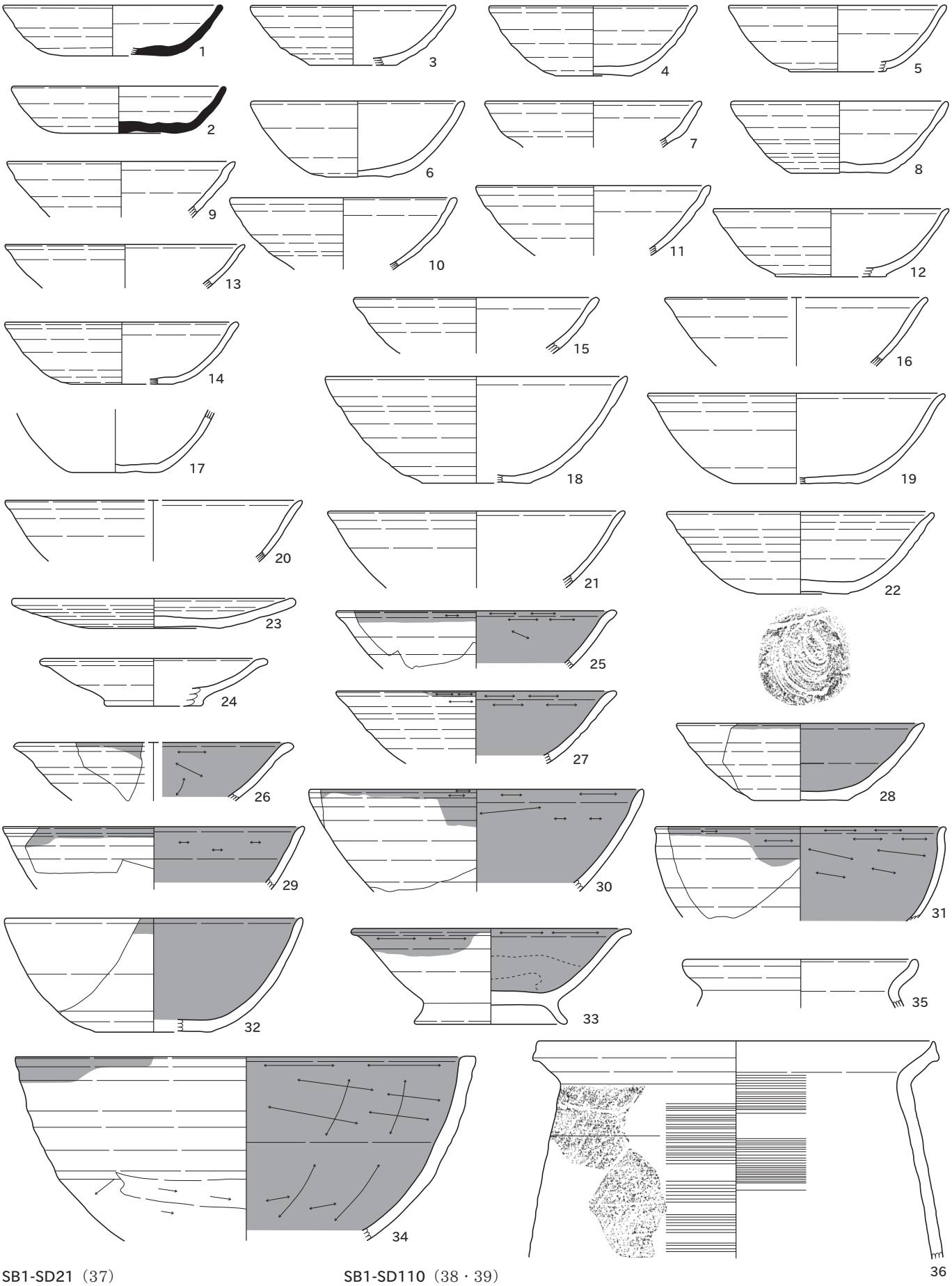
P1362
1　黄灰色（2.5Y5/1）シルトと浅黄色（2.5Y8/3）シルトのブロックが充填。粘性・しまりあり。径1mm以下の炭化物微量含む。
2　灰白色（2.5Y8/2）シルト　粘性弱い、しまり強い。斑状に黄灰色（2.5Y5/1）シルト少量、径5mm以下の炭化物微量含む。

P1375
1　黄灰色（2.5Y5/1）シルトと灰黄色（2.5Y7/2）シルトのブロックが充填。粘性弱い、しまり強い。径5mm以下の炭化物少量、細砂少量含む。
2　浅黄色（2.5Y7/3）シルトと灰黄色（2.5Y7/2）シルトのブロックが充填。粘性弱い、しまり強い。
3　黄灰色（2.5Y5/1）砂質シルト　粘性弱い、しまり強い。灰黄色（2.5Y7/2）シルトブロック微量含む。

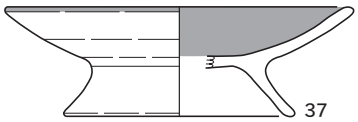
P1324
1　黒褐色（10YR2/2）シルトとにぶい黄橙（10YR6/4）シルトのブロック充填。粘性弱い、しまりあり。径3mm以下の炭化物微量含む。

撹乱　柱痕アタリ　0　（1：30）　1m

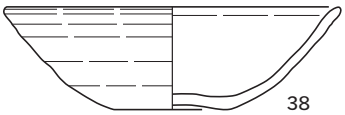
SB1-SD32（1～36）

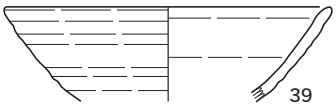


SB1-SD21（37）

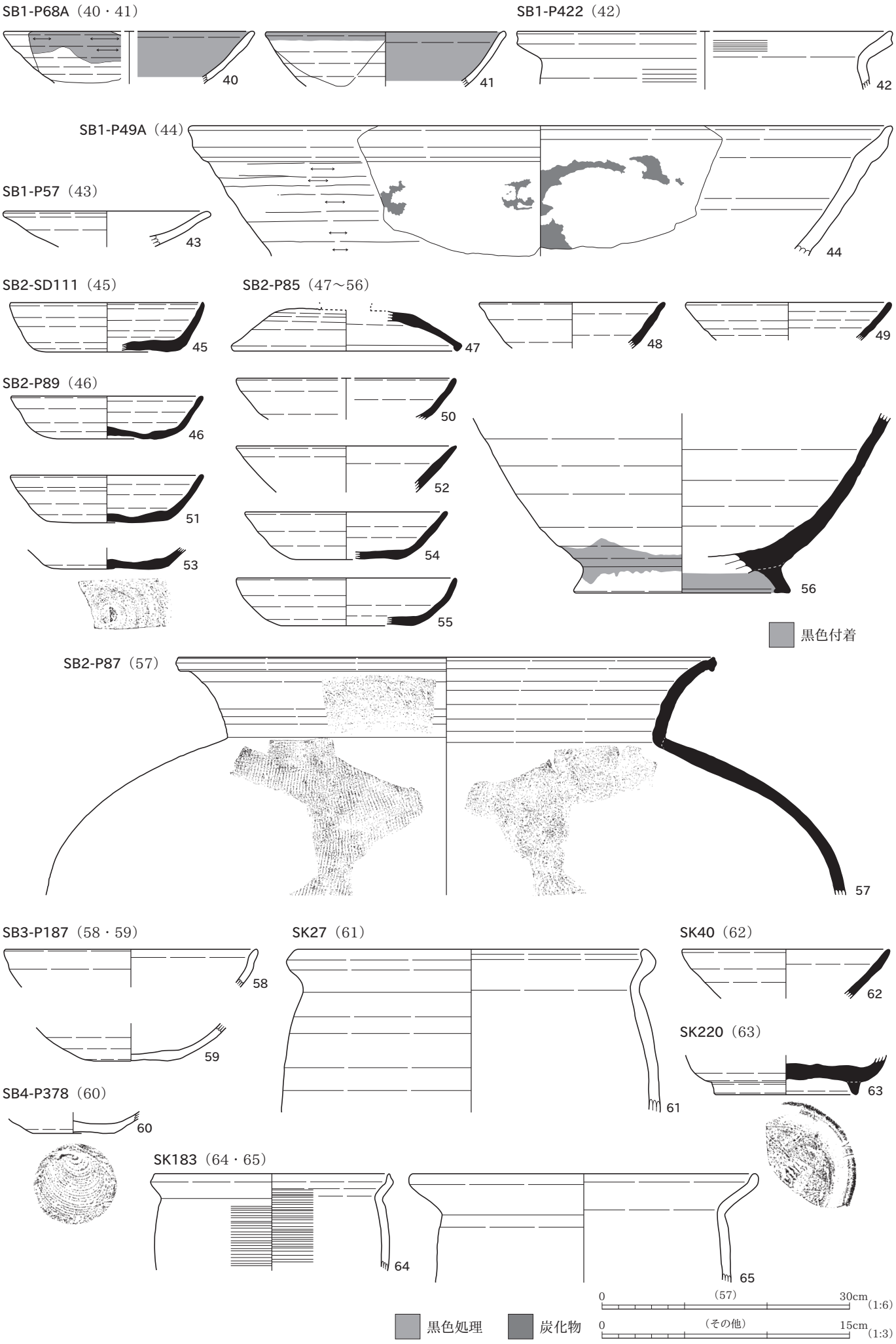


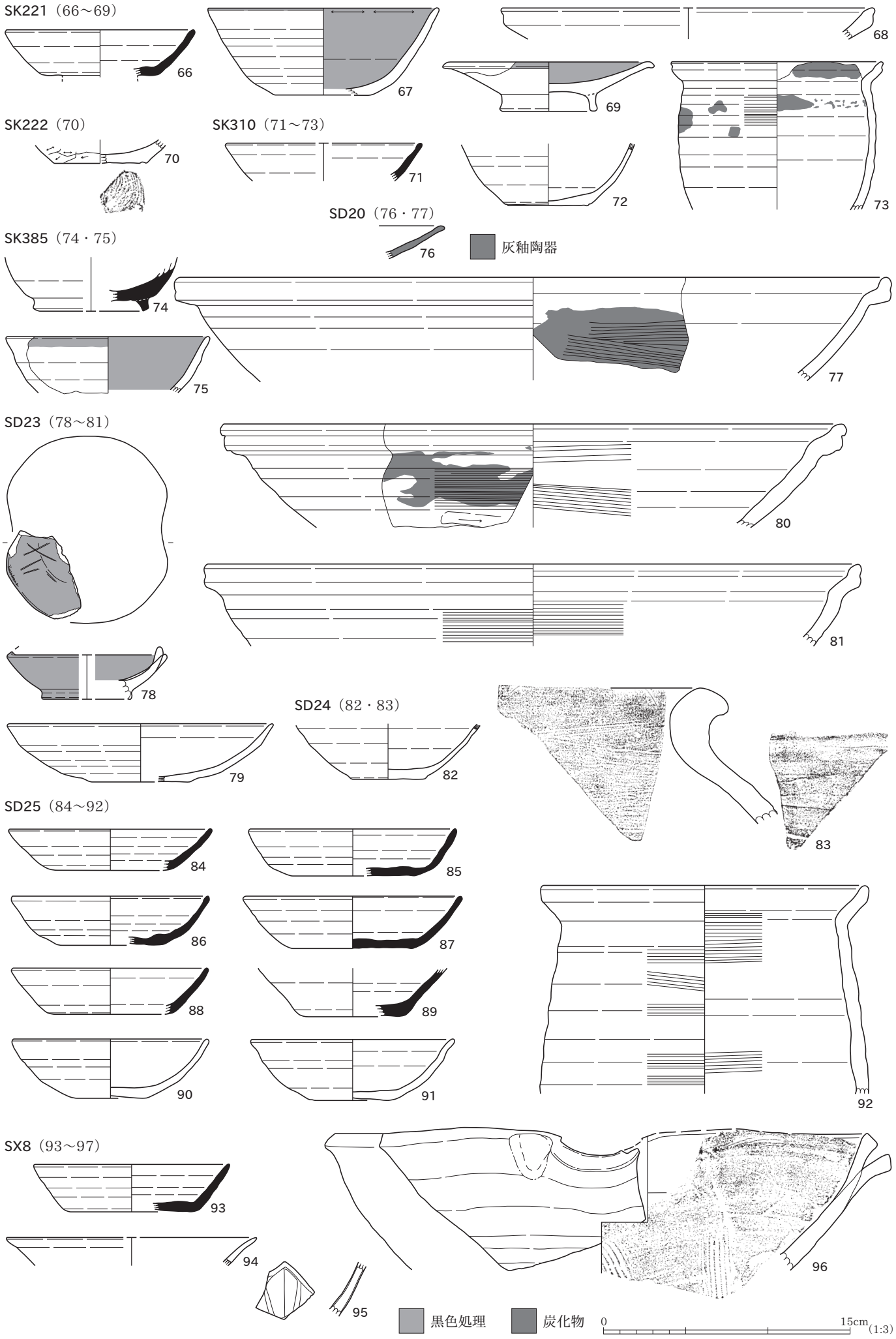
SB1-SD110（38・39）

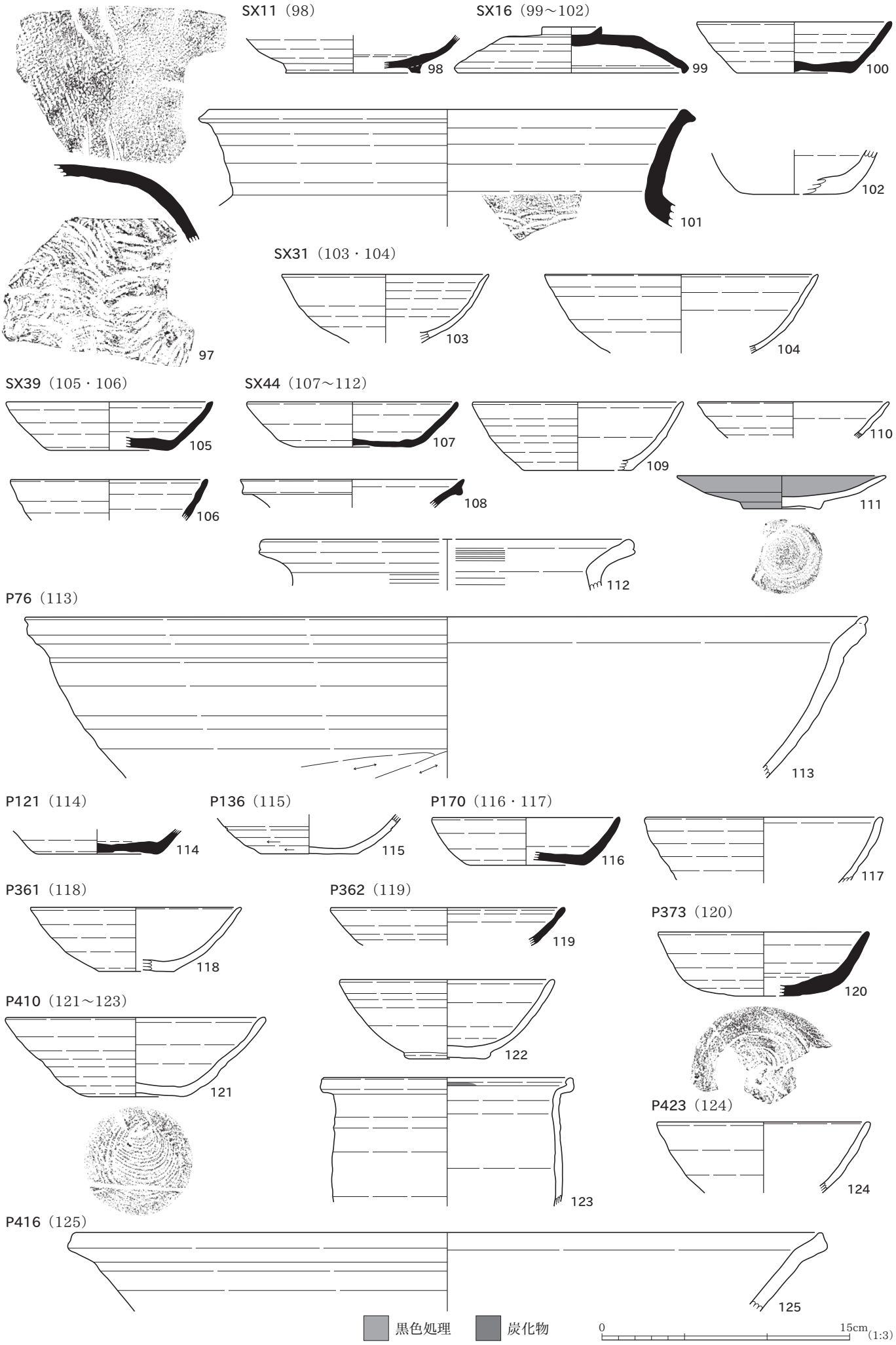




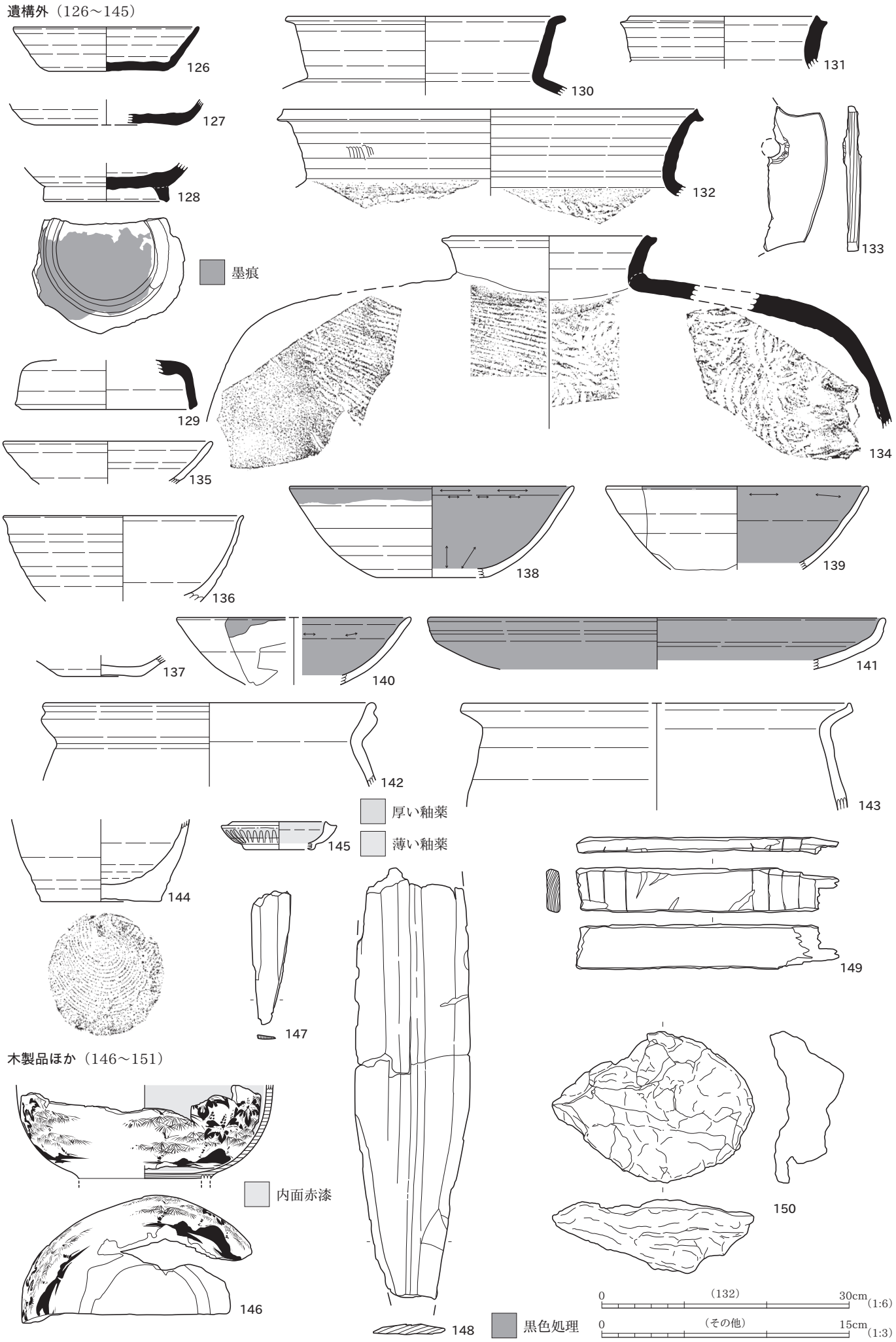
黒色処理　0　15cm（1:3）


SB1-P68A（40・41）
40
41
SB1-P422（42）
42
SB1-P49A（44）
SB1-P57（43）
43
44
SB2-SD111（45）
45
SB2-P85（47～56）
47
48
49
SB2-P89（46）
46
50
51
52
53
54
55
56
黒色付着
SB2-P87（57）
57
SB3-P187（58・59）
58
59
SK27（61）
61
SK40（62）
62
SK220（63）
63
SB4-P378（60）
60
SK183（64・65）
64
65
0
（57）
30cm
(1:6)
黒色処理
炭化物
0
（その他）
15cm
(1:3)

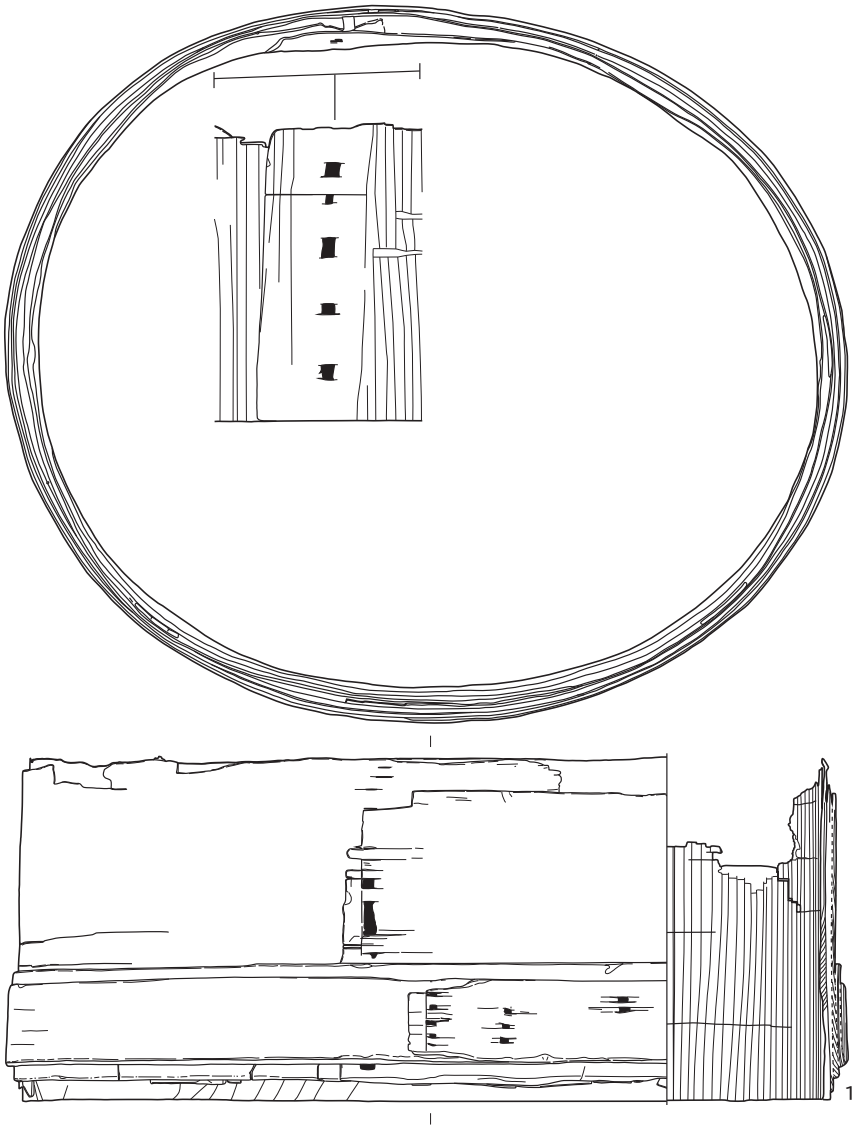

SK221（66～69）
66
67
68
69
SK222（70）
70
SK310（71～73）
71
72
73
SD20（76・77）
76
灰釉陶器
SK385（74・75）
74
75
77
SD23（78～81）
78
79
80
81
SD24（82・83）
82
83
SD25（84～92）
84
85
86
87
88
89
90
91
92
SX8（93～97）
93
94
95
96
黒色処理
炭化物
0
15cm
(1:3)

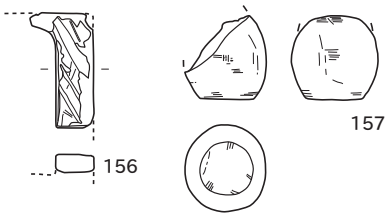

SX11（98）
SX16（99～102）
98
99
100
101
102
97
SX31（103・104）
103
104
SX39（105・106）
SX44（107～112）
105
106
107
108
109
110
111
112
P76（113）
113
P121（114）
114
P136（115）
115
P170（116・117）
116
117
P361（118）
118
P362（119）
119
P373（120）
120
P410（121～123）
121
122
123
P423（124）
124
P416（125）
125
黒色処理
炭化物
0
15cm
(1:3)

遺構外（126～145）

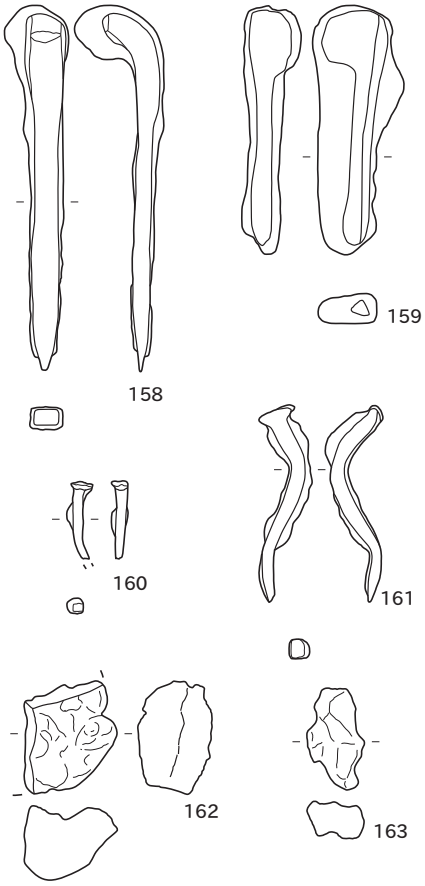


木製品ほか（146～151）

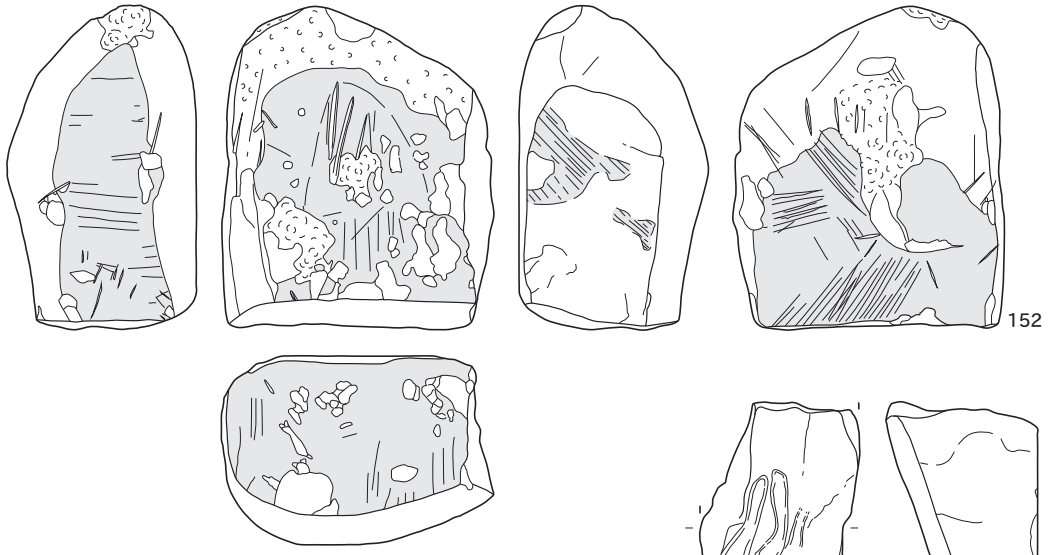


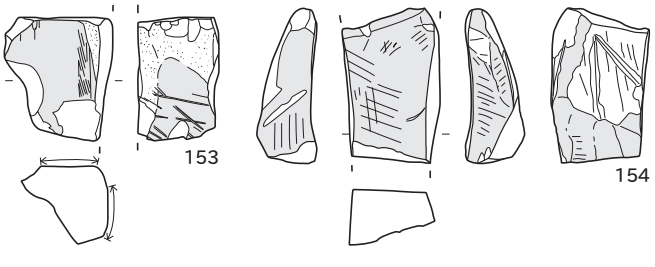


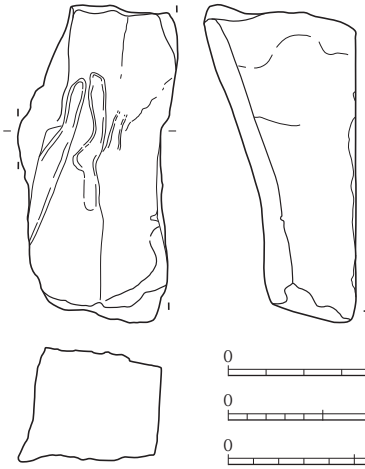
鉄製品ほか（158～163）



石製品（152～157）







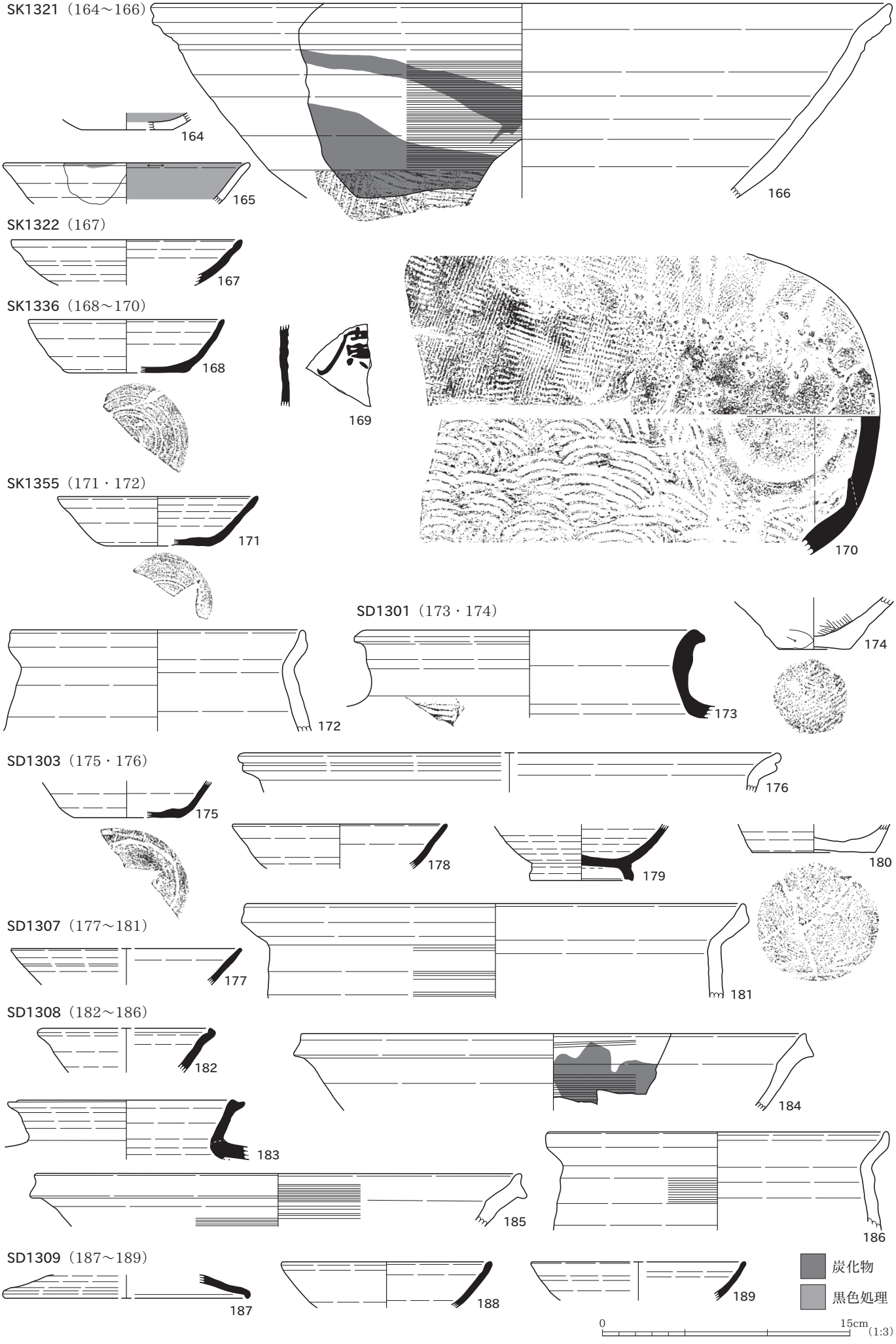
摩耗痕

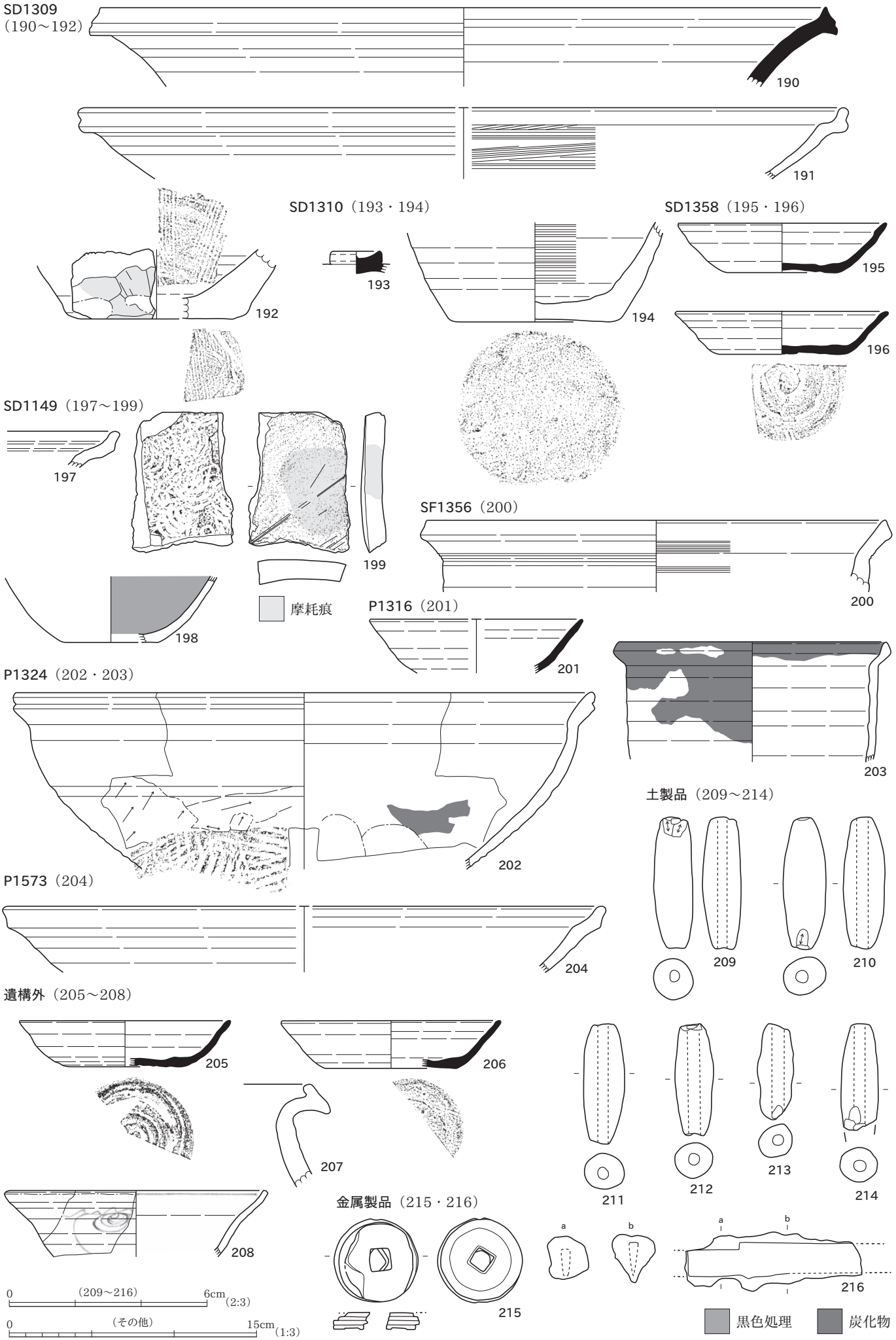
0 （158～163） 10cm (1:2)

0 （151） 40cm (1:8)

0 （その他） 15cm (1:3)

図 版 42　　2015 年度調査　遺物（1）SK1321・1322・1336・1355、SD1301・1303・1307・1308・1309

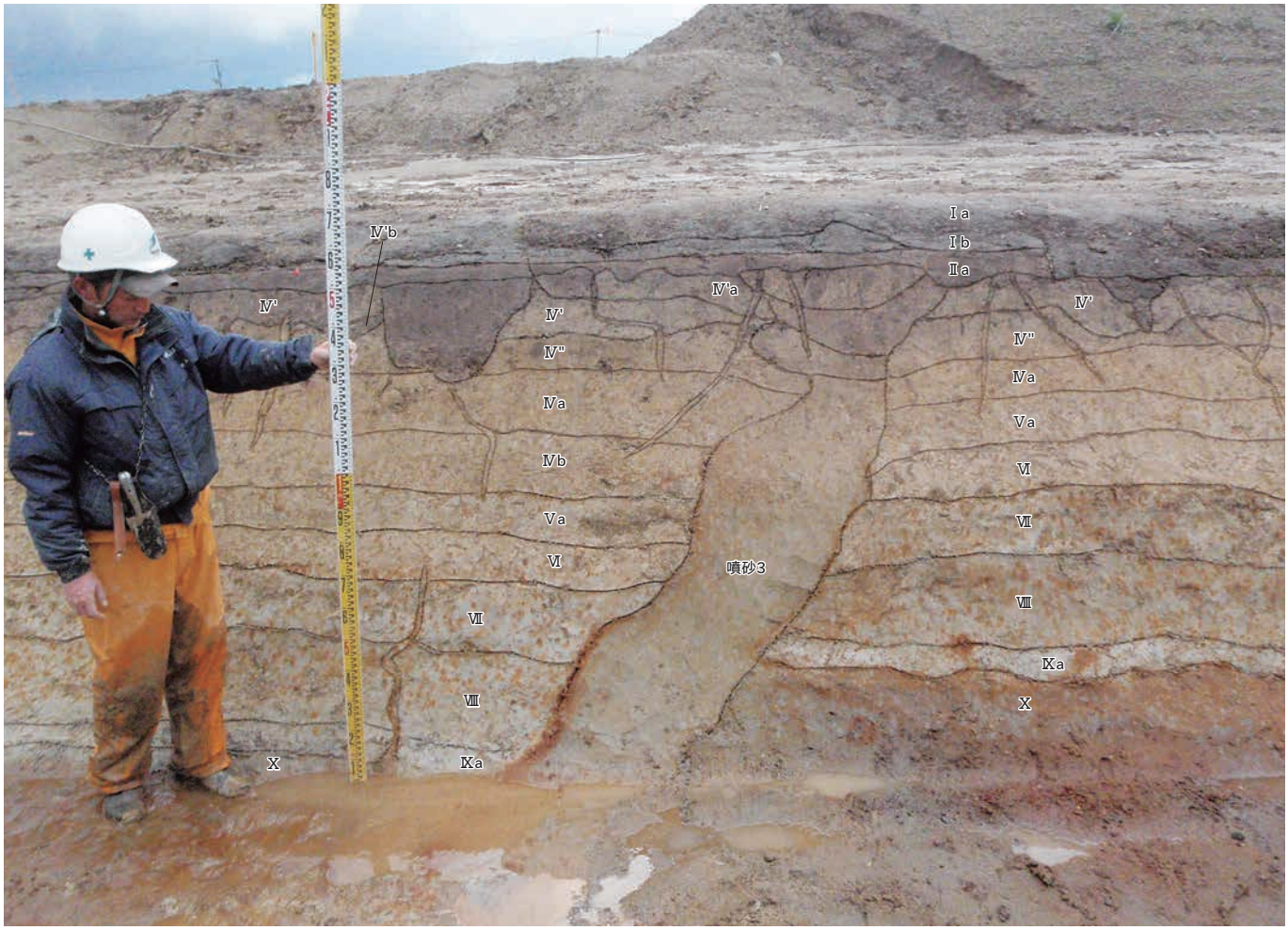



SD1309
（190～192）
190
191
SD1310（193・194）
192
193
194
SD1358（195・196）
195
196
SD1149（197～199）
197
198
199
摩耗痕
SF1356（200）
200
P1316（201）
201
P1324（202・203）
202
203
P1573（204）
204
土製品（209～214）
209
210
211
212
213
214
遺構外（205～208）
205
206
207
208
金属製品（215・216）
215
a
b
216
黒色処理
炭化物
0
（209～216）
6cm
(2:3)
0
（その他）
15cm
(1:3)

調査区遠景（南から）

調査区全景（上空から）

SB1・2・3・4・5　完掘（南東から）

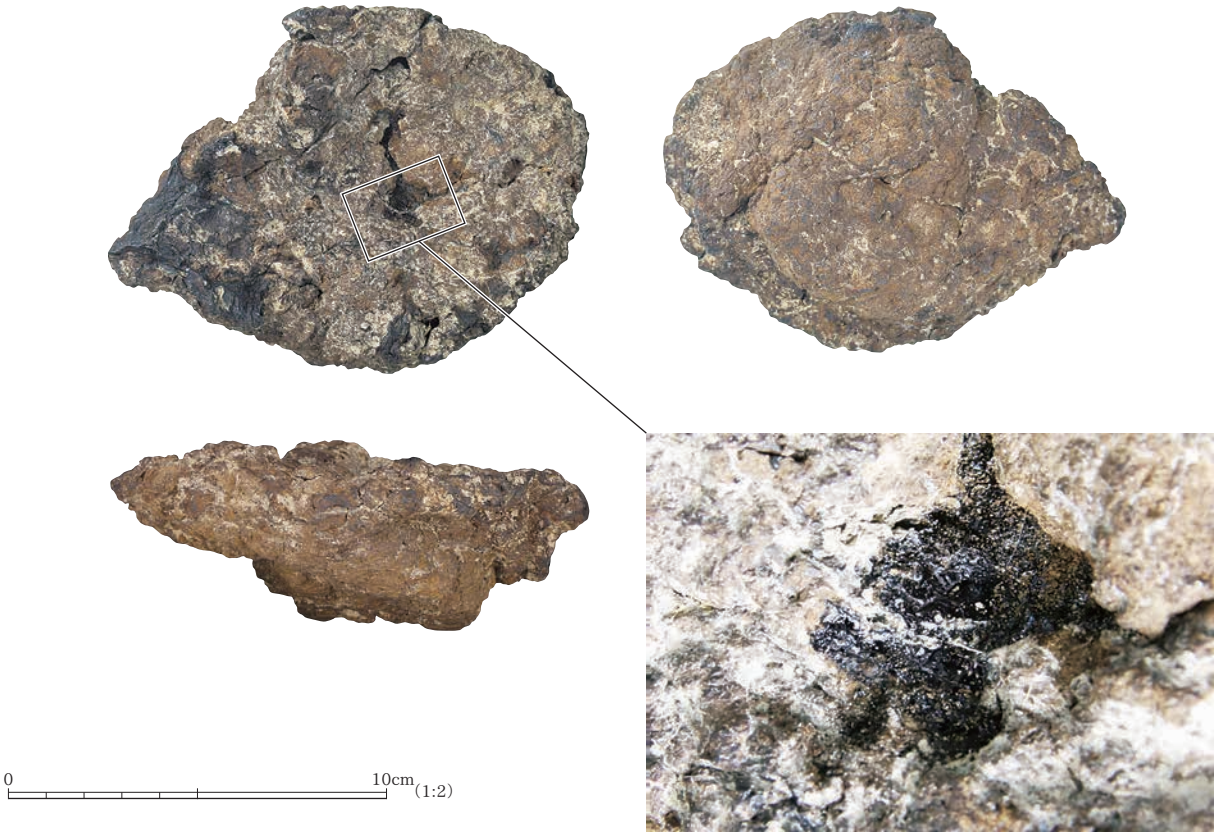


26-9T　東壁基本層序と噴砂 3（西から）

SK206　火葬土坑（西から）

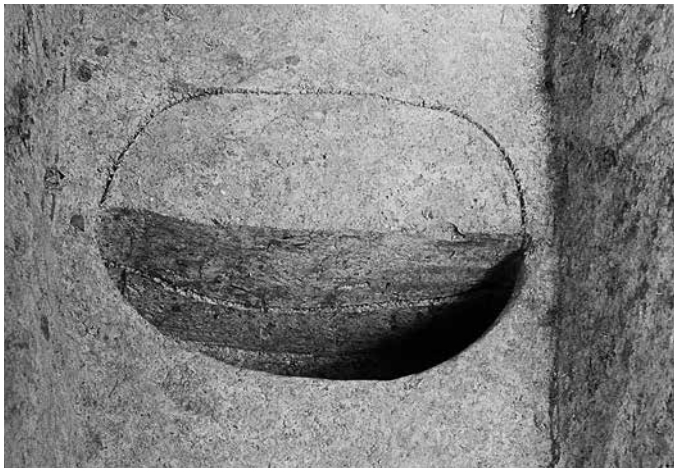
SE225　漆器椀（146）出土状況（東から）

蕪木遺跡出土古代土器集合写真

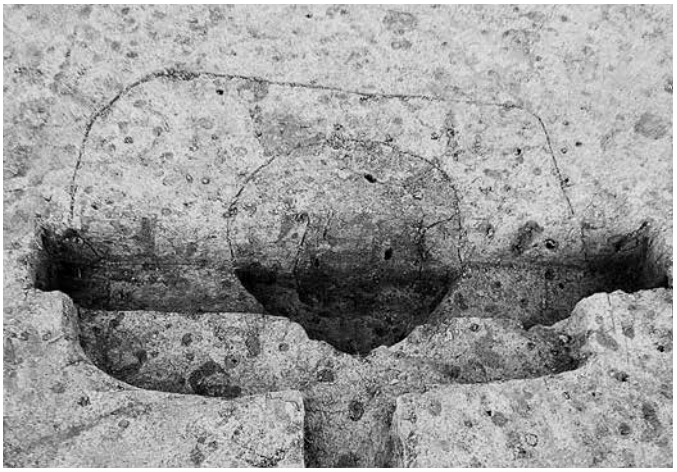


P114 出土　アスファルト塊（150）

SB1　完掘（北東から）



P80　断面（南東から）

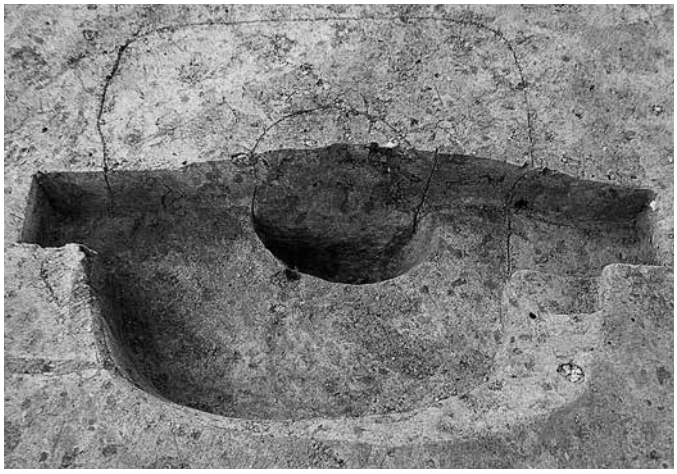


P70　断面（南東から）

P71　断面（南西から）

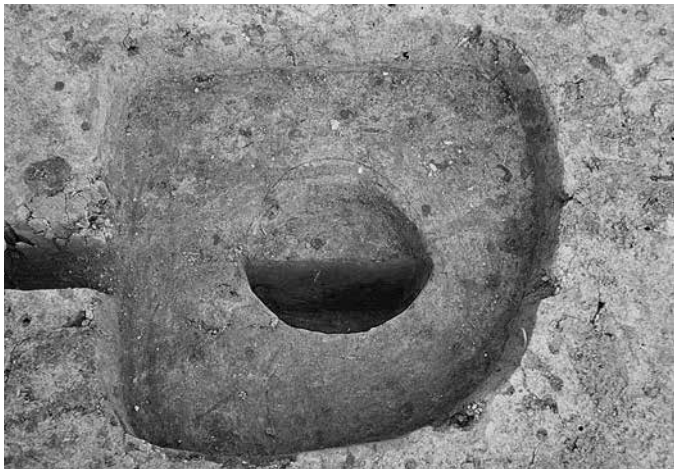
P66　断面（南西から）

P67　断面（南から）

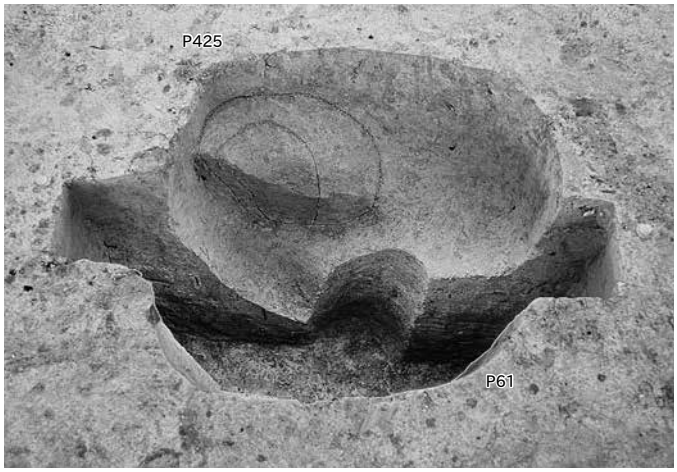


P68A　断面（南東から）

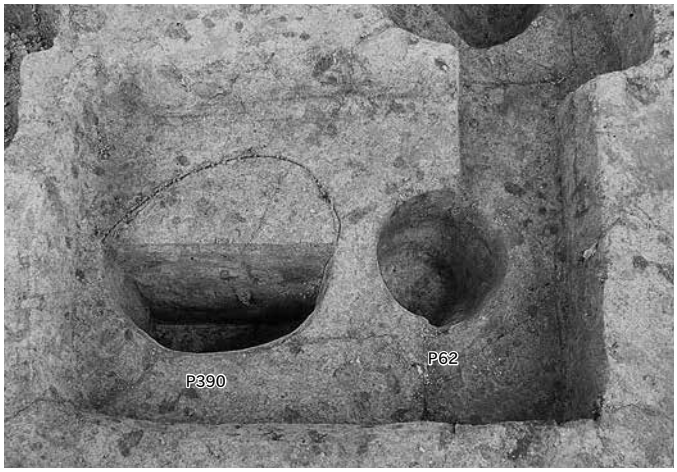
P68B　断面（南東から）



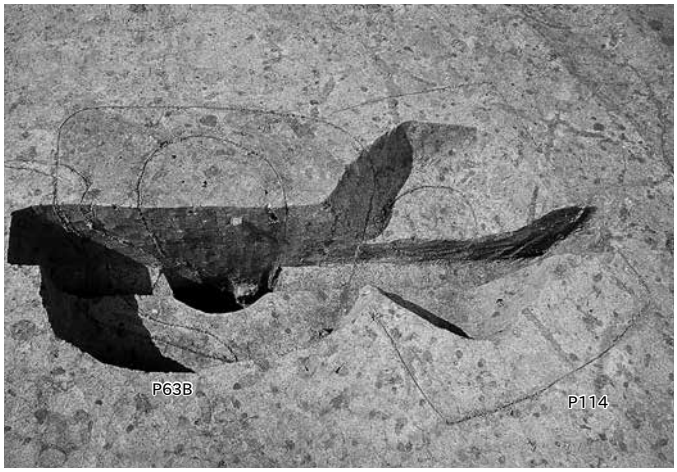
P61　断面（南から）



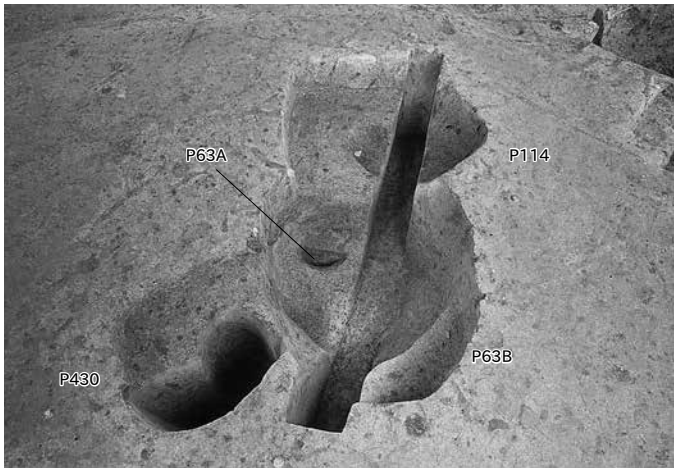
P425・61　断面（南から）



P390・62　断面（南西から）

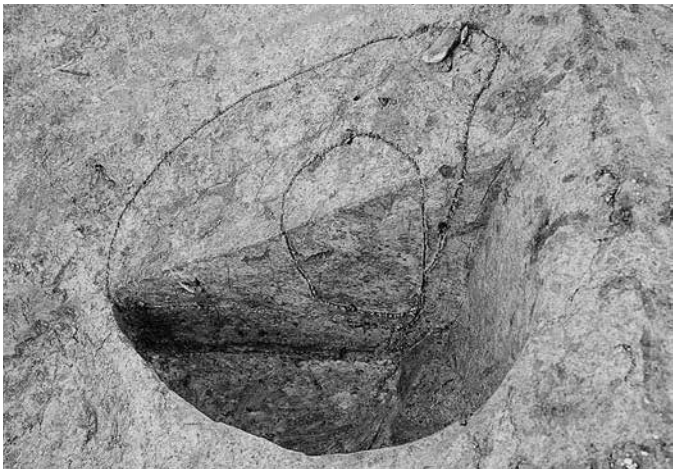


P63B・114　断面（東から）



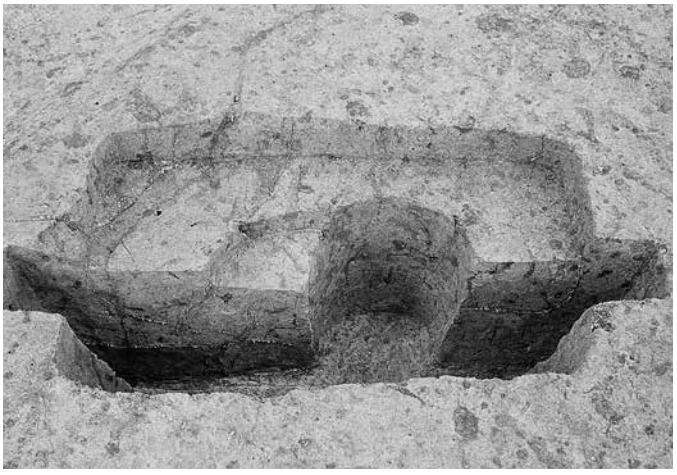
P430・63A・63B・114　完掘（南から）

P172・57　断面（南東から）

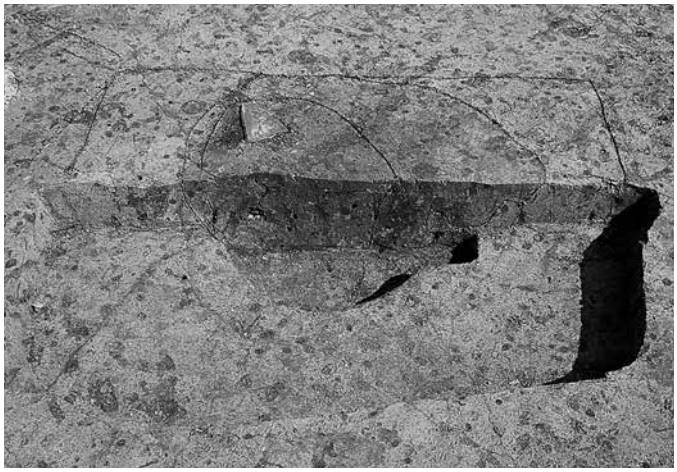


P422　断面（南から）

P52　完掘（南東から）

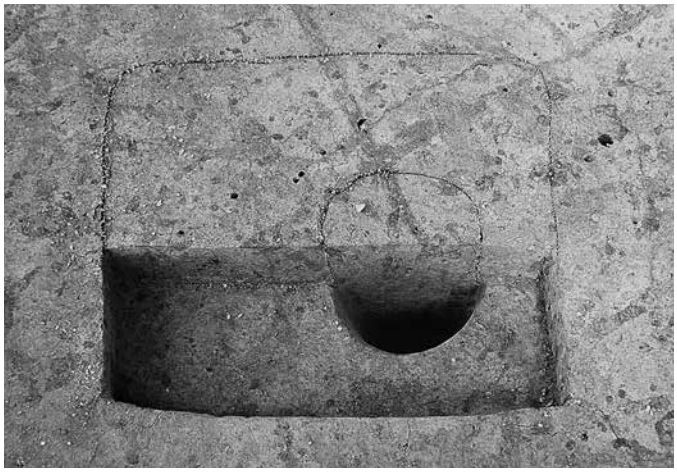


P53　断面（南西から）



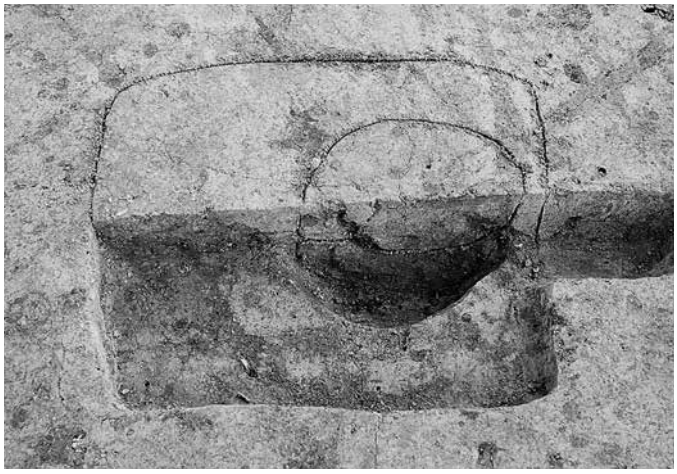
P54　断面（南西から）

P232　断面（南から）

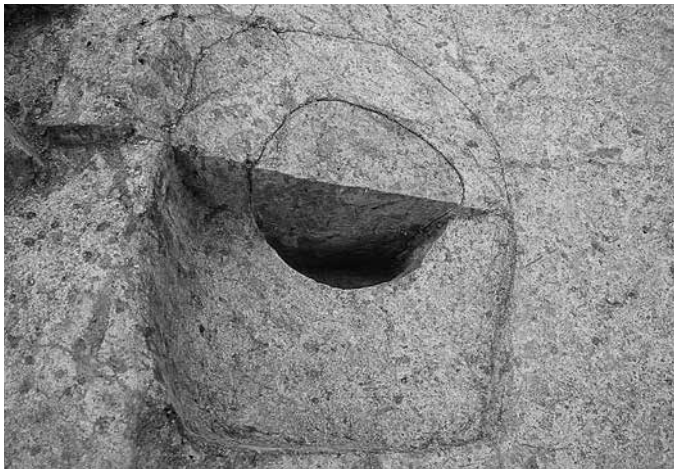


P230　断面（南東から）

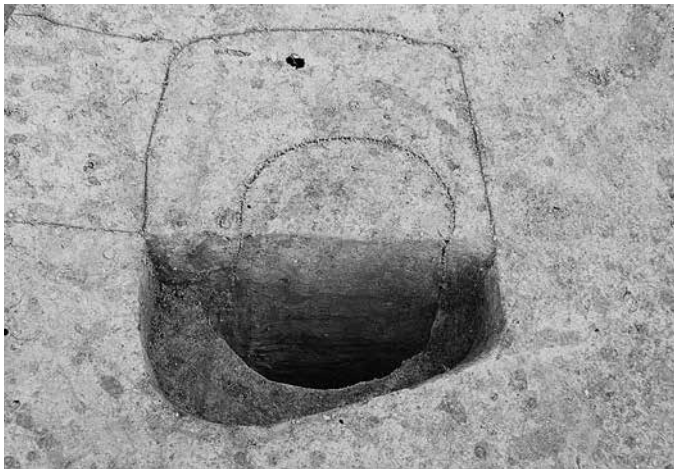
P423　遺物出土状況（南東から）



P73　断面（南西から）



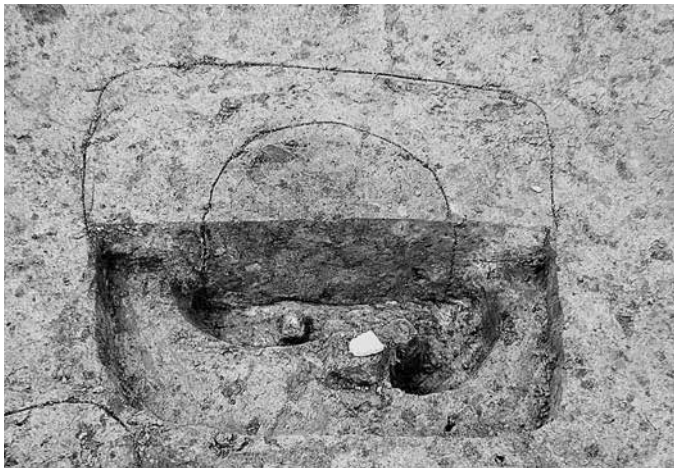
P74　断面（西から）



P75　断面（南東から）

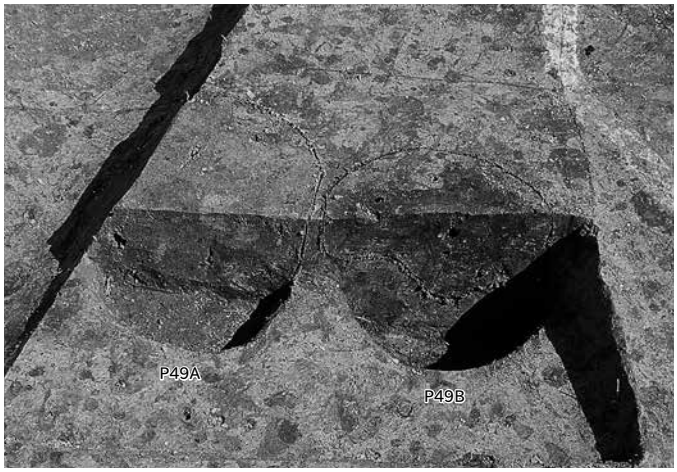
P69　断面（南東から）

P64　断面（南西から）

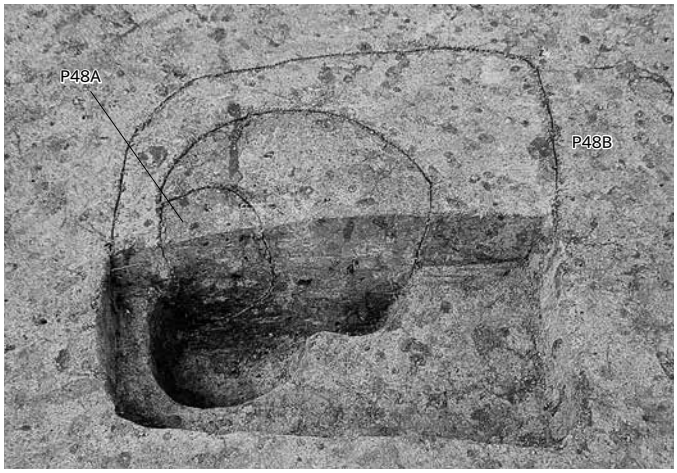


P59　遺物出土状況（南東から）

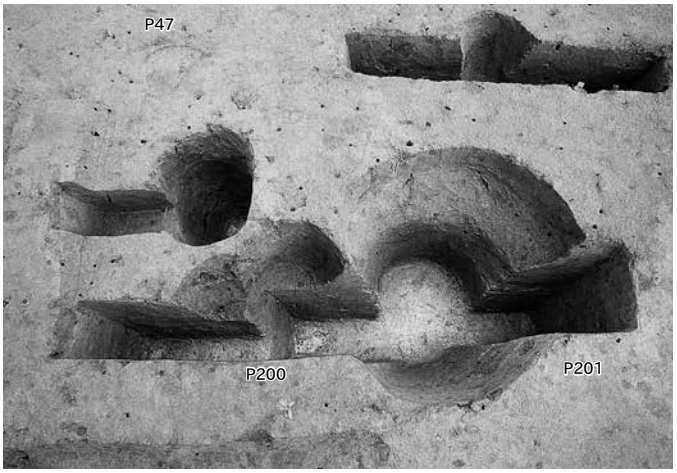
P55　断面（南西から）



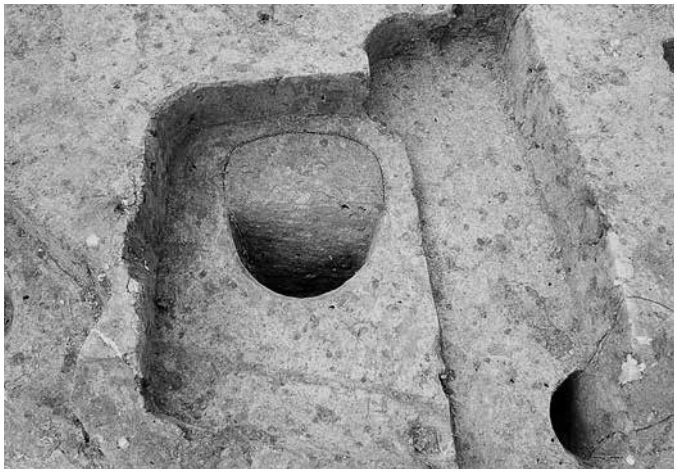
P49A・49B　断面（南西から）



P48A・B　断面（南東から）



P200・47・201　完掘（南西から）



P51　断面（南東から）

P56　断面（南東から）

P60　断面（南から）

P65　断面（南から）

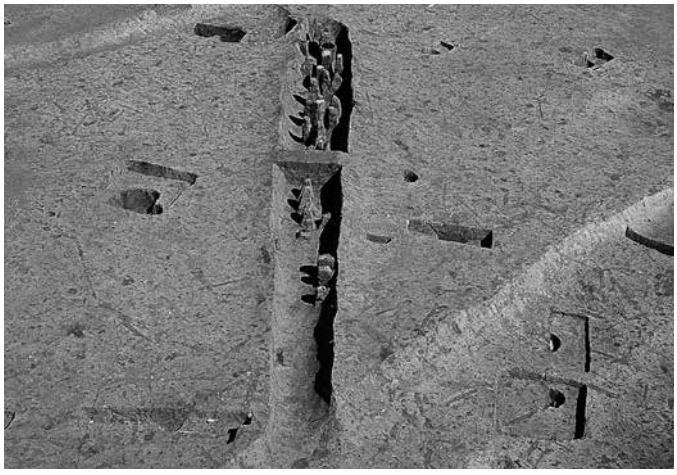
P358　断面（南から）

P62・390、噴砂 4　断面（東から）

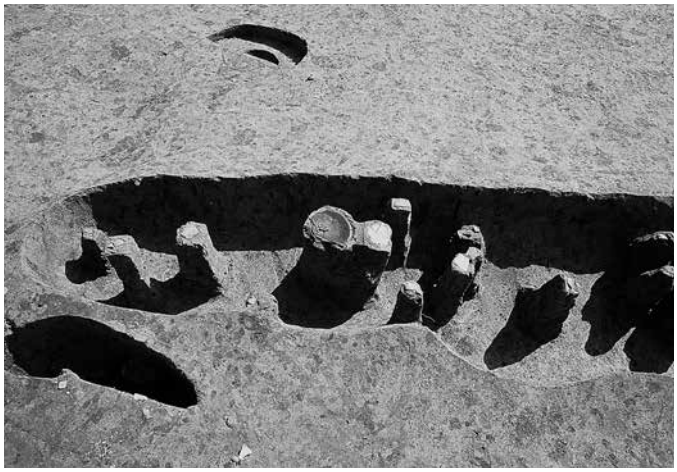
SD32　遺物出土状況（南東から）

SD32　遺物出土状況（南西から）

SD32　断面（南東から）



SD21　遺物出土状況（北東から）



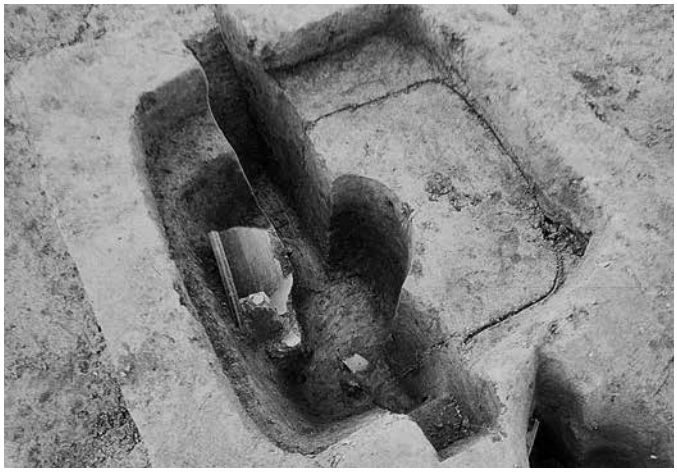
SD21　遺物出土状況（北西から）

SD21　断面（南西から）

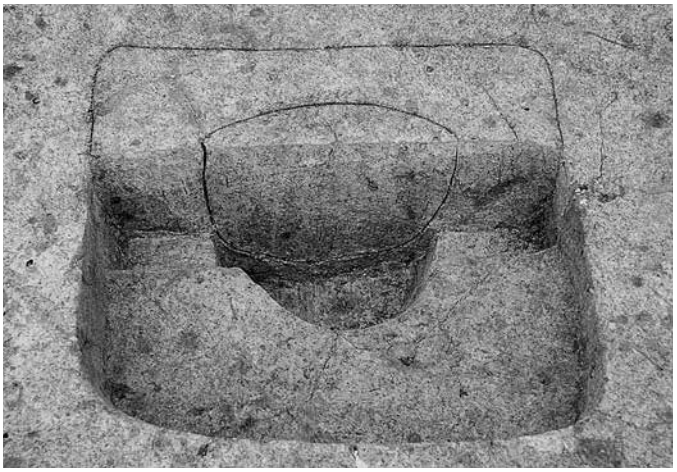
SD110　断面 B-B'（南東から）

SD110　遺物出土状況（北東から）

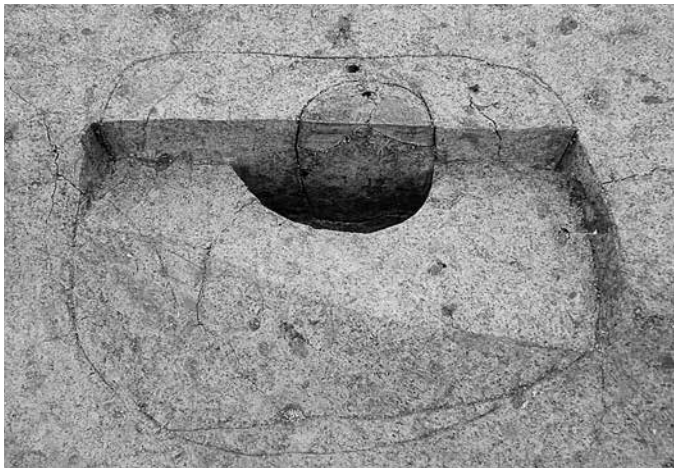
SB2　完掘（北東から）



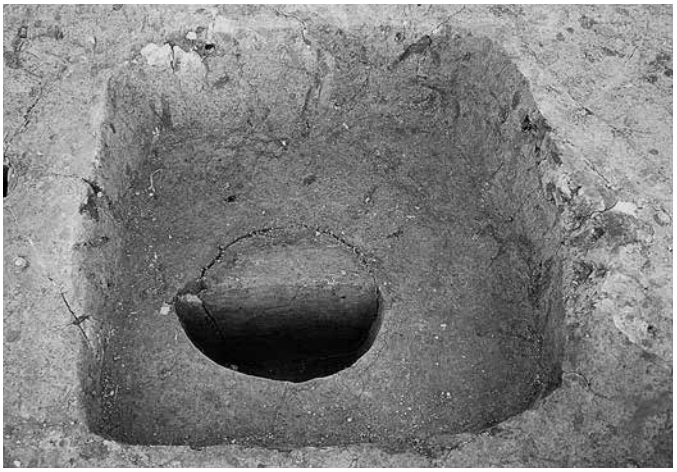
P87　遺物出土状況（南東から）



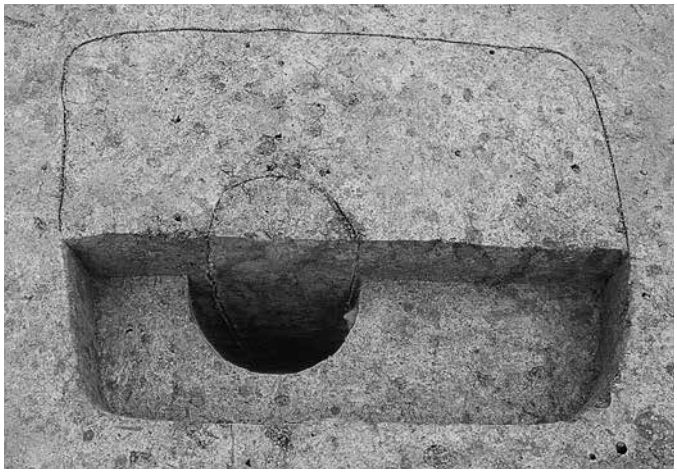
P93　断面（南東から）



P81　断面（北東から）



P82　断面（南西から）



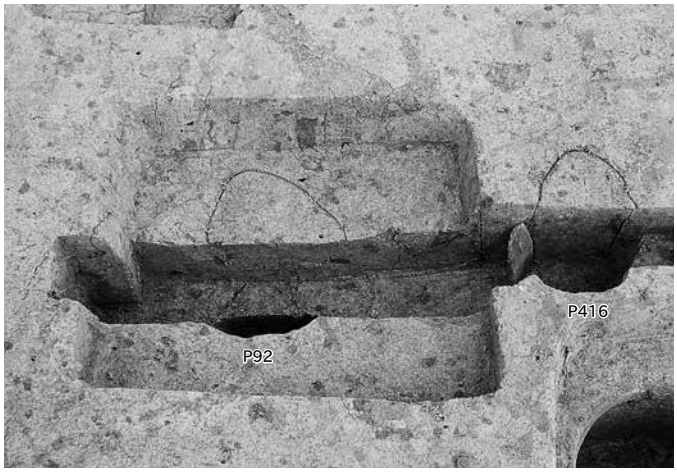
P83A　断面（南西から）

P83B　断面（南西から）

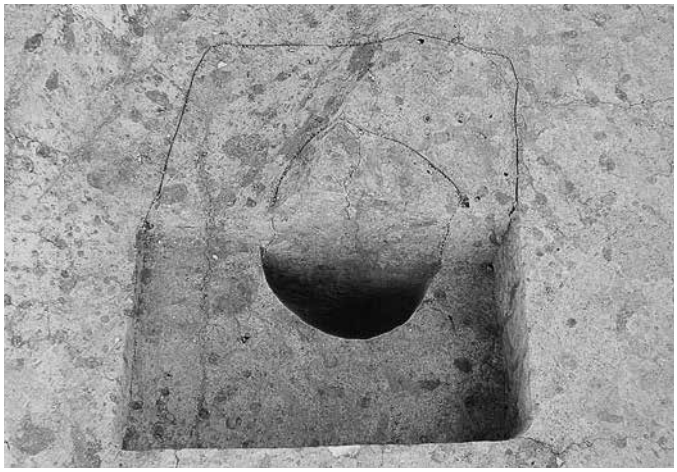
P84　断面（南西から）

P85　遺物出土状況（南東から）

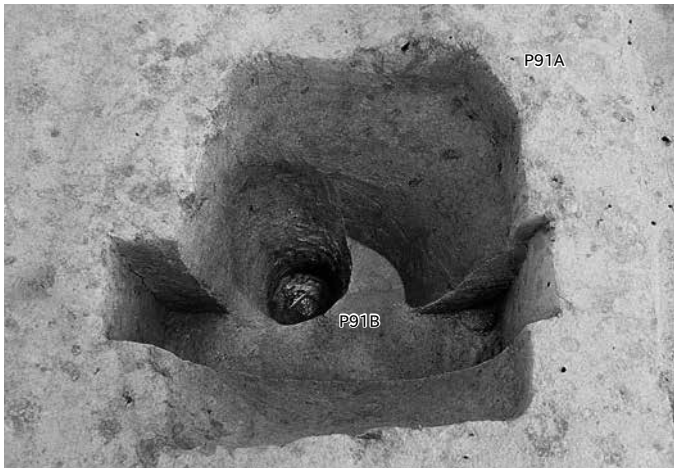
P86　完掘（南東から）



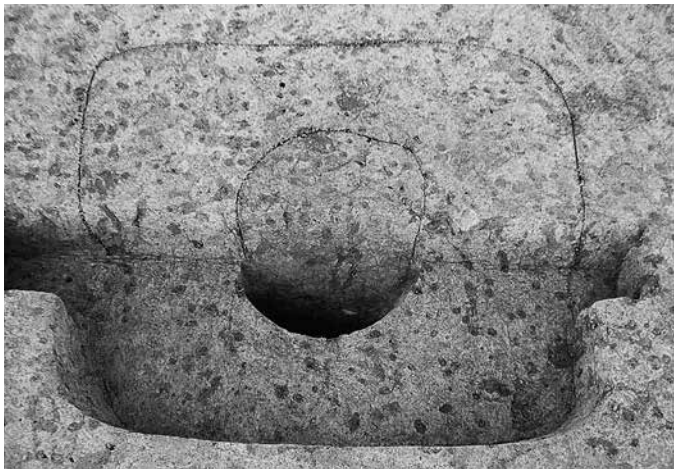
P92・416　断面（南西から）



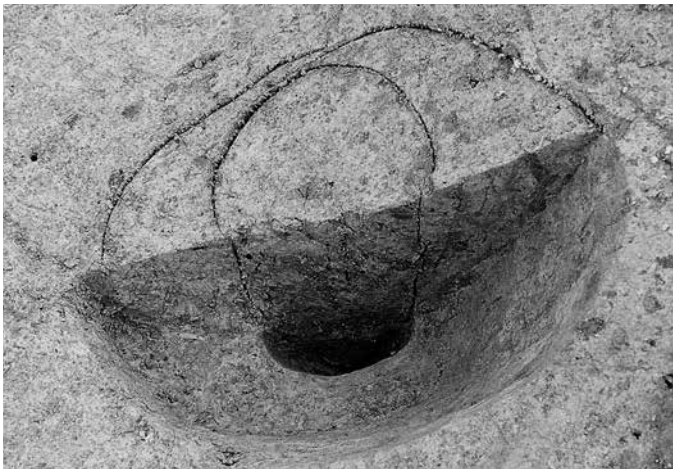
P91A　断面（南西から）



P91A・91B　完掘（南西から）

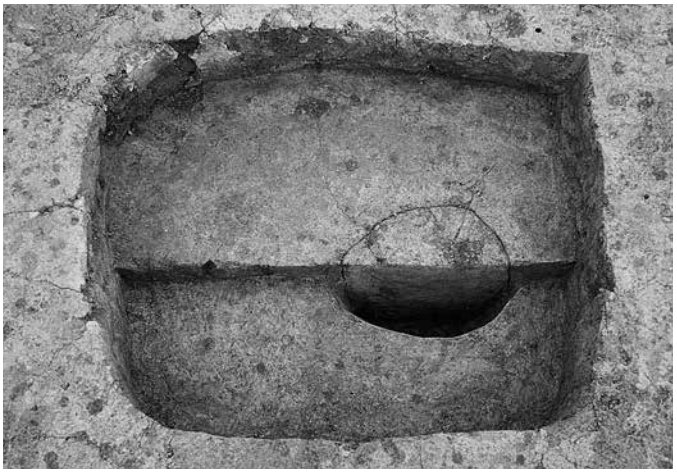


P90　断面（南東から）



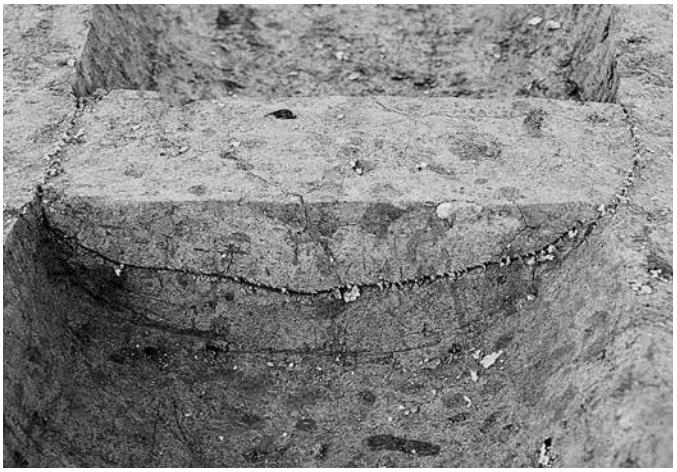
P89　断面（西から）

P125　断面（南西から）

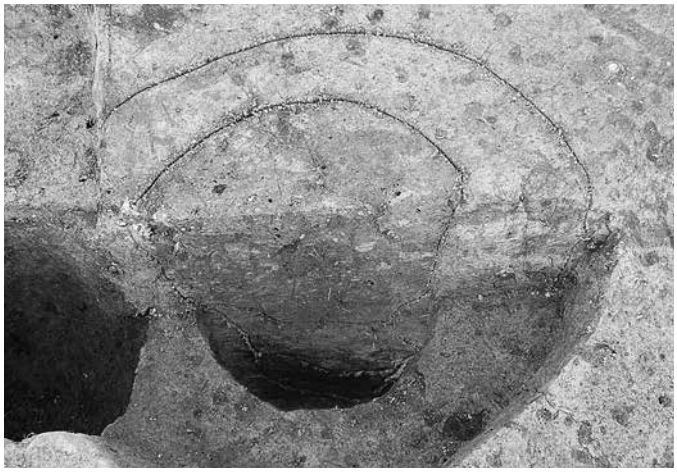


P88　断面（南西から）

SD111　遺物出土状況（西から）



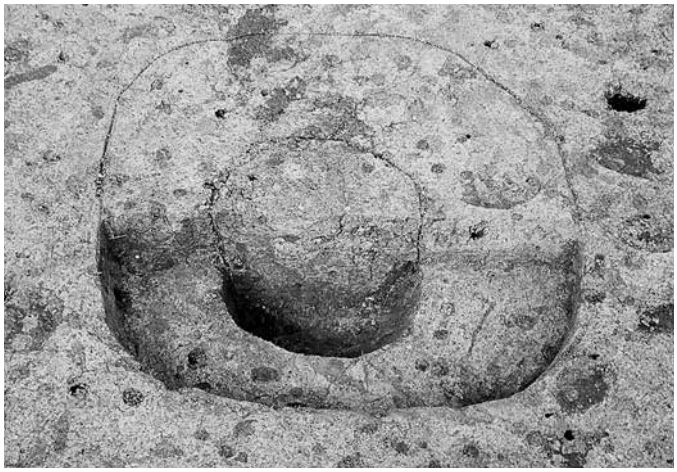
SD111　断面（南東から）



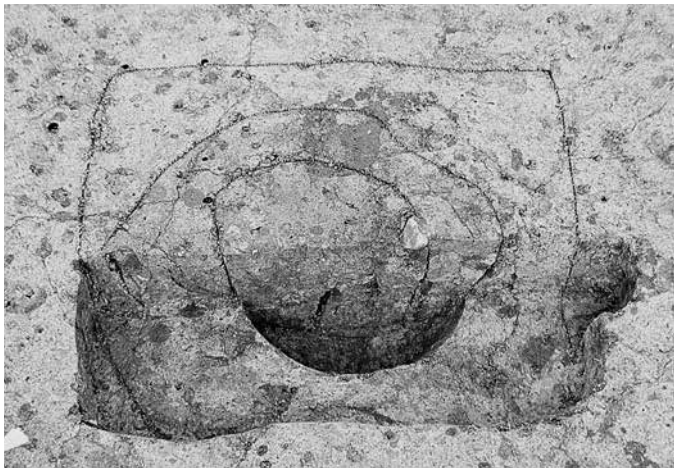
P201　断面　（南から）

P187　遺物出土状況（南東から）

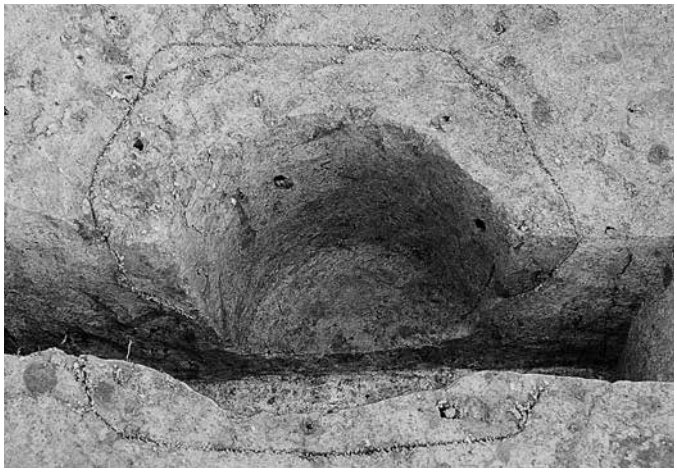
SB3　完掘（南東から）



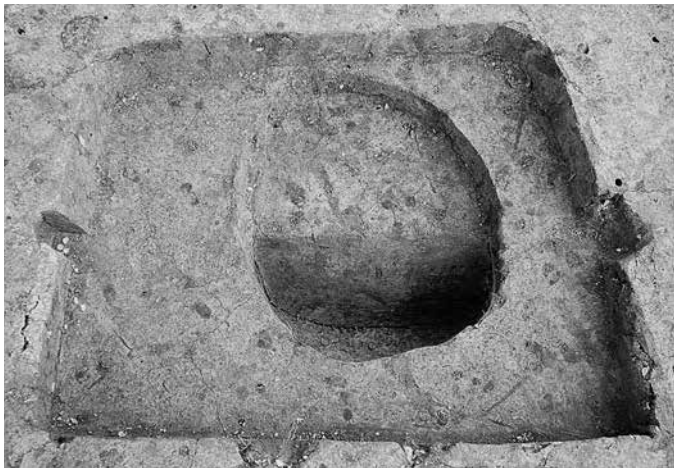
P189　断面（南から）



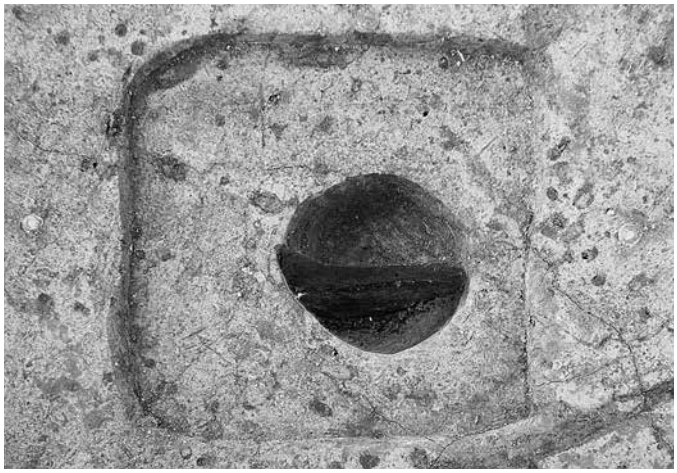
P190　断面（南から）



P205　断面（南西から）



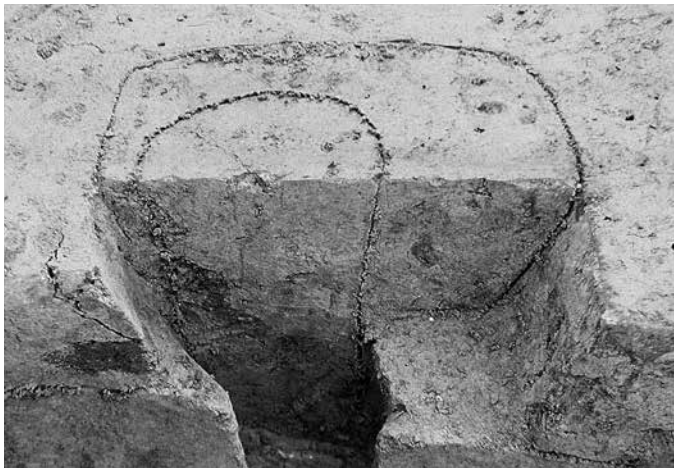
P199　断面（南西から）



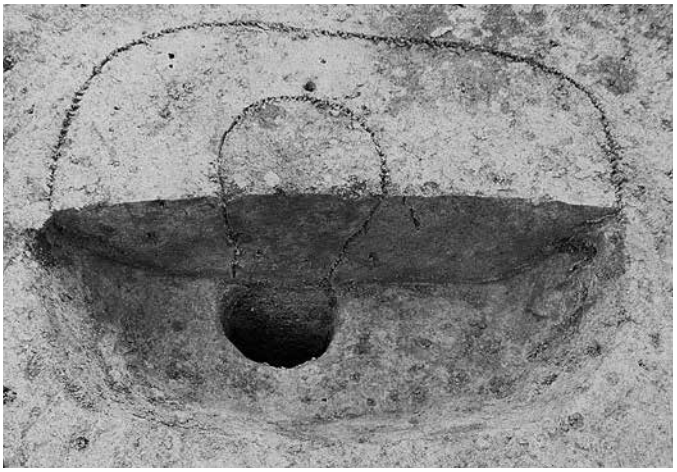
P202　断面（東から）

P196　断面（南西から）

SB4・5　完掘（東から）

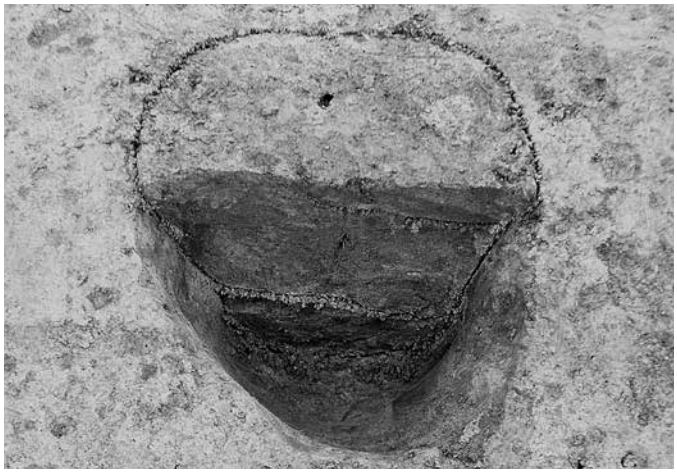


P380　断面（北から）



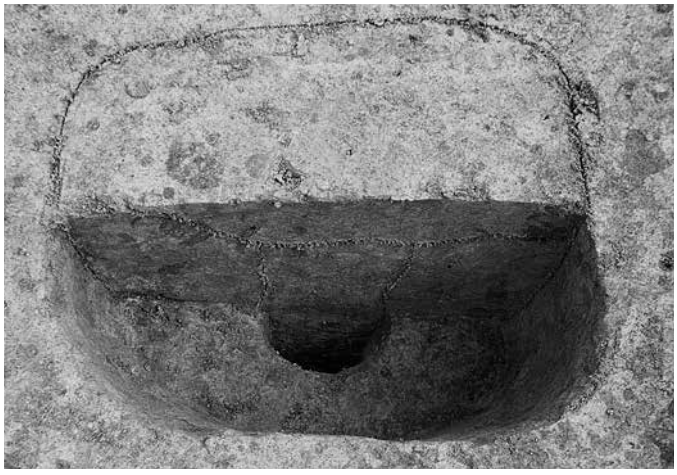
P377　断面（西から）

P378　断面（南東から）



P371　断面（南から）

P379　断面（西から）



P376　断面（西から）

P374　断面（西から）

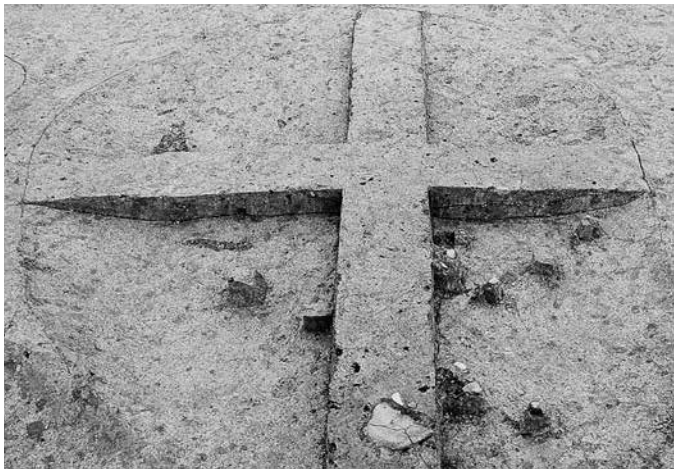
P369　断面（東から）

SK19　断面（北東から）

SK19　完掘（北東から）

SK26　断面（北西から）

SK26　完掘（北西から）



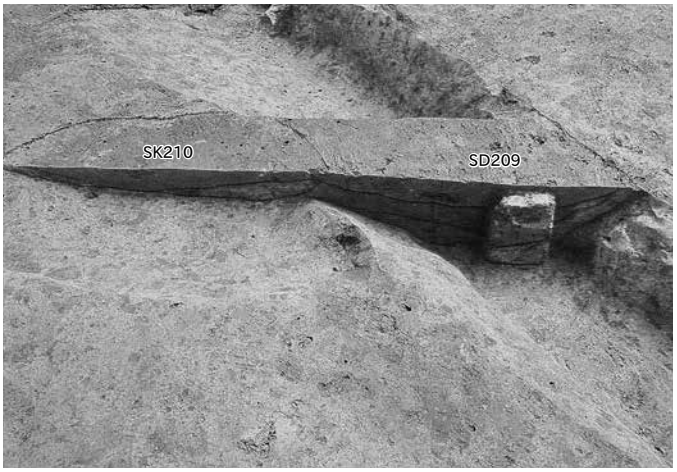
SK27　断面 A-A'（南から）

SK27　完掘（西から）

SK30　断面（東から）

SK40　断面 B-B'（東から）

SK100　断面（南東から）

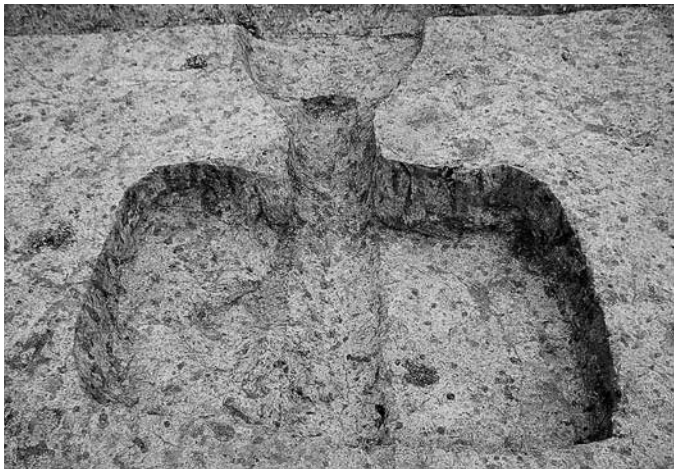


SK210、SD209　断面（北西から）

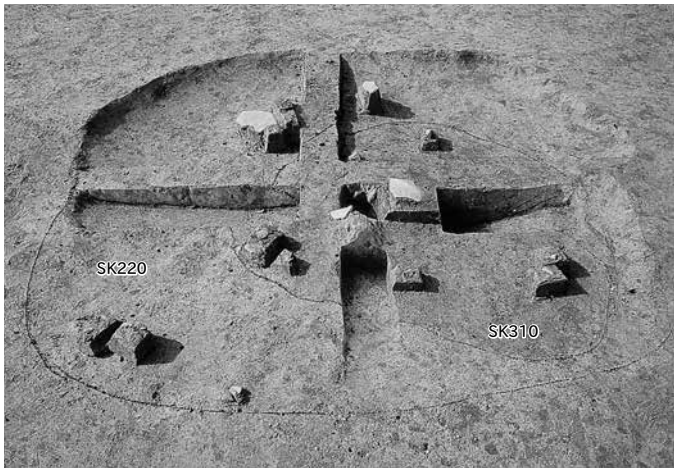
SK183　断面（西から）

SK183　遺物出土状況（西から）

SK206　断面（西から）

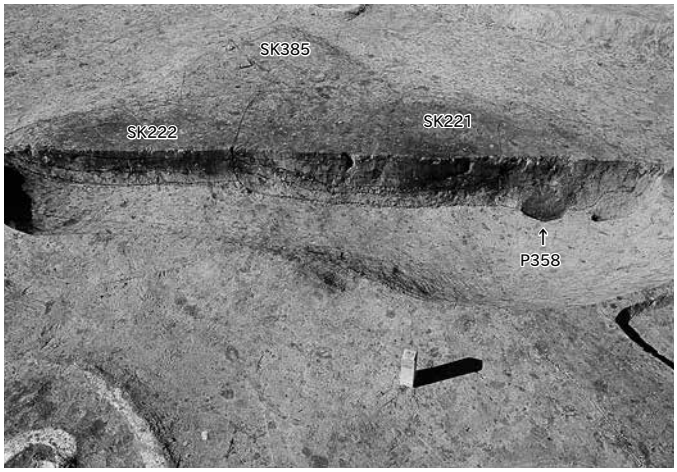


SK206　完掘（西から）

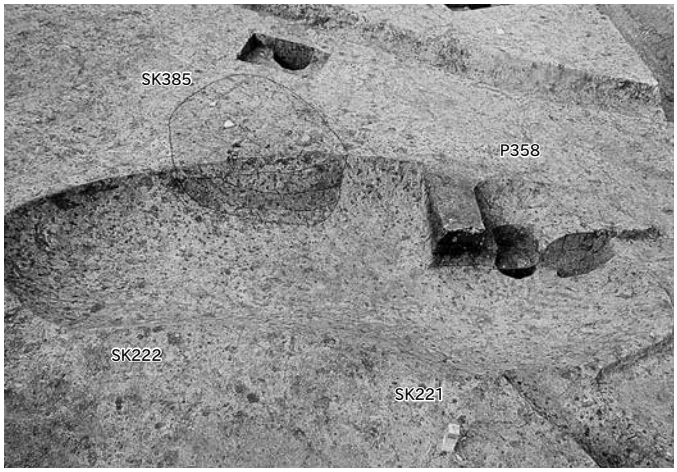


SK220・310　遺物出土状況（南東から）

SK220・310　完掘（南東から）



SK222・221、P358　断面（南から）



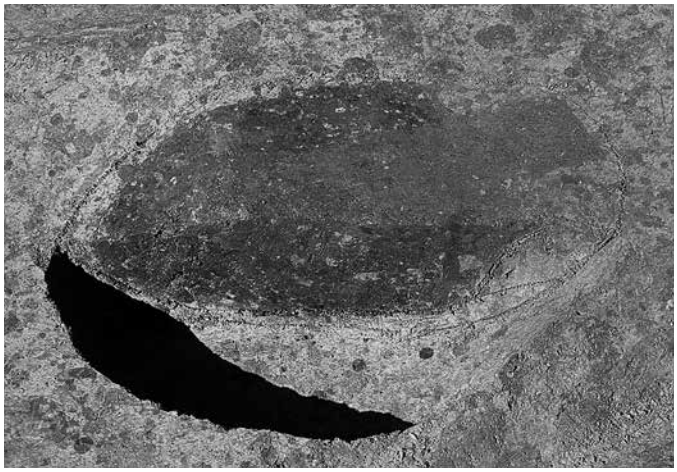
SK222・221、P358　完掘（北東から）

SK223　断面 B-B'　遺物出土状況（南東から）

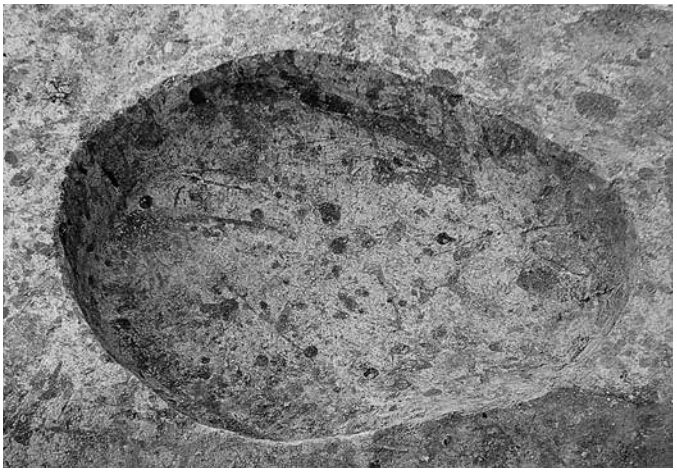
SK223　完掘（東から）

SK246　断面（南東から）

SK246　完掘（南東から）



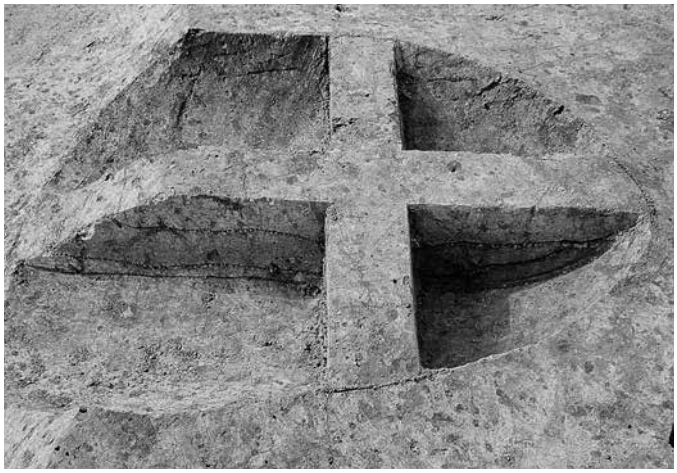
SK251　断面（南東から）



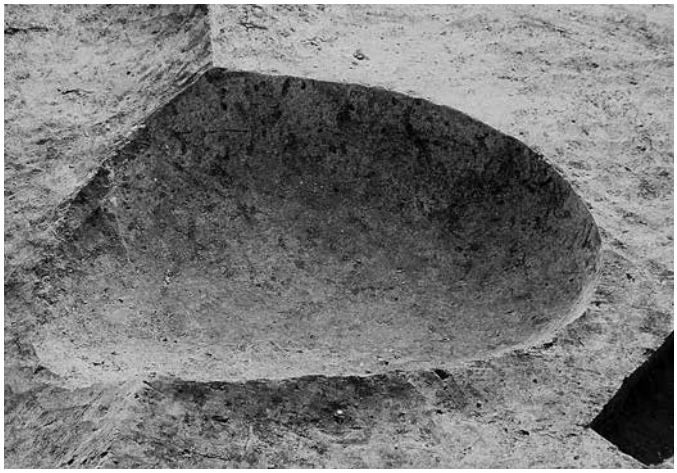
SK251　完掘（南東から）

SK267　断面（南から）

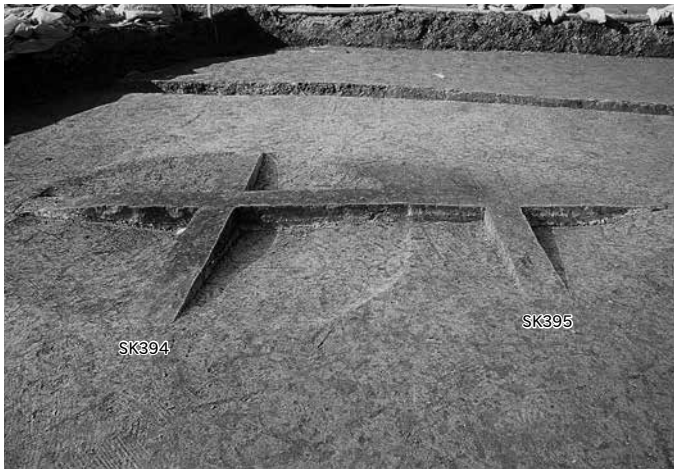
SK359　断面（南から）



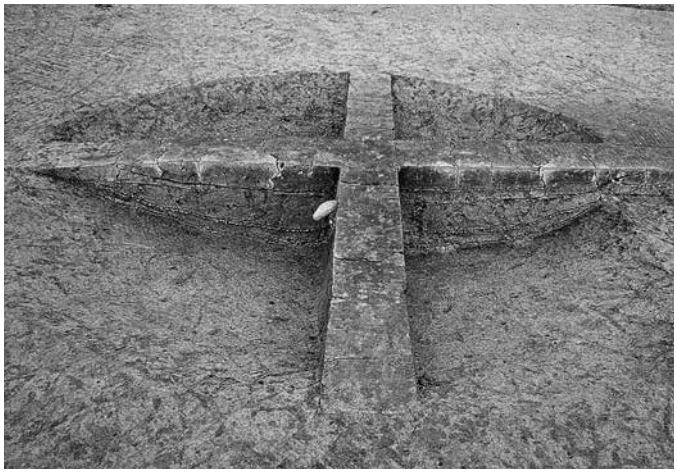
SK385　断面 A-A'（東から）



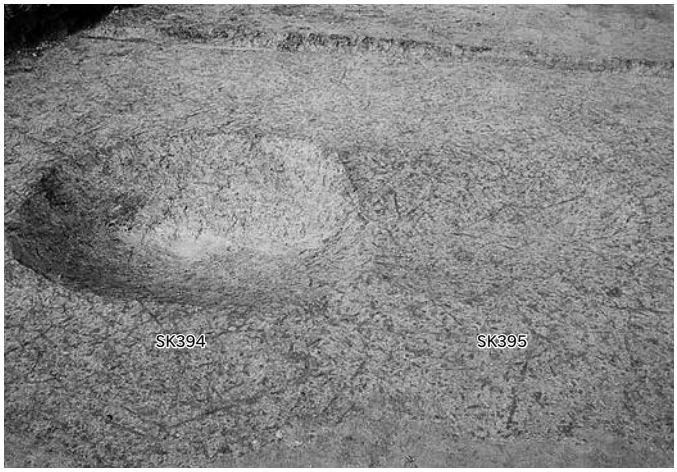
SK385　完掘（東から）



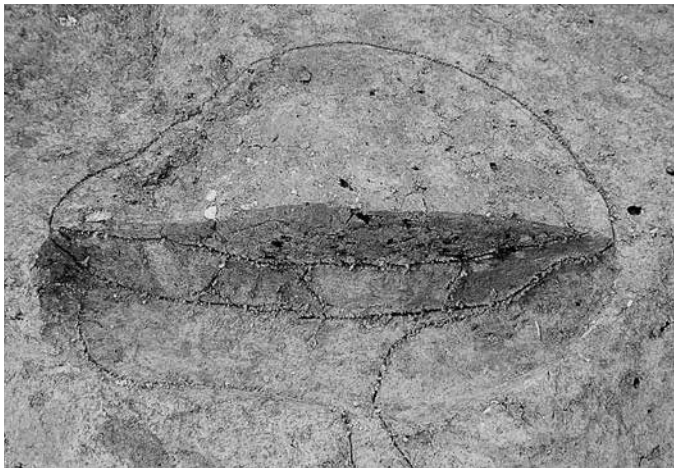
SK394・395　重複状況（南東から）



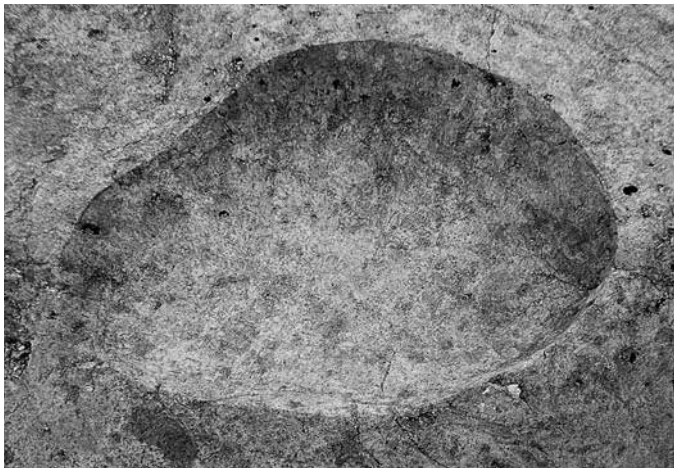
SK394　断面（南東から）



SK394・395　完掘（南東から）



SK398　断面（東から）



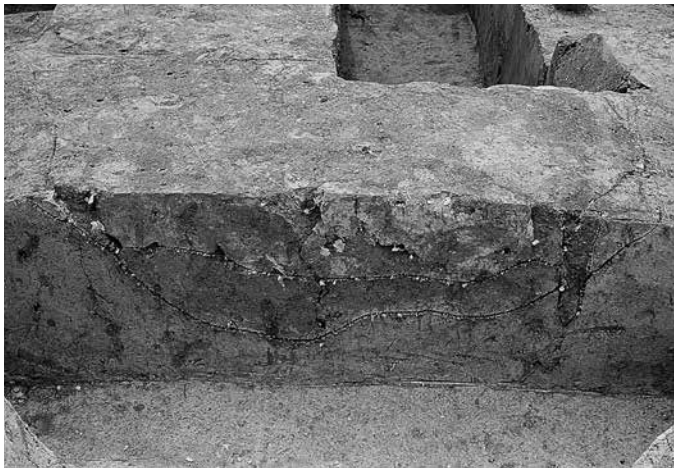
SK398　完掘（東から）

SD2　断面 A-A'（北から）

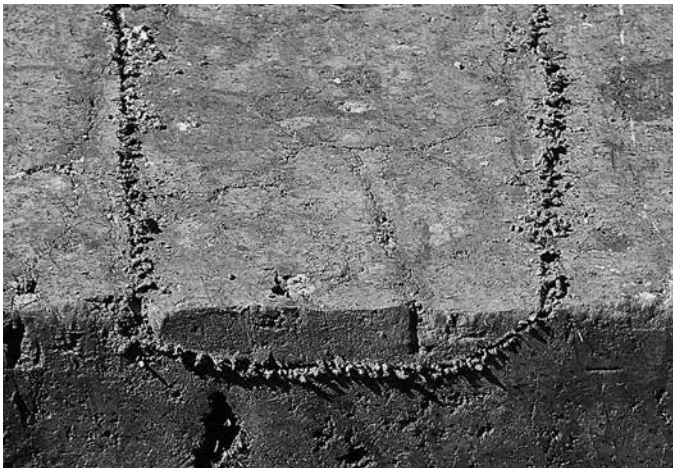
SE225、SD35、SK428　断面（北東から）

SE225　水溜内遺物出土状況（北東から）

SE225　完掘（北東から）

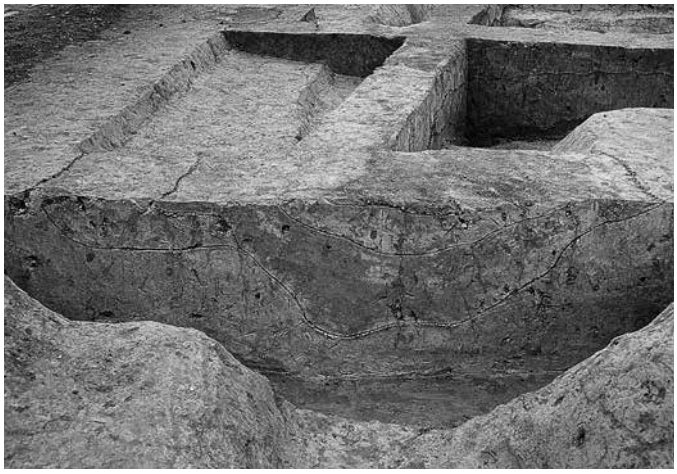


SD3　断面 A-A'（北から）

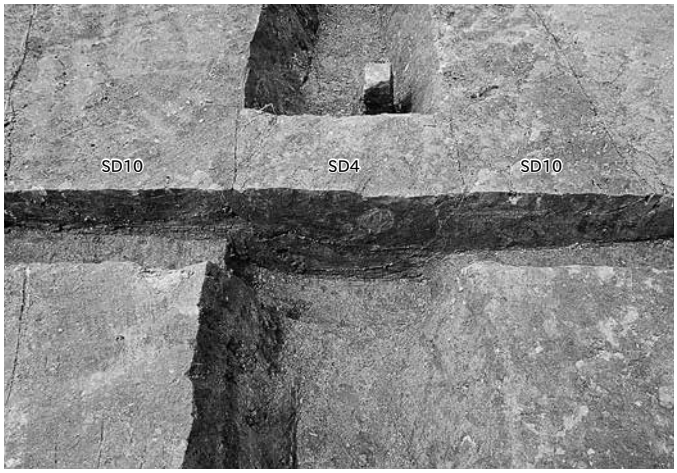


SD5　断面（東から）

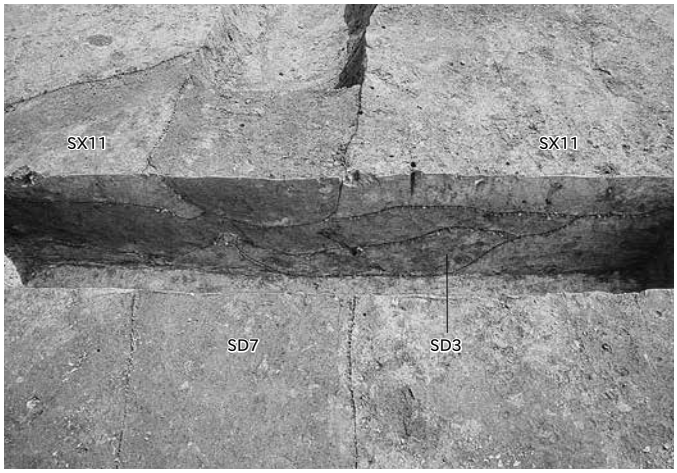
SD2　断面 B-B'・C-C'（北西から）



SD2　D-D'（東から）



SD4・10　断面 B-B'（東から）

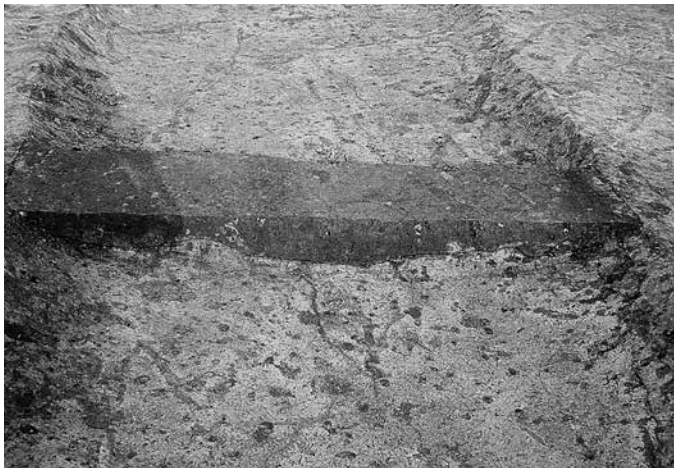


SD3・7、SX11　断面 A-A'（西から）

SD9　断面 A-A'（北から）

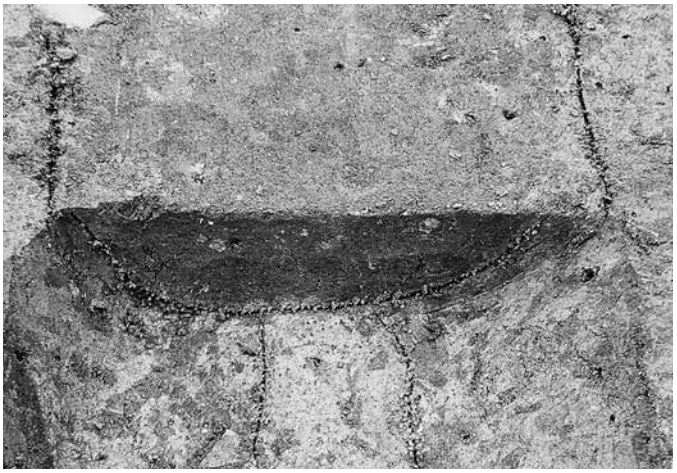
SD13　断面（東から）

SD15　断面（西から）



SD20　断面 A-A'（西から）

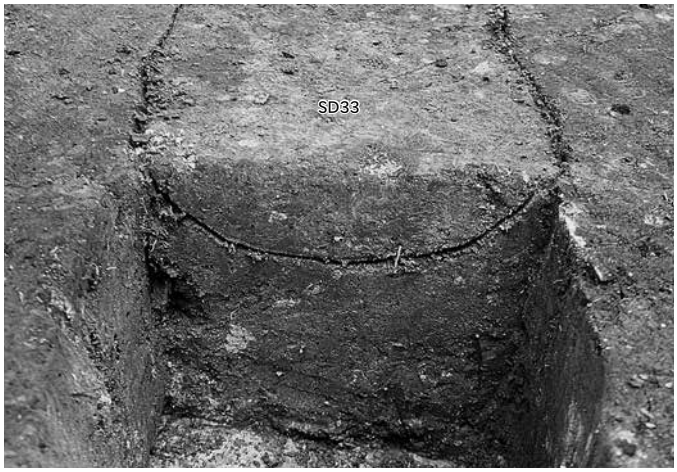
SD22　断面 A-A'（西から）



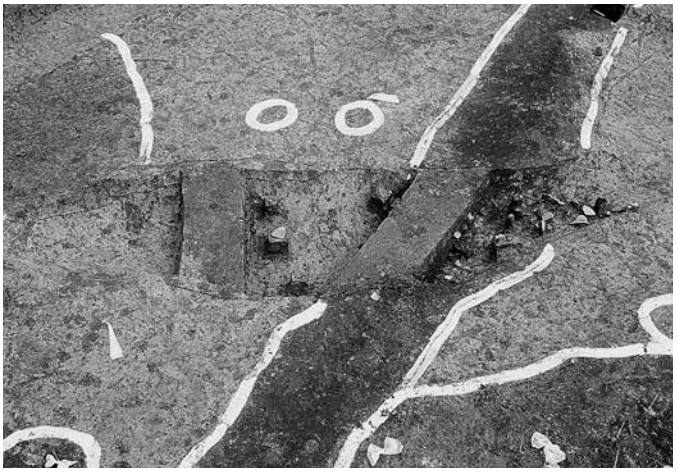
SD23　断面（西から）

SX16　断面（西から）

SX16、SD24　断面（西から）

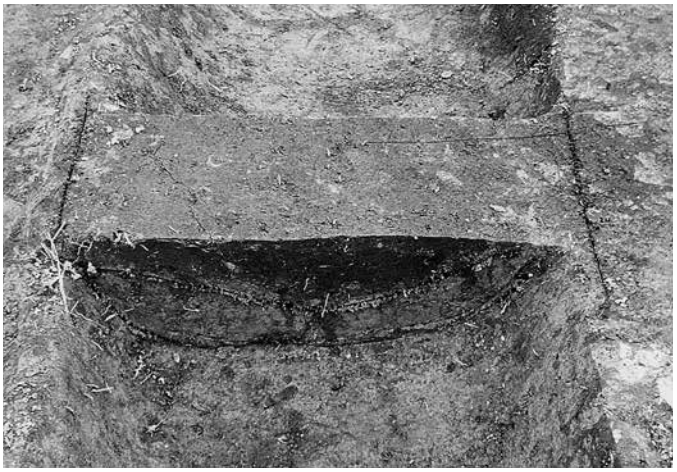


SD33　断面（南から）



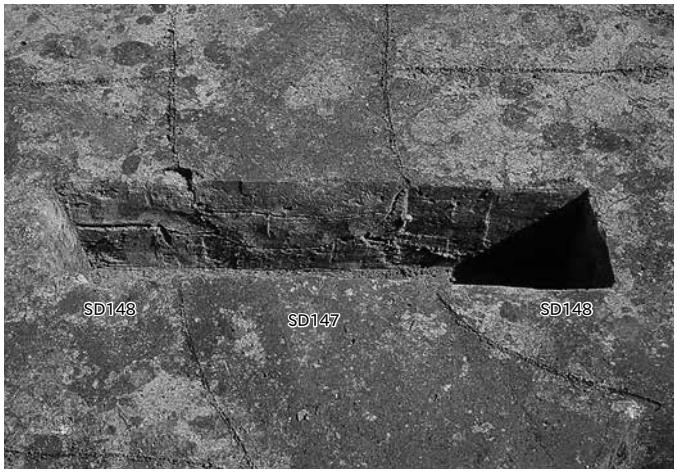
SD25　遺物出土状況（西から）

SD35・34　断面 A-A'（東から）

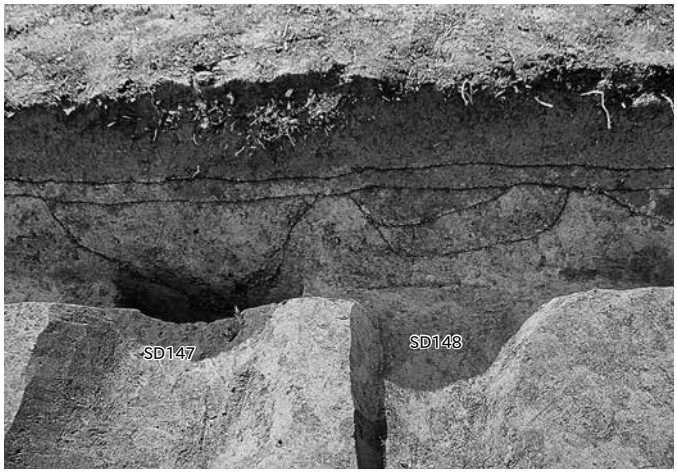


SD37　断面 C-C'（南から）

SD38　断面（西から）



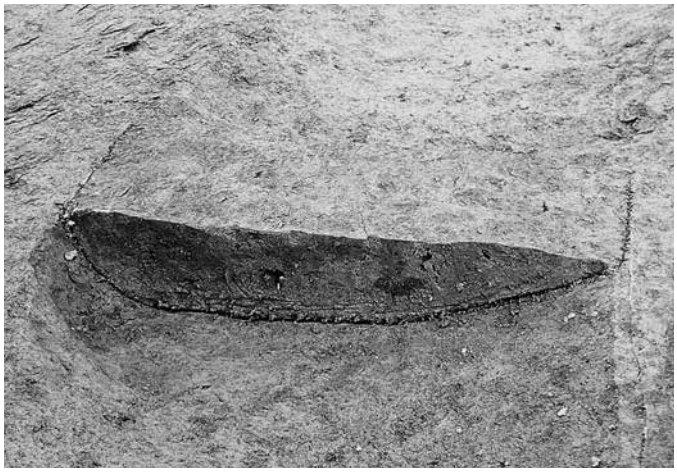
SD147・148　断面（南から）



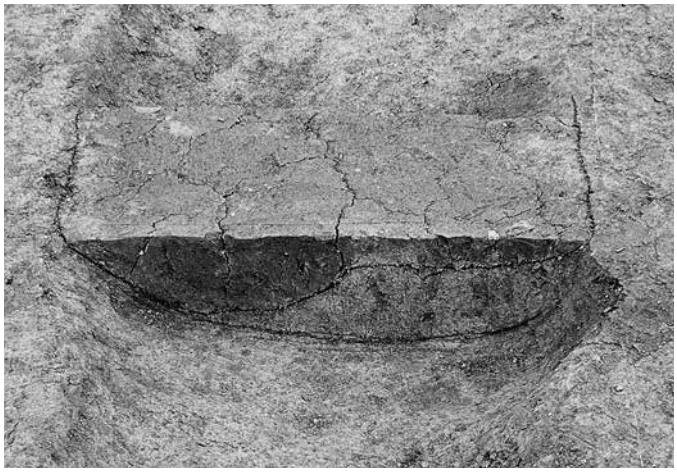
SD147・148　断面（北西から）

SD188　断面（南東から）

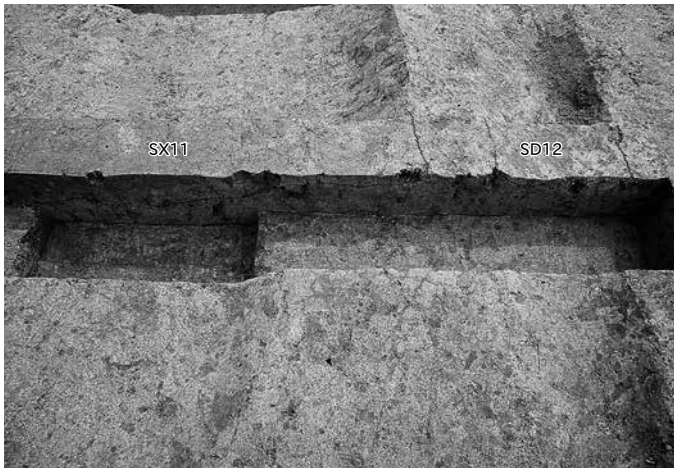
SD219　断面（西から）



SD396　断面（東から）



SD400　断面（南から）

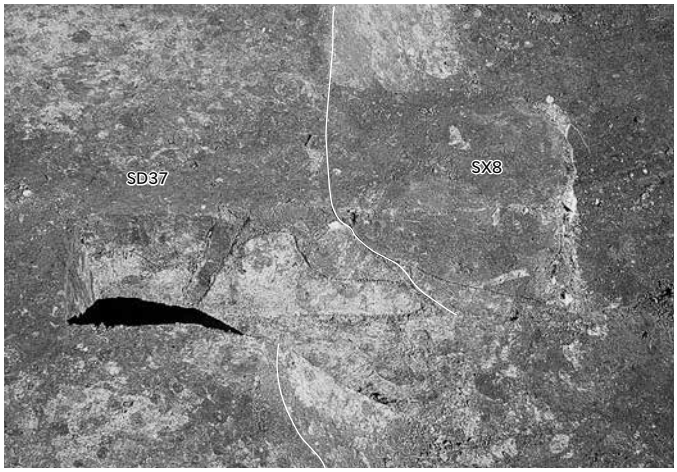


SX11　断面（西から）

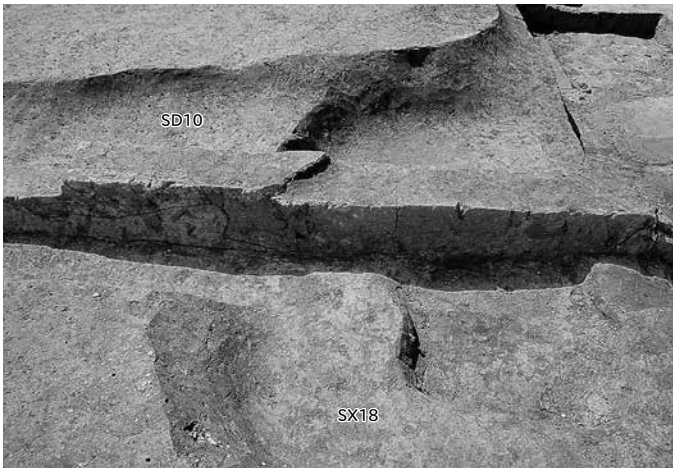
SX42・8　完掘（南から）

SX42　断面（南から）

SX42・8　断面（南から）



SD37、SX8　断面 A-A'（南から）



SD10、SX18　断面（北から）

SX31　遺物出土状況（南東から）

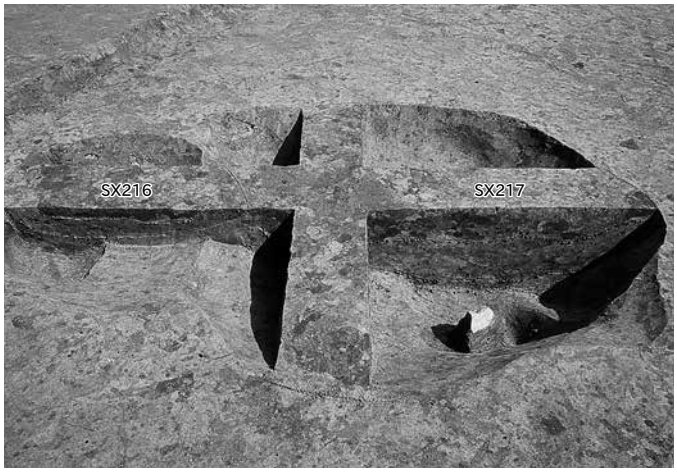
SX31　断面（南東から）

SX31　完掘（南東から）

SX39　断面（西から）

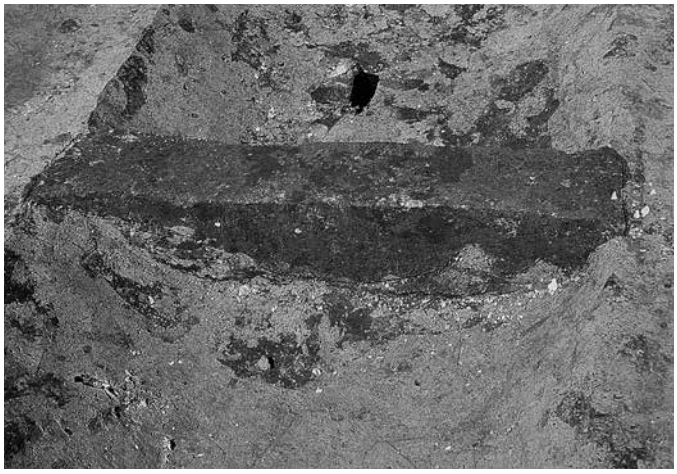
SX44　遺物出土状況（北東から）

SX149　断面（南から）

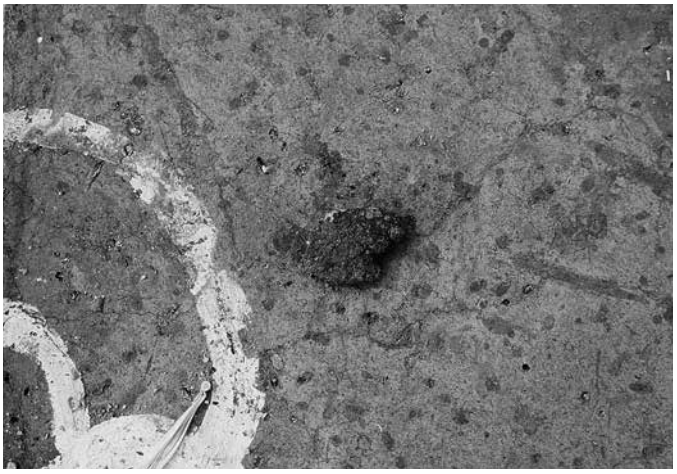


SX216・217　A-A' 断面（南西から）

SX216・217　完掘（南西から）

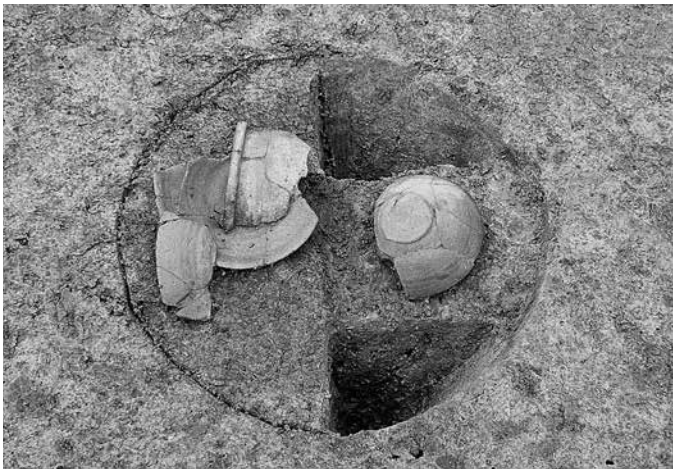


SX150　断面（南から）

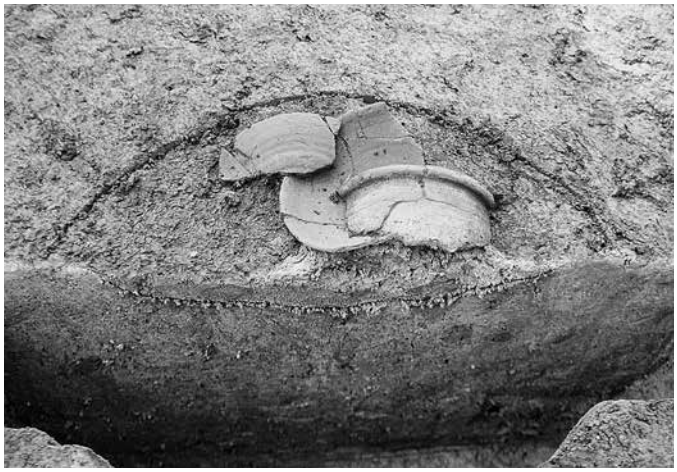


P114　アスファルト塊出土状況（南から）

P114　アスファルト塊出土状況（南から）



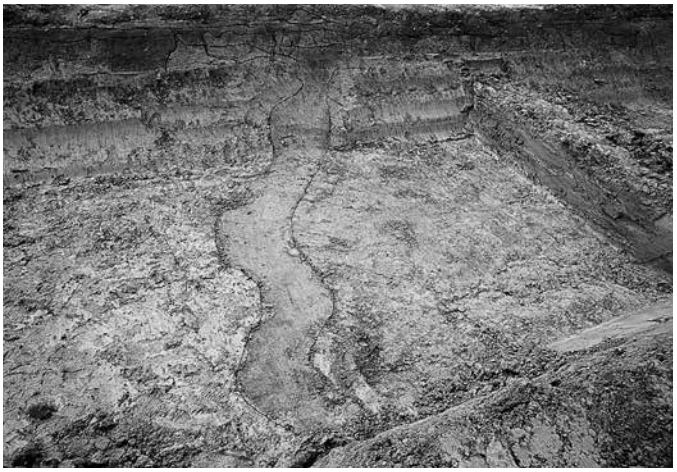
P410　遺物出土状況（東から）



P410　断面（北から）

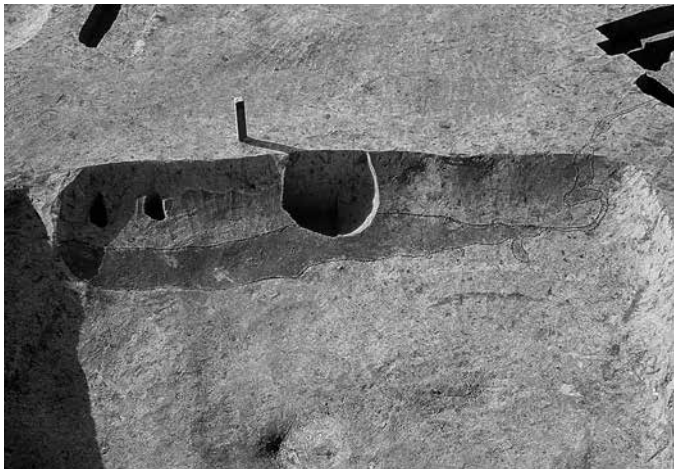
8U、7・8V　噴砂 3　検出状況（北東から）

下層確認 26-8T　噴砂 3　断面（北東から）



下層確認 26-9T　噴砂 3　検出状況（西から）

5 ～ 7R、5S、7S　噴砂 4　検出状況（西から）



7R 付近　噴砂 4　検出状況（東から）

4 ～ 6O　噴砂 5　検出状況（東から）

下層確認 26-10T　噴砂 5　断面（東から）

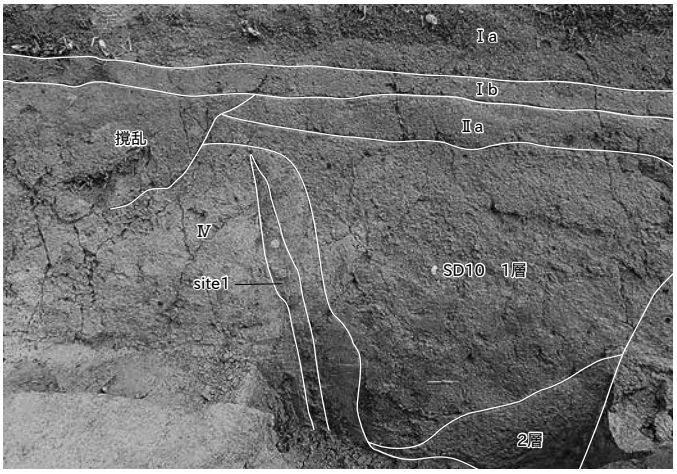
5L　噴砂 6　検出状況（西から）

下層確認 26-5T　噴砂 6　断面（西から）

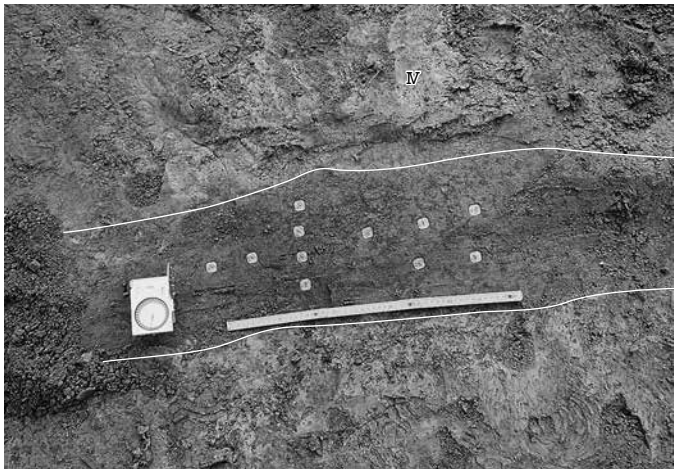
作業風景（西から）

現地説明会（南から）

噴砂 5 試料（site1・2）　採取状況（北から）

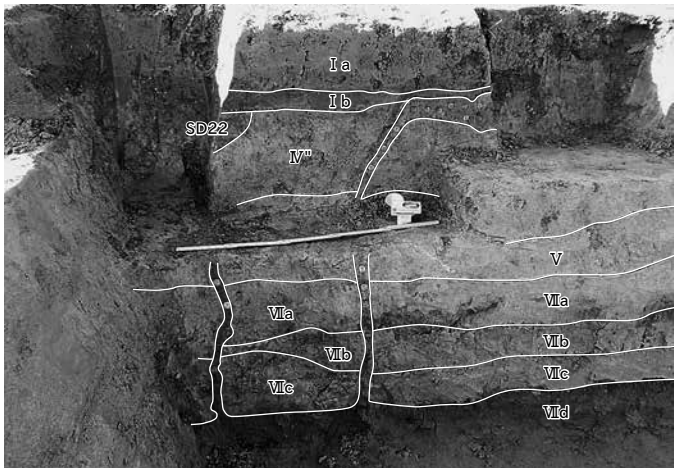


噴砂 5 試料（site1）　採取位置（西から）



噴砂 5 試料（site2）　採取位置（東から）

噴砂 4 試料（site3）　採取状況（東から）



噴砂 4 試料（site3）　採取位置（東から）

噴砂 4 試料（site4）　採取状況（北西から）

噴砂 4 試料（site5）　採取位置（西から）

噴砂 3 試料（site6・7）　採取状況（西から）

調査区遠景（北から）

調査区全景（上空から）

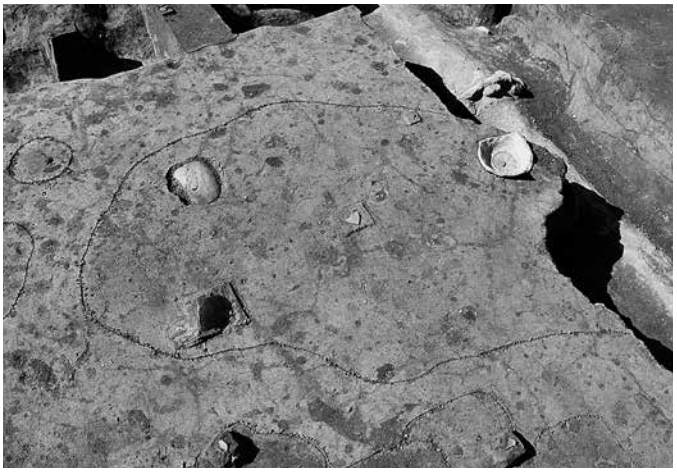
SK1304　完掘（北東から）

SK1304　断面（北東から）

SK1322　断面（南東から）

SK1322　遺物出土状況（南東から）

SK1322　完掘（南東から）

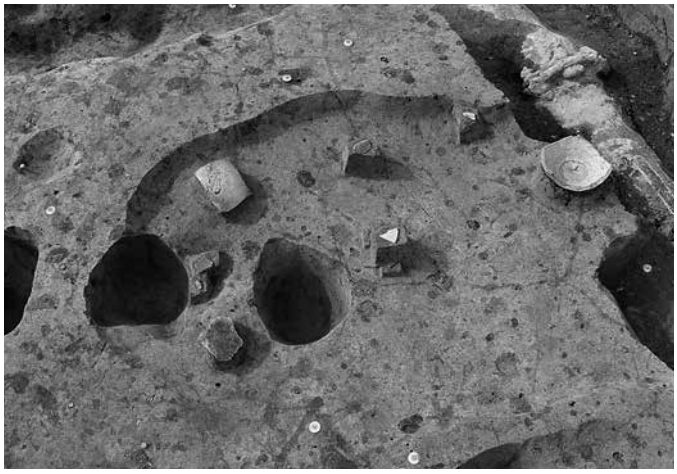


SK1336　検出状況（東から）

SK1336　断面 C-C'（南から）

SK1336　断面 A-A'　（西から）

SK1336　P1334・1335　新旧関係（東から）

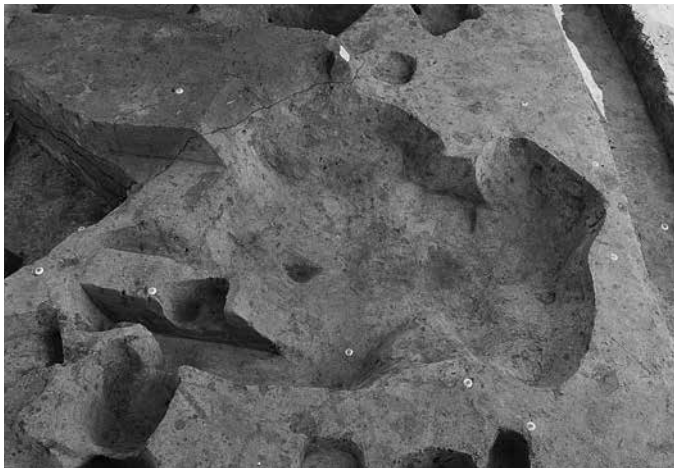


SK1336　完掘・遺物出土状況（東から）

SK1355　断面 A-A'（南西から）

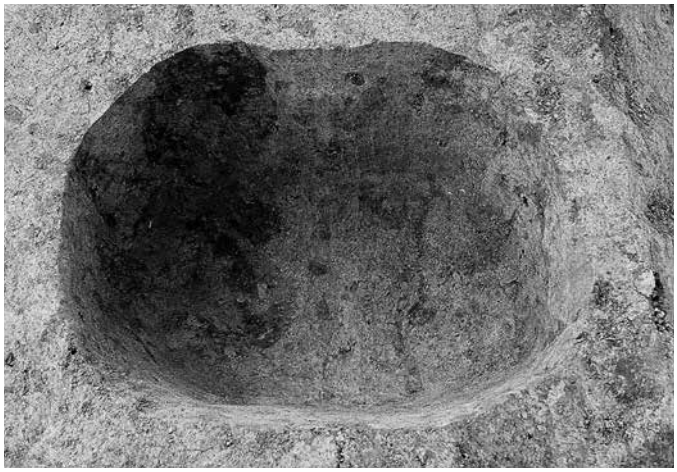
SK1355-P2　断面 B-B'（南西から）

SK1355　須恵器出土状況（北西から）

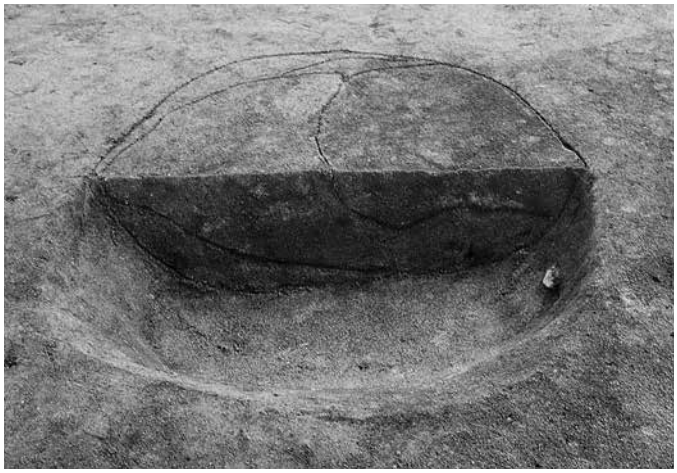


SK1355　完掘（南西から）

SK1575　断面（東から）

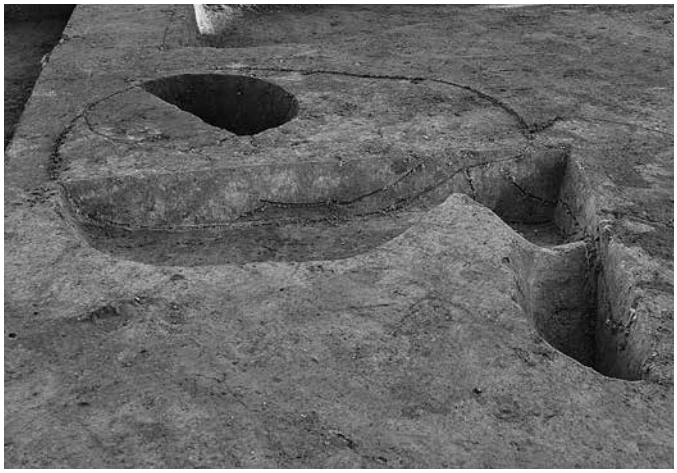


SK1575　完掘（東から）



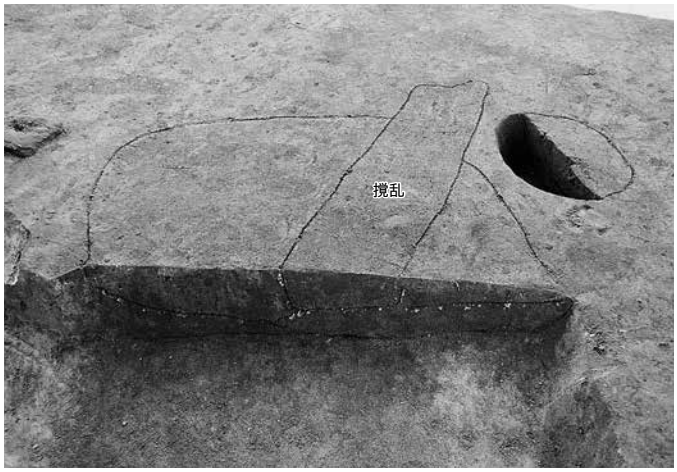
SK1576　断面（西から）

SK1576　完掘（東から）



SK1577　断面（北から）

SK1577・P1500・1519　完掘（北から）



SK1578　断面 A-A'（南東から）

SK1578　断面壁面（北西から）

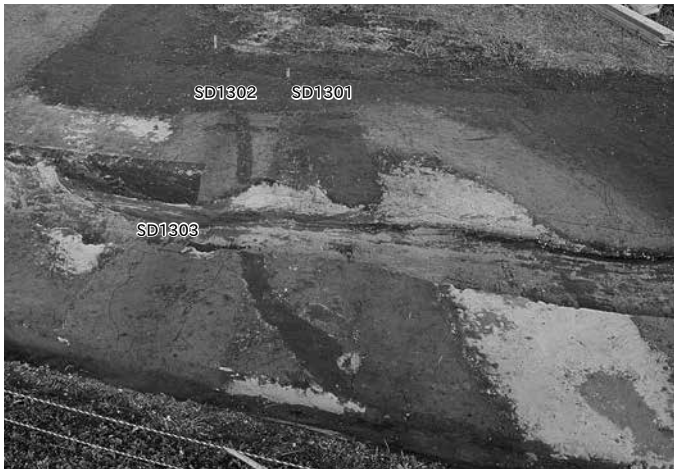
SK1579　断面（南から）

SK1579　完掘（東から）

SK1580　断面（南から）

SK1580　SD1149　新旧関係（南から）

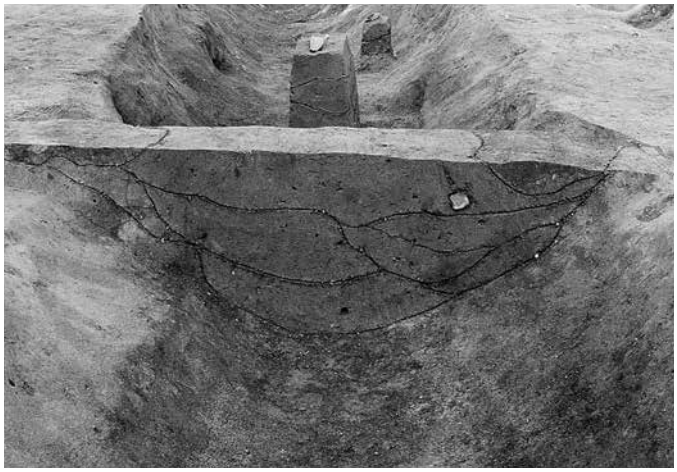
SK1580　完掘（北西から）



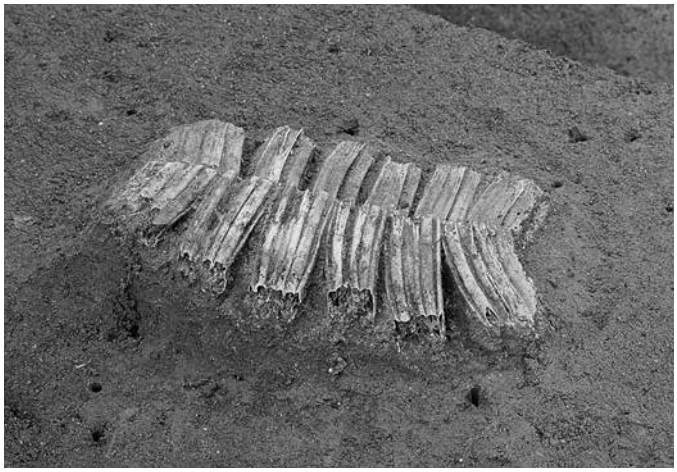
SD1301・1302・1303　検出状況（北西から）

SD1301　断面 A-A'（南西から）

SD1301　断面 B-B'（南西から）

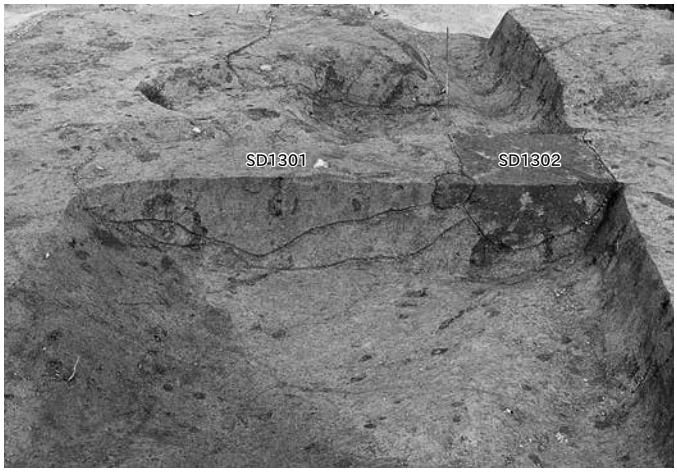


SD1301　断面 C-C'（南西から）

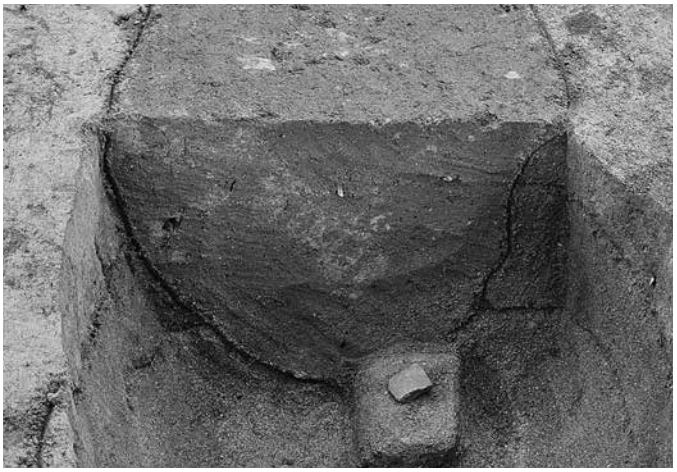


SD1301　8AA13　馬臼歯出土状況（南西から）

SD1301・1302・1303　完掘（北西から）



SD1302・1303　断面 A-A'（南西から）

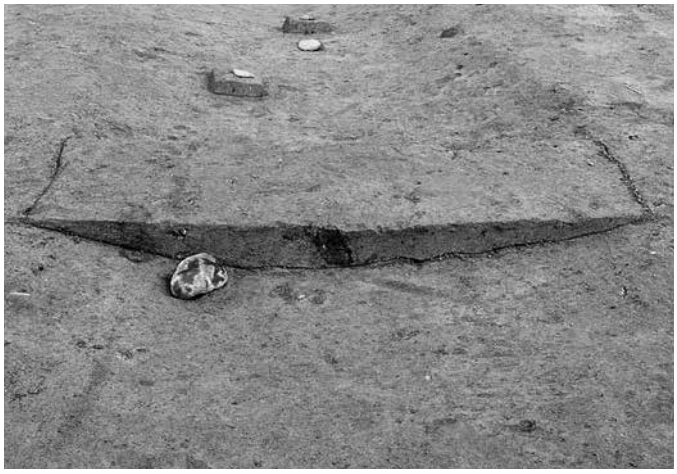


SD1302　断面 B-B'（南西から）

SD1302　断面 C-C'（南西から）

SD1303　断面 B-B'（西から）

SD1303　断面 C-C'（南西から）

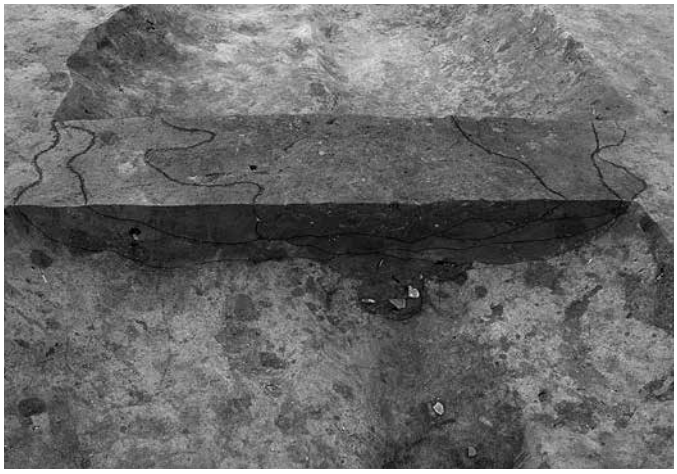


SD1303　断面 D-D'（南西から）

SD1307　完掘（南から）

SD1307　断面 B-B'（北西から）

SD1307　断面 C-C'（南東から）



SD1307　断面 D-D'（南東から）

SD1307　9Y　遺物出土状況（北西から）

SD1308・1309・1376　完掘（北西から）

SD1308　断面 A-A'（南西から）

SD1308　断面 B-B'（南から）

SD1308　断面 C-C'（西から）

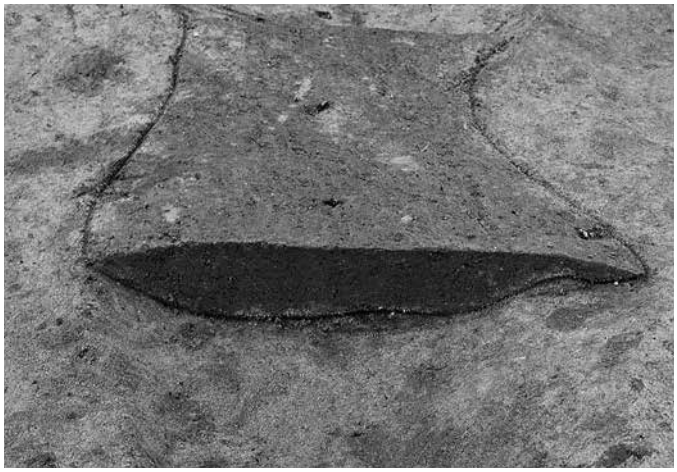
SD1309　断面 B-B'（東から）

SD1309　断面 E-E'（東から）

SD1309　断面 F-F'（西から）

SD1309　8X　波板状落ち込み（北から）

SD1309　8・9X　遺物出土状況（東から）



SD1310　断面 A-A'（南から）

SD1310　断面 C-C'（南東から）

SD1323　断面（南から）

SD1325　検出状況（南東から）

SD1325　断面 A-A'（南東から）

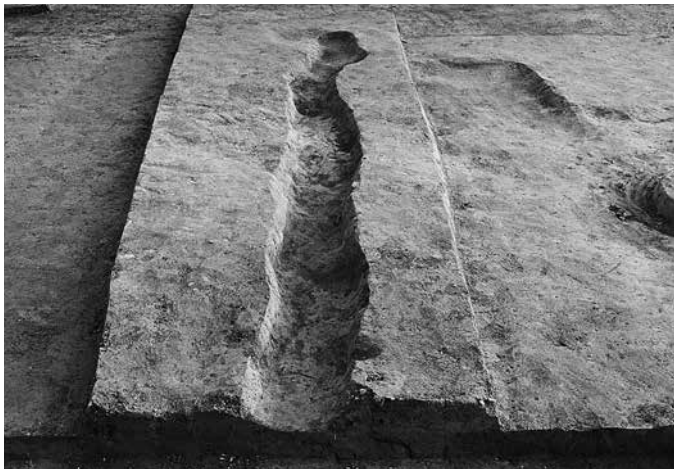
SD1325　断面 B-B'（南東から）

SD1358　断面（南東から）

SD1358　遺物出土状況（南西から）

SD1379　断面 A-A'（北から）

SD1379　断面 B-B'（南から）



SD1379　完掘（南から）

SD1149　断面 B-B'（南から）

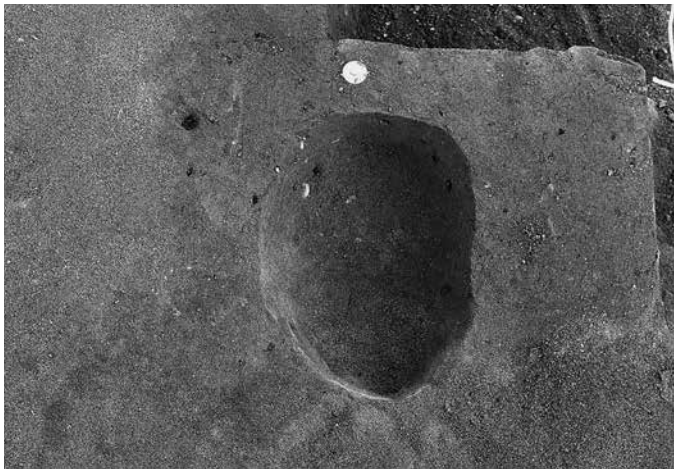
SD1149　断面 D-D'（南から）

SD1149　遺物出土状況（南から）

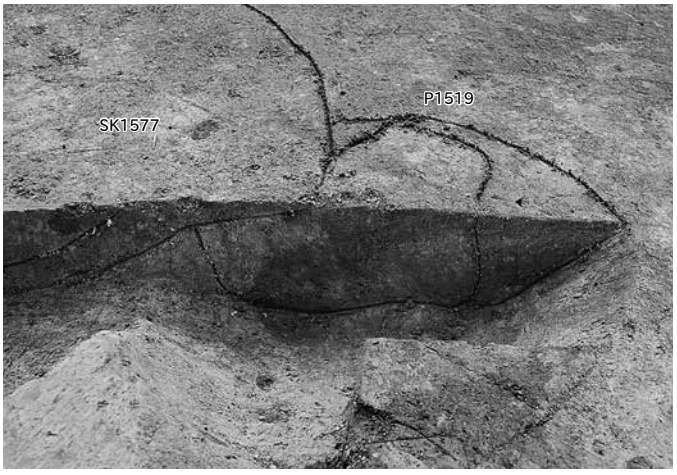
SA1581　完掘（南から）

SA1581-P1534　断面（北から）

SA1581-P1534・1535　断面（北から）

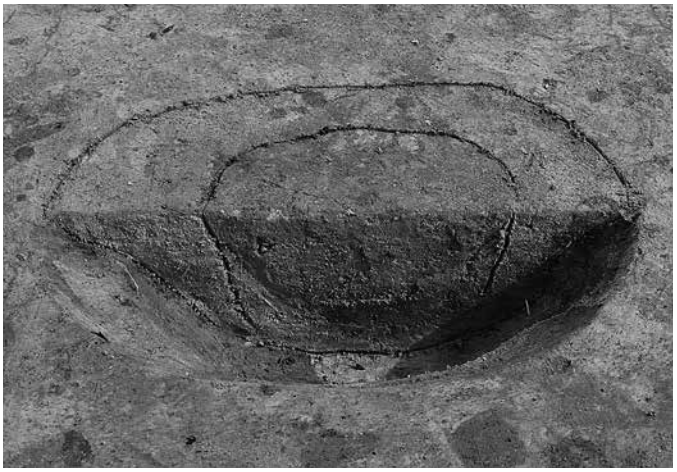


SA1581-P1536　完掘（北から）

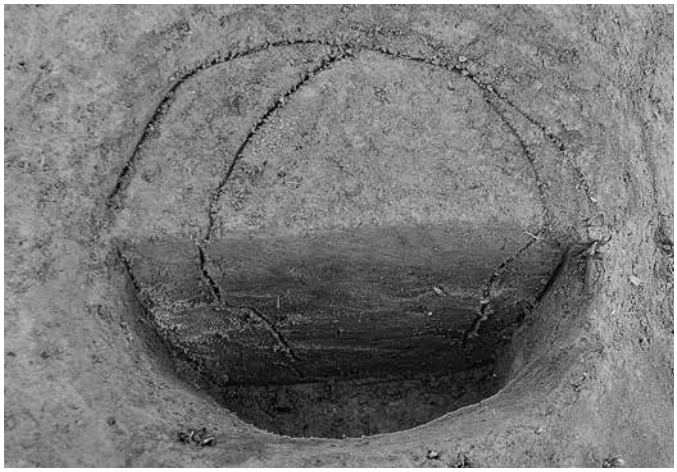


SA1581-P1519、SK1577　断面（北から）

SA1581-P1519　完掘（北から）



SA1581-P1520　断面（西から）



SA1581-P1568　断面（西から）

SA1581-P1460　断面（西から）

SF1356　完掘（上空から）

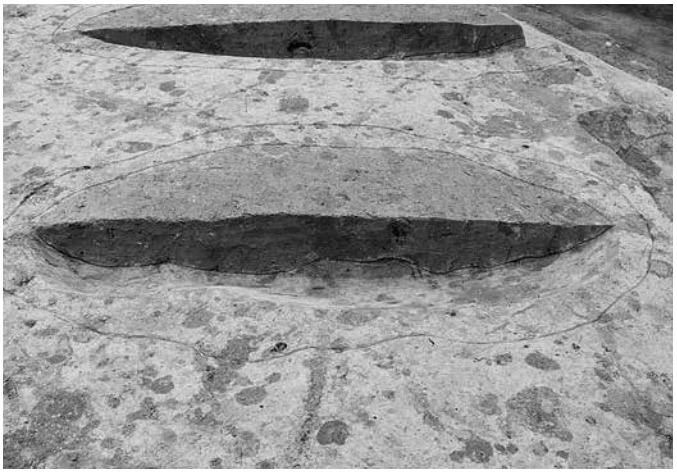
SF1356　完掘（東から）

SF1356　検出状況（東から）

SF1356-SK1　断面（西から）

SF1356-SK2　断面（東から）

SF1356-SD1　断面 B-B'（東から）

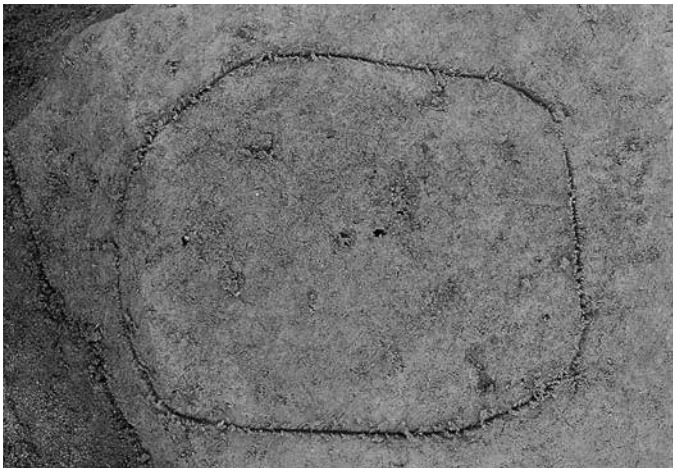


SF1356-SK3　断面（東から）

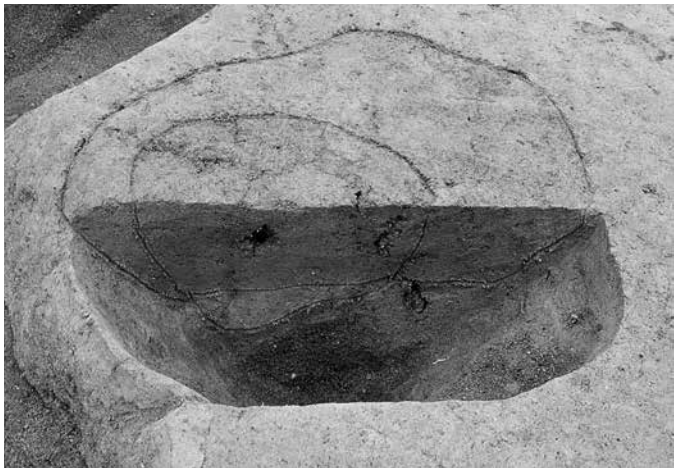
SF1356-SD1　断面 C-C'（東から）

SF1356-SK4　断面（東から）

SF1356-SK5　断面（東から）



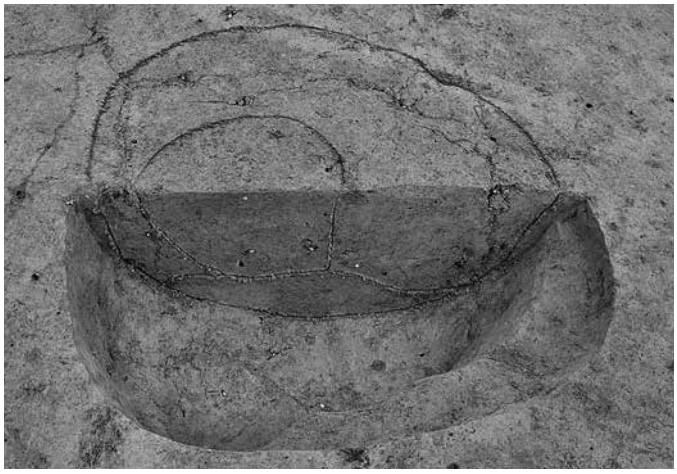
P1311　検出状況（南から）



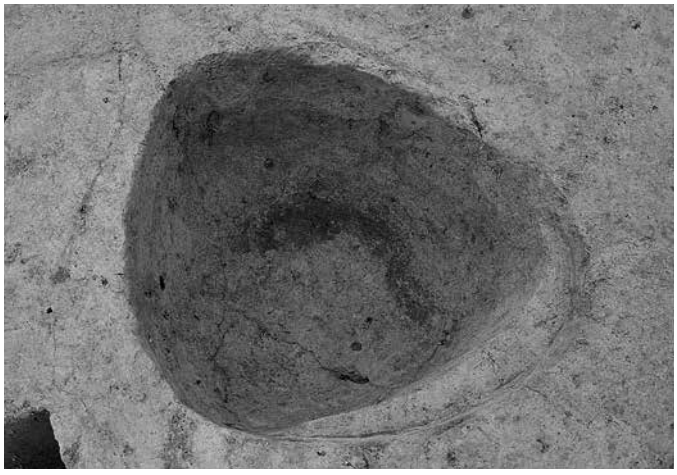
P1311　断面（南から）

P1311　完掘（南から）

P1312　検出状況（南西から）

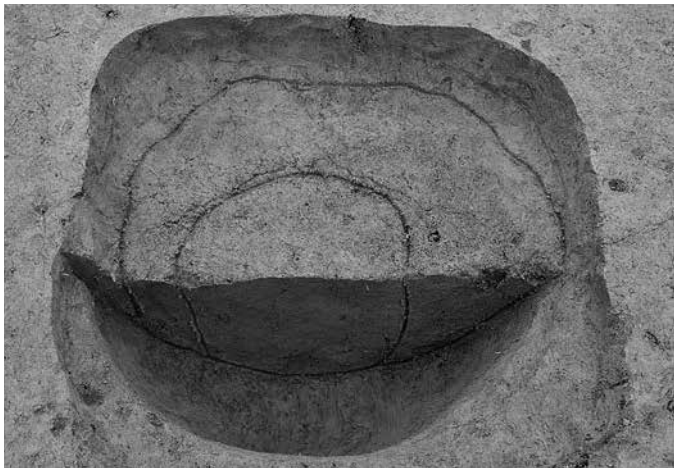


P1312　断面（西から）



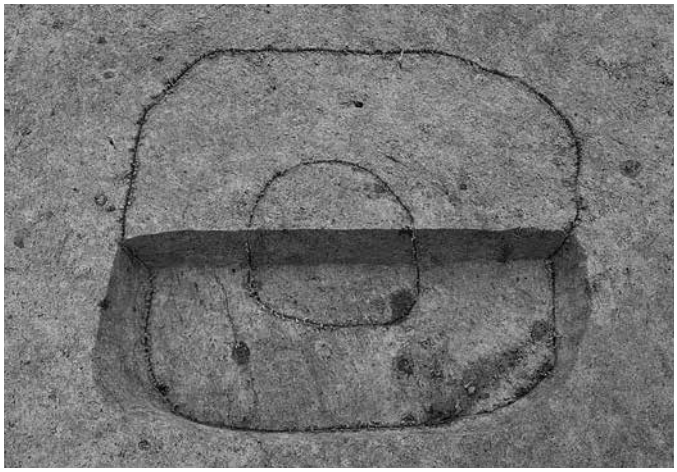
P1312　完掘（南西から）

P1313　断面（南西から）

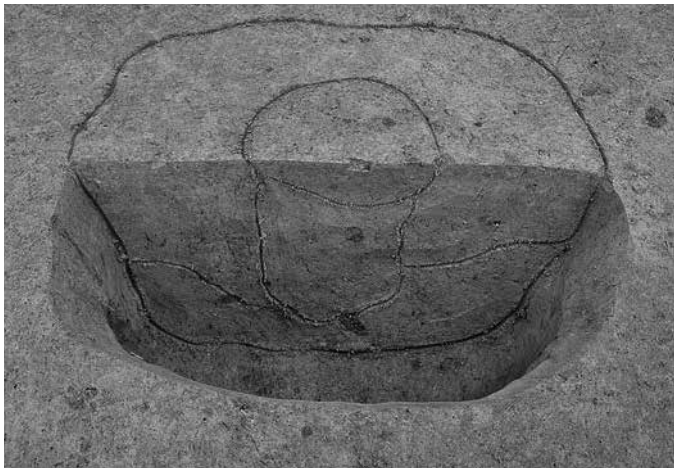


P1313　柱痕検出状況（南西から）

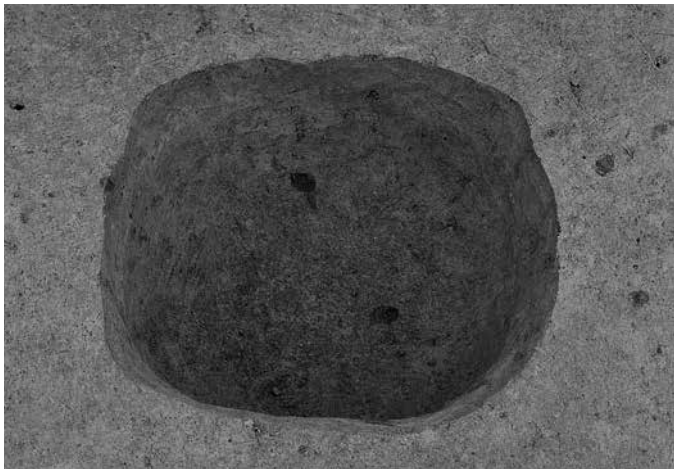
P1313　完掘（南西から）



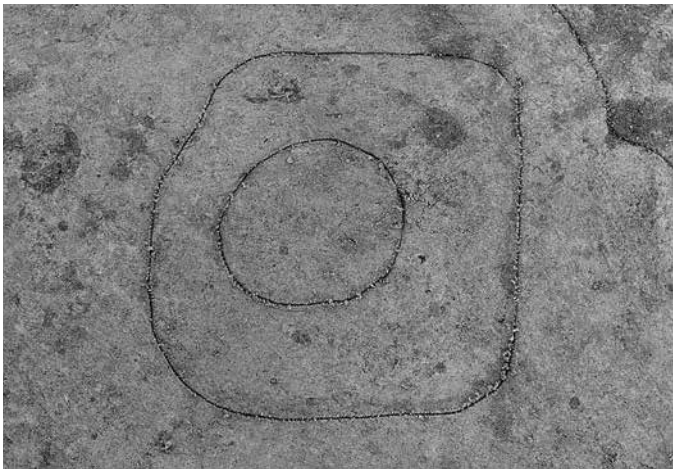
P1314　柱痕検出状況（南西から）



P1314　断面（南西から）

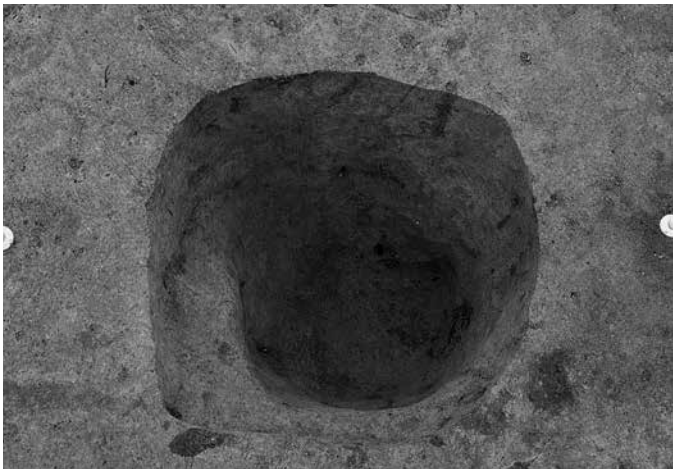


P1314　完掘（南西から）

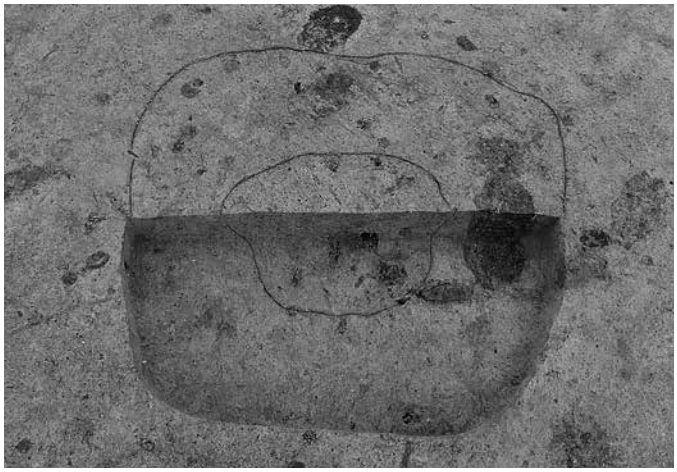


P1316　柱痕検出状況（南西から）

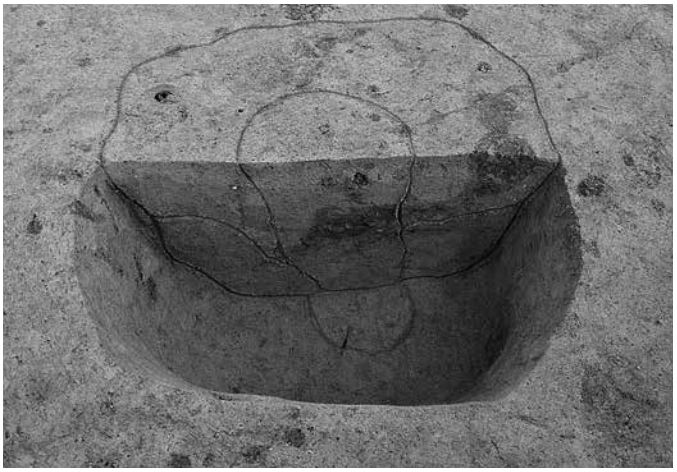
P1316　断面（南東から）



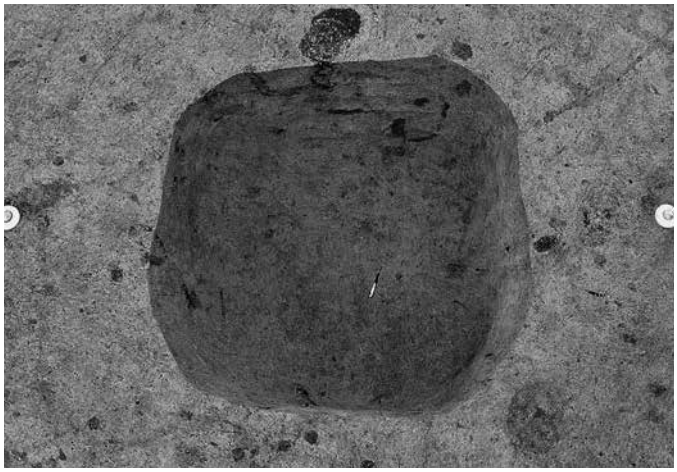
P1316　完掘（南東から）



P1317　柱痕検出状況（南西から）



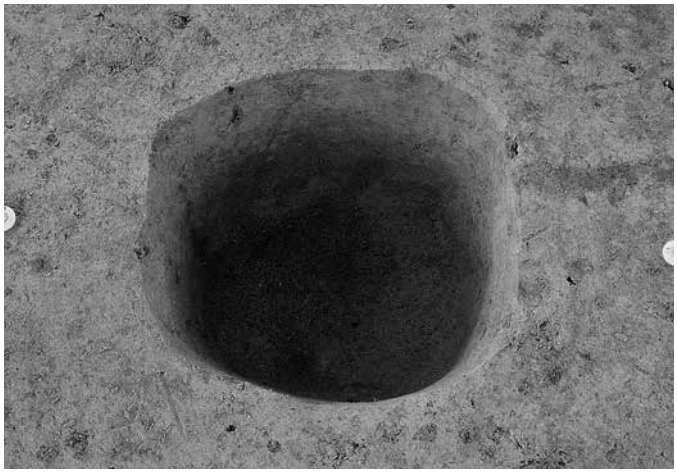
P1317　断面（南西から）



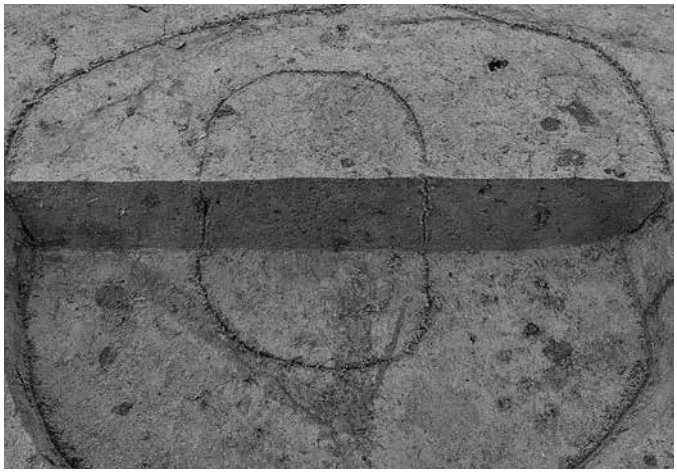
P1317　完掘（南西から）

P1319　柱痕検出状況（南東から）

P1319　断面（南東から）

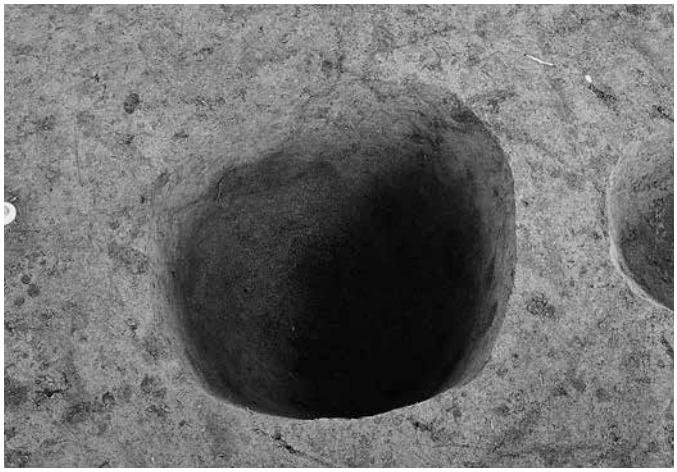


P1319　完掘（南東から）

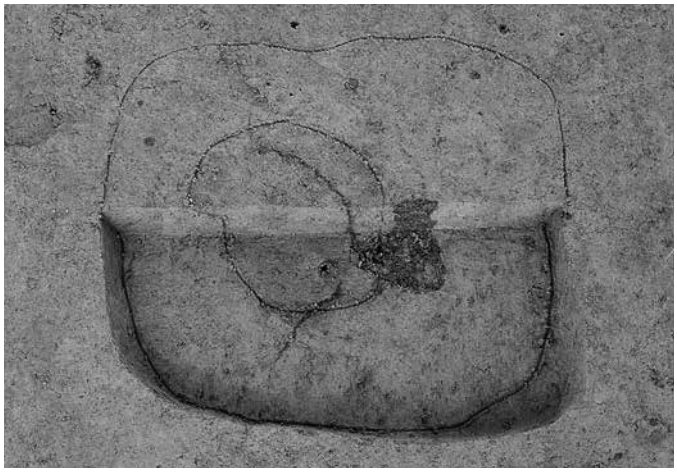


P1320　柱痕検出状況（南西から）

P1320　断面（南西から）



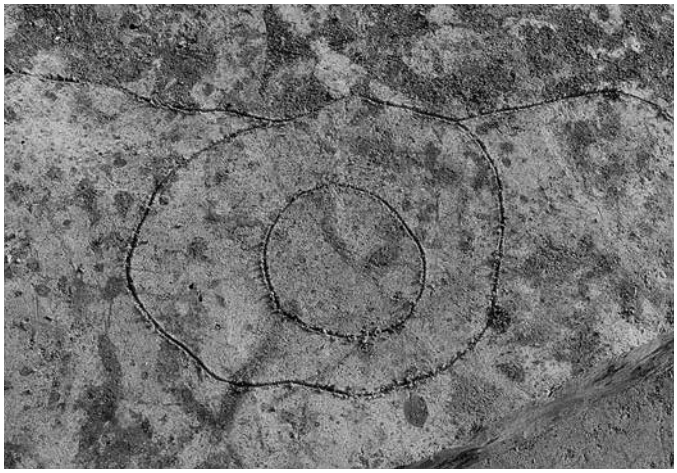
P1320　完掘（南西から）



P1362　柱痕検出状況（南東から）

P1362　断面（南東から）

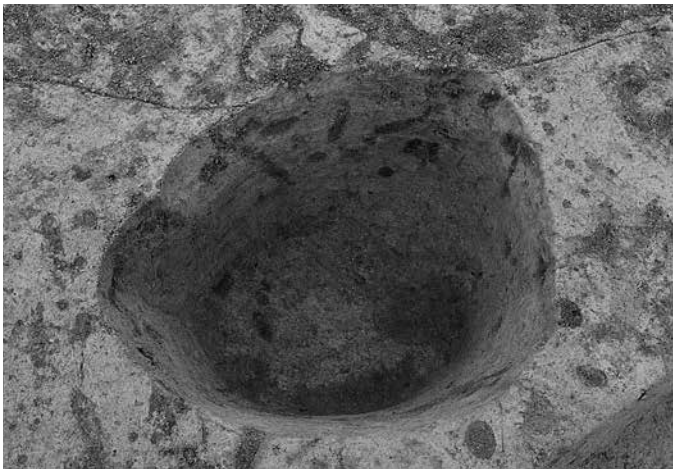
P1362　完掘（南東から）



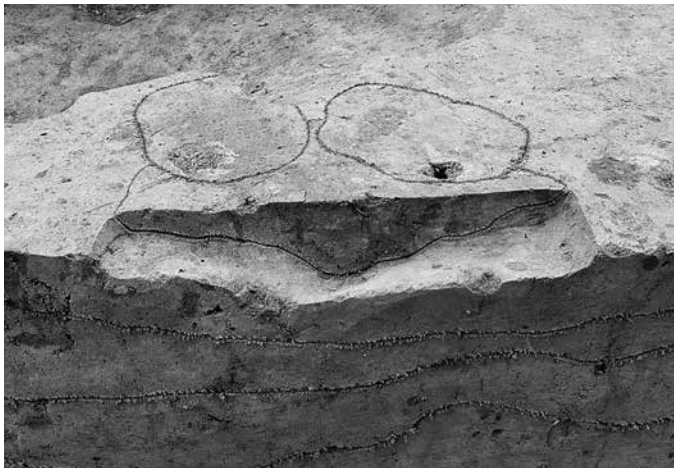
P1375　検出状況（北から）

P1375　断面（北から）

P1375　遺物出土状況（北から）



P1375　完掘（北から）

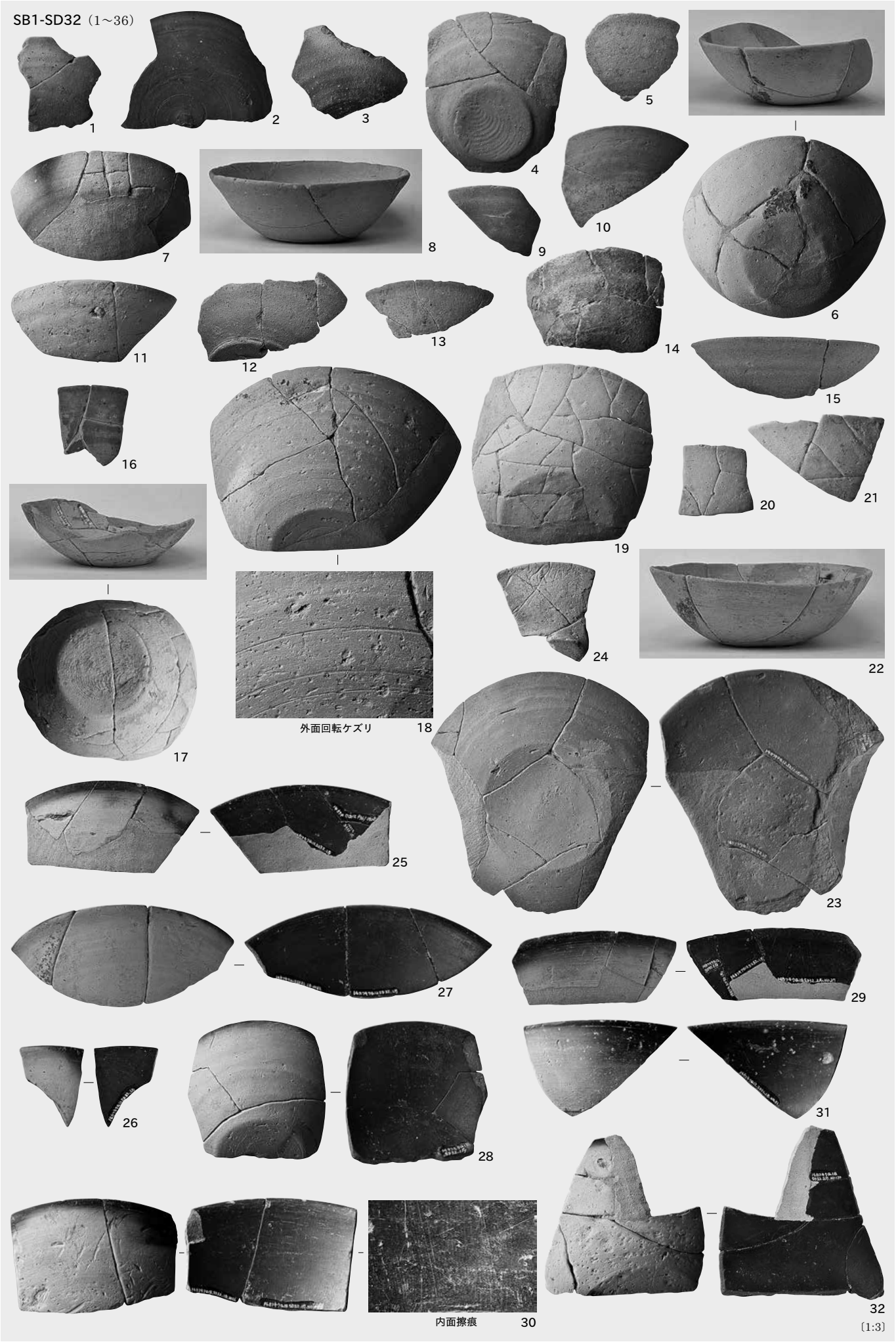


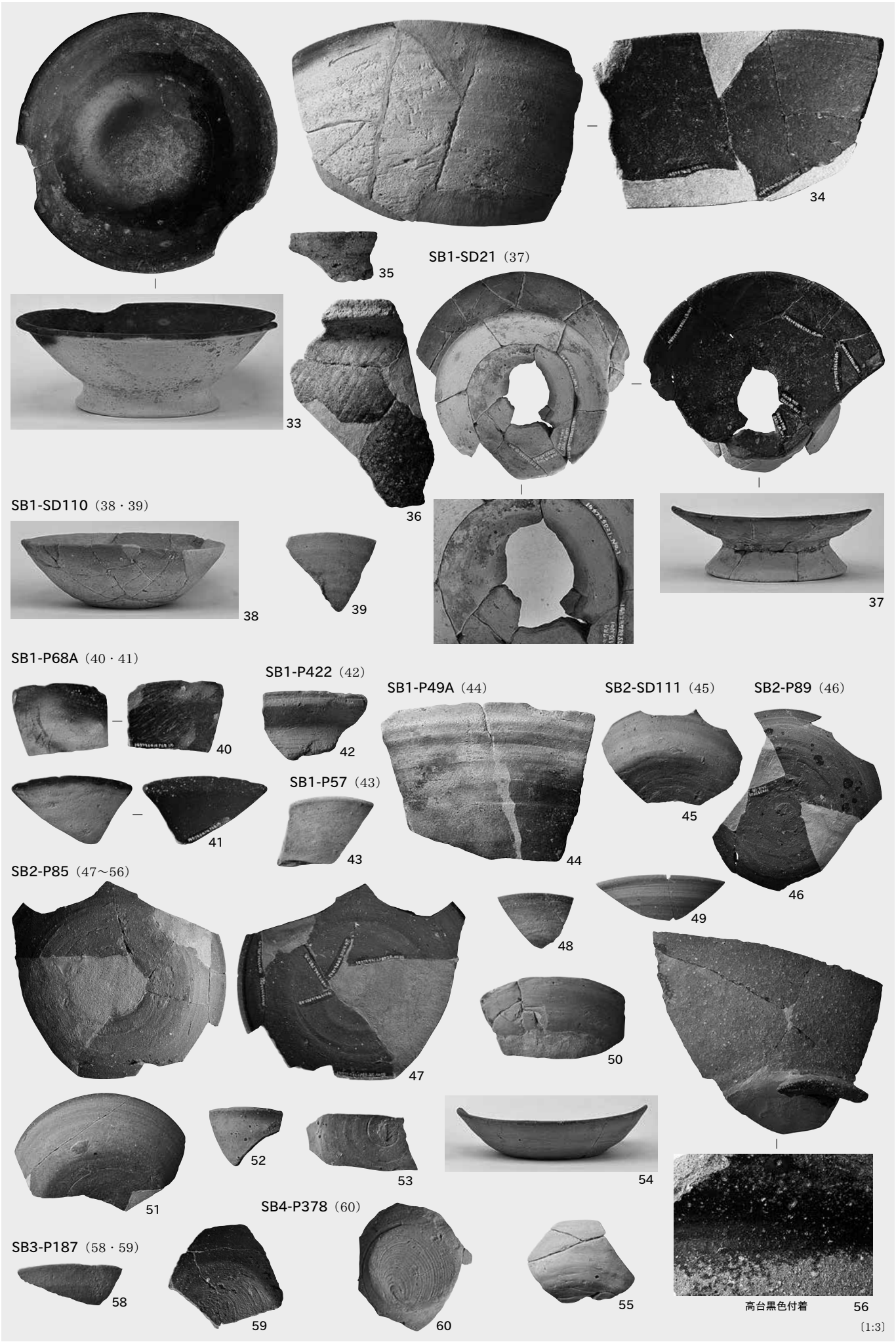
P1324　断面（北東から）

P1324　完掘（北東から）

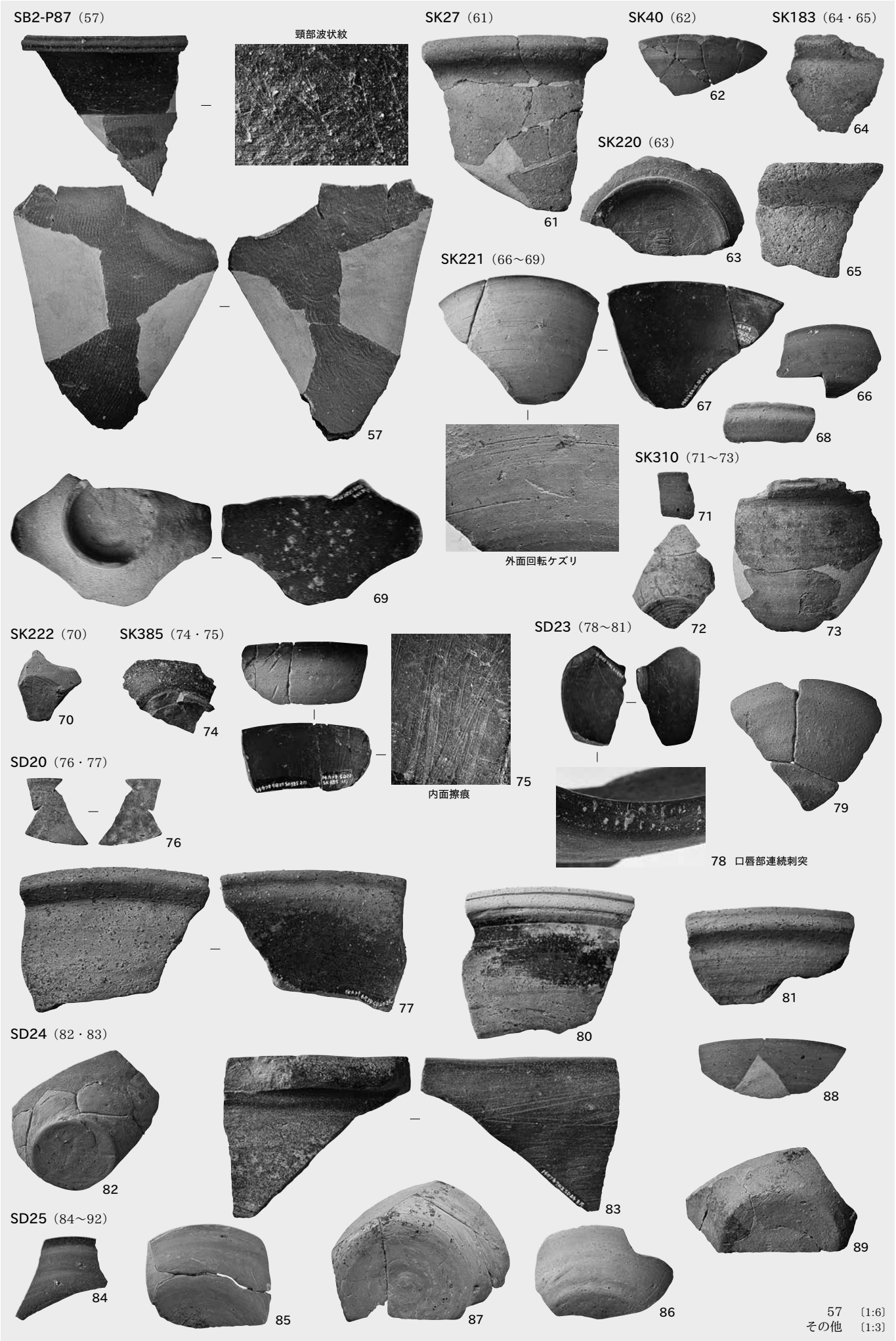
噴砂 1　断面（北東から）

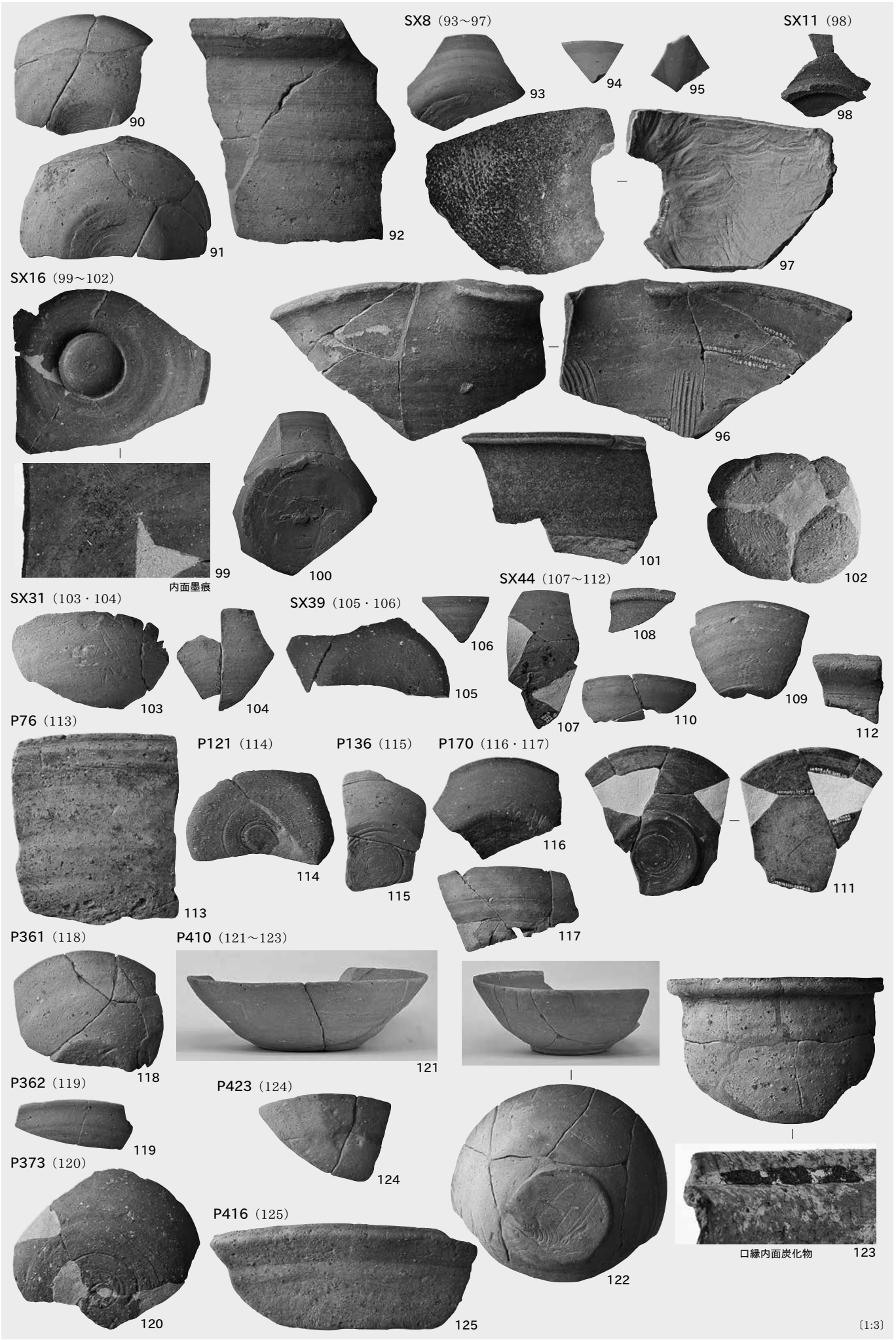
噴砂 2　断面（北東から）


SB1-SD32（1～36）
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
外面回転ケズリ
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
内面擦痕
31
32
〔1:3〕

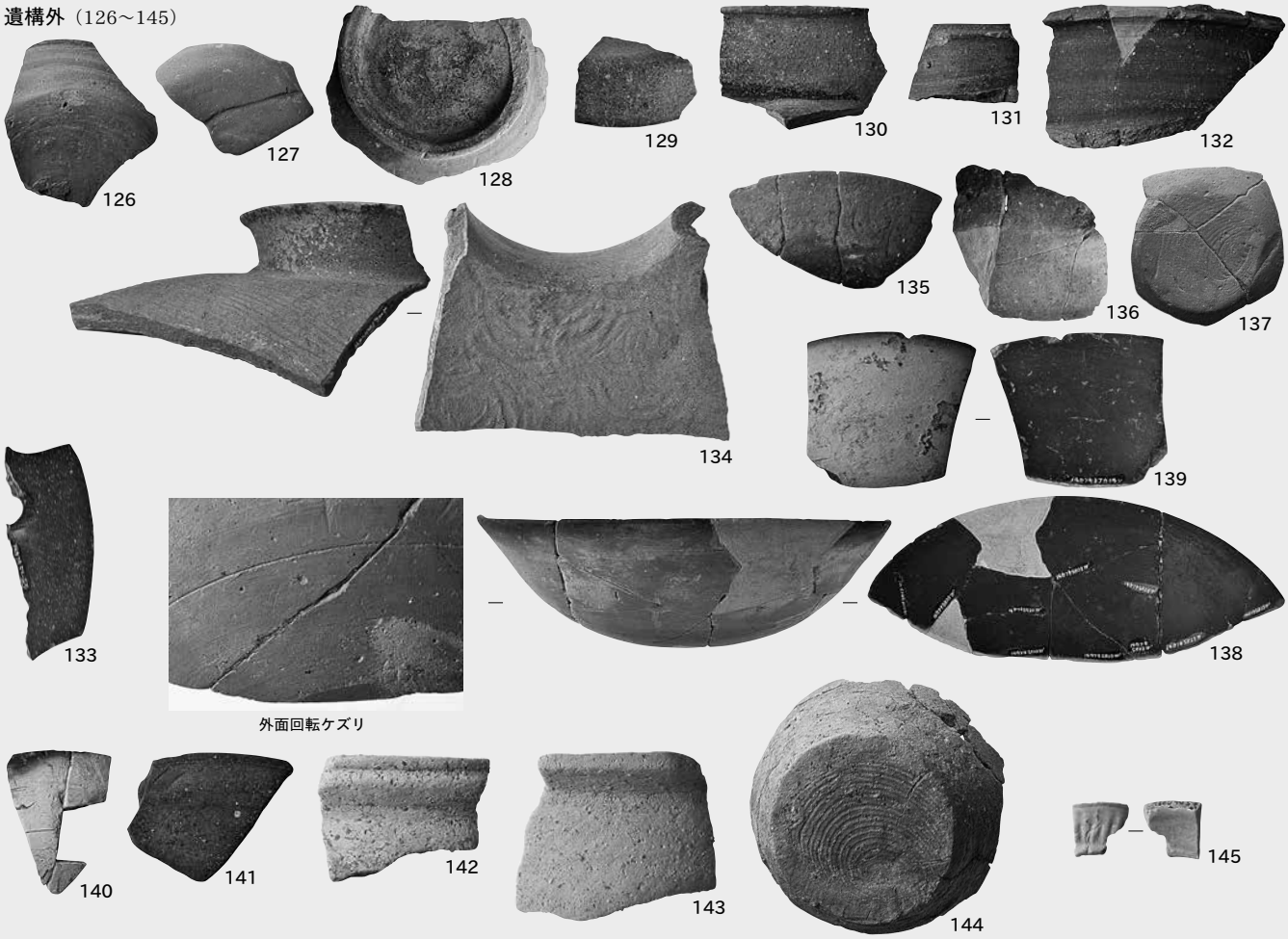

34
35
SB1-SD21（37）
33
36
SB1-SD110（38・39）
38
39
37
SB1-P68A（40・41）
40
41
SB1-P422（42）
42
SB1-P57（43）
43
SB1-P49A（44）
44
SB2-SD111（45）
45
SB2-P89（46）
46
SB2-P85（47～56）
47
48
49
50
51
52
53
54
55
高台黒色付着
56
SB4-P378（60）
SB3-P187（58・59）
58
59
60
〔1:3〕

2014 年度調査　遺物（3）SB2（P87），SK27・40・183・220・221・222・310・385、SD20・23・24・25

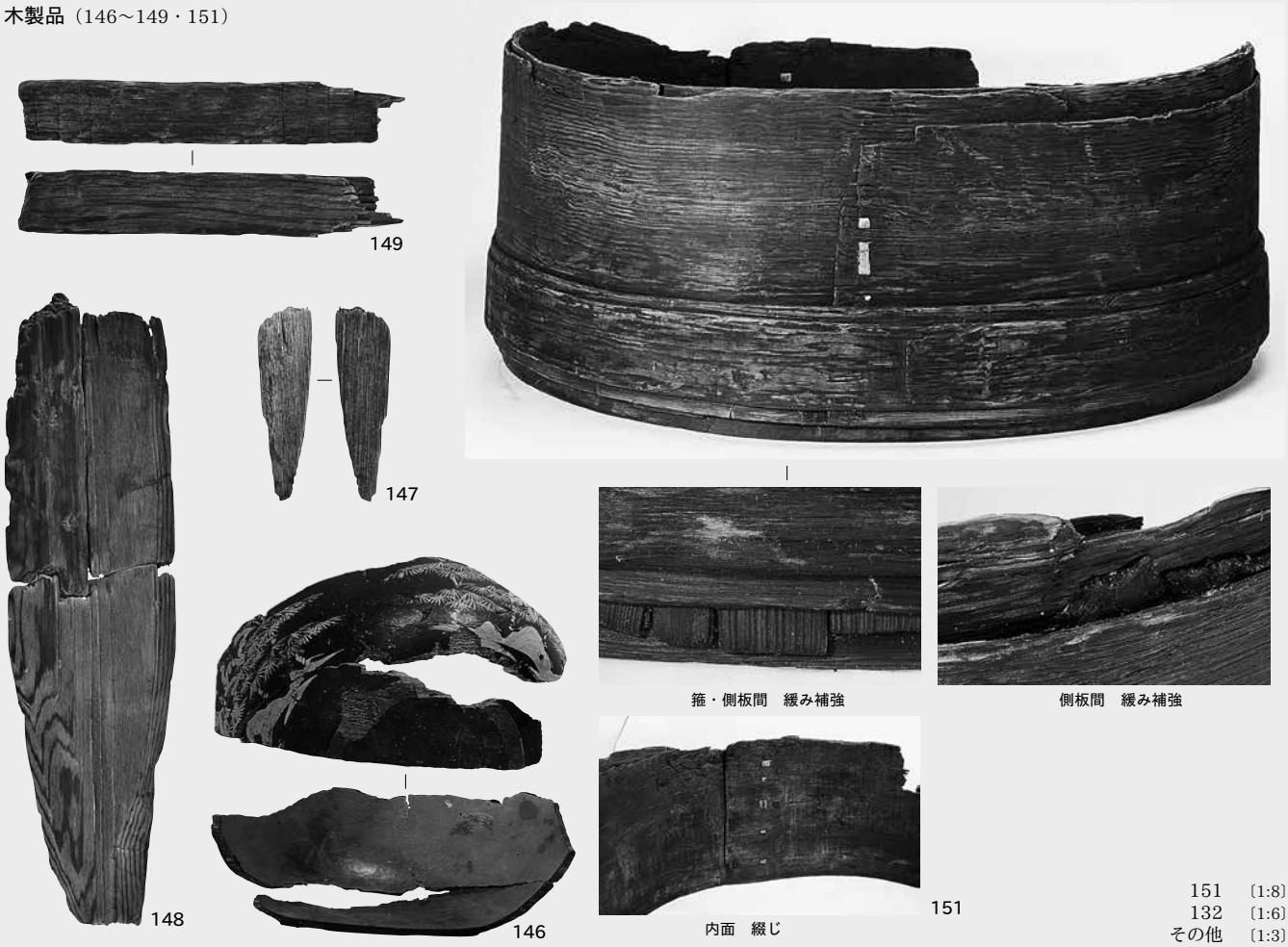



SX8（93～97）
SX11（98）
90
91
92
93
94
95
97
98
SX16（99～102）
96
99
内面墨痕
100
101
102
SX31（103・104）
SX39（105・106）
SX44（107～112）
103
104
105
106
107
108
109
110
112
P76（113）
P121（114）
P136（115）
P170（116・117）
113
114
115
116
117
111
P361（118）
P410（121～123）
118
121
P362（119）
P423（124）
119
124
122
123
口縁内面炭化物
P373（120）
P416（125）
120
125
〔1:3〕

遺構外（126～145）

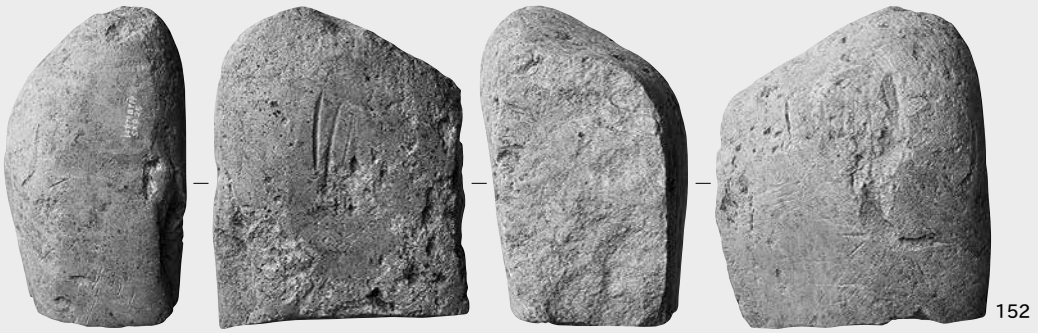


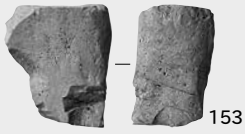
木製品（146～149・151）

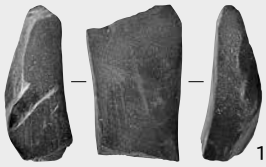


151　〔1:8〕
132　〔1:6〕
その他　〔1:3〕

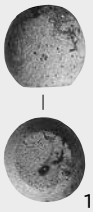
石製品（152～157）

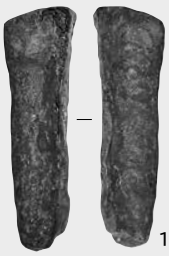




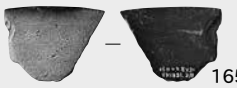


鉄製品ほか（158～163）





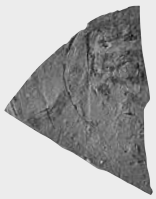
SK1321（164～166）

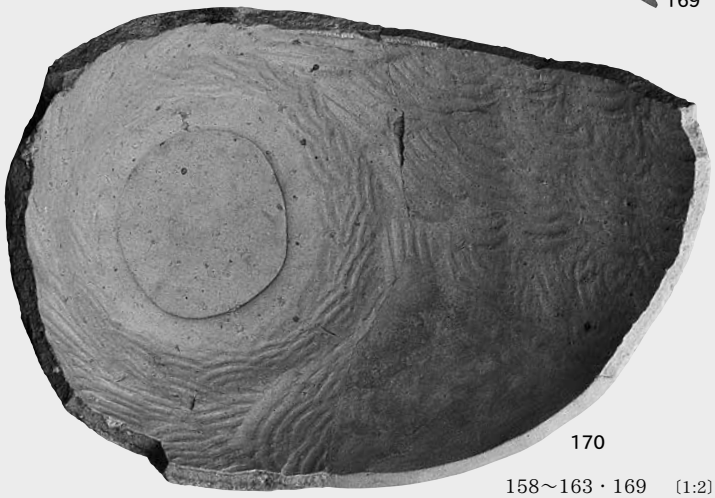


SK1322（167）

SK1355（171・172）

SK1336（168～170）





158～163・169　〔1:2〕
170〔約1:3〕
その他　〔1:3〕

2015 年度調査　遺物（2）SD1149・1301・1303・1307・1308・1309・1310・1358，SF1356，P1316・1324・1573，遺構外，土製品，金属製品

SD1301（173・174）

173

174

SD1303（175・176）

175

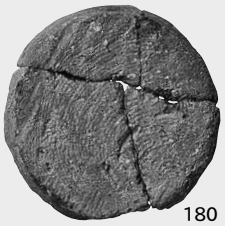
176

SD1307（177～181）

177

178

179


180

181

SD1308（182～186）

182

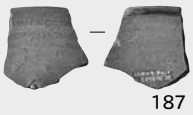
184

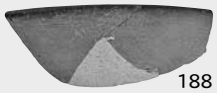
185

183

186

SD1309（187～192）


187


188

189

190

191

SD1310（193・194）

192

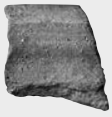
193

194

SD1358（195・196）

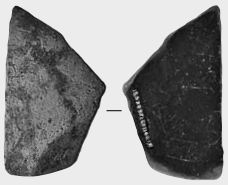
195

SD1149（197～199）


197

199

196


198

P1324（202・203）

203

202

SF1356（200）

200

P1316（201）

201

P1573（204）

204

遺構外（205～208）

205

206

207

208

土製品（209～214）

209

210

211

212

213

214

金属製品（215・216）

215

216

209～216　〔2:3〕
その他　〔1:3〕

報告書抄録

ふりがな	かぶらぎいせき
書名	蕪木遺跡
副書名	一般国道 49 号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書
巻次	XIII
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 277 集
編著者名	鈴木俊成・荒川隆史（以上、埋文事業団）、石橋夏樹・村上章久・髙橋　均（以上、株式会社帆苅組）、伊藤　茂・安　昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一・Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・黒沼保子・中村賢太郎（以上、株式会社パレオ・ラボ）、斉藤紀行（パリノ・サーヴェイ株式会社）、酒井英男・石田桃子・泉　吉紀（以上、富山大学理学部）、菅頭明日香（青山学院大学文学部）、卜部厚志（新潟大学災害・復興科学研究所）
編集機関	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒 956－0845　新潟県新潟市秋葉区金津 93 番地 1　　TEL　0250（25）3981
発行年月日	2018（平成 30）年 3 月 30 日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
蕪木遺跡（かぶらぎいせき）	新潟県阿賀野市（にいがたけんあがのし） 大字堀越字蕪木（おおあざほりこしあざかぶらぎ） 1,974 ほか	15223	405	37° 48′ 38″	139°13′15″～ 139°13′17″	20140728 ～ 20141130 20150907 ～ 20151117	延べ 6,963㎡	一般国道 49 号 阿賀野バイパス 道路建設

所収遺跡名	種別	時期	主な遺構	主な遺物	特記事項
蕪木遺跡	集落	平安時代	掘立柱建物 5・土坑・溝・ピット	須恵器：無台杯・有台杯・杯蓋・壺瓶・壺蓋・双耳瓶・甕・横瓶・墨書土器、土師器：無台椀・有台椀・有台皿・無台皿・盤・小甕・長胴甕・鍋、黒色土器：無台椀・有台椀・鉢・有台皿・盤・耳皿、灰釉陶器：皿、その他：アスファルト塊	・面積 140㎡超の大型掘立柱建物 ・墨書土器「廣」 ・黒色土器有台耳皿
	集落	鎌倉・室町	井戸 1・土坑・火葬土坑 1・溝・ピット	珠洲焼：片口鉢・甕、瓷器系陶器：甕、木製品：曲物、漆器椀、石製品：砥石、硯、金属製品：刀子、釘、銭貨、土製品：土錘、中・近世：陶磁器	
	生産域	中世～近世・近代	掘込田・土坑・溝		

要約

遺跡は海岸から約 20km の越後平野東部に有り、阿賀野川右岸の標高 10m 前後の沖積地に所在する。調査区の南隣りには古代期に流路化していたであろう阿賀野川の支流が存在し、遺跡はこの支流の右岸自然堤防微高地に立地している。調査では古墳時代から近・現代までの遺物が出土したが、遺構は古代以降のもので、中心時期は平安時代（9 世紀後葉）である。古代は 5 棟の掘立柱建物を検出し、なかには 140㎡を超える大型建物が存在する。遺物は土師器椀を中心に須恵器の各器種や黒色土器に混じり、稀少品の耳皿・灰釉陶器皿･アスファルト塊などがわずかに出土したが､建物が大きいことから検出した建物群は､郡（沼垂郡）の関連施設ないしは在地有力者の居宅などが想定される。また、立地要因については、当時機能していた阿賀野川支流に近く、内水面交通の要所として位置づけが可能か否か、周辺地区の調査に期待するところが大きい。中世以降は田畑を中心とする生産域と考えるが、13 ～ 14 世紀頃の井戸や火葬土坑の検出は、近くに集落の存在を考えさせられる。

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 277 集

一般国道 49 号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書XIII

蕪　木　遺　跡

2018(平成30)年 3 月 20 日印刷
2018(平成30)年 3 月 30 日発行

編集・発行　新潟県教育委員会
〒 950－8570　新潟県新潟市中央区新光町 4 番地 1
電話　025（285）5511

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒 956－0845　新潟県新潟市秋葉区金津 93 番地 1
電話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986

印刷・製本　株式会社ウィザップ
〒 950－0963　新潟県新潟市中央区南出来島 2 丁目 1 番 25 号
電話　025（285）3311

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第277集 『蕪木遺跡』　　正誤表

ページほか	行ほか	誤	正
24	23	砥石（155）	櫛（155）
25	2	南東平側	北東平側
28	10	4層	5層
28	31	SD19	SD219
29	19	3層は炭化物を多量に	2層は炭化物を多量に
29	24	水溜（147）	水溜（151）
30	8・9	SB1-P81、SB1-SD110、SB2-P82、SK30、SD2・4・7・10・12・13・24、SX11、P124・151・158	SB1-SD110、SB2-P81・82、SK30・151、SD2・4・7・10・12・13・24、SX11、P124・158
図版75	1段目左	写真内キャプション「P1344」	写真内キャプション「P1334」
図版78	2段目左	SD1302・1303　断面A-A（ 南西から）	SD1301・1302　断面A-A（ 南西から）